

2012年度後期
静岡大学市民開放授業

授業内容（シラバス）



静岡大学
Shizuoka University

授業内容の見方

3頁～11頁 市民開放授業科目一覧を掲載してあります。
 12頁～ 授業内容（シラバス）を掲載してあります。

例

※授業内容は学生向けに作られたものをそのまま掲載しています。

難易度
 授業内容に応じて、A・B・C・Dの4段階に区分しています。詳しくは2ページを参照ください。

授業の目標
学習内容
授業計画
 これらを参考に受講したい科目を探してください。

受講要件
 こちらの要件を満たしているかご確認ください。

オフィスアワー
 意味：教員が学生の質問や相談を受けるために、特定の場所で待機する時間のこと。
 会議等、特別な用事がないかぎり、ここに記された場所・時間に教員と直接会うことができます。

科目番号
 市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号。
受講申込書や払込取扱書などに記す番号です。

授業科目名	ドイツ語A-2				
担当教員名	静岡 太郎		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟422	
分担教員名					
クラス	学部共通2	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	1年,2年	●難易度	A	曜日・時限	月3・4
キーワード	文法の基礎				
●授業の目標	ドイツ文法の基礎をしっかりと学習する。テープは使用しない。				
●学習内容	教科書に沿って行う。				
●授業計画	1回 話法の助動詞 2回 話法の助動詞 3回 動詞の3基本形 4回 動詞の3基本形 5回 動詞の3基本形 6回 時制 7回 時制 8回 形容詞 9回 形容詞 10回 形容詞 11回 関係代名詞 12回 受動 13回 受動 14回 接続法 15回 接続法				
●受講要件	問わない。				
テキスト	ドイツ文法18歩				
参考書	無し				
予習・復習について	辞書を丹念に引いて、予習復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験の成績のみで評価を行う。				
●オフィスアワー	火曜日7・8時限 研究室にて。事前にメール連絡を。				
担当教員からのメッセージ	自分の勉強不足を教員になすりつけないこと。				

※シラバスは各学部で作成されていますので、多少並びが異なる場合があります。

表の見方

■No.

◇科目番号です。市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号で、授業内容（シラバス）の下端にある番号や、市民開放授業時間割の表の番号と一致しています。受講申込書や払込取扱票などにもこの番号を記入します。

■学部等

◇授業実施の主体となる部局を指します。

■前期・後期の別

◇この欄に「後期（前半）」「後期（後半）」と記載された授業については、後期をさらに半分に分けて開講されます。「後期（後半）」の開始時期は募集要項の後学期スケジュール（P33）でご確認ください。

■曜日・時限

◇授業時間は、次のとおりです。

時限	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
時間	8:40 } 10:10	10:20 } 11:50	12:45 } 14:15	14:25 } 15:55	16:05 } 17:35

■教室名

◇静岡キャンパス

- ・共＝共通教育棟、人＝人文社会科学部棟、教＝教育学部棟、理＝理学部棟、農＝農学部棟の略です。
- ・アルファベットは、それぞれの棟を表します。たとえば、「共A201」は、共通教育A棟201教室のことを指します。

◇浜松キャンパス

- ・情＝情報学部棟、機＝機械工学科棟、総＝総合研究棟、電＝電気電子工学科棟、化＝物質工学科棟、合＝合同棟2号館、A＝システム工学科棟の略です。

※授業開始当初は、受講学生数等により、教室を変更する場合がありますので、掲示に注意してください。

■受入可能人数

◇1科目につき若干名とします。

◇受講の可否については、教員の判断に委ねられますので、担当教員に確認して下さい。

◇正規の授業の一部を開放し、本学の学生と一緒に受講していただくため、本学の学生だけで講義室の収容人数を超える場合や、同じ科目に多数の応募があった場合には、受講できないことがあります。

■難易度

◇市民開放授業科目の難易度は、授業の内容に応じて、次の4段階に区分しています。ご自分の実力に適した授業をお選びください。

- (A) 入門的な内容で、高校卒業程度の学力を必要とします。〈大学1年次対象の授業に相当します〉
- (B) より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となります。〈大学2～3年次対象の授業に相当します〉
- (C) 高度な内容であり、当該専門分野について系統立った学習がなされていることを前提とするものです。〈大学3～4年次対象の授業に相当します〉
- (D) 専門的な知識が必要なため、受講登録にあたり担当教員と面談を行います。〈大学3～4年次対象の授業に相当します〉

◇演習については、専門的な知識が必要であり、かつ、担当教員と面談を行うため、応募者が少ない場合でも、受講できないことがあります。

■受講料

◇半期全14回で9,200円が基本となっていますが、週2回開講の場合は13,200円、「後期（前半）」「後期（後半）」の場合は6,200円です。

2012年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔静岡キャンパス〕

〈後期〉

No.	学部等	授業科目名	代表教員名	前期・後期の別	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
1	教養	機器分析科学入門Ⅰ	天野 豊己	後期(前半)	月1・2	共B301	若干名	A	6,200円
2	教養	機器分析科学入門Ⅱ	三重野 哲	後期(後半)	月1・2	共B301	若干名	A	6,200円
3	教養	ドイツ語A-2	エゲンベルグ・トーマス	後期	月3・4	共P101	若干名	A	9,200円
4	教養	ドイツ語A-2	諏訪田 清	後期	月3・4	共A106	若干名	A	9,200円
5	教養	フランス語A-2	コルベイ・スティーブ	後期	月3・4	共A405	若干名	A	9,200円
6	教養	フランス語A-2	浅野 幸生	後期	月3・4	共P202	若干名	A	9,200円
7	教養	スペイン語A-2	大原 志麻	後期	月3・4	共A105	若干名	A	9,200円
8	教養	現代韓国語A-2	南 富鎮	後期	月3・4	共A305	若干名	A	9,200円
9	教養	フランス語Ⅰ-c	安永 愛	後期	月5・6	共A405	若干名	A	9,200円
10	教養	スペイン語Ⅰ-c	大原 志麻	後期	月5・6	共A105	若干名	A	9,200円
11	教養	Modern Japanese Literature	コルベイ・スティーブ	後期	月5・6	未定	若干名	A	9,200円
12	教養	静岡の歴史と文化の創造	上利 博規	後期	月5・6	未定	若干名	A	9,200円
13	教養	地域社会と災害	牛山 素行	後期	月5・6	未定	若干名	A	9,200円
14	教養	私たちの生活と植物	木寄 暁子	後期	月5・6	未定	若干名	A	9,200円
15	教養	エネルギーと環境	大矢 恭久	後期	月5・6	未定	若干名	A	9,200円
16	教養	ヒューマン・エコロジー	野上 啓一郎	後期	月5・6	未定	若干名	A	9,200円
17	教養	NPO・ボランティア論	日詰 一幸	後期	月5・6	未定	若干名	A	9,200円
18	教養	人間環境と分子科学	山本 歩	後期	月5・6	未定	若干名	A	9,200円
19	教養	数学Ⅱ(線形代数A)	久村 裕憲	後期	月7・8	共A202	若干名	A	9,200円
20	教養	数学Ⅱ(線形代数A)	保坂 哲也	後期	月7・8	共A402	若干名	A	9,200円
21	教養	化学Ⅱ(物理化学B)	菅野 秀明	後期	火1・2	共A401	若干名	A	9,200円
22	教養	化学Ⅱ(物理化学B)	村井 久雄	後期	火1・2	共A201	若干名	A	9,200円
23	教養	哲学	米原 優	後期	火3・4	未定	若干名	A	9,200円
24	教養	ことばと表現	森本 隆子	後期	火3・4	未定	若干名	A	9,200円
25	教養	日本国憲法	根本 猛	後期	火3・4	未定	若干名	A	9,200円
26	教養	法と社会	橋本 誠一	後期	火3・4	未定	若干名	A	9,200円
27	教養	地域と文化	原 知章	後期	火3・4	未定	若干名	A	9,200円
28	教養	数理の構造	鈴木 信行	後期	火3・4	未定	若干名	A	9,200円
29	教養	自然と物理	山崎 昌一	後期	火3・4	未定	若干名	A	9,200円

No.	学部等	授業科目名	代表教員名	前期・後期の別	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
30	教養	日本国憲法	小谷 順子	後期	水1・2	未定	若干名	A	9,200円
31	教養	心理学	橋本 剛	後期	水1・2	未定	若干名	A	9,200円
32	教養	数学の世界	大田 春外	後期	水1・2	未定	若干名	A	9,200円
33	教養	化学の世界	瓜谷 眞裕	後期	水1・2	未定	若干名	A	9,200円
34	教養	生物と環境	田上 陽介	後期	水1・2	未定	若干名	A	9,200円
35	教養	地球科学	牛山 素行	後期	水1・2	未定	若干名	A	9,200円
36	教養	教育の原理	菅野 文彦	後期	水3・4	共A401	若干名	A	9,200円
37	教養	発達と学習	小林 敬一	後期	水3・4	教B110	若干名	A	9,200円
38	教養	教育の原理	藤井 基貴	後期	水3・4	共A301	若干名	A	9,200円
39	教養	ドイツ語Ⅰ-d	エゲンベルグ・トーマス	後期	水5・6	共P101	若干名	A	9,200円
40	教養	スペイン語Ⅰ-d	大原 志麻	後期	水5・6	共A105	若干名	A	9,200円
41	教養	数学概論B	保坂 哲也	後期	水5・6	共A202	若干名	A	9,200円
42	教養	生物学Ⅱ(基礎B)	丑丸 敬史	後期	木1・2	理B202	若干名	A	9,200円
43	教養	物理学概論B	佐藤 信一	後期	木1・2	共A201	若干名	A	9,200円
44	教養	数学Ⅲ(微分積分B)	田中 直樹	後期	木3・4	共A402	若干名	A	9,200円
45	教養	化学概論B	朴 龍洙	後期	木3・4	共C406	若干名	A	9,200円
46	教養	数学Ⅲ(微分積分B)	清水 扇丈	後期	木3・4	共A202	若干名	A	9,200円
47	教養	地球科学Ⅱ(基礎B)	北村 晃寿	後期	金1・2	理B202	若干名	B	9,200円
48	教養	生物学概論B(基礎)	鳥山 優	後期	金1・2	共D2	若干名	A	9,200円
49	教養	物理学Ⅲ(現代物理)	富田 誠	後期	金1・2	共D3	若干名	A	9,200円
50	教養	数学Ⅵ(微分積分C)	田中 直樹	後期	金3・4	共A302	若干名	A	9,200円
51	教養	物理学Ⅰ(力学)	岡 俊彦	後期	金3・4	共B301	若干名	A	9,200円
52	教養	現場から考える死生学	竹之内 裕文	後期	金3・4	未定	若干名	A	9,200円
53	人文社会科学部	異常心理学Ⅰ	磯田 雄二郎	後期	月1・2	人B402	若干名	B	9,200円
54	人文社会科学部	文化人類学入門	原 知章	後期	月9・10	人B401	若干名	A	9,200円
55	人文社会科学部	日本近世社会史	今村 直樹	後期	火3・4	人B401	若干名	C	9,200円
56	人文社会科学部	応用倫理学	松田 純	後期	火7・8	人B402	若干名	B	9,200円
57	人文社会科学部	環境社会学	平岡 義和	後期	火7・8	人B301	若干名	B	9,200円
58	人文社会科学部	現代文化論Ⅱ	原 知章	後期	火9・10	人B301	若干名	B	9,200円
59	人文社会科学部	哲学概論	堂園 俊彦	後期	水3・4	共A201	若干名	A	9,200円
60	人文社会科学部	日本史概説Ⅰ	今村 直樹	後期	水3・4	人B403	若干名	A	9,200円
61	人文社会科学部	家族社会学	南山 浩二	後期	水5・6	人B402	若干名	B	9,200円

No.	学部等	授業科目名	代表教員名	前期・後期の別	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
62	人文社会科学部	西洋史概説Ⅱ	岩井 淳	後期	水7・8	人B403	若干名	A	9,200円
63	人文社会科学部	人格心理学Ⅰ	田辺 肇	後期	水7・8	人B402	若干名	B	9,200円
64	人文社会科学部	アジア社会史Ⅰ	戸部 健	後期	木1・2	人B402	若干名	C	9,200円
65	人文社会科学部	社会心理学Ⅱ	橋本 剛	後期	木3・4	人B403	若干名	B	9,200円
66	人文社会科学部	考古学概論Ⅰ	篠原 和大	後期	木3・4	共L306	若干名	A	9,200円
67	人文社会科学部	基礎心理学Ⅰ	田辺 肇	後期	金1・2	人B401	若干名	A	9,200円
68	人文社会科学部	ラテン語Ⅱ	田中 伸司	後期	金7・8	人B302	若干名	B	9,200円
69	人文社会科学部	フランス事情Ⅱ	コルベイ・スティーブ	後期	月1・2	人B207	若干名	B	9,200円
70	人文社会科学部	中国言語文化講読Ⅳ	埋田 重夫	後期	月3・4	人B302	若干名	B	9,200円
71	人文社会科学部	フランス文学概論Ⅱ	安永 愛	後期	金3・4	人B206	若干名	B	9,200円
72	人文社会科学部	フランス言語文化演習Ⅶ	浅野 幸生	後期	月5・6	人B206	若干名	D	9,200円
73	人文社会科学部	イギリス文学文化各論Ⅱ	久木田 直江	後期	火5・6	人B403	若干名	C	9,200円
74	人文社会科学部	日本言語文化各論Ⅳ	酒井 英行	後期	火7・8	人B401	若干名	B	9,200円
75	人文社会科学部	英語学概論Ⅱ	大村 光弘	後期	火7・8	人B303	若干名	B	9,200円
76	人文社会科学部	比較文学文化基礎講読Ⅴ	南 富鎮	後期	火9・10	人B303	若干名	B	9,200円
77	人文社会科学部	比較文学文化基礎講読Ⅴ	花方 寿行	後期	火9・10	人B206	若干名	B	9,200円
78	人文社会科学部	中国言語文化基礎講読Ⅱ	埋田 重夫	後期	水3・4	人B206	若干名	B	9,200円
79	人文社会科学部	中国文学史Ⅱ	桑島 道夫	後期	水9・10	人B303	若干名	B	9,200円
80	人文社会科学部	英語音声学	服部 義弘	後期	水9・10	人B403	若干名	B	9,200円
81	人文社会科学部	日本言語文化基礎講読Ⅰ	小二田 誠二	後期	金1・2	人B301	若干名	B	9,200円
82	人文社会科学部	行政作用法	高橋 正人	後期	月3・4	人E201	若干名	C	9,200円
83	人文社会科学部	国際法	板倉 美奈子	後期	火5・6	人B401	若干名	B	13,200円
					金7・8	人B401			
84	人文社会科学部	外国書講読Ⅰ	佐藤 信一	後期	火5・6	人B303	若干名	B	9,200円
85	人文社会科学部	商取引法	小林 道生	後期	水1・2	人B301	若干名	B	9,200円
86	人文社会科学部	刑法総論Ⅱ	神馬 幸一	後期	水3・4	共B401	若干名	B	9,200円
87	人文社会科学部	国際政治	佐藤 信一	後期	水3・4	人E201	若干名	B	13,200円
					金3・4	人B401			
88	人文社会科学部	法律系特殊講義Ⅲ	山本 雅昭	後期	水3・4	人B402	若干名	B	9,200円
89	人文社会科学部	法制史Ⅱ	橋本 誠一	後期	水5・6	共B301	若干名	B	9,200円
90	人文社会科学部	人権総論	小谷 順子	後期	木1・2	共B501	若干名	B	9,200円
91	人文社会科学部	刑事訴訟法	山本 雅昭	後期	木1・2	人B401	若干名	B	9,200円

No.	学部等	授業科目名	代表教員名	前期・後期 の別	曜日・時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
92	人文社会科学部	人権各論	小谷 順子	後期	金1・2	共B301	若干名	B	9,200円
93	人文社会科学部	政治思想 I	井柳 美紀	後期	金3・4	人大講	若干名	B	9,200円
94	人文社会科学部	債権各論	米谷 壽代	後期	金5・6	共B301	若干名	B	9,200円
95	人文社会科学部	債権総論	藤巻 梓	後期	金9・10	共B301	若干名	B	9,200円
96	人文社会科学部	環境政策	水谷 洋一	後期	火3・4	人E201	10名	B	13,200円
					金5・6				
97	人文社会科学部	会計学Ⅱ	永田 守男	後期	火5・6	共B301	若干名	B	9,200円
98	人文社会科学部	地方財政論	川瀬 憲子	後期	火5・6	共L306	若干名	C	13,200円
					水3・4				
99	人文社会科学部	ミクロ経済学Ⅱ	山下 隆之	後期	水5・6	人大講	若干名	B	9,200円
100	人文社会科学部	マクロ経済学Ⅰ	石橋 太郎	後期	木3・4	人大講	若干名	A	9,200円
101	人文社会科学部	統計学Ⅱ	上藤 一郎	後期	金5・6	人E101	若干名	B	9,200円
102	人文社会科学部	経済政策Ⅱ	寺村 泰	後期	金9・10	共L306	2名	B	9,200円
103	教育学部	応用数学基礎	畑 宏明	後期	月9・10	教B218	若干名	B	9,200円
104	教育学部	系統生物学	伊藤 富夫	後期	火5・6	教C309	若干名	A-B	9,200円
105	教育学部	微分積分学	大和田 智義	後期	火7・8	教G001	若干名	B	9,200円
106	教育学部	集合と論理	山田 耕三	後期	火9・10	教G201	若干名	B	9,200円
107	教育学部	代数学Ⅱ	谷本 龍二	後期	火9・10	教G202	若干名	B	9,200円
108	教育学部	生態学	小南 陽亮	後期	水5・6	教C309	若干名	B	9,200円
109	教育学部	解析学Ⅱ	大和田 智義	後期	水9・10	教G201	若干名	B	9,200円
110	教育学部	発生生物学(Ⅰ&Ⅱ)	伊藤 富夫	後期	木5・6	教C309	若干名	A-B	9,200円
111	理学部	幾何学Ⅰ	久村 裕憲	後期	月3・4	理B204	若干名	C	9,200円
112	理学部	微分積分学Ⅱ	田中 直樹	後期	月5・6	理B204	若干名	B	9,200円
113	理学部	確率モデル論	板津 誠一	後期	月7・8	理B204	若干名	C	9,200円
114	理学部	解析学Ⅰ	清水 扇丈	後期	火1・2	理B204	若干名	C	9,200円
115	理学部	代数学Ⅰ	浅芝 秀人	後期	火3・4	理B204	若干名	C	9,200円
116	理学部	マルチメディア表現法	板津 誠一	後期	火5・6	理B204	若干名	B	9,200円
117	理学部	数理情報学	依岡 輝幸	後期	火7・8	理B211	若干名	C	9,200円
118	理学部	代数学入門	毛利 出	後期	火7・8	理B204	若干名	C	9,200円
119	理学部	微分積分学Ⅳ	板津 誠一	後期	水3・4	理B204	若干名	C	9,200円
120	理学部	位相数学入門	依岡 輝幸	後期	木1・2	理B204	若干名	C	9,200円

No.	学部等	授業科目名	代表教員名	前期・後期 の別	曜日・時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
121	理学部	符号理論と代数学	毛利 出	後期	木3・4	理B201	若干名	C	9,200円
122	理学部	線型代数学Ⅱ	鈴木 信行	後期	木3・4	理B204	若干名	B	9,200円
123	理学部	複素解析学Ⅰ	奥村 善英	後期	金1・2	理B204	若干名	C	9,200円
124	理学部	計算機構論	鈴木 信行	後期	金5・6	理B204	若干名	C	9,200円
125	理学部	位相数学Ⅰ	久村 裕憲	後期	金7・8	理B204	若干名	C	9,200円
126	理学部	力学Ⅰ	松本 正茂	後期(前半)	月5・6	理B203	若干名	A	9,200円
					金3・4				
127	理学部	力学Ⅱ	松本 正茂	後期(後半)	月5・6	理B203	若干名	A	9,200円
					金3・4				
128	理学部	解析力学	土屋 麻人	後期	火1・2	理B203	若干名	C	9,200円
129	理学部	応用物理学Ⅰ	嶋田 大介	後期(前半)	火3・4	理B203	若干名	C	6,200円
130	理学部	原子核物理学	松山 晶彦	後期(後半)	火3・4	理B203	若干名	C	6,200円
131	理学部	計算物理学	溜瀨 継博	後期(後半)	火5・6	共L1F実習室1	若干名	C	9,200円
					火7・8				
132	理学部	熱力学	溜瀨 継博	後期	水3・4	理B203	若干名	B	9,200円
133	理学部	電磁気学Ⅱ	嘉規 香織	後期	木1・2	理B203	若干名	B	9,200円
134	理学部	統計力学Ⅱ	青山 昭五	後期	木3・4	理B203	若干名	C	9,200円
135	理学部	量子力学Ⅱ	嘉規 香織	後期	金1・2	理B203	若干名	C	9,200円
136	理学部	固体物理学	松本 正茂	後期	金5・6	理B203	若干名	C	9,200円
137	理学部	反応有機化学	山中 正道	後期	月3・4	理B213	若干名	B	9,200円
138	理学部	応用生化学	瓜谷 眞裕	後期	月3・4	理B211	若干名	C	9,200円
139	理学部	基礎有機化学Ⅱ	塚田 直史	後期	月5・6	理B213	若干名	A	9,200円
140	理学部	放射化学Ⅰ	大矢 恭久	後期	月7・8	理B212	若干名	B	9,200円
141	理学部	基礎熱化学	岡林 利明	後期	火1・2	理B202	若干名	A	9,200円
142	理学部	代謝生化学	山本 歩	後期	水1・2	理B203	若干名	C	9,200円
143	理学部	天然物有機化学	坂本 健吉	後期	水1・2	理B213	若干名	C	9,200円
144	理学部	量子化学Ⅰ	三井 正明	後期	水3・4	理B213	若干名	B	9,200円
145	理学部	構造化学	小堀 康博	後期	水3・4	理B211	若干名	C	9,200円
146	理学部	無機機器分析	加藤 知香	後期	水5・6	理B213	若干名	B	9,200円
147	理学部	無機化学Ⅰ	菅野 秀明	後期	木1・2	理B213	若干名	B	9,200円
148	理学部	反応錯体化学	近藤 満	後期	木3・4	理B213	若干名	C	9,200円
149	理学部	化学反応論	関根 理香	後期	金1・2	理B213	若干名	C	9,200円

No.	学部等	授業科目名	代表教員名	前期・後期 の別	曜日・時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
150	理学部	有機機器分析	小林 健二	後期	金5・6	理B213	若干名	B	9,200円
151	理学部	植物生化学	天野 豊己	後期	月3・4	理B212	若干名	C	9,200円
152	理学部	生物環境科学概論Ⅱ	加藤 憲二	後期	月3・4	共D2	若干名	B	9,200円
153	理学部	分子生物学	山内 清志	後期	月5・6	理B212	若干名	A	9,200円
154	理学部	生物科学の最前線	塩尻 信義	後期	火1・2	理B212	若干名	C	9,200円
155	理学部	植物発生学	木寄 暁子	後期	火5・6	理B202	若干名	C	9,200円
156	理学部	基礎生物学Ⅱ	鈴木 雅一	後期	火5・6	共D2	若干名	A	9,200円
157	理学部	発生生物学Ⅱ	塩尻 信義	後期	水3・4	理B212	若干名	C	9,200円
158	理学部	生物学Ⅱ	塩井 祐三	後期	木1・2	理B212	若干名	A	9,200円
159	理学部	神経科学	竹内 浩昭	後期	木3・4	理B212	若干名	C	9,200円
160	理学部	微生物学	藤原 健智	後期	金1・2	理B212	若干名	C	9,200円
161	理学部	進化古生物学	生形 貴男	後期(前半)	月3・4	理B201	若干名	C	6,200円
162	理学部	構造地質学	狩野 謙一	後期(前半)	火1・2	共C611	若干名	C	6,200円
163	理学部	マイクロテクニクス	道林 克禎	後期(後半)	火1・2	共C611	若干名	C	6,200円
164	理学部	地球化学	和田 秀樹	後期(前半)	火3・4	共C611	若干名	C	6,200円
165	理学部	惑星物質学	和田 秀樹	後期(後半)	火3・4	共C611	若干名	C	6,200円
166	理学部	地球科学入門Ⅱ	北村 晃寿	後期	火5・6	理B201	若干名	A	9,200円
167	理学部	構造岩石学	増田 俊明	後期(前半)	水1・2	理B201	若干名	C	6,200円
168	理学部	地球ダイナミクス概論Ⅱ	道林 克禎	後期	水3・4	理B201	若干名	B	9,200円
169	理学部	地球生命史	加藤 憲二	後期(前半)	水3・4	共C611	若干名	C	6,200円
170	理学部	放射化学概論	矢永 誠人	後期	水5・6	理B212	若干名	B	9,200円
171	農学部	持続可能型農業科学	南雲 俊之	後期	月1・2	農B201	若干名	C	9,200円
172	農学部	資源リサイクル論	鈴木 恭治	後期	月1・2	農B203	若干名	B	9,200円
173	農学部	植物生理学	原 正和	後期	月1・2	農B208	若干名	B	9,200円
174	農学部	有機化学概論	衛藤 英男	後期	月3・4	農B208	若干名	A	9,200円
175	農学部	園芸食品利用学	山脇 和樹	後期	月3・4	農B203	若干名	A-B	9,200円
176	農学部	有機化学概論	河岸 洋和	後期	月3・4	共B501	若干名	A	9,200円
177	農学部	食品機能化学	森田 達也	後期	月3・4	農B210	若干名	C	9,200円
178	農学部	農業簿記入門	柴垣 裕司	後期	月5・6	農B210	若干名	A	9,200円
179	農学部	植物ゲノム科学	大村 三男	後期	月7・8	農B201	若干名	C	9,200円
180	農学部	生化学	鳥山 優	後期	火1・2	農B208	若干名	C	9,200円
181	農学部	微生物代謝工学	徳山 真治	後期	火1・2	農B201	若干名	C	9,200円

No.	学部等	授業科目名	代表教員名	前期・後期 の別	曜日・時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
182	農学部	森林環境水文学	土屋 智	後期	火1・2	農B205	若干名	B	9,200円
183	農学部	土壌圏科学	南雲 俊之	後期	火3・4	農B208	若干名	B	9,200円
184	農学部	果樹園芸学	向井 啓雄	後期	火3・4	農B203	若干名	B	9,200円
185	農学部	食品製造化学	衛藤 英男	後期	火3・4	農B201	若干名	A	9,200円
186	農学部	生命環境倫理学	竹之内 裕文	後期	水1・2	農B208	若干名	B	9,200円
187	農学部	植物微生物学	瀧川 雄一	後期	水3・4	農B205	若干名	B	9,200円
188	農学部	植物細胞工学	原田 久	後期	水3・4	農B201	若干名	B	9,200円
189	農学部	住環境構造学	安村 基	後期	水3・4	農B211	若干名	C	9,200円
190	農学部	環境社会学	富田 涼都	後期	水5・6	農B208	若干名	B	9,200円
191	農学部	動物生理学	与語 圭一郎	後期	水5・6	農B201	若干名	C	9,200円
192	農学部	森林生態学	王 権	後期	水5・6	農B205	若干名	B-C	9,200円
193	農学部	高分子材料学	山田 雅章	後期	水7・8	農B203	若干名	A	9,200円
194	農学部	野菜園芸学	糠谷 明	後期	木1・2	農B203	若干名	C	9,200円
195	農学部	分子機能化学	平井 浩文	後期	木1・2	農B210	若干名	B	9,200円
196	農学部	応用生態学	澤田 均	後期	木3・4	農B201	若干名	C	9,200円
197	農学部	分子細胞生物学	森 誠	後期	木3・4	農B208	若干名	B	9,200円
198	農学部	生体機能学	茶山 和敏	後期	木3・4	農B210	若干名	B	9,200円
199	農学部	森林利用システム学	近藤 恵市	後期	木3・4	農B205	若干名	B	9,200円
200	農学部	森林・地域景観生態学	藤本 征司	後期	木3・4	農B204	若干名	A	9,200円
201	農学部	環境毒性学	釜谷 保志	後期	金1・2	農B208	若干名	C	9,200円
202	農学部	環境情報学	野上 啓一郎	後期	金1・2	農B203	若干名	B	9,200円
203	農学部	分子生物学	加藤 竜也	後期	金1・2	農B210	若干名	B	9,200円
204	農学部	酵素科学	村田 健臣	後期	金1・2	農B205	若干名	B	9,200円
205	農学部	木質機能科学	安村 基	後期	金1・2	農B206	若干名	B	9,200円
206	農学部	溪流環境学	土屋 智	後期	金1・2	農B204	若干名	B	9,200円
207	農学部	応用昆虫学	西東 力	後期	金3・4	農B208	若干名	B	9,200円
208	農学部	生物有機化学2	轟 泰司	後期	金3・4	農B210	若干名	C	9,200円
209	農学部	樹木成分化学	河合 真吾	後期	金3・4	農B205	若干名	B	9,200円
210	農学部	分析化学	原 正和	後期	金5・6	農B208	若干名	B	9,200円
211	農学部	応用測量学	逢坂 興宏	後期	金5・6	農A537	若干名	C	9,200円
212	農学部	森林環境学	水永 博己	後期	金5・6	農B205	若干名	C	9,200円
213	農学部	植物生理学	大野 始	後期	金7・8	農B201	若干名	B	9,200円

※複数の教員で授業を行っている場合、代表教員以外については、シラバスに記載があります。

2012年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔浜松キャンパス〕

〈後期〉

No.	学部等	授業科目名	代表教員名	前期・後期の別	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
214	教養	基礎無機化学	平川 和貴	後期	月1・2	総24	若干名	A	9,200円
215	教養	基礎無機化学	平川 和貴	後期	月3・4	総24	若干名	A	9,200円
216	教養	力学・波動Ⅱ	藤間 信久	後期	月5・6	共22	若干名	A	9,200円
217	教養	微分積分学Ⅱおよび演習	赤堀 公史	後期	月5・6	合11	若干名	A	13,200円
					月7・8				
218	教養	キャリアデザイン	佐藤 龍子	後期	火1・2	情24	若干名	A	9,200円
219	教養	熱統計力学	岡部 拓也	後期	火1・2	総24	若干名	B	9,200円
220	教養	哲学	芳賀 直哉	後期	火3・4	機31	若干名	A	9,200円
221	教養	日本国憲法	岡田 安功	後期	火3・4	情11	若干名	A	9,200円
222	教養	法と社会	原田 伸一郎	後期	火3・4	総34	若干名	A	9,200円
223	教養	心理学	漁田 武雄	後期	火3・4	化31	若干名	A	9,200円
224	教養	心理学	須藤 智	後期	火3・4	電22	若干名	A	9,200円
225	教養	現代の社会	笹原 恵	後期	火3・4	情21	若干名	A	9,200円
226	教養	ドイツ語Bーb	中尾 健二	後期	火5・6	情23	若干名	A	9,200円
227	教養	線形代数学Ⅱ	中島 徹	後期	火5・6	総34	若干名	A	9,200円
228	教養	心理学	高橋 晃	後期	水3・4	未定	若干名	A	9,200円
229	教養	心理学	坂井 敬子	後期	水3・4	未定	若干名	A	9,200円
230	教養	芸術論	高松 良幸	後期	水3・4	未定	若干名	A	9,200円
231	教養	歴史と文化	杉山 茂	後期	水3・4	未定	若干名	A	9,200円
232	教養	線形代数学Ⅱ	中島 徹	後期	水7・8	機31	若干名	A	9,200円
233	教養	工学基礎化学Ⅱ	梅本 宏信	後期	木1・2	合11	若干名	A	9,200円
234	教養	工学基礎化学Ⅱ	梅本 宏信	後期	木3・4	合11	若干名	A	9,200円
235	教養	ロックとアートからみるメンタルヘルス	太田 裕一	後期	金3・4	総24	若干名	A	9,200円
236	教養	静岡県の防災・減災と原子力	大矢 恭久	後期	金3・4	電22	若干名	A	9,200円
237	教養	地域社会連携を考える	清水 一男	後期	金3・4	総32	若干名	A	9,200円
238	教養	医学と人間	山本 裕之	後期	金3・4	合11	若干名	A	9,200円
239	教養	科学技術者の社会的責任	吉田 寛	後期	金3・4	総33	若干名	A	9,200円
240	教養	ドイツ語Aー2	中尾 健二	後期	金5・6	情23	若干名	A	9,200円
241	教養	グローバル社会とナノテクノロジー	池田 浩也	後期	金5・6	未定	若干名	A	9,200円

No.	学部等	授業科目名	代表教員名	前期・後期の別	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
242	教養	失敗に学ぶものづくり	以西 雅章	後期	金5・6	未定	若干名	A	9,200円
243	教養	情報ネットワーク社会	上田 芳伸	後期	金5・6	未定	若干名	A	9,200円
244	教養	ヒューマン・エコロジー	戸田 三津夫	後期	金5・6	未定	若干名	A	9,200円
245	教養	ロボットと人間	末長 修	後期	金5・6	未定	若干名	A	9,200円
246	教養	熱統計力学	岡部 拓也	後期	金7・8	総24	若干名	B	9,200円
247	工学部	電子計算機工学	中井 孝芳	後期	月5・6	未定	若干名	C	9,200円
248	工学部	機能性有機材料	久保野 敦史	後期	月7・8	未定	若干名	B	9,200円
249	工学部	プログラミング応用(※1)	前田 恭伸	後期	木1・2	未定	若干名	C	9,200円
250	工学部	環境化学工学	松田 智	後期	金1・2	未定	若干名	B	9,200円
251	情報学部	博物館展示論	高松 良幸	後期	月1・2	情22	若干名	B	9,200円
252	情報学部	現代コミュニケーション論	近藤 真	後期	月7・8	情21	若干名	A	9,200円
253	情報学部	認知心理学	漁田 武雄	後期	水5・6	情21	若干名	A	9,200円
254	情報学部	情報社会思想	岡田 安功	後期	水7・8	情24	若干名	B	9,200円
255	情報学部	美術史	高松 良幸	後期	水9・10	情22	若干名	B	9,200円

※1: パソコンを持参

※複数の教員で授業を行っている場合、代表教員以外については、シラバスに記載があります。

授業科目名	機器分析科学入門 I				
担当教員名	天野 豊己		所属等	理学部	
			研究室	総 721	
分担教員名	徳元 俊伸, 藤原 健智, 道林 克禎, 和田 秀樹				
クラス	理PCBG	学期	後期 (前半)		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	月 1・2
キーワード	科学技術の基礎、種々の機器、細胞組織、タンパク質、遺伝子・ゲノム、偏光、結晶の性質				
授業の目標	どのような機器があり、それらを使うことで、どのようなことが分かり、研究が進むのかを理解し、視野を広げる。				
学習内容	生物科学と地球科学で使われている、機器の基本原理とその応用、可能性について易しく解説する。				
授業計画	1回 DNA と RNA の研究で使用される実験技術と機器 (鈴木) 2回 遺伝子導入法とその応用 (徳元) 3回 プロテオミクスの最前線 (天野) 4回 X線回折の基礎 (和田) 5回 偏光顕微鏡の基礎と造岩鉱物の観察 (道林) 6回 電子顕微鏡の基礎とその観察例 (道林) 7回 質量分析計の基礎とその実用例 (和田) 8回 9回 10回 11回 12回 13回 14回 15回				
受講要件	なし				
テキスト	適時プリントを配布する				
参考書	講義の際に案内をする				
予習・復習について	しっかり予習, 復習をやってください。				
成績評価の方法・基準	レポート提出を課します。また出席回数が5回以下の場合、成績評価の対象としない場合があります。				
オフィスアワー	特に設けていないが、可能な限り対応する。				
担当教員からのメッセージ	いろいろな機器のあることを理解し、勉学や研究の楽しさを知って欲しい。				

授業科目名	機器分析科学入門Ⅱ				
担当教員名	三重野 哲		所属等	理学部	
			研究室	三重野研究室。理学部 A408 室	
分担教員名	三井 正明,山中 正道,小堀 康博,海老原 孝雄,岡 俊彦				
クラス	理PCBG	学期	後期(後半)		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	月1・2
キーワード	機器分析				
授業の目標	自然科学研究で用いられる機器分析法の基礎を理解する				
学習内容	自然科学分野における研究を行なうには様々な機器を用いた分析科学の知識が必要不可欠である。本講義では基本的な機器分析の手法を学ぶ。				
授業計画	<p>6名の教員により以下の授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「電子スピン共鳴 (ESR) 法入門」(小堀 康博) ESR法の紹介とその基礎原理、さらにどのような情報が得られるかを平易に解説する。 ・「核磁気共鳴 (NMR)法入門」(山中 正道) NMR法の基礎原理、およびNMR測定によりどのような情報が得られるのか解説する。 ・「蛍光分光法入門」(三井 正明) 蛍光分光法の基礎と応用について平易に解説する。 ・「磁気測定の基礎」(海老原 孝雄) 物質の磁氣的性質が発現するメカニズムと、磁氣的性質の測定法を解説する。 ・「X線回折測定の基礎」(岡 俊彦) X線の発生原理とX線回折を利用した測定法について解説する。 ・「試料の質量分析・精度と定量性」(三重野 哲) 微量物質の質量分析法の原理と特長を紹介する。 				
受講要件					
テキスト	なし				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席、レポート、小テストなどによる。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	ドイツ語A-2				
担当教員名	エゲンベルグ・トーマス		所属等	大学教育センター	
			研究室	人文学部A棟 225	
分担教員名					
クラス	学部共通 3	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年,2年	難易度	A	曜日・時限	月 3・4
キーワード	実践的なドイツ語、中央ヨーロッパの社会や文化、ドイツ文学の読書にも挑戦！				
授業の目標	日常生活に最低必要なドイツ語コミュニケーション能力や読解力を身につけること。学習者がドイツ・スイス・オーストリアにより一属興味を持つようになることを願っています。				
学習内容	この、少し変わったワークショップ形式の授業では4～6人グループを作り、落ち着いた雰囲気の中で聞く、読む、話す、書く技能をバランスよく学び、語彙や文法は自分で推測したり調べたり発見したりすることで主体的に学習に取り組むことができるように工夫します。初めから、易しい文学作品（ポエム、短編、寸劇など）の読書にも挑戦しましょう！ 補足： 無論、教師（ファシリテーター）はグループ作業を支援しますが、学習の責任は学生が自ら担うこととなります。				
授業計画	<p>主な内容（前期・後期あわせて）：</p> <p>S Sprachhandlung（言語行動） L Landeskunde（ドイツ事情） Kennenlernen（人と知り合う） S 様々な挨拶、スモールトーク L 相手によって話し方が変わる、ドイツ語と日本語、ヨーロッパのドイツ語圏 Mein Tag（私の一日） S 時間表現、日常の行動、用事や希望、昨日（過去）のことを言う L 色々な人の一日 Essen und Trinken（食事） S 買い物する、レストランで注文する・支払う L ドイツの食卓、食習慣 Wohnen, Lifestyle（住まい、ライフスタイル） S 家や部屋の様子を説明する L 学生の住居シェアリング、建築、国際社会 Familie, Freundschaft, Liebe（家族、友人、恋愛） S 日常会話、告白、明日（未来）のことを言う L 家族暮らし、恋愛・婚姻の形態 Schule und Studium（学校、大学） S 議論・反論 L 個人を重んじ、個性を育つ教育 Freizeit und Arbeit（余暇、仕事） S 一週間の予定、約束する、お願い・命令、もしも（仮定）のことを言う L 自由時間の過ごし方、環境意識、就職活動、ワーク・ライフ・バランス Reisen（旅行） S 旅行の計画をたてる、予約する、旅先での色々な話 L ヨーロッパ、異文化経験 その他（様々なゲーム、ビデオ、スライド、歌）</p>				
受講要件	なし				
テキスト	様々です。				
参考書	この授業に欠かせない学習ツール： - Seino Tomoaki: Meine Deutschstunde、朝日出版社、ISBN 978-4-255-25319-0 - 独和辞書（4000円程度のペーパー辞書はお勧めです。電子辞書はお勧めしません。）				
予習・復習について	各授業にあたって1時間半程度の宿題（復習・予習・下調べなど）を出します。				
成績評価の方法・基準	授業中のアクティビティ・課題（あわせて20%）、小テスト（30%）、Showtimeテスト（20%）、期末テスト（30%）。 ただし、3回以上欠席する場合は単位不可（2回の遅刻は1回の欠席扱い）。				
オフィスアワー	月・水曜日の昼休み 授業の質問は電子メールでも結構です： jtegg@ipc.shizuoka.ac.jp				

担当教員か
らのメッセ
ージ

授業科目名	ドイツ語A-2				
担当教員名	諏訪田 清		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟422	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年,2年	難易度	A	曜日・時限	月3・4
キーワード	文法の基礎				
授業の目標	ドイツ文法の基礎をしっかりと学ぶ。				
学習内容	教科書に沿って行う。				
授業計画	1回 話法の助動詞 2回 話法の助動詞 3回 動詞の3基本形 4回 動詞の3基本形 5回 動詞の3基本形 6回 時制 7回 時制 8回 形容詞 9回 形容詞 10回 形容詞 11回 関係代名詞 12回 受動 13回 受動 14回 接続法 15回 接続法				
受講要件	問わない。				
テキスト	ドイツ文法18歩				
参考書	無し				
予習・復習について	辞書を丹念に引いて、予習復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験の成績のみで評価を行う。				
オフィスアワー	火曜日7・8時限 研究室にて。事前にメール連絡を。				
担当教員からのメッセージ	自分の勉強不足を教員になすりつけないこと。				

授業科目名	フランス語A-2				
担当教員名	コルベイ・スティーブ		所属等	大学教育センター	
			研究室	人 A325	
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年,2年	難易度	A	曜日・時限	月 3・4
キーワード	フランス語文法、読解				
授業の目標	4技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に学習しながらフランス語でのコミュニケーション能力を高める。特に、重要な文法事項にも焦点を当てて、タスクも多に行う。				
学習内容	本文会話の大意を掴んだ後、提出された文法事項や重要表現を詳しく解説し、練習をする。更に、聴解練習やクラス内アクティビティを通して更に理解を深める。また、本文中に出てきたフランスの文化や習慣についても詳しく解説を行い、フランス語の理解を促進する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の説明／復習 (Unite 1-6) 2. 市場で買い物をする 1 (部分冠詞、数量の表現) 3. 市場で買い物をする 2 (中性代名詞 en) 4. サッカーを観戦に行く 1 (疑問形容詞) 5. サッカーを観戦に行く 2 (命令形、非人称構文) 6. デパートで 1 (数詞、指示代名詞) 7. デパートで 2 (比較級・最上級) 8. 紹介する 1 (補語人称代名詞) 9. 紹介する 2 (代名動詞 1) 10. 紹介する 3 (代名動詞 2) 11. 旅の話をする 1 (複合過去形 1) 12. 旅の話をする 2 (複合過去形 2) 13. 旅の話をする 3 (過去を表す状況補語) 14. 別れを言う 1 (単純未来形) 15. 別れを言う 2 (未来を表す状況補語) 				
受講要件					
テキスト	新・彼女は食いしん坊！ 1、藤田裕二、朝日出版、ISBN 978-4-255-35181-0				
参考書					
予習・復習について	前期の学習内容の復習が必要。授業日には教科書を必ず持参すること。				
成績評価の方法・基準	出席、授業への参加 (30%) 宿題 (10%) テスト (60%) 3回以上欠席する場合は単位不可				
オフィスアワー	月曜日の 14:30~16:00				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	フランス語A-2				
担当教員名	浅野 幸生	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟408		
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	後期	必修選択区分	
対象学年	1年,2年	難易度	A	曜日・時限	月3・4
キーワード	文法、読解、作文、会話				
授業の目標	フランス語の基礎能力を実用性の高いものにしてゆく				
学習内容	テキストに沿って文法の習得をすることが中心となるが、同時に文化圏への理解を深める努力もしてゆく				
授業計画	1. 疑問詞 2. 命令文・基本文型 3. 非人称構文・数の数え方 4. 比較級・最上級 5. 季節・月・曜日 6. 人称代名詞 7. 複合過去と半過去 8. 代名動詞・受動態 9. 関係代名詞 10. 未来形・強調構文 11. 中性代名詞 12. 条件法 13. 接続法				
受講要件	1～2年生				
テキスト	前期で使用したものを継続して使う。10月の一回目の授業に忘れずにもってくること。				
参考書					
予習・復習について	予習が必要。				
成績評価の方法・基準	平常点と試験				
オフィスアワー	14:20～15:30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	スペイン語A-2				
担当教員名	大原 志麻		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟522	
分担教員名					
クラス	学部共通3	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年,2年	難易度	A	曜日・時限	月3・4
キーワード	スペイン語、スペイン、ラテンアメリカ、国際理解、資格、比較文化				
授業の目標	スペイン語の基礎文法を学び、教科書の練習問題やオーラル・プラクティスを通じて、それをしっかり身につけること。				
学習内容	まず動詞の活用や性数一致といった、日本語や英語とは異なるスペイン語の仕組みに慣れることに始まり、現在形・過去形・未来形といった時制や、再帰動詞、gustar 形の動詞といった、スペイン語独特の文法事項を学んでいきます。				
授業計画	<p>スペイン語Aは、1・2の必修2科目で、スペイン語文法の基礎を学びます。この2科目は、単位上は別個の科目ですが、週1回1年間、一貫した授業として進められてゆきます。用いるテキストは各クラスとも共通ですが、担当教員によって進行の仕方や成績評価基準が変わることがあります。最初の授業で説明がされますので、注意して聞いて準備してください。</p> <p>なお、教育・理学部の1年生は事前にクラス指定がされます。農学部の2年生は原則として自由にクラスが選べますが、前期後期共に原則として同じ教員のクラスに属してもらいます。また人数が極端に偏った場合は、別のクラスに移ってもらうこともあります。調整は授業に差し支えがないよう、4月の早い時点で行います。</p>				
受講要件	教育・理学部の1年生（選択必修）、及び農学部の2年生。				
テキスト	西川喬『さあ、始めよう！ スペイン語』同学社、2,500円。				
参考書	『西和中辞典』小学館、1990年。もしくはスペイン語電子辞書などを必ず授業に持ってくること。				
予習・復習について	外国語を初めて学ぶときは、授業時間内での活動以上に、単語の暗記をはじめとする予習復習が重要です。宿題や単語調べはもちろん、最低要求された課題は、確実に行ってください。				
成績評価の方法・基準	平常点（出席・授業への参加）・小テスト・期末テストなどを、総合的に評価します。				
オフィスアワー	月曜日の11・12限に大原研究室にて。				
担当教員からのメッセージ	スペイン語は母語としている数が世界一位、また国際的なコミュニケーションとしては第二位の有用性が高い言語です。国際競争力が問われることが当たり前となった昨今、語学力やそれを通じての国際理解は必要なスキルです。この授業が広大で変化に富むスペイン語世界への入り口になってくれることを願っています。				

授業科目名	現代韓国語A-2				
担当教員名	南 富鎮	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟527		
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年,2年	難易度	A	曜日・時限	月3・4
キーワード	韓国語、韓国語文法				
授業の目標	現代韓国語の基礎的な文法を覚え、自立的に勉強する土台を作る。				
学習内容	現代韓国語の基礎的な文法を覚える。				
授業計画	1回 復習 2回 発音規則 3回 指示代名詞 4回 形式名詞 5回 目的助詞 6回 叙述表現 7回 場所の助詞 8回 否定文 9回 曜日を覚える 10回 敬語表現 11回 過去表現 12回 過去の敬語表現 13回 未来表現 14回 数詞 15回 総復習				
受講要件	教育学部1年・理学1年、農学部2年（選択）				
テキスト	李昌圭『韓国語を学ぼう一初級』朝日出版社、2006年				
参考書	とくになし				
予習・復習について	教員がその都度指示する。				
成績評価の方法・基準	出席40%、試験60%				
オフィスアワー	最初の時間に知らせる。				
担当教員からのメッセージ	難易度A				

授業科目名	フランス語 I - c				
担当教員名	安永 愛	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 5 2 5		
分担教員名					
クラス	人 1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	フランス語初歩、フランス語の音・リズム、フランス語圏に開かれた窓				
授業の目標	フランス語の音とリズムに慣れる。フランス語の基礎を身に付けるとともに、フランス語圏の文化に興味を向ける。				
学習内容	「フランス語 I-c」に引き続き、聴く、読む、書く、話すの作業を繰り返しながらフランス語の初歩を身に付けていきます。ビデオ教材も活用しつつ、フランス語圏の文化にも少しずつ触れていきます。				
授業計画	<p>内容</p> <p>第 1 講 教科書第 6 講前半 第 2 講 教科書第 6 講後半 第 3 講 教科書第 7 講前半 第 4 講 教科書第 7 講後半 第 5 講 教科書第 8 講前半 第 6 講 教科書第 8 講後半 第 7 講 教科書第 9 講前半 第 8 講 教科書第 9 講後半 第 9 講 教科書第 10 講前半 第 10 講 教科書第 10 講後半 第 11 講 教科書第 11 講前半 第 12 講 教科書第 11 講後半 第 13 講 教科書第 12 講前半 第 14 講 教科書第 12 講後半 第 15 講 復習</p>				
受講要件					
テキスト	Elle est gourmande!(朝日出版社)				
参考書	仏和辞書				
予習・復習について	毎回宿題を課します。語学は反復練習が重要です。				
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験（聞き取り・書き取りを含む）の成績（80%）授業中のオーラルを含む小テスト（20%）				
オフィスアワー	初回の授業でお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	せっかくフランス語を勉強するのですから、何かフランス語圏にかかわることに興味を持つとモチベーションが上がると思います。				

授業科目名	スペイン語 I - c				
担当教員名	大原 志麻	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 522		
分担教員名					
クラス	人 2	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	スペイン語、ラテン・アメリカ、比較文化、グローバリゼーション				
授業の目標	スペイン語の基礎文法を学び、授業中のオーラル・プラクティスを通じて、実践力を身につけること。語学を通じて、国際理解を深めること。また資格試験を目指す。				
学習内容	前期の I-a で学んだ文法内容を踏まえて、点過去、線過去、未来形を学び、スペイン語文法を幅広く理解する。				
授業計画	スペイン語 I は、a,b,c,d の必修 4 科目で、プリントを使用し、スペイン語文法の基礎を学びます。これらの 4 科目は、単位上は別個の科目ですが、週 2 回、通年で、全ての授業が連携して進められていきます。この授業では、文法や新しい事項の説明と練習問題、また幅広い会話練習を中心に進めます。				
受講要件	一年生についてはクラス指定あり。				
テキスト	文法事項や練習問題をまとめてプリントを配布する。				
参考書	『西和中辞典』小学館、1990 年。もしくはその他のスペイン語の辞書を必ず授業に持ってくること。				
予習・復習について	初修外国語は独習が難しいので、必ず授業に出席すること。また単語や動詞の活用形の暗記など、授業時間外の予習復習が不可欠です。				
成績評価の方法・基準	平常点（出席・授業態度）、小テスト、期末テストなどから総合的に判断します。				
オフィスアワー	月曜日 11・12 限に大原研究室にて。				
担当教員からのメッセージ	スペイン語は母語としている数が世界一位、また国際的なコミュニケーションとしては第二位の有用性が高い言語です。国際競争力が問われることが当たり前となった昨今、語学力やそれを通じての国際理解は必要なスキルです。この授業が広大で変化に富むスペイン語世界への入り口になってくれることを願っています。				

授業科目名	Modern Japanese Literature				
担当教員名	コルベイ・スティーブ		所属等	大学教育センター	
			研究室	人 A325	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード					
授業の目標	The main goal of this class is to gain a general understanding of the work of a few major writers of Japanese literature who have published in the 20th century. Through their writings we will draw an overview of the major trends in Japanese literature and cultural production.				
学習内容	Every class we will read a short story in English. We will discuss in English the text and the context surrounding its creation. We will then compare selected passages from the English translation with the Japanese original in order to understand the translator's work. When appropriate we will watch movie adaptations of novels written by the writers studied in class.				
授業計画	1回 2回 3回 4回 5回 6回 7回 8回 9回 10回 11回 12回 13回 14回 15回				
受講要件					
テキスト	Theodore W. Goosen(ed.), The Oxford Book of Japanese Short Stories, Oxford University Press, 1997. ISBN 978-0-19-958319-5				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	Quizzes: 20% Presentation:30% Final Paper:40% Participation:10% *You cannot be absent more than three times.				
オフィスアワー	Monday, 14:30 to 16:00				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	静岡の歴史と文化の創造				
担当教員名	上利 博規		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 2 1	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年,3 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	静岡、歴史、文化、文化政策、地域文化				
授業の目標	<p>静岡の歴史文化を古代から現代まで概観することを通じて、</p> <p>① 静岡の地において文化がどのように作られてきたかというプロセスを知る</p> <p>② これからの文化創造のあり方を考える手掛かりを得ることが目標です。</p>				
学習内容	静岡の文化を古代、中世、近世、近現代という順に見ながら、ふだんは気づかない静岡に残された各地の歴史や文化の魅力を考えます。				
授業計画	<p>1 回 授業の内容と方法などの導入</p> <p>2 回 静岡の歴史と文化の見方</p> <p>3 回 原始の静岡 世界から見た原始の静岡、縄文時代の静岡</p> <p>4 回 古代の静岡 1 弥生時代、古墳時代の静岡の文化</p> <p>5 回 古代の静岡 2 奈良・平安時代の静岡の文化</p> <p>6 回 中世の静岡 1 武士の登場、鎌倉時代と静岡の文化</p> <p>7 回 中世の静岡 2 南北朝の争いと静岡、室町時代の今川と駿府の文化</p> <p>8 回 戦国時代の静岡 今に残る戦国時代の面影</p> <p>9 回 江戸時代の静岡 1 東海道の宿場と文化</p> <p>10 回 江戸時代の静岡 2 世界から見た江戸時代と静岡の文化</p> <p>11 回 近代の静岡 1 明治・大正時代の静岡の文化</p> <p>12 回 近代の静岡 2 昭和前期の静岡の文化</p> <p>13 回 現代の静岡 1 戦後、昭和後期の静岡の文化</p> <p>14 回 現代の静岡 2 静岡の今を考える</p> <p>15 回 まとめ</p>				
受講要件	日本史、世界史に詳しくない人にもわかるように話すつもりです。				
テキスト	パワーポイントと資料プリントなどを中心に話すので、テキストは使用しません。				
参考書	上利博規・滝沢誠編著『静岡の歴史と文化の創造』知泉書館				
予習・復習について	予習よりも復習を中心に、授業で得た知識を、地図を広げるなり、ネット検索するなりして、より具体的に理解できる工夫をしてください。実際にその場に行ってみるのが最もよい方法です。				
成績評価の方法・基準	<p>授業ごとのワードファイルまたは手書きのまとめレポート</p> <p>+</p> <p>授業で紹介した場所のどこか一か所に行き実際にフィールドワークレポート</p> <p>詳細は授業開始時に指示します。</p>				
オフィスアワー	<p>前期は月曜日 15:00-16:00 人文 A 棟 421</p> <p>後期は月曜日 11:45-12:45 共通 L 棟 3F アジア研究センター</p>				
担当教員からのメッセージ	静岡がもっと楽しくなります。				

授業科目名	地域社会と災害				
担当教員名	牛山 素行		所属等	防災総合センター	
			研究室	防災総合センター	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	豪雨災害、地震災害、火山災害、津波災害、防災、防災対策、防災行政				
授業の目標	静岡県では災害というと地震災害に目が向きがちかもしれないが、豪雨災害をはじめとして、災害には様々な姿がある。本講義では、災害を考えるための基礎的な考え方や、災害をもたらす現象のメカニズム、災害による被害を軽減するための技術や制度について理解し、社会の一員として、当事者意識を持って災害に備える事ができる人材の育成を目指す。				
学習内容	(1)自然災害の基本的な性質を理解し、長期的かつ広い視野から災害を見ることができるようになる。(2)自然災害をもたらす様々な自然現象(ハザード)の基本的なメカニズムと、災害との関係について理解することができる。(3)地域における自然災害による被害を軽減するための技術、社会的な制度の現状と課題について理解することができる。				
授業計画	1 2012/10/1 自然災害科学入門 牛山素行 静大 2 2012/10/15 自然災害と「空間」・「時間」 牛山素行 静大 3 2012/10/22 豪雨災害 牛山素行 静大 4 2012/10/29 洪水・土砂災害 牛山素行 静大 5 2012/11/5 地震災害 原田賢治 静大 6 2012/11/12 津波・高潮災害 原田賢治 静大 7 2012/11/19 火山災害 牛山素行 静大 8 2012/11/26 防災技術の可能性と限界 牛山素行 静大 9 2012/12/3 災害情報 牛山素行 静大 10 2012/12/10 警報と避難 牛山素行 静大 11 2012/12/17 地域社会と災害 矢守克也 京大 12 2013/1/7 行政と災害対応 牛山素行 静大 13 2013/1/15 ハザードマップ 牛山素行 静大 14 2013/1/21 防災行政実務 杉村晃一 静岡市 15 2013/1/28 災害と身近な暮らし 牛山素行 静大				
受講要件	特になし				
テキスト	特に指定しない。講義中に適宜資料を配付する。				
参考書	特に指定しない。講義中に文献を紹介する場合がある。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	・講義時間中に小課題を出題し、その内容を採点する。最後に、出題したすべての小課題の採点結果を集計し、成績を評価する。小課題の出題回数は未定で、出題日は予告しない。出題形式はレポート形式の場合と、クイズ形式の場合があり、いずれも講義時間中に記入、提出する。 ・小課題の提出回数が、出題回数の2/3以上の者を成績評価の対象とする。たとえば、8回出題の場合5回以上の提出が必要となる。 ・欠席届の提出は不要である。欠席時の講義内容は、欠席者自身で情報収集すること。 ・講義期間終了後に、レポート出題などによって不合格者に対するいわゆる「救済措置」をとることはない。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	学際科目「地震防災」の内容を拡大させた講義です。「地震防災」と本講義は、両方、あるいはどちらか一方のみを受講しても構いません。				

授業科目名	私たちの生活と植物				
担当教員名	木寄 暁子	所属等	理学部		
		研究室	総合研究棟 701		
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	バイオテクノロジー、遺伝子、遺伝子組換え植物、農業				
授業の目標	植物は私達にとってなくてはならない存在である。この授業では、私達が植物とどう関わってきたのか、またどう関わっていかうとしているのかを考えるとともに、植物を通して環境、バイオテクノロジー、農業などについて考える。				
学習内容	特に遺伝子組換えやクローン技術などのバイオテクノロジーの分野で、人々の関心が高いが、必ずしも正しく理解されていないことに関して、その本質を理解するための基礎を学ぶ。また背景として、私達がどのように植物に関わってきたかを学ぶことで、植物を含む自然環境、そして新しい科学技術と、今後どのように関わっていくべきかを新たな視点で考える力をつける。				
授業計画	1. 植物と人との関わり 2. 生命の歴史と植物 3. 植物の体と細胞 4. 5. 植物の体をつくる物質 6. 7. 遺伝子とは。 8. 9. 遺伝子の働き 10. 11. 遺伝子と農業（栽培植物、品種改良） 12. 13. 遺伝子組換え技術 14. 15. 遺伝子組換え植物の可能性と問題点				
受講要件					
テキスト	特に指定しない				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	試験および出席により評価				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	エネルギーと環境				
担当教員名	大矢 恭久		所属等	理学部	
			研究室	理学部 A202	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	エネルギー、環境、放射線、原子力、放射線影響、地球温暖化				
授業の目標	エネルギー問題および環境問題の現状について理解すると共に、放射線や核エネルギーと人間との関わりについて科学的な教養を深める。				
学習内容	エネルギーと環境問題についてサイエンスの観点から理解するとともに、その解決法の一つである核エネルギー発電の原理および仕組み、核エネルギー発電の問題点を学ぶ。また、放射線の応用的利用についても言及する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスおよびエネルギー・環境問題(1) (奥野) 2. エネルギー・環境問題(2) (奥野) 3. 化石燃料とエネルギーセキュリティ (奥野) 4. 核エネルギーの歴史 (大矢) 5. 原子力発電の仕組みと課題 (1) 原子炉 (中電：豊住) 6. 原子力発電の仕組みと課題 (2) 原子炉 (中電：豊住) 7. 原子力発電の仕組みと課題 (3) 放射性廃棄物 (中電：豊住) 8. 核融合炉発電の仕組みと開発の現状 (大矢) 9. 地球温暖化の科学 (大矢) 10. 温室効果ガス削減の取り組み (大矢) 11. 原子力エネルギー行政 (静岡県：東) 12. 省エネルギー (大矢) 13. 放射線の測定 (矢永) 14. 放射線の生物影響 (矢永) 15. エネルギーと環境および社会との関わり (矢永) 				
受講要件	特になし				
テキスト	【基礎講座】エネルギーと地球環境				
参考書	原子力がひらく世紀 (日本原子力学会編)				
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	講義中の小レポートおよび各教員が課すレポートにより評価する。				
オフィスアワー	8:00-20:00				
担当教員からのメッセージ	文理学生合同での講義のため、極力数式を用いない講義とする。エネルギー・環境問題に関する教養を深めることを主たる目標とする。				

授業科目名	ヒューマン・エコロジー				
担当教員名	野上 啓一郎		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 608 研究室	
分担教員名	戸田 三津夫,安村 基,山脇 和樹,藤本 征司,榎本 正明,恒川 隆生,山本 雅昭,雨谷 敬史,竹之内 裕文				
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年,3 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード					
授業の目標	ある日本の著名な科学哲学者によると、自然科学・社会科学・人文学という学問区分は、近代科学が制度として成立してゆく 18～19 世紀に由来する。この制度的成立と共に、相互の守備範囲を遵守し、相手の領域を侵さないという習慣が生じたという。環境問題のように、知の統合を必要とする問題には、このように分けられた学問は無力である。 本講義の目標は、従来の学問とは逆方向からのアプローチである、反コペルニクス的科学的科学の方向性を探り、科学のもう一つのあり方を理解させることにある。				
学習内容	異なる研究分野の問題に共通する概念、手法、構造を抽出することで、それぞれの分野の間での知の互換性を確立し、それを通して、より普遍的な知の体系を教授する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 野上啓一郎（静岡大学農学部）：ガイダンス 戸田三津夫（静岡大学工学部）：都市と田舎---安全・快適・便利をもとめて--- 戸田三津夫（静岡大学工学部）：水環境の保全と修復 安村 基（静岡大学農学部）：安全・快適そして人と環境にやさしい住宅の供給 山脇和樹（静岡大学農学部）：食料と生活エネルギーの循環 藤本征司（静岡大学農学部）：生態学から見た人間環境の構造と風景造り 藤本征司（静岡大学農学部）：生態学から見た風景モザイクの動態と造景 榎本正明（静岡大学農学部）：乾燥地生態系概論 恒川隆生（静岡大学法科大学院）：環境保全---ヒューマンエコロジーと行政法--- 山本雅昭（静岡大学法科大学院）：ヒューマンエコロジーをめぐる刑事規制--- 雨谷敬史（静岡県立大学）：室内環境に快適さや安全性を求めて 雨谷敬史（静岡県立大学）：環境リスク評価と管理 竹之内裕文（静岡大学創造科学技術大学院自然科学系教育部）：ヒューマンエコロジーという問い 竹之内裕文（静岡大学創造科学技術大学院自然科学系教育部）：人間と動物の間 野上啓一郎（静岡大学農学部）：環境科学に今も通用する武谷三男の思想 野上啓一郎（静岡大学農学部）：試験 				
受講要件	特になし				
テキスト	ヒューマンエコロジーをつくる---人と環境の未来を考える---共立出版 野上啓一郎著				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	教科書を熟読すること。				
成績評価の方法・基準	<p>レポート提出</p> <p>成績評価の基準・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 知識を絞り込む力 思考・推論・創造する力 表現・伝達能力 授業に取り組む姿勢・意欲 <p>の 4 項目について、総合評価割合率で計算し、達成度の評価を行う。 総合評価の割合は、レポートのプレゼンテーション能力 80%、その他 20%とする。</p>				
オフィスアワー	本講義の責任者である野上まで、メール連絡すること。 afknoga@ipc.shizuoka.ac.jp(研究室) socrates3_kant3@ma.tnc.ne.jp afknoga@me.com				

担当教員からのメッセージ	専門分野が異なった先生方の講義です。多角的思考に興味がある学生の受講を勧めます。 なお、授業計画の順番や内容は変更することがあります。
--------------	--

授業科目名	NPO・ボランティア論				
担当教員名	日詰 一幸	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟621		
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	後期	必修選択区分	
対象学年	2年,3年	難易度	A	曜日・時限	月5・6
キーワード	ボランティア、ボランティア団体、市民活動、非営利組織、社会的企業、協働、市民社会				
授業の目標	ボランティア活動やNPO活動について、その概要を理解する。				
学習内容	NPOやボランティア活動に関する理論を学ぶとともに、実際に静岡県内で活動しているNPO法人の関係者から活動に実態を学びます。				
授業計画	1回 ガイダンス 2回 ボランティア活動の世界(1) 3回 ボランティア活動の世界(2) 4回 ボランティア活動の世界(3) 5回 NPOの基礎知識(1) 6回 NPOの基礎知識(2) 7回 NPOの基礎知識(3) 8回 NPOの基礎知識(4) 9回 NPOの基礎知識(5) 10回 福祉とアートの融合によるNPO(1) 11回 福祉とアートの融合によるNPO(2) 12回 福祉とアートの融合によるNPO(3) 13回 環境分野で活動するNPO 14回 福祉分野で活動するNPO 15回 男女共同参画分野で活動するNPO				
受講要件	特にありません。				
テキスト	田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣				
参考書	その都度紹介します。				
予習・復習について	特にありません。				
成績評価の方法・基準	レポートと期末試験を総合して成績を評価します。				
オフィスアワー	水曜日 13:00~14:00 (事前に連絡をください。)				
担当教員からのメッセージ	講義中の私語、携帯電話の使用(特にスマートフォン)、他の授業の準備等を厳しく禁じます。				

授業科目名	人間環境と分子科学				
担当教員名	山本 歩	所属等	理学部		
		研究室	理学部A棟 311		
分担教員名	坂本 健吉,大吉 崇文				
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	分子、化学、メディアリテラシー、疑似科学、地球温暖化、環境汚染				
授業の目標	人間をとりまく環境については国民の関心も高く、毎日のように多くの報道が行われています。この講義では環境問題などについて、誤った報道に惑わされることのない、正しく広い科学的教養を身につけることをめざします。				
学習内容	食品の安全など身近な問題から地球全体の将来に関わる問題まで、今日の環境問題を理解するためには化学物質やその反応について幅広い正確な知識が必要です。報道などでは語られない、これらの問題を理解するために必要な分子科学的な知識を分かりやすく概説します。				
授業計画	環境に関する問題を毎回1テーマずつ、臨機応変に取り上げます。これまでに取り上げたテーマは「ダイオキシン」、「地球温暖化」、「環境ホルモン」、「麻薬」などでした。				
受講要件	特になし。				
テキスト	特に指定しません。				
参考書	テーマごとに必要であれば随時紹介します。				
予習・復習について	特に必要ありません。				
成績評価の方法・基準	レポートによって評価します。				
オフィスアワー	特に用事のない限りいつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	数学Ⅱ（線形代数A）				
担当教員名	久村 裕憲	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 603		
分担教員名					
クラス	理PCBG1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	月 7・8
キーワード	行列、連立1次方程式、行列式				
授業の目標	高等学校の数学Ⅰ,ⅡBまで習得している学生（クラス3）と、高等学校の数学Ⅲ,Cまで習得している学生（クラス1, 2）に分けて、3クラスで講義を行う。 行列の演算、行列式の計算および連立一次方程式の解法の修得を目標とする。				
学習内容	数および比例の高次元化である、ベクトルおよび線形写像を調べるために、比例定数の高次元化である行列や、拡大率の一般化である行列式を導入し、その性質を調べ、計算する。また、行列の基本変形を利用して連立一次方程式を解く。				
授業計画	<p>数学Ⅰ, Ⅱ, Ⅲは、各々3クラスに分けて講義をする。前期の数学Ⅰの第1回講義に試験を行い、クラスを決定する。試験を必ず受けて下さい。再履修の受講生は前年度までのクラス分けに従って受講して下さい。3クラスの担当教員は、</p> <p>クラス1： 数学Ⅰ 清水教員－数学Ⅱ 久村教員－数学Ⅲ 清水教員 クラス2： 数学Ⅰ 奥村教員－数学Ⅱ 千葉教員－数学Ⅲ 奥村教員 クラス3： 数学Ⅰ 板津教員－数学Ⅱ 保坂教員－数学Ⅲ 田中教員</p> <p>1. 行列 1.1 行列と数ベクトル 1.2 行列の演算 1.3 行列の分割 2. 連立一次方程式 2.1 基本変形 2.2 簡単な行列 2.3 連立一次方程式を解く 2.4 正則行列 3. 行列式 3.1 置換 3.2 行列式の定義と性質（1） 3.3 行列式の性質（2） 3.4 余因子とクラームルの公式 3.5 特別な形の行列式</p> <p>時間があれば、ベクトル空間や線形写像についても解説する。</p>				
受講要件					
テキスト	入門線形代数, 三宅敏恒, 培風館, 4-563-00216-X				
参考書					
予習・復習について	教科書や参考書で予習, 授業ノートや教科書で復習すること。自主的に練習問題を解くこと。理解できないところは, できるだけ早く質問に来て理解すること。				
成績評価の方法・基準	出席やレポートなどの平常点および試験の結果を総合して行う。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	数学Ⅱ（線形代数A）				
担当教員名	保坂 哲也		所属等	理学部	
			研究室	理学部C棟 606室	
分担教員名					
クラス	理PCBG3	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	月7・8
キーワード	行列、連立1次方程式、行列式				
授業の目標	高等学校の数学Ⅰ, IIBまで習得している学生（クラス3）と、高等学校の数学Ⅲ, Cまで習得している学生（クラス1, 2）に分けて、3クラスで講義を行う。 行列の演算、行列式の計算および連立1次方程式の解法の修得を目標とする。				
学習内容	数および比例の高次元化である、ベクトルおよび線形写像を調べるために、比例定数の高次元化である行列や、拡大率の一般化である行列式を導入し、その性質を調べ、計算する。また、行列の基本変形を利用して連立1次方程式を解く。				
授業計画	<p>数学Ⅰ, Ⅱ, Ⅲは、各々3クラスに分けて講義をする。前期の数学Ⅰの第1回講義に試験を行い、クラスを決定する。試験を必ず受けること。後期の数学Ⅱ, Ⅲのみの再履修の学生も、試験などから、クラス分けを行う予定である。3クラスの担当教員は、</p> <p>クラス1： 数学Ⅰ 田中教員－数学Ⅱ 伊澤教員－数学Ⅲ 清水教員 クラス2： 数学Ⅰ 毛利教員－数学Ⅱ 千葉教員－数学Ⅲ 奥村教員 クラス3： 数学Ⅰ 板津教員－数学Ⅱ 依岡教員－数学Ⅲ 板津教員</p> <p>1. 行列 1.1 行列と数ベクトル 1.2 行列の演算 1.3 行列の分割</p> <p>2. 連立1次方程式 2.1 基本変形 2.2 簡単な行列 2.3 連立1次方程式を解く 2.4 正則行列</p> <p>3. 行列式 3.1 置換 3.2 行列式の定義と性質（1） 3.3 行列式の性質（2） 3.4 余因子とクラメルの公式 3.5 特別な形の行列式</p> <p>時間があれば、ベクトル空間や線形写像についても解説する。</p>				
受講要件					
テキスト	入門線形代数, 三宅敏恒, 培風館, 4-563-00216-X				
参考書					
予習・復習について	教科書や参考書で予習, 授業ノートや教科書で復習すること。自主的に練習問題を解くこと。理解できないところは, できるだけ早く質問に来て理解すること。				
成績評価の方法・基準	出席, レポートなどの平常点および試験の結果を総合して評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	授業の内容で分からないことがあったら, できるだけ早く質問に来て下さい。				

授業科目名	化学Ⅱ（物理化学B）				
担当教員名	菅野 秀明		所属等	理学部	
			研究室	理学部A棟3階 A306室	
分担教員名					
クラス	理BG	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	火1・2
キーワード	熱化学、化学平衡、酸と塩基、電気化学、化学反応速度				
授業の目標	化学変化を理解するための基本的な知識とそれらの応用について学ぶ。				
学習内容	物質の状態変化や化学変化に伴う熱エネルギーの役割と、化学反応の平衡や方向を理解するための熱化学の基本法則を学ぶ。また、酸と塩基、電気化学、化学変化の速度と反応機構についても学習する。なお、この講義で使用するテキストの1章から8章については、前期に開講される化学Ⅰ（物理化学A）で学習する。				
授業計画	1回 9章 状態変化に伴うエネルギー—熱化学： 熱力学の第一法則、転移のエンタルピー 2回 9章 状態変化に伴うエネルギー—熱化学： エンタルピーのはたらき 3回 9章 状態変化に伴うエネルギー—熱化学： エンタルピーのはたらき 4回 10章 化学反応の平衡： 平衡の記述 5回 10章 化学反応の平衡： 諸条件の影響 6回 10章 化学反応の平衡： 相の間の平衡 7回 11章 自然に起こる変化の方向—熱力学の第二法則： エントロピーと熱力学の第二法則 8回 11章 自然に起こる変化の方向—熱力学の第二法則： ギブズ関数 9回 12章 イオンを含む平衡： 溶解度と溶解度積、酸と塩基 10回 12章 イオンを含む平衡： pHの応用 11回 12章 イオンを含む平衡： 緩衝作用、ルイスの酸および塩基 12回 13章 化学エネルギーと電気エネルギー—電気化学： 化学電池、起電力と平衡 13回 13章 化学エネルギーと電気エネルギー—電気化学： 電極電位の使い方、起電力の熱力学 14回 14章 化学変化の速さ： 反応の速度、速度式 15回 14章 化学変化の速さ： 速度と諸条件、触媒作用				
受講要件	前期に開講される化学Ⅰ（物理化学A）を履修していること。				
テキスト	物理化学の基礎、Atkins・Clugstone 著／千原・稲葉訳、東京化学同人、1984年、4-8079-0226-1				
参考書	講義中に参考図書リストのプリントを配付する。				
予習・復習について	授業毎に予習・復習をすること。また、各章毎に練習問題を与えるので、レポートとして提出すること。				
成績評価の方法・基準	レポートの内容（20%）と期末試験の得点（80%）で評価する。				
オフィスアワー	特に指定しない。				
担当教員からのメッセージ	質問はできるだけ授業中に。研究室での質問等も随時受け付ける。				

授業科目名	化学Ⅱ（物理化学B）				
担当教員名	村井 久雄	所属等	理学部		
		研究室	総合研究棟503室		
分担教員名					
クラス	理MP	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	火1・2
キーワード	状態変化、自由エネルギー、化学平衡、熱力学第一法則、熱力学第二法則、電気エネルギー、反応速度、イオン				
授業の目標	熱化学の基礎を学習し、自由エネルギー、平衡、電気化学、反応速度論を理解する。				
学習内容	化学の基礎としての化学熱力学（熱化学）を学習するため、状態変化とエネルギー、化学反応の平衡、熱化学第一法則、第二法則、イオンを含む平衡、化学エネルギーと電気エネルギー、化学反応の速さ、に関してテキストに沿って解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 溶液中のイオン 2. 状態変化に伴うエネルギー 熱化学 (1) 3. 状態変化に伴うエネルギー 熱化学 (2) 4. 状態変化に伴うエネルギー 熱化学 (3) 5. 化学反応の平衡 (1) 6. 化学反応の平衡 (2) 7. 自然におこる変化の方向 熱力学第2法則 (1) 8. 自然におこる変化の方向 熱力学第2法則 (2) 9. イオンを含む平衡 (1) 10. イオンを含む平衡 (2) 11. イオンを含む平衡 (3) 12. 化学エネルギーと電気エネルギー 電気化学 (1) 13. 化学エネルギーと電気エネルギー 電気化学 (2) 14. 化学変化の速さ (1) 15. 化学変化の速さ (2) 16. 期末考査 <p>授業の進捗状況により。授業計画の変更はありうる。</p>				
受講要件	化学Ⅰ（物理化学A）を履修していること				
テキスト	P. W. Atkins, M. J. Clugston 「物理化学の基礎」 千原・稲葉 訳（東京化学同人）				
参考書					
予習・復習について	前もって教科書の目を通しておくこと。復習として教科書の問題を解く。レポートあり				
成績評価の方法・基準	期末試験および課題の提出				
オフィスアワー	できるだけ電話かEメールにて、前もって連絡を取ってから訪問してください。				
担当教員からのメッセージ	内線4753、Eメールアドレスは講義時間にお知らせいたします。積極的に質問をしてください。また、研究室にもお立ち寄りください。				

授業科目名	哲学				
担当教員名	米原 優	所属等	教育学部		
		研究室	教育学部A棟511		
分担教員名					
クラス	学部共通2	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	火3・4
キーワード	哲学、論理学、論証、演繹、推測、クリティカル・シンキング				
授業の目標	本講義では、哲学の一分野であり論証を主題とする論理学を扱う。論証とは、ある主張を根拠に別の主張を提示することであり、論文やレポートを執筆する上で必須となる技法である。代表的な論証である「演繹」と「推測」の構造や、論証を行う上で陥りやすい誤りの学習をつうじて、妥当な論証の仕方を会得することが、本授業の目標である。				
学習内容	まず、論証とは何かを解説した上で、「演繹」と「推測」の違いを講義する。その上で、それぞれの論証において、犯されやすい誤りをいくつか紹介する。さらに、こうした講義内容を踏まえつつ、他者が行った論証を批判的に検討し、その問題点を的確に指摘するという訓練を行うことで、妥当な論証方法の習得を図る。				
授業計画	1回 論証とは何か 2回 論証と接続語 3回 論証の構造をつかむ 4回 演繹と推測はどう異なるのか 5回 演繹と推測をどうやって見分けるのか 6回 ある主張を否定するとはどういうことか：演繹の応用編① 7回 逆もまた真と言えるのか：演繹の応用編② 8回 「～ならば (if)」と「～の場合のみ (only if)」はどう違うのか：演繹の応用編③ 9回 高度な推論技術に触れる：演繹の応用編④ 10回 もっとマシな仮説はないのか：推測の応用編① 11回 それは本当に因果関係なのか：推測の応用編② 12回 妥当な価値評価をするにはどうすればいいのか：推測の応用編③ 13回 他者の論証を評価する①：適切な質問の仕方 14回 他者の論証を評価する②：適切な批判の仕方 15回 論理的な(?)クイズにチャレンジ！				
受講要件					
テキスト	毎回授業資料を配付する				
参考書	・野矢茂樹 『新版 論理トレーニング』、産業図書、2006年。 ・—— 『論理トレーニング101題』、産業図書、2001年。				
予習・復習について	前回の授業内容に関する小テストを毎回実施するので、復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	グループワークへの参加態度 (25%)、小テストの出来 (75%)				
オフィスアワー	随時 (事前にメールでアポイントメントを必ず取ること)				
担当教員からのメッセージ	毎回授業内でグループワークを行うので、積極的に取り組むこと。				

授業科目名	ことばと表現				
担当教員名	森本 隆子		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟520-2	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	火3・4
キーワード	近代、テキスト、アイデンティティ、恋愛、友情、家族、セクシュアリティ、ジェンダー				
授業の目標	<p>私たちが生きる<日本の近代>とは、どのような時空なのだろう？</p> <p>文芸作品を機軸に、明治の文豪・夏目漱石から村上春樹、ジブリ、ハチクロのサブカルチャーに至るまでが一貫して追究してきた恋愛・家族・アイデンティティ等の問題群について、様々な角度からの提起を試みたい。</p> <p>偉大なる人気作家たちは、規範に閉塞せず、逸脱を生きる。その変奏を大いに楽しみ、かつ議論したい。</p>				
学習内容	<p>人は生涯に、おおむね2つの家族を生きる、というのが、長く近代社会の約束事であった。</p> <p><血縁>によって結ばれた生家と、<愛>の絆によって育むもう1つの家族と。</p> <p>近代の文芸作品は、この2つの家族の過渡期を<青春(思春期)>と呼んで、恋愛、友情、性的成熟などの葛藤をヴィヴィッドに織り込んでゆく。</p> <p><幸福>の名の下に近代人が追究してきた夢と幻想をときほぐし、その先に見えてくるものを展望したい。</p> <p>「アイデンティティ」とは、何だったのだろう？</p>				
授業計画	<p>第1回 青春、恋愛、そして友情… —— 「近代小説」の発生</p> <p>第2～6回 夏目漱石『こころ』 —— 2つのちゃぶ台・恋愛結婚イデオロギーの登場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <私的空間>の発生 —— 純白の愛と性欲と ・ 男たちの絆 —— 三角形の欲望と帰結としての淋しい「明治の精神」 ・ 「心臓(ハート)の授受」と巡る血潮 —— 愛と友情の連続体 <p>第7、8回 「新しい女」の生成と流通 —— 夏目漱石 VS. 森鷗外</p> <p>第9、10回 小津安二郎『麦秋』と家族神話 —— 性・テキストの見えない中心</p> <p>第11、12回 村上春樹『ノルウェイの森』 —— 「まとも」であることの断念・社会からの逃走＝闘争</p> <p>第13回 サブカルの世界像 — 「ナウシカ」から「ポニョ」へ、国家の退場・女による救済？</p> <p>第14回 女性作家の時代 —— ばなの「夢のキッチン」と江国の「流しのした」</p> <p>第15回 現代文化の基底 —— ハチクロの古典性、「やおい」と「セカイ系」が展望するもの</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	夏目漱石『こころ』(ちくま文庫)、他は本文抜粋をコピーで。				
参考書	小森陽一『漱石を読みなおす』(ちくま新書)、藤本由香里『私の居場所はどこにあるの？』(朝日文庫)、斎藤環『戦闘美少女の精神分析』(ちくま文庫)ほか。教室にて提示します。				
予習・復習について	対象作品を、まずは自力で読み込んでみましょう。自分流の読みや印象と、授業で提供されるアングルおよび友人たちのコメントとのズレや異和を知ることで、思考力はグンと伸びます。				
成績評価の方法・基準	毎時のコメント・カード+最終レポートの総和				
オフィスアワー	水曜34限				
担当教員からのメッセージ	「作品」を「鑑賞」するのは、高校までの「国語」です。時代へ問いかけ、また時代の息吹を映し出す生き物としての「テキスト」を読み解く楽しさを味わいましょう。				

授業科目名	日本国憲法				
担当教員名	根本 猛	所属等	法務研究科		
		研究室	人文学部 A 棟 5 3 1		
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	火 3・4
キーワード	立憲主義、人権				
授業の目標	日本国憲法の全体像を理解する。				
学習内容	基礎的な解釈論を中心に解説する。現代的な憲法問題にも触れたい。				
授業計画	1 回 憲法って何？ 2 回 大日本帝国憲法と日本国憲法の生い立ち 3 回 国民主権と天皇制 4 回 平和主義 1 5 回 平和主義 2 6 回 人権って何？ 7 回 法の下の平等 8 回 外国人の人権 9 回 人身の自由 10 回 信教の自由と政教分離 11 回 表現の自由 12 回 職業選択の自由 13 回 生存権 14 回 教育を受ける権利 15 回 参政権				
受講要件	高校の現代社会が分かっていないと辛いかも・・・ またお互い不幸になるので興味がない方は受講しないようお願いします。				
テキスト	初宿正典他 『いちばんやさしい 憲法入門』 有斐閣				
参考書					
予習・復習について	授業には出席しましょう。出席は取りませんが、授業を聴かずに単位修得は難しいと思います。軽くで構いませんから教科書の該当箇所を読んで授業に臨むと理解しやすいです。それでも分からなかったら質問に来てください。				
成績評価の方法・基準	期末試験による				
オフィスアワー	時間が許せばいつでも対応します。無駄足になっては申し訳ないので、電話で(238-4274)在室を確かめて研究室にお出でくださることをお勧めします。				
担当教員からのメッセージ	大学生になったら新聞を読もう。				

授業科目名	法と社会				
担当教員名	橋本 誠一	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟609		
分担教員名					
クラス	学部共通2	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	火3・4
キーワード	法の支配、国際政治、歴史、理論				
授業の目標	「法の支配」概念をめぐる国際政治の状況を踏まえながら、その概念的意味を歴史的・理論的に考察する。そうした作業を通して、国際政治と「法の支配」の諸問題について考える上で必要な理論的基盤を獲得するのが本授業の目標である。				
学習内容	「法の支配」の歴史・理論・現状を学ぶ。				
授業計画	1回 はじめに 2回 「法の支配」の古典的起源 3回 「法の支配」の中世的淵源 4回 「法の支配」と自由主義 5回 ロック、モンテスキューなど 6回 保守主義者の警告 7回 急進左派の役割 8回 第1回小テスト 9回 「法の支配」の形式論 10回 「法の支配」の実質論 11回 「法の支配」をめぐる3つのテーマ 12回 「法の支配」の国際水準 13回 「法の支配」は普遍的善か？ 14回 補論－「法の支配」と法治国家論 15回 第2回小テスト				
受講要件	とくになし。				
テキスト	Brian Z. Tamanaha, <i>On the Rule of Law: History, Politics, Theory</i> , Cambridge University Press, 2004 (四本健二監訳／神戸大学大学院国際協力研究科四本ゼミ訳『「法の支配」をめぐる－歴史・政治・理論』現代人文社、2011年。ただし誤訳が多すぎる。)				
参考書	各講ごとの参考文献は、その都度紹介します。				
予習・復習について	小テストに合格するためには、ある程度の復習が必要です。				
成績評価の方法・基準	①小テストと②Enmaカードの合計点で成績を評価します。①小テストは《1回35点満点×2回＝70点満点》とし、穴埋め式と論述式の問題を出題します。なお、ノートや資料の持ち込みは「可」とします。②Enmaカードは《15回×2点満点＝30点満点》です。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	地域と文化				
担当教員名	原 知章	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文C棟206		
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	火3・4
キーワード	文化の多様性、文化の共通性、地域、文化人類学				
授業の目標	文化人類学の視点から、人間が育んできた地域文化の多様性と共通性について考える				
学習内容	<p>今から約20万年前にアフリカ大陸に現われたホモ・サピエンス＝人間は、その後、地球上のあらゆる地域に拡散してくなかで多様な文化を育んできた。この講義では、文化人類学の視点から、人間が育んできた地域文化の多様性について考える。</p> <p>文化人類学は、人間を「文化をもつ動物」として捉え、人間の文化の多様性と共通性を明らかにすることを通して、人間とは何かを問う学問である。グローバルかつ人類史的な視野をもつ学問である文化人類学では、それと同時に、個々の集団・社会の文化を「内側」から理解しようとするフィールドワークという方法を重視してきた。この講義では、このようにマクロな視点とミクロな視点の双方から複眼的に人間の文化にアプローチする文化人類学の視点から「地域」と「文化」の関係を捉え直す。</p>				
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 文化人類学とは 第3回 「文化」とは何か(1) 第4回 「文化」とは何か(2) 第5回 人類の進化と文化の多様化(1) 第6回 人類の進化と文化の多様化(2) 第7回 文化人類学の方法(1) 第8回 文化人類学の方法(2) 第9回 地域文化の多様性と重層性(1) 第10回 地域文化の多様性と重層性(2) 第11回 ハワイの歴史と文化(1) 第12回 ハワイの歴史と文化(2) 第13回 ハワイの歴史と文化(3) 第14回 ハワイの歴史と文化(4) 第15回 期末試験				
受講要件					
テキスト	授業時にパワーポイント資料を提示する				
参考書	授業時に紹介する				
予習・復習について	次回の授業までに行なうべき小課題を指示する。また、授業の冒頭に、前回の授業内容のポイントを発表してもらう。				
成績評価の方法・基準	小課題20%＋期末試験80% ほぼ毎回の授業で小課題に取り組んでもらう				
オフィスアワー	初回の授業時に連絡する				
担当教員からのメッセージ	教員が一方的に話すのではなく、皆さんに考えてもらう時間をある程度とるつもりです。グループに分かれてディスカッションをする場合もありますので、そのつもりで授業に臨んでください。				

授業科目名	数理の構造				
担当教員名	鈴木 信行		所属等	理学部	
			研究室	理学部 C 棟 601	
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	火 3・4
キーワード	いろいろな数、整数、論理的な証明、演繹的推論、微分・積分				
授業の目標	古典的な数学からの話題を通して、数理科学の一面に触れることを目的とする。また、数学を専攻としない学生の素養として、微分積分学や線形代数学の基礎事項にも簡単に触れる。				
学習内容	<p>日常の身近なところにある数学的なもの（数、図形、自然現象の数理など）を題材に、数理科学への橋渡しをしようと思う。また、その過程で現れる様々な論証や証明方法を考察し、数学的なものの考え方や論理的な推論を議論する。</p> <p>高校の数 I 数 A 程度の知識から出発し、諸君とともに、「大学レベルの数学」の見物に出かけたいと思う。</p>				
授業計画	<p>以下の各項目を解説していく予定であるが、学生諸君の理解の状況をみて適宜調節する。また、学生諸君の希望があれば、内容の一部変更の可能性もある。学生諸君と対話型形式をとり、議論に参加を求める場合もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いろいろな数 2. 整数の話 3. 論証の構造（数理論理学入門） 4. 微分と積分（微分積分学の基本定理） 5. 線形代数学の基礎 				
受講要件	なし（高校の数 I 数 A 程度の知識は仮定しますが、復習しながら進めます。）				
テキスト	なし				
参考書	必要に応じて講義中に指示します。				
予習・復習について	予習復習は古来より効果的な学習法です。この講義では、特に復習に力を入れてください。自宅での自発的かつ積極的な学習なくしては、身に付くものも少ないですよ。				
成績評価の方法・基準	試験の得点による。				
オフィスアワー	最初の講義で伝える。出張・会議によって対応できない場合もあります。アポイントをとってけると確実です。				
担当教員からのメッセージ	<p>数学は「積み上げ」が大事といわれます。しかしこの講義では、再チャレンジが可能なように、いくつかのトピックスを数回ずつ話します。一度解らなくなっても諦めずに出席してください。予習復習は古来より効果的な学習法です。諸君の自宅での自発的かつ積極的な学習、特に復習を前提として講義します。大学の講義ですから、ただ出席して座っているだけで解るようなレベルの内容は講義しません。高校数学の復習ではなく、大学レベルの話をしてします。「定理や公式を当てはめて練習問題を解く」という受験勉強のようなことは期待しないでください。</p>				

授業科目名	自然と物理				
担当教員名	山崎 昌一	所属等	自然科学系教育部		
		研究室	理学部A棟410		
分担教員名					
クラス	学部共通2	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	火3・4
キーワード	生物物理学、統計熱力学、タンパク質、生体膜、生体の電気現象				
授業の目標	生物が持つ”分子機械”や”電子回路”、および”分子システムや情報システム”は、人間が人工的に作るそれらのもより精巧で高級である。また生体分子やその集団は、非周期的な構造を持ち、水の中で弱い相互作用により構造を形成するので、複雑な構造や物性を示す。このような系の特性の研究には物理的なアプローチ（生物物理学）が重要であり、この授業ではその入門を学ぶ。				
学習内容	まず、生体分子やそのシステムおよび生体の機能システムのような”複雑系”の研究に重要な役割をはたす統計熱力学の初歩を学び、現象論的思考法になれる。次に、タンパク質や生体膜の特性と、神経や細胞での情報伝達に重要な生体電気現象の基礎を学ぶ。				
授業計画	1回 Chap.1 生物物理学序論 2回 Chap.2 統計熱力学入門、2-1 生命の階層構造、ミクロとマクロの関係 3回 2-2 熱力学第2法則とエントロピー、格子模型、拡散 4回 2-3 静電場（クーロン力、電場、電位）と膜電位（拡散電位） 5回 2-4 熱力学第1法則（熱、仕事、内部エネルギー）、熱とエントロピーの関係 6回 2-5 エンジンや熱機関の効率、カルノーサイクル、エネルギーの質 7回 2-6 自由エネルギーと化学ポテンシャル、浸透圧 8回 2-7 生物の”分子機械”のエネルギー源：電気化学ポテンシャル 9回 Chap.3 タンパク質と生体膜、3-1 タンパク質の構造、フォールディングとアンフォールディング 10回 3-2 タンパク質の機能、(1) ヘモグロビン、アロステリック相互作用 11回 (2) 筋肉、イオンポンプ、ATPの加水分解のエネルギー 12回 3-3 生体膜の構造と形成機構、疎水性相互作用、生体膜の流動性と分子の拡散 13回 3-4 生体膜の膜間相互作用；会合と膜融合と膜分裂、ウイルスの細胞内侵入と形成 14回 Chap.4 生体の電気現象、4-1 生体膜の等価電気回路、活動電位 15回 4-2 1個のイオンチャネルタンパク質に流れる電流の特性、イオンチャネルの機能と構造				
受講要件					
テキスト					
参考書	P.W.Atkins（米沢他訳）『エントロピーと秩序』（日経サイエンス） C.Kittel（山下他訳）『熱物理学（第2版）』（丸善） シリーズ・ニューバイオフィジックスおよび同シリーズII（共立出版）				
予習・復習について	1回の講義で、何か一つでもよいから、興味をもったり、感動したり、不思議に思ったり、疑問を感じたりしよう。講義のあとで、そのことについて考えたり、本を読んで調べたりしよう。				
成績評価の方法・基準	レポートの提出、講義の内容の理解度				
オフィスアワー	授業のときに説明				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	日本国憲法				
担当教員名	小谷 順子	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 6 1 2		
分担教員名					
クラス	教（教員養成課程 1）	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	水 1・2
キーワード	日本国憲法、憲法、国家、法の支配、基本的人権、権利、自由、立憲主義				
授業の目標	受講生が、憲法及び立憲主義に関する基礎知識を習得したうえで、とくに人権分野の重要論点及び時事問題に関する憲法学上の問題点を理解することを目標とする。				
学習内容	憲法の歴史的背景及び意義について確認した上で、基本的人権の総論（享有主体性、私人間への憲法の適用）、基本的人権の各論（精神的自由、私生活の自由）、裁判員制度をめぐる憲法学上の論点を、判例を中心に解説する。				
授業計画	1 回 憲法と憲法判例（憲法の意味と法源） 2 回 憲法と憲法判例（憲法の意味と法源） 3 回 基本権と権利保障（総論） 4 回 基本権と権利保障（総論：基本権の享有主体） 5 回 基本権と権利保障（総論：私人間の権利保障） 6 回 基本権と権利保障（包括的権利：幸福追求権） 7 回 基本権と権利保障（平等原則：差別的取扱） 8 回 基本権と権利保障（平等原則：私生活の平等） 9 回 基本権と権利保障（精神的自由：思想良心の自由） 10 回 基本権と権利保障（精神的自由：信教の自由） 11 回 基本権と権利保障（精神的自由：政教分離原則） 12 回 基本権と権利保障（精神的自由：表現の自由） 13 回 基本権と権利保障（精神的自由：表現の自由） 14 回 裁判員制度と憲法 15 回 まとめ				
受講要件					
テキスト	大石眞・大沢秀介編『判例憲法』（有斐閣、2009 年）				
参考書	必要があれば授業中に指示する。				
予習・復習について	予習： 予め教科書の該当箇所を読む。 復習： 毎回の講義終了後、各自で授業支援システム（学務情報システム上）にログオンし、授業内容を再確認するための小テストを受験する。				
成績評価の方法・基準	最終成績は、期末試験と平常点（授業支援システムの小テスト）に基づいて算出する。なお、最終成績に占める期末試験の重みは 60-80%、平常点は 20-40%程度 の予定である。				
オフィスアワー	毎週水曜 1 コマ目の授業終了後。その他、電子メールにて、いつでも質問可。				
担当教員からのメッセージ	高校の「現代社会」又は「政治経済」の教科書の日本国憲法や民主主義に関する説明部分を熟読して理解したうえで履修することが望ましい。また、日常的に新聞やニュースに目を通して、社会・政治の動きを把握しておくこと。				

授業科目名	心理学				
担当教員名	橋本 剛	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟411		
分担教員名					
クラス	学部共通3	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	水1・2
キーワード	心理学、認知、発達、臨床、社会、論理的思考力、ソーシャルスキル				
授業の目標	大学生の基礎的素養としての心理学を習得する。				
学習内容	本講義では、心理学の諸領域にわたる基礎的知見を概観することによって、現代心理学の全体像を的確に理解するとともに、大学生として、そして現代社会を生きる一個人としての基礎的素養である論理的思考力（クリティカル・シンキング）および対人関係能力（ソーシャル・スキル）の向上を目指す。				
授業計画	1回 オリエンテーション：心理学とは何か（以下、テキストの関連部） 2回 心のとらえ方：心理学の方法、パーソナリティと知能（第1章第1節） 3回 心の形成プロセス：学習、動機、感情（第1章第1節） 4回 心の育ち方：発達心理学（第1章第2節、第5章第1節） 5回 自己を知る心理学：自己概念と自尊心（第2章第1節） 6回 親しさの心理学：対人魅力と親密化過程（第2章第2節） 7回 自己を伝える心理学：自己呈示と自己開示（第2章第3節） 8回 恋愛の心理学：恋愛とセクシュアリティ（第2章第4節） 9回 ストレスの心理学：ストレスとウェル・ビーイング（第3章第1節） 10回 問題解決の心理学：認知、思考、原因帰属（第3章第2節） 11回 支え合いの心理学：サポートと援助、心理療法とカウンセリング（第3章第3節） 12回 情報処理の心理学：感覚、知覚、記憶、社会的認知（第4章第1節） 13回 集団の心理学：グループ・ダイナミクスとグループ・プロセス（第4章第2節） 14回 人を動かす心理学：態度と説得（第1章第3節、第4章第3節） 15回 情報化と国際化の心理学：社会と文化（第5章第2節、第5章第3節）				
受講要件	指定された学部・学年であること。				
テキスト	橋本 剛『大学生のためのソーシャルスキル』サイエンス社（1650円＋税）				
参考書	サブテキストとして、長谷川寿一他（著）『はじめて出会う心理学 改訂版』有斐閣（2000円＋税）を推奨する。さらに授業時に参考文献を随時紹介する。				
予習・復習について	文献等を活用して積極的に予習・復習に取り組むこと。授業内容と自身の生活を照らし合わせながら、新たな視点や問題意識を見いだすような開拓精神をもって授業に臨むこと。				
成績評価の方法・基準	試験成績 85%、平常点（各回授業の小レポート等）15%。試験期間中に筆記試験（テキスト、レジュメ、ノートいずれも持ち込み不可）を実施する予定。平常点が一定基準を下回った場合は試験成績を問わず単位を認めない場合がある。詳細については初回に説明する。				
オフィスアワー	火曜日3・4限を予定。				
担当教員からのメッセージ	難易度A。受講希望者は初回のオリエンテーションに必ず出席すること。				

授業科目名	数学の世界				
担当教員名	大田 春外		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 402	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	水 1・2
キーワード	微分、積分、関数、極限				
授業の目標	高等学校で数学 II は学習したが、数学 III の授業を受けていない（または、数学 III を受けたが落ちこぼれてしまった）学生を対象に、微分と積分の講義をします。				
学習内容	高等学校数学 III の微分積分+アルファの内容。具体的には、1 変数関数（特に、分数関数、指数関数、対数関数、三角関数、無理関数）の微分、平均値の定理、置換積分と部分積分、およびそれらの応用が中心。授業時間中だけでは十分な問題演習ができないので、できる限り毎週予習・復習用の問題を出す予定です。				
授業計画	1 回 関数とグラフ 2 回 微分と微分公式 3 回 合成関数の微分法 4 回 三角関数の微分 5 回 指数関数、対数関数の微分 6 回 対数微分法 7 回 高次導関数 8 回 平均値の定理と不定形の極限 9 回 マクローリンの定理 10 回 ☆中間テスト 11 回 不定積分と定積分 12 回 不定積分と定積分 13 回 置換積分 14 回 部分積分 15 回 定積分の応用				
受講要件	教育学部数学教育専修の学生は、受講出来ません。 高等学校の数学 II の知識を必要とします。				
テキスト	授業の最初に紹介する。				
参考書	授業の最初に紹介する。				
予習・復習について	数学では復習は特に大切です。復習しやすいように、毎週、演習問題を出しますので、必ず次週までに解答して下さい。				
成績評価の方法・基準	中間テスト 30% + 期末試験 70%、授業への取り組み状況を加味して評価します。				
オフィスアワー	授業の最初に知らせる。				
担当教員からのメッセージ	この授業では、高等学校の数学 II の内容を使います。数学 II を学習していない学生は、授業開始までに各自で勉強しておいて下さい。 この授業だけではありませんが、欠席しないことが大切。遅刻をしないように出席しよう。				

授業科目名	化学の世界				
担当教員名	瓜谷 眞裕	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A 棟 312 室		
分担教員名	小林 健二				
クラス	学部共通 3	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	水 1・2
キーワード					
授業の目標	我々が生活していく上で大切な化学の知識を学ぶ。				
学習内容	我々の身の周りにあるもの（電池・プラスチック・薬など）、日常生活で見聞きする現象（触媒作用・大気汚染など）を化学の視点から見直してみることにより、化学の基礎を学ぶ。				
授業計画	1 回 ガイダンス：化学を学ぶ意義について 2 回 10 講：触媒と反応 3 回 13 講：エネルギーと化学 4 回 15 講：セッケンと洗剤 5 回 16 講：香りの分子 6 回 18 講：味と自然界の右左 7 回 20 講：ゴムとナイロン 8 回 21 講：プラスチックと生活 9 回 22 講：栄養とアミノ酸 10 回 23 講：薬と作用 11 回 24 講：ビタミンと病気 12 回 25 講：ホルモンと生体情報 13 回 17 講：視覚と色素 14 回 19 講：農薬とフェロモン 15 回 12 講：地球環境と化学				
受講要件	高校で化学 I か理科総合 A を履修していることを前提に授業を行う。				
テキスト	芝 哲夫 著 「化学物語 2 5 講 生きるために大切な化学の知識」 化学同人 定価 1890 円				
参考書					
予習・復習について	1 回の授業につき、予習・復習それぞれ週 1 時間程度テキストを読むこと。				
成績評価の方法・基準	出席状況とレポート による。				
オフィスアワー	特に設けません。 空いているときはいつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ	化学を身近な学問として感じてもらえるとうれしいです。				

授業科目名	生物と環境				
担当教員名	田上 陽介		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 334 研究室	
分担教員名					
クラス	学部共通 3	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	水 1・2
キーワード	生物、環境、分類、進化、細胞、遺伝、生理、生態				
授業の目標	生物に関する基礎的知識を養い、生物と環境との関わり合いについて学びます。配布する資料を元に、授業を進めていきます。				
学習内容	昆虫を中心とした生物学（細胞学、遺伝学、分類学、生理学、生態学）について学び、さらに生物と環境との関わり合いについて様々な実例を元に学習していきます。				
授業計画	1 回 イントロダクション 2 回 生物の分類 3 回 生物の進化 1 4 回 生物の進化 2 5 回 細胞の成り立ち 1 6 回 個体の成り立ち 7 回 生物の発生 8 回 生物の生態 1 9 回 生物の生態 2 10 回 生物の機能 11 回 生物の遺伝 12 回 生物と環境 1 13 回 生物と環境 2 14 回 生物と環境 3 15 回 まとめ				
受講要件	特になし。				
テキスト	適宜資料を配付する。				
参考書	特になし。適宜授業で紹介する。				
予習・復習について	適宜配付資料等を用いて、予習・復習を行ってください。				
成績評価の方法・基準	筆記試験と出席回数で評価します。				
オフィスアワー	昼休み等に農学部の A334 に直接来るか、E-mail 等で連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	授業で学ぶとともに、野外でも生き物とそれを取り巻く環境に目を向けて見るようにして下さい。				

授業科目名	地球科学				
担当教員名	牛山 素行	所属等	防災総合センター		
		研究室	防災総合センター		
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	水 1・2
キーワード	自然災害、防災、地形図、地形、データ				
授業の目標	<p>【副題】防災に役立てるための地域の自然の見方</p> <p>我々は自然が作り出した地形，気候などの環境下で生活している．自然そのものが作り出した姿ばかりではなく，人間社会の姿も自然に様々な作用によって形成されていることが少なくない．自然災害は自然が人間社会にもたらす激しい作用の一つであり，防災を考える上ではそれぞれの地域の自然・社会特性を観察，理解することが重要である．本講義では，このような観察・理解に役立てるような基礎知識，情報の読み方について論ずる．</p>				
学習内容	<p>(1)自然災害の基本的な性質を理解する．(2)自然災害に関わる様々な量的，質的データを読み取れるようにする．(3)それらのデータを表現するグラフや図表について理解する．</p>				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・災害と防災の基礎 ・最近の自然災害の現地調査研究から ・自然に関わるデータとその表現 標準偏差，誤差，精度，内挿と外挿， ・地図から自然・社会を読む 分布図，等値線図，地形図の基礎，地形断面図，旧版地形図の利用 ・地形の基礎 地形営力，地形分類，河川の作用，平野と台地の形成，地形と災害 ・「降水」を読む 雨の降り方，降水量とその測り方，雨の激しさ，日本の季節変化，降水量に関わる情報 				
受講要件	講義中に，電卓(√の計算ができるもの)，色鉛筆(赤青の 2 色でよい)，定規が必要となる場合がある．				
テキスト	特に指定しない．講義中に適宜資料を配付する．				
参考書	特に指定しない．講義中に文献を紹介する場合がある．				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準					
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	教育の原理				
担当教員名	菅野 文彦	所属等	教育学部		
		研究室	教育学部 I 棟 103		
分担教員名					
クラス	教 (D組)	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	水3・4
キーワード	教育理念、教育史、教育思想				
授業の目標	この授業科目は、学校教員の免許状取得希望者を対象とし、教育職員免許法に定める「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に該当する教職科目として位置づけられるものです。教育に関する原理的・歴史的なアプローチを中心としつつ、教育（学）に関する基本的な理解や認識を得ることを目標としています。				
学習内容	まず、人間の「発達」との関連で「教育」が持つ意味をおさえることからはじめ、教育の目的・理念に関する原理と、教育思想の歴史について概説します。さらに、学校教育制度の成立と展開、教育方法（および内容）の歴史的変遷を経て、現代社会における教育のあり方を考えていきます。講義形式と中心とした授業になる予定です。				
授業計画	第1回. 導入 第2回. 1. 人間形成と教育の意味 (1) 動物と人間 (2) 「発達」とは？ 第3回. 1. 人間形成と教育の意味 (3) 「教育」とは？ 第4回. 1. 人間形成と教育の意味 (4) 「発達」概念の再検討と「教育」の逆機能 第5回. 2. 教育の目的・理念と思想史 (1) 教育目的とは？ 第6回. 2. 教育の目的・理念と思想史 (2) 教育目的の二面性 第7回. 2. 教育の目的・理念と思想史 (3) 教育思想の歴史的展開 第8回. 2. 教育の目的・理念と思想史 (3) 教育思想の歴史的展開 (続) 第9回. 3. 学校教育の歴史的展開 (1) 学校の出現と制度化 第10回. 3. 学校教育の歴史的展開 (2) 教育方法の歴史的変遷 第11回. 4. 現代社会と教育の目的・目標 (1) 戦後日本の教育理念 第12回. 4. 現代社会と教育の目的・目標 (2) 社会の変化と教育の目的・目標 第13回. 4. 現代社会と教育の目的・目標 (3) 問われる教育の足場 第14回. 予備日 第15回. 試験				
受講要件	教育学部のD組と指定された人達のための科目です。				
テキスト	資料はプリントして配布します。				
参考書	授業のなかで適宜、紹介します。				
予習・復習について	予習・復習の仕方については、授業のなかで話したり相談に応じたりします。				
成績評価の方法・基準	試験およびレポートその他の提出物から教育（学）に関する基本的な理解や認識がどの程度得られたかを把握し、出欠状況ほか授業への参加度も加味して評価します。知識の習得とともに、自分なりの思考を大切にしましょう。				
オフィスアワー	質問等はなるべく毎回の授業終了後に受けたいと思いますが、その他は適宜、連絡のうえ。				
担当教員からのメッセージ	授業科目の性格上、「昔話」（＝歴史の話題）が多くなりますが、各自の思考や理念形成のための素材となることを願っています。				

授業科目名	発達と学習				
担当教員名	小林 敬一	所属等	教育学部		
		研究室	教育学部K棟401		
分担教員名					
クラス	教 (B組)	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	水3・4
キーワード	発達、学習、心理学、学校教員				
授業の目標	学校教員に必要な、心理学的な観点からの発達と学習に関する知識や考え方を学ぶ。				
学習内容	1.学習に関する心理学的な考え方と知識。 2.発達に関する心理学的な考え方と知識。				
授業計画	1.ガイダンス、記憶 2.知識の役割 3.誤りと失敗の意味 4.動機付け I 5.動機付け II 6.学習の環境 7.教育と文化 8.発達における遺伝と環境 9.母子関係と発達 10.発達におけるパラドクス 11.発達課題 12.社会性の発達 13.子どもの思考 14.発達の環境 15.障害の理解 16.試験				
受講要件					
テキスト	テキストは用いない。				
参考書	授業の中で必要に応じて紹介する。				
予習・復習について	復習は必要、予習は不要。				
成績評価の方法・基準	1.授業への参加（単なる出席ではないので注意）40% 2.試験の成績 60%				
オフィスアワー	適宜、ただし要予約(238-4709)				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	教育の原理				
担当教員名	藤井 基貴	所属等	教育学部		
		研究室	教育学部 I 棟 105		
分担教員名					
クラス	教 (C組)	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	水3・4
キーワード	学力問題、ゆとり教育、教育哲学、教育史、世界の教育制度				
授業の目標	教育学の基本的な考え方を身につけてもらうことを主な目的とする。教育に関する様々なテーマを取り扱い、それらを議論・検討する。受講者がみずからの教育観をより論理的・説得的なものへと発展させていく手がかりとなるような講義としたい。				
学習内容	教育学の基礎知識（教育哲学、教育史など）について解説した上で、現代社会における学校教育の課題について検討します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションー講義の説明・課題設定ー 2. 教育哲学①ー教育とは何かー 3. 教育哲学②ー教育の必要性ー 4. 教育史①ー古代から近代ー 5. 教育史②ー近代から現代ー 6. 教育社会学①ー戦後日本の教育改革ー 7. 教育社会学②ー近代教育への批判ー 8. 教育心理学①ー学習への動機付けー 9. 教育心理学②ー学校環境学ー 10. 現代の教育問題①ー教師教育ー 11. 現代の教育問題②ーエリート教育ー 12. 比較国際教育学①ーアジアの教育ー 13. 比較国際教育学②ーヨーロッパの教育ー 14. まとめ①ー公教育の光と陰ー 15. まとめ②ー教育 ESDー 16. 学期末試験 				
受講要件	なし				
テキスト	未定（初回講義において指定します）				
参考書	初回講義において参考文献一覧を配布します。				
予習・復習について	予習・復習については授業時間内に適宜指示します。				
成績評価の方法・基準	授業レポート 20% 中間レポート 20% 定期試験 60%				
オフィスアワー	木曜 5・6 限（事前にアポイントをとってもらえれば、質問などに答える時間を調整します）				
担当教員からのメッセージ	初回の授業において配布する授業案内を熟読し、計画的に学習を進めてください。				

授業科目名	ドイツ語 I - d				
担当教員名	エゲンベルグ・トーマス		所属等	大学教育センター	
			研究室	人文学部A棟 225	
分担教員名					
クラス	人1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	水5・6
キーワード	実践的なドイツ語、中央ヨーロッパの社会や文化、ドイツ文学の読書にも挑戦！				
授業の目標	日常生活に最低必要なドイツ語コミュニケーション能力や読解力を身につけること。学習者がドイツ・スイス・オーストリアにより一属興味を持つようになることを願っています。				
学習内容	この、少し変わったワークショップ形式の授業では4～6人グループを作り、落ち着ける雰囲気の中で聞く、読む、話す、書く技能をバランスよく学び、語彙や文法は自分で推測したり調べたり発見したりすることで主体的に学習に取り組むことができるように工夫します。初めから、易しい文学作品（ポエム、短編、寸劇など）の読書にも挑戦しましょう！ 補足： 無論、教師（ファシリテーター）はグループ作業を支援しますが、学習の責任は学生が自ら担うこととなります。				
授業計画	<p>主な内容（前期・後期あわせて）：</p> <p>S Sprachhandlung（言語行動） L Landeskunde（ドイツ事情） Kennenlernen（人と知り合う） S 様々な挨拶、スモールトーク L 相手によって話し方が変わる、ドイツ語と日本語、ヨーロッパのドイツ語圏 Mein Tag（私の一日） S 時間表現、日常の行動、用事や希望、昨日（過去）のことを言う L 色々な人の一日 Essen und Trinken（食事） S 買い物する、レストランで注文する・支払う L ドイツの食卓、食習慣 Wohnen, Lifestyle（住まい、ライフスタイル） S 家や部屋の様子を説明する L 学生の住居シェアリング、建築、国際社会 Familie, Freundschaft, Liebe（家族、友人、恋愛） S 日常会話、告白、明日（未来）のことを言う L 家族暮らし、恋愛・婚姻の形態 Schule und Studium（学校、大学） S 議論・反論 L 個人を重んじ、個性を育つ教育 Freizeit und Arbeit（余暇、仕事） S 一週間の予定、約束する、お願い・命令、もしも（仮定）のことを言う L 自由時間の過ごし方、環境意識、就職活動、ワーク・ライフ・バランス Reisen（旅行） S 旅行の計画をたてる、予約する、旅先での色々な話 L ヨーロッパ、異文化経験 その他（様々なゲーム、ビデオ、スライド、歌）</p>				
受講要件	なし				
テキスト	様々です。				
参考書	この授業に欠かせない学習ツール： - Seino Tomoaki: Meine Deutschstunde、朝日出版社、ISBN 978-4-255-25319-0 - 独和辞書（4000円程度のペーパー辞書はお勧めです。電子辞書はお勧めしません。）				
予習・復習について	各授業にあたって1時間半程度の宿題（復習・予習・下調べなど）を出します。				
成績評価の方法・基準	授業中のアクティビティ・課題（あわせて20%）、小テスト（30%）、Showtimeテスト（20%）、期末テスト（30%）。 ただし、3回以上欠席する場合は単位不可（2回の遅刻は1回の欠席扱い）。				
オフィスアワー	月・水曜日の昼休み 授業の質問は電子メールでも結構です： jtegg@ipc.shizuoka.ac.jp				

担当教員か
らのメッセ
ージ

授業科目名	スペイン語 I - d				
担当教員名	大原 志麻	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 522		
分担教員名					
クラス	人 2	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	水 5・6
キーワード	スペイン語、ラテン・アメリカ、比較文化、グローバリゼーション				
授業の目標	スペイン語の基礎文法を学び、授業中のオーラル・プラクティスを通じて、実践力を身につけること。語学を通じて、国際理解を深めること。また資格試験を目指す。				
学習内容	前期の I-a I-b で学んだ文法内容を踏まえて、点過去、線過去、未来形を学び、スペイン語文法を幅広く理解する。				
授業計画	スペイン語 I は、a,b,c,d の必修 4 科目で、プリントを使用し、スペイン語文法の基礎を学びます。これらの 4 科目は、単位上は別個の科目ですが、週 2 回、通年で、全ての授業が連携して進められていきます。この授業では、文法や新しい事項の説明と練習問題、また幅広い会話練習を中心に進めます。				
受講要件	一年生についてはクラス指定あり。				
テキスト	文法事項や練習問題をまとめてプリントを配布する。				
参考書	『西和中辞典』小学館、1990 年。もしくはその他のスペイン語の辞書を必ず授業に持ってくること。				
予習・復習について	初修外国語は独習が難しいので、必ず授業に出席すること。また単語や動詞の活用形の暗記など、授業時間外の予習復習が不可欠です。				
成績評価の方法・基準	平常点（出席・授業態度）、小テスト、期末テストなどから総合的に判断します。				
オフィスアワー	月曜日 11・12 限に大原研究室にて。				
担当教員からのメッセージ	スペイン語は母語としている数が世界一位、また国際的なコミュニケーションとしては第二位の有用性が高い言語です。国際競争力が問われることが当たり前となった昨今、語学力やそれを通じての国際理解は必要なスキルです。この授業が広大で変化に富むスペイン語世界への入り口になってくれることを願っています。				

授業科目名	数学概論B				
担当教員名	保坂 哲也	所属等	理学部		
		研究室	理学部C棟 606 室		
分担教員名					
クラス	農 2	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	水 5・6
キーワード	行列、連立一次方程式、行列式				
授業の目標	数学を通して、論理的、分析的な思考を行う能力を身につける。行列の演算、行列式の計算および連立一次方程式の解法の修得を目標とする。				
学習内容	比例定数の高次元化である行列や、拡大率の一般化である行列式を導入し、その性質を調べ、計算する。また、行列の基本変形を利用して連立一次方程式を解く。				
授業計画	<p>この授業は進度別クラス編制が行われる。担当教員は、久村裕憲、依岡 輝幸、横山美佐子の三人で行う。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行列とその演算 <ul style="list-style-type: none"> § 1 ベクトル § 2 行列 § 3 行列の乗法 § 4 行列の除法 2. 行列の基本変形 <ul style="list-style-type: none"> § 5 行列の基本変形 § 6 ベクトルの一次独立性 § 7 行列の階数 § 8 連立一次方程式 § 9 逆行列の計算 3. 行列式 <ul style="list-style-type: none"> § 10 面積・体積と行列式 § 11 行列式の基本性質 § 12 積の行列式 § 13 逆行列の公式・クラメル公式 				
受講要件	なし				
テキスト	小寺平治著：「テキスト 線形代数」（共立出版）ISBN: 978-4-320-01710-8				
参考書	三宅敏恒著：「入門線形代数」（培風館）ISBN: 4-563-00216-X				
予習・復習について	週に3時間以上の予習・復習を要する。教科書や参考書で予習、授業ノートや教科書で復習すること。自主的に練習問題を解くこと。理解できないところは、できるだけ早く質問に来て理解すること。				
成績評価の方法・基準	出席などの平常点および試験の結果を総合して行う。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	毎回、必ず復習をして次回の授業に臨んでください。				

授業科目名	生物学Ⅱ（基礎B）				
担当教員名	丑丸 敬史	所属等	理学部		
		研究室	総合研究棟 702		
分担教員名					
クラス	理MP	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	木 1・2
キーワード	ヒトゲノム、遺伝子治療、性淘汰、癌とタバコ、組換え植物、クローン、遺伝子と寿命				
授業の目標	ニュースでとりあげられる生命科学の進展に関して十分な理解が得られるようにする。				
学習内容	基本的な生物のしくみを理解した上で、生物学の進展とそれにより影響を受ける社会の問題を理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに（生命科学は面白い） 2. 遺伝子、染色体、ゲノムとは 3. ヒトのこんな行動まで遺伝子で決定されている 4. 男と女（遺伝子が違えば行動も違う） 5. ヒトゲノムが決定されると社会は、個人はどう影響を受けるか 6. 遺伝子組換え植物は必要なのか、本当に危険なのか 7. クローン動物はなぜ必要か？ 8. クローンと臓器移植 9. 癌とタバコ 10. ヒトはなぜ老化して死ぬのか 11. 現代科学で寿命をのばせるか 				
受講要件	生物学Ⅰを受講していることが望ましい。				
テキスト	『とことんやさしい バイオとゲノムの本』 粥川準二著、B&T ブックス				
参考書	<p>参考書『科学でわかる男と女の心と脳 男はなぜ若い子が好きか？女はなぜ金持ちが好きか？』ソフトバンククリエイティブ 麻生一枝</p> <p>それと適宜配布するプリントで補う。</p>				
予習・復習について	予習・復習としてテキストおよびプリントをよく読んでおく。				
成績評価の方法・基準	出席（毎回出席代わりに小テストを行う）、期末テスト、レポート。				
オフィスアワー	特に定めないが、午後が比較的時間がとりやすいと思います。来る前に連絡をいただければ助かります。				
担当教員からのメッセージ	質問を活発にして欲しい。				

授業科目名	物理学概論B				
担当教員名	佐藤 信一		所属等	理学部	
			研究室	共通教育D棟 203	
分担教員名					
クラス	農 1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	木 1・2
キーワード	電荷と電場、ガウスの法則、電流と磁場、アンペールの法則、電磁誘導、電磁場				
授業の目標	電磁気学の基礎を理解する。				
学習内容	現代社会の発展は電氣的と磁氣的な作用を用いた技術なくしてありえません。物理学、化学的な現象だけでなく生物学的な現象にも電気、磁氣的作用を応用した技術が用いられています。この授業では、電気とは何か、磁気とは何かという基礎的事項から始めて、電気と磁気が密接に相互作用しており、それが電磁気学として統一的に理解できることを学びます。				
授業計画	1 回 電荷と電荷保存則、クーロンの法則 2 回 電場、ガウスの法則 3 回 電位 4 回 キャパシター、誘電体 5 回 電流と起電力 6 回 オームの法則、電気抵抗の接続 7 回 C R回路 8 回 磁石と磁場 9 回 電流のつくる磁場 10 回 電流に働く磁気力 11 回 荷電粒子に働く力 12 回 磁性体があるときの磁場 13 回 電磁誘導 14 回 相互誘導と自己誘導、交流 15 回 マクスウェル方程式と電磁波				
受講要件	特になし。				
テキスト	原康夫著 「基礎物理学」 (学術図書出版)				
参考書	必要に応じて授業で紹介する。				
予習・復習について	予習と復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	レポートまたは中間テスト、および期末試験により評価				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	数学Ⅲ（微分積分B）				
担当教員名	田中 直樹		所属等	理学部	
			研究室	理学部 C 棟 602	
分担教員名					
クラス	理PCBG3	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	木3・4
キーワード	偏微分、重積分、極値、陰関数、級数				
授業の目標	高等学校の数学Ⅰ,ⅡBまで習得している学生（クラス3）と、高等学校の数学Ⅲ,Cまで習得している学生（クラス1、2）に分けて、3クラスで講義を行います。 「数学Ⅰ（微分積分A）」に引き続き、応用面で重要な多変数の関数の微分および積分を学び、計算とその応用について身につけることを目標とします。				
学習内容	多変数の関数の偏微分、重積分を学びますが、より応用の面を考えた数学を学びます。応用として多変数関数の極値問題と平面、空間図形の面積と体積を求めます。ノートと筆記用具を用意しておいて進めることが数学を学ぶための手段です。またレポートや演習で講義の内容を確かめます。				
授業計画	<p>数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、各々3クラスに分けて講義をします。前期の数学Ⅰの第1回講義に試験を行い、クラスを決定します。試験を必ず受けて下さい。再履修の受講生は前年度までのクラス分けに従って受講してください。3クラスの担当教員は、</p> <p>クラス1： 数学Ⅰ 清水教員－数学Ⅱ 久村教員－数学Ⅲ 清水教員 クラス2： 数学Ⅰ 奥村教員－数学Ⅱ 千葉教員－数学Ⅲ 奥村教員 クラス3： 数学Ⅰ 板津教員－数学Ⅱ 保坂教員－数学Ⅲ 田中（直）教員</p> <ol style="list-style-type: none"> 2変数の関数の微分 2変数関数の極限と連続、偏導関数、合成関数の偏微分、高階偏導関数 2変数の関数の微分の応用 極値、陰関数、条件付極値 2変数の関数の積分 重積分、累次積分法、ヤコビ行列式、重積分の変数変換、広義の重積分 2変数の関数の積分の応用 体積、曲面積 級数 数列と極限、級数の和と収束、優級数定理、マクローリン級数展開、整級数 				
受講要件					
テキスト	水田義弘 著「入門微分積分」（サイエンス社）， ISBN 4-7819-0822-5, ISBN 978-4-7819-0822-9				
参考書	越 昭三 監修,高橋泰嗣,加藤幹雄 著「微分積分概論」サイエンス社, ISBN-10: 478190873X, ISBN-13: 978-4781908731				
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。数学の問題に取り組むことが重要です。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、受講態度・レポートを加えて評価します。 評価は試験では論述的な解答が求められます。				
オフィスアワー	講義の際に、各教員より指示があります。				
担当教員からのメッセージ	復習は必要です。テキストや参考書の演習問題を解くことで理解が身に付きます。				

授業科目名	化学概論B				
担当教員名	朴 龍洙	所属等	自然科学系教育部		
		研究室	共通教育C棟 211 号室		
分担教員名					
クラス	農（環境・応用）	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	木 3・4
キーワード					
授業の目標	この授業では、物質を合成する分子について理解し、酸化還元、各分子間反応と反応平衡を学ぶ。さらに、化学反応におけるエントロピーや自由エネルギーを理解することで、自然現象や生命現象を理解するための化学的基礎を身につける。				
学習内容	化学は、物質の組成やその相互作用を研究する学問である。化学物質の多くは生命体起源の化石原料や地殻に含まれる成分として、また科学技術の発展によって生み出され、人類の生活と密接に結びついて存在している。この講義では、自然現象や生命現象を理解するための無機・物理化学の基礎を身につけ、有機化学・生化学の理解に必要な分子構造の基礎、生命活動を支える細胞内の化学環境を理解することに努める。				
授業計画					
受講要件	1 年前期化学概論 A を受講すること。				
テキスト	マクマリー一般化学（上、下） 萩野 博ら訳、東京化学同人				
参考書	マクマリー一般化学演習編、萩野 博ら訳、東京化学同人				
予習・復習について	教科書の例題、演習編を復習として活用するように。				
成績評価の方法・基準	レポートと小テスト 30%、筆記試験 70%				
オフィスアワー	毎週水曜日午後・共通教育C-2 1 1 へ直接又は電話、メールなど				
担当教員からのメッセージ	大人数講義なので質問しにくい面もあるが、授業に積極的に参加するように。予習、復習を真面目に行い、基礎力を付けること。				

授業科目名	数学Ⅲ（微分積分B）				
担当教員名	清水 扇丈		所属等	理学部	
			研究室	理 C510	
分担教員名					
クラス	理PCBG1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	木3・4
キーワード	偏微分、重積分、極値、陰関数、級数				
授業の目標	高等学校の数学Ⅰ,ⅡBまで習得している学生（クラス3）と、高等学校の数学Ⅲ,Cまで習得している学生（クラス1、2）に分けて、3クラスで講義を行います。 「数学Ⅰ（微分積分A）」に引き続き、応用面で重要な多変数の関数の微分および積分を学び、計算とその応用について身につけることを目標とします。				
学習内容	多変数の関数の偏微分、重積分を学びますが、より応用の面を考えた数学を学びます。応用として多変数関数の極値問題と平面、空間図形の面積と体積を求めます。ノートと筆記用具を用意しておいて進めることが数学を学ぶための手段です。またレポートや演習で講義の内容を確かめます。				
授業計画	<p>数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、各々3クラスに分けて講義をします。前期の数学Ⅰの第1回講義に試験を行い、クラスを決定します。試験を必ず受けて下さい。再履修の受講生は前年度までのクラス分けに従って受講してください。3クラスの担当教員は、</p> <p>クラス1： 数学Ⅰ 清水教員－数学Ⅱ 久村教員－数学Ⅲ 清水教員 クラス2： 数学Ⅰ 奥村教員－数学Ⅱ 千葉教員－数学Ⅲ 奥村教員 クラス3： 数学Ⅰ 板津教員－数学Ⅱ 保坂教員－数学Ⅲ 田中（直）教員</p> <ol style="list-style-type: none"> 2変数の関数の微分 2変数関数の極限と連続、偏導関数、合成関数の偏微分、高階偏導関数 2変数の関数の微分の応用 極値、陰関数、条件付極値 2変数の関数の積分 重積分、累次積分法、ヤコビ行列式、重積分の変数変換、広義の重積分 2変数の関数の積分の応用 体積、曲面積 級数 数列と極限、級数の和と収束、優級数定理、マクローリン級数展開、整級数 				
受講要件					
テキスト	水田義弘 著「入門微分積分」（サイエンス社）， ISBN 4-7819-0822-5, ISBN 978-4-7819-0822-9				
参考書	越 昭三 監修,高橋泰嗣,加藤幹雄 著「微分積分概論」サイエンス社, ISBN-10: 478190873X, ISBN-13: 978-4781908731				
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。数学の問題に取り組むことが重要です。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、受講態度・レポートを加えて評価します。 評価は試験では論述的な解答が求められます。				
オフィスアワー	講義の際に、各教員より提示されます。				
担当教員からのメッセージ	復習は必要です。テキストや参考書の演習問題を解くことで理解が身に付きます。				

授業科目名	地球科学Ⅱ（基礎B）				
担当教員名	北村 晃寿	所属等	理学部		
		研究室	共通教育C棟311		
分担教員名					
クラス	理C B	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	B	曜日・時限	金1・2
キーワード	地球の誕生、生物進化、地球環境、大量絶滅、気候変動、人類の進化				
授業の目標	地球と生命の歴史を学び、地球上の多くの事象に潜む歴史的背景の重要性を理解する。				
学習内容	温暖化、生物多様性の減少、エネルギー問題などが人類の将来に影を落としている。私たち人類はどこに向かうのだろうか。それを考えるには、人類の歩んできた歴史を知る必要がある。なぜならば、人類の高度な文明は歴史の産物だからだ。そこで、この授業では、46億年前の惑星「地球」の誕生から、生命の発生と進化、地球表層の環境の変遷、生命と環境の相互作用の歴史を概説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史科学の特徴，化石記録，地層累重の法則 2. 地層・地質時代について，初期地球の環境 3. 生命の起源 4. 錆びる地球 5. 凍る地球とエディアカラ動物群 6. カンブリア紀の生命大爆発 7. 古生代の生物の進化 8. 古生代後期の生物の進化と絶滅 9. 中生代の古生物ー恐竜ー 10. 中生代末の絶滅事件，哺乳類の繁栄と LPTM 11. 新生代における冷えてゆく地球気候 12. 気候変動のメカニズム 13. 氷期-間氷期サイクルの原因，人類の進化 14. 日本列島の島嶼化，最終氷期の環境変動 15. 深層水循環，文明と気候変動，地球温暖化問題 				
受講要件	なし				
テキスト	なし				
参考書	毎回の授業でプリントを配布する。				
予習・復習について	毎回の授業で配布するプリントで復習する。適時，レポートを課す。				
成績評価の方法・基準	出席(出席 2/3 以上を評価の対象とする)、授業態度、レポート、試験にて総合的に評価します。				
オフィスアワー	相談内容・日時に関しては、事前にメールで連絡下さい(アドレス：seakita@ipc.shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ	歴史科学の重要性を理解して欲しい。				

授業科目名	生物学概論B（基礎）				
担当教員名	鳥山 優	所属等	農学部		
		研究室	共通教育C棟509号室		
分担教員名	切岩 祥和, 森 誠				
クラス	農（基礎）	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	金1・2
キーワード	組織と器官、神経とホルモン、生殖、受精、発生、分化、植物ホルモン				
授業の目標	教科書の第3章「個体の生物学」をそれぞれのクラスの進度に応じて理解する。				
学習内容	前半は植物の構造と機能に関連して、体の成り立ち、刺激に対する応答について、植物ホルモンの働きの理解を中心に学習する。後半は動物の構造と機能に関連して、体の成り立ち、恒常性の維持や刺激に対する応答について、動物の生殖について学習する。				
授業計画	1回 植物の構造と機能 2回 植物ホルモンの働き 3回 植物の器官と屈性 4回 植物の分化と細胞培養 5回 光周性と水の移動 6回 花芽の分化 7回 動物の組織と器官 8回 神経による刺激の伝達 9回 受容器と効果器の働き 10回 内分泌系と自律神経系 11回 免疫 12回 無性生殖・有性生殖と減数分裂 13回 動物の受精と初期発生 14回 発生のしくみ 15回 質問日				
受講要件	なし				
テキスト	①生命科学のための基礎シリーズ 生物 大島泰郎監修 実教出版 ②ダイナミックワイド図説生物・総合版 石川統・辻英夫・水野丈夫監修 東京書籍				
参考書	必要な場合は授業中に適宜紹介する				
予習・復習について	予習：授業は①のテキストにしたがって進むので、次回の授業で取り上げる部分をあらかじめ読んでくること 復習：担当する教員によって、適宜復習のためのプリントを配布するので、それも活用すること				
成績評価の方法・基準	クラス分け：基本的には生物学概論Aのクラス編成と同じとするが、前期の評価によって基礎クラスとアドバンストクラスの間で受講生の入れ替えを行う。 成績：期末に行われる試験（100点満点）のうち40点を基礎・アドバンストクラス共通問題とし、その獲得点数に応じてクラスごとの評価の配分を行う。その基準は36点以上を秀，32点～35点を優，28点～31点を良，24点～27点を可，23点以下を不可とする。期末試験（レポートならびに出席点を加えることもある）の得点が多いものから順に評価をクラスごとに配分された各評価の数に基づき，秀，優，良，可，不可の順でつけ（同点の場合は上位の成績とする），この科目の成績とする。				
オフィスアワー	個別の教員のオフィスアワーに関しては授業の際に紹介する。鳥山は月曜日授業のある日の午後。				
担当教員からのメッセージ	農学部で学習するさまざまな専門科目の基礎となる基幹科目であることを念頭において学習してほしい。				

授業科目名	物理学Ⅲ（現代物理）				
担当教員名	富田 誠	所属等	自然科学系教育部		
		研究室	理学部A棟510		
分担教員名					
クラス	理BG	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	金1・2
キーワード	量子、波動性、粒子性、不確定性、シュレーディンガー方程式				
授業の目標	ミクロの世界の物理法則について学ぶ。				
学習内容	人間がミクロの世界を認識するに至った道筋を様々な角度から議論する。 またミクロの世界を支配している量子力学に関してその基本的な考え方を学ぶ				
授業計画	量子論の必要性 1. 量子としての電子、光 2. 量子の確率的挙動、不確定性関係 3. 量子の運動方程式 シュレディンガー方程式の使い方 4. 自由粒子の運動 5. 井戸型ポテンシャル 6. トンネル効果 7. 調和振動子 8. 中心力場の中の粒子				
受講要件	物理学1,2の内容は学習している事				
テキスト					
参考書	量子論のエッセンス 松下 栄子 (著)				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	期末試験、レポートによって評価する				
オフィスアワー	講義の終了後、相談、質問に来てください。				
担当教員からのメッセージ	量子の世界の不思議を感じてもらいたいと思います。				

授業科目名	数学VI (微分積分C)				
担当教員名	田中 直樹	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 602		
分担教員名					
クラス	理PCBG	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	金 3・4
キーワード	微分方程式、フーリエ解析				
授業の目標	理学部の専門科目を学習するための基礎である微分積分学の応用, 特に微分方程式の習得を目標とします。				
学習内容	微分積分 A, B の続きである。微分積分の応用, 特に微分方程式の様々な解法に重点をおき説明します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1階の微分方程式 <ol style="list-style-type: none"> 1. 1. 変数分離形の微分方程式 1. 2. 1階線形微分方程式 2. 線形微分方程式 <ol style="list-style-type: none"> 2. 1. 定数係数の2階線形微分方程式 2. 2. 微分演算子による記号解法 3. フーリエ解析とラプラス変換 <ol style="list-style-type: none"> 3. 1. フーリエ級数 3. 2. ラプラス変換 4. 偏微分方程式 (フーリエの解法) <ol style="list-style-type: none"> 4. 1. 弦の振動方程式 4. 2. 棒の熱伝道の方程式 				
受講要件	微分積分 A, B の内容を理解していることが望ましいです。				
テキスト	洲之内治男, 網谷正信 (著) 新応用解析, サイエンス社, ISBN4-7819-0140-9 C3341				
参考書					
予習・復習について	授業のノートおよび参考書で予習および復習をしてください。数学を自分のものにするためには演習問題を解くことが重要です。				
成績評価の方法・基準	成績評価は受講態度, レポート (20%) および最終試験 (80%) により総合的に行われます。				
オフィスアワー	初回の講義の際に連絡します。				
担当教員からのメッセージ	演習問題を解くことによりはじめて数学が自分のものとなります。				

授業科目名	物理学 I (力学)				
担当教員名	岡 俊彦	所属等	理学部		
		研究室	理学部A棟 411		
分担教員名					
クラス	理BG	学期	後期	必修選択区分	
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	金 3・4
キーワード	力学				
授業の目標	力学の基礎を理解する。				
学習内容	物理学は現代科学の基礎となるもので、生物学や地球科学などの分野を理解するうえでも重要となる。その中でも最も基礎となる力学について学ぶ。				
授業計画	1 インTRODクシヨN 2-3 運動の記述 4-5 運動の法則 6-8 いろいろな力と運動 9-10 仕事とエネルギー 11-12 角運動量と回転運動 13-14 惑星の運動 15 総括				
受講要件	高校のときに物理を勉強していない学生は、前期に開講している「物理入門」を受講していることが望ましい。				
テキスト	授業のはじめに説明する。				
参考書	授業のはじめに説明する。				
予習・復習について	必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験、小テスト、提出物などにより評価する。				
オフィスアワー	授業後、適宜。必要に応じて設定する。				
担当教員からのメッセージ	高校で習った数学、とくに微分・積分について復習しておいてくこと。授業中に小テストを行うことがあるので、毎回 A4 用紙を準備してきてくること。				

授業科目名	現場から考える死生学				
担当教員名	竹之内 裕文		所属等	自然科学系教育部	
			研究室	農学部A棟327	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	A	曜日・時限	金3・4
キーワード					
授業の目標	受講生一人ひとりが「生」と「死」をとり巻く現代日本の社会的・文化的・宗教的状况に対する洞察を深めるとともに、それぞれの死生観を培っていくこと、それが本講義の目標である。				
学習内容	医学、ソーシャルワーク、社会学、宗教学、文化人類学、教育学、哲学、日本思想史、国文学など、多種の専門的背景をもつ執筆陣によって編まれた学際的なテキストを中心に、講義を進める。それぞれの現場から提起される鮮烈な問題提起を受けとめながら、「生」と「死」の関係について理解を深めていく。				
授業計画	1回 ガイダンス 序「どう生き どう死ぬのか——現場から考えるということ」 2回 死とむきあう「こころの時代～宗教・人生：医師・岡部健」（NHK） 3回 第1章「在宅ホスピスの現場から」 4回 第2章「看取りを支える、生を支える」 5回 第3章「最期の選択」 6回 第4章「教育現場の生と死」 7回 第5章「死すべきものとして生きる——死から生をつかむ」 8回 エリザベス・キューブラー＝ロス『最期のレッスン』（NHK スペシャル） 9回 第6章「死すべきものの仕事」 10回 第7章「遺された言葉」 11回 第8章「"あの世"はどこへ行ったか」 12回 第9章「日本人の死生と自然」 13回 第10章「死別の悲しみとその彼方」 14回 第11章「受け継がれていく生」 15回 総括と展望 「死生観と看取り——死ぬってどういうこと？」				
受講要件	生と死をめぐる問題に関心があり、討議などに積極的に参加する心構えのあること。				
テキスト	『どう生き どう死ぬか——現場から考える死生学』（清水哲郎監修、岡部健・竹之内裕文編、弓箭書院、2009年）				
参考書	『高齢社会を生きる 老いる人／看取るシステム』（清水哲郎編、東信堂、2007年）、『安楽死問題と臨床倫理』（日本臨床死生学会、青海社、2009年）、『シリーズ生命倫理学 第4巻 終末期医療』（安藤泰至・高橋都編、丸善出版、2012年）など。				
予習・復習について	講義は上掲のテキストを事前に読んでいることを前提に進められるので、各章のリポーター（報告担当者）以外も、当該の章に必ず目を通して来ること。				
成績評価の方法・基準	15回の講義でとり挙げたテーマに基づき、受講生が自分で問題を立て回答する形式で、学期末にレポートを執筆・提出してもらおう。なお各回の報告担当者については、その報告内容の評価をもって替えることができる。評価そのものは、レポートの内容に（70%）、質問・意見表明など講義への参加意欲を加味する（30%）。				
オフィスアワー	水曜と金曜の午後、農学部A327号室へ電話もしくは直接来室のこと。				
担当教員からのメッセージ	「死」という重いテーマですが、確かに「生きる」ため、避けて通れない問題です。自分と異なった見解に耳を傾け、毎回の討議を通じて、自分なりの死生観を培っていきましょう。肩の力を抜いて、でも真摯に、深くて大きな問いをともに問うていきましょう。				

授業科目名	異常心理学 I				
担当教員名	磯田 雄二郎	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 C 棟 307		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	月 1・2
キーワード	メンタルヘルス、青年期心理学、精神医学、大脳生理学				
授業の目標	精神医学的な以上の好発時期である青年期におけるメンタルヘルスについて、理解を深めたい所の方法を考えることができるようにする。				
学習内容	最初の段階で大脳の働きについて学習をした後、青年期の心理の特徴と青年期の精神病理についての講義を行い、その知識の上にメンタルヘルスにおけるストレス対処方法について学習する。学習はパワーポイントを用い、配布物によって補うが予習復習をきちんとすることが望ましい。				
授業計画	1回 第一回 基礎心理学復習 I (大脳の成り立ち) 2回 第二回 基礎心理学復習 II (大脳の機能) 3回 第三回 基礎心理学復習 III (感覚と認知) 4回 第四回 基礎心理学復習 IV (脳の病気) 5回 第五回 青年期の心理学 I (エリクソンと自我同一性) 6回 第六回 青年期の心理学 II (ユフトと自己愛の病理) 7回 第七回 青年期の心理学 III (京大学派と青年期妄想症) 8回 第八回 青年期の心理学 IV (境界人格構造とは) 9回 第九回 精神病理 I (統合失調症とは) 10回 第十回 精神病理 II (うつ病は大人の病気?) 11回 第十一回 精神病理 III (解離性障害と DID) 12回 第十二回 精神病理 IV (身体表現性障害) 13回 第十三回 精神病理 V (現代病としての人格障害) 14回 第十四回 メンタルヘルス入門 I (カプラン) 15回 第十五回 まとめ				
受講要件	心理学概論、基礎心理学 I、II を受講済みのこと				
テキスト	毎回資料配布				
参考書	「好きになる精神医学」 越野・志野著 講談社サイエンティフィーク				
予習・復習について	教科書だけでは学習は足りません。十分に予習復習をしてください。				
成績評価の方法・基準	期末テスト 70% 学習態度 30%				
オフィスアワー	火曜日 10時半から 12時 教官研究室(人文 C307)				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (認めない) 2. 科目等履修生 (認めない) 難易度 B 勉強とは勤めることです。内容は難しいかもしれませんが、難しいことを克服してこそすばらしいものが手に入ります。				

授業科目名	文化人類学入門				
担当教員名	原 知章	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文C棟206		
分担教員名	大野 旭				
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年,2年	難易度	A	曜日・時限	月9・10
キーワード	文化人類学、文化、社会、フィールドワーク				
授業の目標	文化人類学とは、フィールドワークと異文化理解を通して、人間とその文化、社会のあり方と多様性について考える学問である。文化人類学の方法論と対象の広がりについて学ぶ。				
学習内容	まず、文化人類学の概要と方法について取り上げる。とくに文化人類学の中心的な方法であるフィールドワークについて詳細に論じる。特定の地域文化を調査対象とする場合を念頭において、どのようにフィールドワークを進め、調査の成果をまとめるのかについて講義や実習を行なう。授業の後半では、人間社会の基本単位となってきた家族・親族という集団についてまず取り上げた後、民族・国家というより大規模な集団に至る人間社会の展開と複雑さについて論じる。さらに現代世界が直面している大きな問題のひとつである民族問題の諸相について具体的な事例を通して学ぶ。				
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 文化人類学の概要と方法（原） 第3回 地域文化の捉え方（原） 第4回 地域文化のフィールドワーク（原） 第5回 KJ法実習（原） 第6回 フィールドワークの実践—沖縄編（原） 第7回 フィールドワークの実践—ハワイ編（原） 第8回 授業前半の総括 第9回 家族・親族（大野） 第10回 民族・国家（大野） 第11回 ネーション・ナショナリズム・ナショナリティ（大野） 第12回 民族問題と歴史 -中国イスラームの場合（大野） 第13回 民族問題と宗教 -チベット族の事例（大野） 第14回 民族問題と国際関係 -モンゴル問題の本質（大野） 第15回 授業後半の総括				
受講要件	文化人類学概論を受講済であることが望ましい				
テキスト	パワーポイント資料やレジュメを使用する				
参考書	授業時に紹介する				
予習・復習について	授業内容に応じて関連文献を紹介するので、できるだけ参考文献を読むこと				
成績評価の方法・基準	提出物（40%）＋論述試験（60%）の合計点で評価する。2回の論述試験を課す。				
オフィスアワー	授業時に連絡する				
担当教員からのメッセージ	旧カリキュラムの学生は、「文化人類学入門Ⅰ」または「人類学Ⅰ」に読み替える 1. 県立大学単位互換（認めない） 2. 科目等履修生（認めない） 3. 難易度（A）				

授業科目名	日本近世社会史				
担当教員名	今村 直樹	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 3 1 7		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年,4 年	難易度	C	曜日・時限	火 3・4
キーワード	日本近世史、近世化、大名家（藩）、村、百姓一揆				
授業の目標	日本近世（江戸時代）は、現代日本社会の体質が形成された「揺籃期」とも呼ばれており、近世のあり方を学ぶことは、私たちが生きる現代をより深く理解する上で、大きな可能性を有している。この授業では、現代社会とのつながりを意識しながら、あるいは従来の通説やイメージとは異なるかたちで、近世社会について理解をはかることを目標としたい。				
学習内容	近年、現在につながる「伝統社会」の形成期として、「近世」という時代に対する関心が、東アジア史を中心に高まっている（「近世化」論）。この授業では、こうした比較史的な「近世化」論や、新しい研究成果をふまえて、日本の近世社会像を提示していきたい。具体的に検討するのは、大名家（藩）の組織、百姓一揆の歴史的な性格、武士・百姓のライフサイクル、幕末の外交交渉などである。				
授業計画					
受講要件					
テキスト	プリントを使用する。				
参考書	尾藤正英、『江戸時代とはなにか』、岩波現代文庫、2006 年、4006001584、¥1,100、初出 1992 年。笠谷和比古、『武士道と日本型能力主義』、新潮選書、2005 年、4106035529、¥1,300。倉地克直、『徳川社会のゆらぎ 全集 日本の歴史 11』、小学館、2008 年、4096221112、¥2,520。				
予習・復習について	毎回の授業では参考文献を示すので、わからない語句や説明などがあれば、文献や辞典などにあたって復習するようにしてほしい。				
成績評価の方法・基準	出席、質問用紙、期末の筆記試験を総合して評価する。特別な理由なく欠席が 3 分の 1 を超えた場合は、受験資格を認めない。				
オフィスアワー	火 5・6 限。人文社会科学部社会学科。				
担当教員からのメッセージ	毎回、授業の終わりに質問用紙に記入してもらうので、積極的に疑問・感想などをよせてほしい。また、よせられた質問には、次の授業の初めに答えるようにする。難易度 C。				

授業科目名	応用倫理学				
担当教員名	松田 純	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟418		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	火7・8
キーワード	生命倫理学、医療倫理学、バイオテクノロジー、終末期医療、エンハンスメント・人間改造、遺伝医療				
授業の目標	医の伝統的倫理と、戦後の生命倫理学、現代最先端医療が投げかける倫理問題について、具体的なケースをめぐってディスカッションを交えて展開する。先端科学技術の利用をめぐる倫理問題を多角的に考察する。				
学習内容	現代医療の最先端では、これまで不可能であったことが可能になり、常識を覆す技術革新が起こっている。これまで安定していたかに思われる人間の自己理解（人間像）はいま大きく揺らぎつつある。生命操作技術の開発が生命観や世界観をどう変えるかを見据えた上で、倫理力を鍛える。				
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1章 倫理、道徳とはなにか</p> <p>第2章 倫理理論をめぐる対立</p> <p>第3章 医の倫理（西洋およびインド、中国、日本）</p> <p>第4章 研究倫理</p> <p>第5章 生命倫理学（生命倫理の4原則）とモラルディレンマ</p> <p>第6章 医療の目的（健康とは、病気とは、医療とは）</p> <p>第7章 現代医療の倫理問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 誕生をめぐる倫理問題（人工妊娠中絶、生殖補助技術） 2 死をめぐる倫理問題（「死ぬ権利」、安楽死、尊厳死、事前指示、緩和医療） 3 臓器移植 4 遺伝医療（ファーマコジェノミクスとパーソナルゲノム） 5 再生医療と生命操作 6 エンハンスメントと願望実現型医療 7 二つの生命観 <p>第8章 現代倫理学の拡大</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 対人関係を超越する倫理 2 環境倫理学（持続可能性と世代間倫理、廃棄物と循環型社会、予防原則と環境リスク学） 3 動物倫理学——人間中心主義と生命中心主義 4 「人間の尊厳」とはなにか？ 				
受講要件	とくになし				
テキスト					
参考書	教室で指示				
予習・復習について	予習・復習について テクストを読んで予習してくる。單元ごとにまとめの小レポートをまとめる				
成績評価の方法・基準	小まとめ数回＋期末試験による				
オフィスアワー	水 16－17時				
担当教員からのメッセージ	先端医療の動向に関心をもって、それが私たちの生をどう変えるかについて、ともに考えてほしい。				

授業科目名	環境社会学				
担当教員名	平岡 義和	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文C棟402		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	火7・8
キーワード	環境リスク、社会的構築、政治的決定、リスクのフレーミング				
授業の目標	環境リスクという観点から、環境問題を社会的に考える				
学習内容	環境問題は、環境の変化、破壊という自然現象であるだけでなく、人間社会との関係の中で生じる社会現象でもある。そこで、この授業では、環境リスクの社会学という観点から、環境問題をとらえ、そのリスクとしての社会的特徴と、問題への対応をめぐる社会的構図を明らかにしたい。				
授業計画	<p>以下のようなテーマについて、数回ずつ講義する予定である。なお、問題の理解を深めるために、できるだけビデオ教材を使用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境リスクとは？ 2. 水俣病という環境リスク 3. 環境リスクの国際的転移 4. メディアの環境リスクのフレーミング 5. 原発というリスク 6. 微量化学物質の環境リスク 7. 地球温暖化という環境リスク 				
受講要件	特になし。初学者にもわかるように講義する。				
テキスト	使用しない。				
参考書	毎回配布するプリントで提示する。				
予習・復習について	取り上げる環境問題に関する基礎知識を身につけておいたり、参考文献を読んだりすると、授業の理解が深まる。また、日頃から新聞、テレビの環境問題に関する記事、ニュース、番組などを見るように心がけてほしい。				
成績評価の方法・基準	基本的には、中間レポートと期末試験の成績で評価する。				
オフィスアワー	初回授業時に提示する。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (○) 2. 科目等履修生 (○) 3. 難易度 (B)				

授業科目名	現代文化論Ⅱ				
担当教員名	原 知章		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文C棟206	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	火9・10
キーワード	コミュニティ、アソシエーション、社会ネットワーク、ソーシャルキャピタル、コミュニティアニズム				
授業の目標	コミュニティという概念の再検討を通じて、現代社会におけるコミュニティの意義について考える				
学習内容	近年、「コミュニティ」という概念がさまざまな学問分野や社会において改めて注目されるようになっていく。さまざまな社会問題を解くカギとして、コミュニティの復権が唱えられる一方で、国境を越える人の移動やインターネットなどを通じて生成する新たなコミュニティに対する関心も高まっている。この講義では、コミュニティという概念の再検討を通じて、現代社会におけるコミュニティの意義について考えていく。				
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 「コミュニティ」の誕生 第3回 地域社会としてのコミュニティ 第4回 都市化とコミュニティ 第5回 コミュニティ政策の展開 第6回 コミュニティの再生に向けて(1) 第7回 コミュニティの再生に向けて(2)——中間レポート発表 第8回 コミュニティとソーシャルキャピタル 第9回 コミュニタリアニズム 第10回 想像されるコミュニティと実践コミュニティ 第11回 コミュニティの持続と変容(1)——地域SNS 第12回 コミュニティの持続と変容(2)——沖縄・読谷村 第13回 コミュニティの持続と変容(3)——東京・新宿区 第14回 コミュニティの持続と変容(4)——ハワイ・ホノルル 第15回 期末試験				
受講要件	やや専門的な講義である。文化人類学概論または文化人類学入門を受講済であることが望ましい。				
テキスト	授業時にパワーポイント資料を提示する				
参考書	授業時に紹介する				
予習・復習について	次回の授業までに行なうべき小課題を指示する。また、授業の冒頭に、前回の授業内容のポイントを発表してもらう。				
成績評価の方法・基準	小課題 20%+中間レポート 40%+期末試験 40% ほぼ毎回の授業で小課題に取り組んでもらう。小課題として、グループ・ディスカッションを行なうことがある。				
オフィスアワー	初回の授業時に連絡する				
担当教員からのメッセージ	旧カリキュラムの学生は、「発展途上社会論Ⅱ」に読み替える 1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B）				

授業科目名	哲学概論				
担当教員名	堂園 俊彦	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A417		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	水3・4
キーワード					
授業の目標	「哲学」という言葉は、往々にして「こむずかしい」「わけのわからない」ということを意味します。しかし本当にそうでしょうか。この講義では、哲学が、本来はとても身近な疑問——だれもが一度は抱いたことのある疑問——に答えようとする知的な営みであることを、みなさんと一緒に確かめたいと思います。				
学習内容	キーワードに記したような哲学の根本問題について講義します。				
授業計画	1回 哲学について 2回 外的世界の存在 3回 他人の心 4回 心と身体 5回 人格の同一性 6回 自由と決定 7回 中間のまとめ 8回 なぜ道徳的であるべきか 9回 道徳の理論 10回 分配と正義 11回 帰納の正当性 12回 意味の理論 13回 相対主義 14回 芸術とは何か 15回 神の存在				
受講要件	ありません。				
テキスト	特に指定しません。				
参考書	・スティーブン・ロー『フィロソフィー・ジム 「考える脳」をつくる 19 の扉』、ランダムハウス講談社、2003 ・トマス・ネーゲル『哲学ってどんなこと？—とっても短い哲学入門—』、昭和堂、1993 ・麻生博之・城戸淳『哲学の問題群』、ナカニシヤ出版、2006 ・山本信『哲学の基礎』、北樹出版、1988 ・ブレンダン・ウィルソン『自分で考えてみる哲学』、東京大学出版、2004				
予習・復習について	毎回、問題を考える上で重要な哲学者の著作を紹介します。より深く考えたいと思う人は、図書館で探してみてください。				
成績評価の方法・基準	2/3 以上の出席を条件として、中間テストおよび最終テストの得点によって決める。				
オフィスアワー	火曜 9・10 限。ただし、緊急の用件で不在にする場合がありますので、必ずアポイントメントをとってください。また、他の時間でも、相談してもらえれば、できるだけ対応します。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(認めない) 2. 科目等履修生(認める) 3. 難易度(A)				

授業科目名	日本史概説 I				
担当教員名	今村 直樹	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 3 1 7		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年, 2 年	難易度	A	曜日・時限	水 3・4
キーワード	明治維新、日本近代史、日本近世史、廃藩置県、地域社会				
授業の目標	明治維新をめぐっては、これまで専門研究を含めて多様な論及がなされているが、その世界史的な特質は十分に理解されておらず、狭義の政治史レベルにとどまらない、近世社会から近代社会への具体的な変革過程についても、未解明な部分が多いように思われる。この講義では、明治維新の研究史をふまえ、世界史的な観点から、新しい明治維新像の構築について模索してみたい。				
学習内容	明治維新の歴史的意義を考えるうえで必要不可欠なのは、前提としての日本近世社会の評価である。この講義では、最新の近世史研究の成果をふまえて、近世社会の展開がどのように維新変革の過程と結びつくのか、また急速な地域社会の近代化にいかなる影響を及ぼしたのかについて、具体的に検討する。				
授業計画					
受講要件					
テキスト	プリントを使用する。				
参考書	牧原憲夫、『文明国をめざして 全集 日本の歴史 13』、小学館、2008、4096221139、¥2,520。井上勝生、『幕末・維新 シリーズ日本近現代史①』、岩波新書、2006、4004310423、¥780				
予習・復習について	毎回の授業では参考文献を示すので、わからない語句や説明などがあれば、文献や辞典などにあたって復習するようにしてほしい。				
成績評価の方法・基準	出席、質問用紙、期末の筆記試験を総合して評価する。特別な理由なく欠席が 3 分の 1 を超えた場合は、受験資格を認めない。				
オフィスアワー	火 5・6 限。人文社会科学部社会学科。				
担当教員からのメッセージ	毎回、授業の終わりに質問用紙に記入してもらうので、積極的に疑問・感想などをよせてほしい。また、よせられた質問には、次回の授業の初めに答えるようにする。難易度 A。				

授業科目名	家族社会学				
担当教員名	南山 浩二	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文C棟401		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	水5・6
キーワード	個人、家族、社会、多様化				
授業の目標	家族に関する社会学的視点を理解するとともに、変容する現代家族の諸相を社会学的に考察する力を身につける。				
学習内容	本講義では、「家族」に関する社会学的視点を理解しながら、「多様化」や「個人化」など現代の「家族」をめぐる諸現象について検討することを通じて、「家族」を社会学的に考察する力を修得していきます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめにー「家族」をめぐる諸現象 2. 家族の多様化と家族の定義 3. 家族変動と家族のゆくえ 4. 恋愛と結婚 5. ジェンダーとセクシュアリティ 6. こどもと家族 7. 高齢社会と家族 8. 障がい者と家族 9. メディアと家族 10. まとめー変容する家族のゆくえ <p>*一つのトピックに1～2回の授業時間をあてる予定。進捗状況や受講生の関心の所在を勘案しながら新たなトピックの追加等を行う場合がある。 *その他トピックに関連するDVDなどを見てもらう予定。</p>				
受講要件	社会学概論が履修済みであることが望ましい。社会学の基礎的な知識が必要です。				
テキスト	資料を配付します。適宜、参考文献を紹介します。				
参考書	増子勝義編著『21世紀の家族さがし』学文社				
予習・復習について	授業時に紹介する参考文献もあわせて読むこと。授業時に配布する資料や、ノートは必ずファイルにとじるなどして随時参照しやすい状態にしておくこと。復習は必ず行い、各自、理解を深めておくこと。これらのことを前提に講義をすすめていきます。				
成績評価の方法・基準	期末試験（70%）、授業時に指示する課題（3回分・30%）で評価				
オフィスアワー	初回講義時にお知らせします。事前にメールで連絡して下さい。				
担当教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・メールでのアクセスも歓迎します（必ず件名に氏名学籍番号などを記入のこと）。 jskmina@ipc.shizuoka.ac.jp <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、私語厳禁。授業に集中すること。難易度 B 				

授業科目名	西洋史概説Ⅱ				
担当教員名	岩井 淳	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟219		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年,2年	難易度	A	曜日・時限	水7・8
キーワード					
授業の目標	この授業では、世界システムや重商主義、市民革命、農業革命、産業革命、帝国主義といった歴史学の基本概念を、イギリスやヨーロッパの近世・近代史の流れに即して、具体的に理解します。従来の歴史学は、イギリスの歩みを「近代化の典型」と捉え、その発展を一国史的に説明する傾向がありました。しかし、イギリスと呼ばれる連合王国は、さまざまな地域や民族から構成されています。また、近年の歴史学が主張するように、ヨーロッパ諸国や植民地・従属地との関係を無視してイギリスの歴史を語ることはできません。				
学習内容	この授業では、16世紀から20世紀までのイギリス史を主たる対象として、16-18世紀の重商主義や17-18世紀の市民革命、18-19世紀の産業革命、19世紀以降の世界市場成立の歴史的意義を探ってみます。また必要に応じて、ヨーロッパ大陸のフランス革命や1848年革命などにも言及します。				
授業計画	1回 この講義の目的と計画 2回 近代世界システムの形成 3回 イギリス重商主義 4回 重商主義時代のヨーロッパ 5回 産業革命前夜のイギリス 6回 イギリス産業革命 7回 フランス革命 8回 ヨーロッパ大陸の産業革命 9回 1848年革命 10回 映像で見る西洋社会 11回 世界市場の成立と構造 12回 19世紀末の大不況と帝国主義 13回 映像で見る世紀末 14回 現代世界への展望 15回				
受講要件	歴史文化コース(志望)の学生は、歴史学概論を履修しておいてください。				
テキスト	石坂昭雄ほか『新版 西洋経済史』有斐閣双書、1800円(生協で販売)				
参考書	基本的な文献は、初回およびそれ以降の授業で、そのつど紹介します。				
予習・復習について	テキストや参考書を読むなど、指示された予習・復習は行ってください。				
成績評価の方法・基準	出席状況や試験の結果によって、総合的に評価します。				
オフィスアワー	金曜日3・4時限。事前アポが必要。連絡先メール YQS02036@nifty.com				
担当教員からのメッセージ	教室の関係で、社会学科および教員免許取得希望者以外の方に、受講制限をすることがあります。難易度はAです。				

授業科目名	人格心理学 I				
担当教員名	田辺 肇	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 4 1 2		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	水 7・8
キーワード	人間理解、性格、人格、自己、自由意志、主体性、アイデンティティ、個人差				
授業の目標	心理学的人間理解の諸理論を参照しながら性格・人格・自己・自由意志・主体性・アイデンティティなどの鍵概念を検討する。				
学習内容	心理学の中でも、人格心理学ないし性格心理学と呼ばれる研究領域では、人間理解における重要な概念が多数提出され検討されてきている。この講義では、個人差・異常・個性・性格・人格・自己・主体性・自由意志・意図・無意識・アイデンティティ・「個人の人格としての一貫性と統合性」・「本当の自分」・「人を理解するとはどういうことか」など、心理学的な人間理解における根本問題をさまざまな理論を参照しながら考える。本講義は、これらの問いに答えを与えるものではなく、人間理解の難しさと考え方を学び、その中で、日常当たり前のこととしてやり過ごしてきたさまざまな事柄に興味を抱き、反省を促し、人と前向きに関わる、あるいは人間事象について深く考える力を養うことを目指すものである。				
授業計画	(1) 「個性」研究の歴史と方法 榎1章2章 若1章2章 (2) 分類と測定・契約論と本質論・構成概念と実体概念・観測問題 榎5章 若3章 (3) 遺伝と環境・行動遺伝学 榎6章 若6章 (4) 古典的動因論(力動論・学習論・認知論)と状況論 榎8章 若4章 (5) 認知論と現代の相互作用論 榎9章 若5章 (6) 自己論と物語論(自伝的記憶・自己概念・アイデンティティ) 榎3章4章7章 (7) 状態論(意識と自我状態)・主体性(自由意志と決定論)・人格の一貫性と統合性―多重人格・「本当の私」とは誰なのか (8) 自分史・記憶の構成的側面・物語としての自己と自己語り・対話の中の「私」 (9) 社会と文化―対人関係と役割演技(ロールプレイング)・自己の社会的構成 (10) 他者理解と「性格」観―血液型性格診断・差別と偏見・暗黙の性格理論 (11) 自己理解と共感的理解―現象的自己・「理解」体験・傾聴・共にいること・生成過程にある自己				
受講要件	心理学概論と基礎心理学 I の履修を前提として授業を進める。未修者は補足学習が不可欠。難易度 B (やや専門的な内容)				
テキスト	榎本・安藤・堀毛(著)『パーソナリティ心理学―人間科学、自然科学、社会科学のクロスロード』(有斐閣アルマ)¥ 1,995 ISBN-13: 978-4641123779				
参考書	若林明雄(著)『パーソナリティとは何か―その概念と理論』培風館 ISBN-13: 978-4563057107 小塩真司(著)『はじめて学ぶパーソナリティ心理学―個性をめぐる冒険』ミネルヴァ書房 ISBN-13: 978-4623056842 榎本博明(著)『<私>の心理学的探求―物語としての自己の視点から―』有斐閣 W・ギャラハー(著)『なぜ私は「私」なのか―パーソナリティの探求―』河出書房新社				
予習・復習について	教科書・参考書や事典等を活用して予習・復習が必要。シラバス中「榎」はテキストを「若」は参考書の1冊目を意味する。「若」が難しい人は、小塩を参照のこと。受講生による質問や意見提出を取り入れて授業を進める。				
成績評価の方法・基準	原則として試験の成績により評価するが、意見・質問の発言等による授業参加状況を加味して総合的に評価する。				
オフィスアワー	火曜 11:00~12:00				
担当教員からのメッセージ	社会科学科高校公民教員免許選択科目だが、教職科目との関連も深いので公民以外の免許課程を履修している学生も、熱意のある学生なら履修を勧める。また、人間理解の基本問題にも触れるので、人間学的な関心を持っている学生が履修するのも良いだろう。ただし、学習内容にあるように、答えを教わろうとしている学生には受講は薦められない。受講生の主体的な参加を期待する。				

授業科目名	アジア社会史 I				
担当教員名	戸部 健	所属等	人文社会科学部		
		研究室	A221		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年,4年	難易度	C	曜日・時限	木 1・2
キーワード	中国、近代史、現代史、国民党、共産党、日中戦争、中華人民共和国				
授業の目標	1) 近年の研究動向に適宜言及しながら、1920年代から1950年代にかけての中国史を見ていく。 2) 近代中国社会にとって、国家・党・日本・戦争などの要素がどのような意味を持ったのかについて考える。				
学習内容	1920年代～1950年代の中国史を、周辺各国との関係にも注意しながら概説的に見ていく。この時代、中国では政治的転変がめまぐるしく起ったが、そうした転変が起った原因や、その社会的な影響についても適宜論じる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 中国近現代史研究の趨勢 3. 中国共産党の成立 4. 国民党の動向 5. 国民革命と満洲事変 6. 南京国民政府と国民党 7. 革命根拠地の動き 8. 1930年代における日中関係 9. 日中戦争下の中国社会—重慶国民政府 10. 日中戦争下の中国社会—抗日根拠地 11. 日中戦争下の中国社会—日本統治下の地域 12. 日中戦争後の中国社会 13. 国共内戦と中華人民共和国の成立 14. 1950年代の中国社会 				
受講要件	特にありませんが、アジア史概説Ⅱをあらかじめ受講しておくこと、授業内容をより深く理解できます。				
テキスト	特にありません。				
参考書	菊池秀明『ラストエンペラーと近代中国：清末・中華民国』（中国の歴史 10）講談社、2005年。久保亨ほか『現代中国の歴史—兩岸三地 100年のあゆみ』東京大学出版会、2008年。飯島渉ほか編『シリーズ 20世紀中国史』1～4、東京大学出版会、2009年など。その他の参考文献は適宜授業中に指示します。				
予習・復習について	授業後は、ノートに書いたことをもう一度見直し頭の中を整理すること。分からないことがあったら適宜質問すること。				
成績評価の方法・基準	期末テスト：出席点など＝7：3とします。				
オフィスアワー	金曜日 3・4限（10：20～11：50）。事前アポが必要（jktobe@ipc.shizuoka.ac.jp）				
担当教員からのメッセージ	授業で興味関心を持ったことについてはそのままにせず、文献を読むなどして各自研鑽を深めるようにして下さい。 難易度（C）				

授業科目名	社会心理学Ⅱ				
担当教員名	橋本 剛	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 4 1 1		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード					
授業の目標	コミュニケーションと対人関係にまつわる社会心理学の基礎的な知識を習得する。				
学習内容	対人関係の形成・発展・維持・崩壊という一連のプロセスは、コミュニケーションを通じて進展する。本講義では、友人関係、恋人関係の身近な対人関係から、インターネットやマスメディアに至るまでのさまざまなコミュニケーションについて、社会心理学・対人心理学の観点から理解することを目指す。				
授業計画	1回 オリエンテーション 2回 コミュニケーションとは 3回 ソーシャルスキル 4回 対人魅力 5回 親密化過程 6回 恋愛の心理学 7回 アタッチメント 8回 セクシュアリティ 9回 進化心理学 10回 ジェンダー 11回 親密な関係のダークサイド 12回 対人関係の終結 13回 メディア・コミュニケーション 14回 リスク・コミュニケーション 15回 まとめ				
受講要件	心理学概論と基礎心理学Ⅰを履修済みであることが望ましい。該当しない場合は自習で補うこと。				
テキスト	吉田俊和・橋本剛・小川一美（編）『対人関係の社会心理学』ナカニシヤ出版（2012年刊行予定）／橋本剛『大学生のためのソーシャルスキル』サイエンス社				
参考書	吉田俊和・元吉忠寛（編著）『体験で学ぶ社会心理学』ナカニシヤ出版／和田実（編著）『男と女の対人心理学』北大路書房／池田謙一他『社会心理学』有斐閣／相川充・高井次郎（編著）『コミュニケーションと対人関係』誠信書房／その他随時紹介する。				
予習・復習について	文献等を活用して積極的に予習・復習することを推奨する。				
成績評価の方法・基準	成績は試験成績（85%）と各回授業時の小レポート（15%）により評価する。				
オフィスアワー	火曜 10:10～11:10 を予定している。				
担当教員からのメッセージ	社会心理学の全体像を理解するために、前期開講の「社会心理学Ⅰ」および来年開講予定の「臨床社会心理学Ⅰ」とあわせて受講することが望ましい。難易度 B。				

授業科目名	考古学概論 I				
担当教員名	篠原 和大	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 3 1 5		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年,2 年	難易度	A	曜日・時限	木 3・4
キーワード	考古学、遺跡・遺構・遺物、型式学・層位学、考古学史、日本考古学、埋蔵文化財				
授業の目標	考古学がどのような学問かを理解し、その歩み、研究法、現状と課題について学習する。				
学習内容	考古学の目的や成り立ち、さまざまな考古学の研究法、日本考古学の現状と課題、埋蔵文化財の保護と活用などについて学ぶ。				
授業計画	<p>ガイダンスー考古学とはどんな学問かー</p> <p>I 近代考古学の成立と歩み</p> <p>①近代考古学の成立と層位学的研究法・型式学的研究法／②日本考古学の歩み</p> <p>③近年の研究動向と考古学の現在</p> <p>II 考古学の研究法</p> <p>①層位学と型式学／②考古資料の分類と視点</p> <p>③さまざまな研究法</p> <p>III 日本考古学の現状と課題</p> <p>①旧石器時代研究の現状と課題／②縄文時代研究の現状と課題</p> <p>③弥生時代研究の現状と課題／④古墳時代研究の現状と課題</p> <p>⑤歴史考古学研究の現状と課題／⑥埋蔵文化財と考古学</p> <p>V まとめ</p>				
受講要件	なし。ただし、受講希望者数に応じた教室が確保できない場合は、人数を制限することがあります。				
テキスト	なし。毎回プリントを配布します。				
参考書	藤本 強『考古学の方法』2000年東京大学出版会。このほかの関連する文献は適宜紹介します。				
予習・復習について	資料（プリント）の多くは事前に配布しますので目を通しておいてください。ものを対象とする学問ですから、ノートだけではなく具体的なイメージを持つことが重要です。				
成績評価の方法・基準	授業への参加状況（コメントペーパー・小テストなど）と期末の筆記試験とで評価します。				
オフィスアワー	水曜 3・4 限（10時20分～11時50分）。要連絡、連絡先（jsksino@ipc.shizuoka.ac.jp）。				
担当教員からのメッセージ	<p>遺跡や博物館で実際にものを見ることをおすすめします。登呂遺跡や賤機山古墳、片山廃寺など近隣にも重要な遺跡があります。リニューアルされた登呂博物館・登呂遺跡公園は是非見学してください。</p> <p>1. 県立大学単位互換（認めます） 2. 科目等履修生（認めます） 3. 難易度（A）</p>				

授業科目名	基礎心理学 I				
担当教員名	田辺 肇,磯田 雄二郎,笠井 仁		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 1 2	
分担教員名	磯田 雄二郎,笠井 仁				
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年,2 年	難易度	A	曜日・時限	金 1・2
キーワード					
授業の目標	心理学の学習のための基礎となる専門知識の習得を図る。心理学の幅広い研究領域の中から、心理学概論で採り上げなかった、生物学的存在としての人間と社会的存在としての人間の交差する領域についての理解に寄与するテーマを採り上げ、心理学では何を、どのように検討しているのかについて理解する。				
学習内容	心理学概論で採り上げなかった知覚、記憶、性格などの体験の基礎過程やその生物学的基礎を中心に、心理学とはどのような学問領域であるかについて、心理学の研究領域、心理学の歴史と諸理論(基本的認識枠組み)、心理学的な問題のとらえ方・考え方の特徴について論じる。また、ストレスや心の障害の理解と対応、カウンセリングやグループプロセスなどを検討する。				
授業計画	1.オリエンテーション：心理学の領域の拡がり と 学び方（1 章：田辺） 2.意識と行動：こころの研究の歴史（1 章＋参考：2 章・1 0 章・1 1 章・1 5 章：田辺） 3.科学的心理学研究（心理学の方法と認識枠組み I）（1 章：田辺） 4.了解的人間理解と現象学的アプローチ（心理学の方法と認識枠組み II）（1 章＋参考：9 章：田辺） 5.知覚（1 1 章：田辺） 6.記憶（1 2 章：田辺） 7.性格（6 章：笠井）木曜日 8.性格検査（6 章：笠井） 9.ストレスとメンタルヘルス(8 章：笠井) 10.カウンセリングと心理療法 I (9 章：笠井) 11.カウンセリングと心理療法 II (9 章：笠井) 12.感覚(体験の生物学的基礎 I 身体)（1 0 章：磯田） 13.脳と心(体験の生物学的基礎 II 脳)(1 5 章・1 6 章：磯田) 14.心の障害とその生物学的・精神力動的基礎と対応（メンタルヘルスの基礎知識：磯田） 15.集団心理とグループ・プロセス（磯田） ※単元末尾の章は教科書の関連のある箇所を示す。				
受講要件	心理学コースへの進学を考える人は、心理学概論と併せて必ず履修すること。社会科学以外の人には、共通科目（「心理学」「心理学の世界」（隔年開講）など）の履修を勧める。				
テキスト	長谷川寿一ら（著）『はじめて出会う心理学 改訂版』有斐閣 2008(ISBN:4641123454)2,100 円。 授業時必携。				
参考書	内田一成（訳）『ヒルガードの心理学』（13 版・14 版）／ 無藤隆ら（著）『心理学 New Liberal Arts Selection』有斐閣／ 中島義明ら（編）『心理学辞典』有斐閣(CD-ROM 版あり)／ 中島義明ら（編）『新・心理学の基礎知識』有斐閣 2005(ISBN:4641183112)3,780 円(CD-ROM 版あり)				
予習・復習について	上に挙げたテキストおよび参考文献を参照しながら以下の方法を参考に予習・復習を充分に行うこと。				
成績評価の方法・基準	選択肢式客観試験（持込不可）の成績を中心として、授業への参加状況等を加味して（1 0 %程度）評価する。試験範囲は講義であつたことを中心に、授業計画に示した教科書の各章全範囲、および参考書の関連部分から出題される。参加状況には、授業への質問、意見、感想の提出や、予習、復習、課題への取り組みなどを含む。				
オフィスアワー	火曜 3・4 限(全教員とも)				
担当教員からのメッセージ	社会科学の心理学関係の講義系科目は、心理学概論と基礎心理学 I の履修を前提に展開されるので、2 年次以降開講の心理学講義科目を履修する人は事前に履修しておくこと。／ 「ヒルガードの心理学」は高価で個人購入向きでないが 13-14 版の訳本が図書館にある。原版の「(Atkinson &) Hilgard's Introduction to Psychology」は心理学教科書のグローバルスタンダード。原版を読む手引きとして訳本や辞典等を参照して学習するのが理想的な心理学自習(予習・復習)の一つの方法だろう。／ 難易度 A（入門科目だが、教養科目ではない。専門的な学習のための基礎を修得するための科目である）				

授業科目名	ラテン語Ⅱ				
担当教員名	田中 伸司		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟419	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	金7・8
キーワード	西洋古典、人文学、ラテン語文法				
授業の目標	ラテン語の簡単な文章を自力で読解できるようになる。				
学習内容	基本的な語形変化についてはすでに習得しているという前提の上で、ラテン語の文章を読むために統語法を中心に学びます。中盤からはラテン語の歌も練習します。				
授業計画	<p>前期の「ラテン語Ⅰ」のあとをうけて、「ラテン語Ⅱ」では統語法を中心に学ぶこととなります。文法を学びつつ、11月からはラテン語のうた（聖歌・讃美歌）などに向かってみようと思います。（美しく歌うことではなく、歌詞の内容を正確に理解することが目的ですが。）</p> <p>1月からは簡単なラテン語の原文に取り組む予定です。</p> <p>*一部の授業では辞書があると便利かと思いますが、購入する必要はありません。図書館のラテン語辞典（Oxford Latin Dictionary や『羅和辞典』研究社）を使用してください。</p>				
受講要件	ラテン語Ⅰを履修していること。あるいは、それと同等のラテン語力のあること。				
テキスト	田中利光『ラテン語初歩 改訂版』（岩波書店）				
参考書	小林標『ラテン語の世界 ローマが残した無限の遺産』中公新書(2006年) ISBN9874121018335				
予習・復習について	予習が不可欠です。1回分の予習にかかる時間は、前期の基礎的な部分の暗記をきちんとやっているかどうかによって、相当異なると思います。予習がきつい思ったときは、もう一度基礎的な変化の暗記を行ってください。				
成績評価の方法・基準	授業の平常点（宿題・練習問題への回答：70%）と期末レポート（30%）。				
オフィスアワー	火曜お昼休み（11:50-12:45） まれに会議・出張等がはいることがあります。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） ラテン語の世界をのぞいてみてください。結構、楽しい世界です。				

授業科目名	フランス事情Ⅱ				
担当教員名	コルベイ・スティーブ	所属等	大学教育センター		
		研究室	人 A325		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	月 1・2
キーワード	フランスの社会・文化、異文化理解				
授業の目標	<p>言語と文化は切り離せないものである。目標言語を理解するためにはその背景となる文化を理解することは必須である。この授業では学生がまずフランス文化の基礎的な背景知識（地理的背景、歴史、社会の仕組み、生活習慣、文学など）を学ぶ。本授業ではフランス語のテキストを使用し、フランスの文化をフランス語で読むことによって、その思考過程や構造を理解する。さらに、フランス文化の概念を、具体的な形として認識できるようにテキスト上の情報のみならず、映像なども利用する。様々な活動を通して、最終的に、学生自身が総合的かつ多角的な視点を持って、フランス文化・社会を捉え、個々の事象について自分なりの意見を構築することを一つの目標とし、より高度で具体的なコミュニケーションができることを目指す。</p>				
学習内容	<p>授業の流れとして、まずテキストの内容把握をする。（学生は予習としてテキストを読んでくる）テキストに沿って内容を理解し、学生からの質問があればそれに答える。さらに関連してその話題についての補足的な説明も加える。特に各トピックのキーワードについては、その言葉の背景について説明をし、発音や使い方なども指導する。適宜映像も使用し、理解を深める。授業の最後には意見交換や小作文を課す。</p>				
授業計画					
受講要件					
テキスト	プリントを配布する				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	<p>出席点、授業への参加（30%） 宿題（20%） 中間テスト（25%） 最終テスト（25%） 3回以上欠席する場合は単位不可</p>				
オフィスアワー	月曜日の14:30～16:00				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	中国言語文化講読Ⅳ				
担当教員名	埋田 重夫		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟518	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年,4年	難易度	B	曜日・時限	月3・4
キーワード					
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国文学独自の発想・措辞に親しむ。 2. 中国詩文の読解力と鑑賞力の向上。 3. 中国古典文学における基礎知識の獲得。 4. 中国の各種文献に対する調査能力の養成。 				
学習内容	六朝と唐代の二大基本文献（白氏文集と文選）を取り上げながら、中国古典文学・中国言語文化論・中国書誌学などの基本知識を身につけるための授業である。中国古典詩文の名作を丁寧に読むことで、漢文（古典中国語）の読解力を一段と高めることができるであろう。				
授業計画	<p>白氏文集と文選を読む（継続開講科目）</p> <p>この授業では中国の古典詩文を集中的に読み込む。扱う文学作品は、白居易自撰の『白氏文集』と昭明太子編纂の『文選』とする。前者の「別集」については教員による講読とし、後者の「総集」については、受講生と一緒に読み進める形式とする。</p> <p>半期開講の演習科目であるが、日本古典文化にも多大な影響を与えた『白氏文集』と『文選』の世界を、なるべく詳しく紹介していきたいと考えている。</p> <p>六朝時代後期の梁代に昭明太子によって完成された『文選』は、まさしく質量両面において中国文学の精華と称される。北宋期における「文選爛秀才半」（文選爛して秀才半ばす）の標語は、その事実を最も雄弁に物語っている。主として唐の李善注を用いて読み進め、中国文学の伝統的な注釈のあり方に習熟することも目標としたい。読解の過程では、必要に応じて唐代のいわゆる五臣注も適宜参照していく。具体的作品の精読にあたっては、漢語本来の文脈・節奏・語彙・語法に即した正確な読書力の養成につとめ、肌理の細かい指導をしていきたいと思う。</p>				
受講要件	漢文訓読を併用するので、受講生は中国語履修者に限定しない。日本言語文化・比較言語文化の学生の参加を歓迎する。中国古典学に対して興味のある学生の受講を歓迎する。				
テキスト	<p>プリント（南宋紹興本白氏文集・上海古籍出版社刊行李善注文選に拠る）。</p> <p>*最初のガイダンスで配布する予定。</p>				
参考書	<p>小尾郊一・花房英樹による『文選』全7冊（集英社・全釈漢文体系・1974年～1976年）〔静岡大学図書館蔵〕を推薦する。また携帯できる中型漢和辞典としては『新字源』（小川環樹ほか・角川書店）を推奨する。</p> <p>*関連する参考文献については授業で随時紹介し配布する予定。</p>				
予習・復習について	演習講読科目であるので、担当者は一定の予習準備が必要となる。				
成績評価の方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験またはレポート（最終授業時に実施または提出予定） 2. 小課題（授業時に適宜提出）。 <p>*上記2点を総合して成績評価を決定する。</p>				
オフィスアワー	月曜日の昼休み（12時から12時45分）を予定。事前にメール連絡が必要。				
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県立大学単位互換（認める）。 2. 科目等履修生（認める）。 3. 難易度（B）。 4. 教職国語（漢文）選択科目。 <p>*完全な演習形式で行う。詳細は開講時に説明する。</p>				

授業科目名	フランス文学概論Ⅱ				
担当教員名	安永 愛	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 5 2 5		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	フランス文学の特質、フランス文学の歴史、フランスの文化				
授業の目標	19 世紀から現代にいたるフランス文学の歴史を振り返りつつ、フランス文学の持つ魅力に触れる。				
学習内容	19 世紀から現代にいたるフランス文学の流れを辿る。基本的に講義形式であるが、フランス語作品の講読や、関連の映像鑑賞も取り入れる。本講義は「フランス文学概論Ⅰ」の続きである。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・近代小説の誕生—スタンダール、バルザック、フローベール ・近代詩の潮流—ボードレール、ヴェルレーヌ、ランボー、マラルメ ・二十世紀前半の新たな潮流—プルースト、ヴァレリー ・実存主義の文学—カミュ、サルトル、ボーヴォワール ・新たなフランス文学の流れ—デュラス、ビュトール、ル・クレジオ ・亡命作家、クレオール作家たち—クンデラ、シャモワゾーなど 				
受講要件	フランス語の基礎を習得していること。				
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	適宜紹介する。				
予習・復習について	特に課さないが、講義を聴いて興味を持った書物を読んでみて欲しい。				
成績評価の方法・基準	出席状況 20%、期末レポート 80%				
オフィスアワー	初回の授業でお伝えします。メールのアポイントにより随時対応可能です。アドレス jakurod@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	この講義が、作家や作品に出会う機縁となることを願っています。				

授業科目名	フランス言語文化演習Ⅶ				
担当教員名	浅野 幸生	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟408		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年,4年	難易度	D	曜日・時限	月5・6
キーワード	フランス語史、語彙論、フランス語読解力				
授業の目標	フランス語の文章を正確に読めるようにする				
学習内容	フランス語のテキストの購読。文法演習。背景文化の解説。				
授業計画	フランス言語文化基礎演習Ⅵの発展的な内容になりますが、具体的なことは未定です。				
受講要件	3年生以上				
テキスト	未定				
参考書	辞書（よい辞書）				
予習・復習について	予習が必要				
成績評価の方法・基準	平常点と試験の点数				
オフィスアワー	月14:20～15:30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	イギリス文学文化各論Ⅱ				
担当教員名	久木田 直江	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟429		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年,4年	難易度	C	曜日・時限	火5・6
キーワード	西洋中世、キリスト教文化、図像学				
授業の目標	イギリス中世の文化をキリスト教ヨーロッパの中に位置づけ、中世の思想と文化についての理解を深める。				
学習内容	中世ヨーロッパにおけるギリシャ・ローマ文化の継承、ユダヤ・キリスト教文化の浸透について思想史の観点から概観し、西洋文明理解の視座を養う。 指定したテキストを読むことで、著しい読解力と理解力の向上を目指す。				
授業計画	テキスト（The Medieval World View: An Introduction）を読む。最初の数回は講義形式で行うが、その後は受講生が分担する発表形式に移行する予定。				
受講要件					
テキスト	W.R. Cook and R.B. Herzman, The Medieval World View: An Introduction, 2nd ed (Oxford University Press, 2004)				
参考書					
予習・復習について	当然のことです。				
成績評価の方法・基準	受講状況と試験。				
オフィスアワー	水曜日 11:50-12:40				
担当教員からのメッセージ	将来、西洋社会で国際的に活躍する場を模索している学生にとって、西洋文化の真髄を学ぶ大切な機会です。				

授業科目名	日本語文化各論Ⅳ				
担当教員名	酒井 英行	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟321		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	火7・8
キーワード	虚構と現実、狂気と死				
授業の目標	芥川龍之介の晩年の実生活と作品について考える。				
学習内容	芥川龍之介はなぜ自殺したのか？ 芥川が自殺を目の前にひかえて描いた数編の短編小説を読解することで、その謎にせまってみたい。 晩年の芥川の実生活を、身近にいた人の回想や年譜で確認し、それらを念頭において、作品世界を解説していく。				
授業計画	1、『玄鶴山房』－他人の話に、芥川自らの心理を潜り込ませる手法。 2、『蜃気楼』－日常に忍び寄る死の影。芥川の妻の証言との比較。 3、『河童』－寓話ということについて考え、寓話のなかに露呈した芥川の苦悩を見る。 4、『或阿呆の一生』－自分の人生を「一生」と既に総括する芥川。自伝的でありながら、かなりフィクションが混じっている。死を前にして、なおかつフィクションを描かねばならぬ芥川の自意識を見る。 5、『歯車』－妄想と狂気の世界を、そのなかでのた打ち回りながら、なおかつ冷静に見つめる理性を考える。				
受講要件					
テキスト	芥川龍之介『河童・或阿呆の一生』（新潮文庫）				
参考書					
予習・復習について	予習重視。授業で扱う作品を熟読しておくこと。				
成績評価の方法・基準	授業時の4回の小テストの平均点によって評価する。				
オフィスアワー	水曜日9・10(16時05分～17時35分)				
担当教員からのメッセージ	1、県立大学単位互換(認める) 2、科目等履修生(認める) 3、難易度(B)				

授業科目名	英語学概論Ⅱ				
担当教員名	大村 光弘	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟427		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	火7・8
キーワード	生成文法、統語論、意味論、語用論				
授業の目標	英語の統語論・意味論・語用論を中心に、英語学の基礎知識を学習する。				
学習内容	一様に言語学といっても様々な分析方法が存在する。英米言語文化コースで提供する言語学は、生成文法と呼ばれる分析方法である。授業は、生成文法の観点から、英語学の下位分野のそれぞれが解明しようとする言語学的トピックと、その方法論を学ぶ。				
授業計画	<p>指定テキスト（『言語学入門』）に基づいて、生成文法の方法論を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス＋統語論1 2 統語論1 3 統語論1 4 小テスト1＋統語論2 5 統語論2 6 統語論2 7 統語論2 8 小テスト2＋意味論 9 意味論 10 意味論 11 意味論 12 小テスト3＋語用論 13 語用論 14 語用論 15 語用論 16 小テスト4 				
受講要件	英語教員免許必修。 英語学概論ⅠとⅠⅠの両方を履修するのが望ましい。				
テキスト	英語学概論Ⅰ・ⅠⅠ共通 『言語学入門』、(西原哲雄編)、朝倉書店				
参考書	必要に応じて適宜紹介する。				
予習・復習について	予習を前提にして授業を行う。				
成績評価の方法・基準	4回の小テストの結果(90%)＋平常点(10%)で評価する。欠席(30分以上の遅刻は欠席1回とみなす)は3回までとする。				
オフィスアワー	火曜日(13:00-14:00、事前に連絡を頂ければこれ以外の時間帯も可) 連絡先メールアドレス: jjmohmu@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(認める) 2. 科目等履修生(認める) 3. 難易度(B) 授業内容で理解できなかった事柄や疑問点をそのままにしないで、担当教員に質問するなどして理解を深めてほしい。				

授業科目名	比較文学文化基礎講読V				
担当教員名	南 富鎮	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟527		
分担教員名					
クラス	人文専門1A	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	火9・10
キーワード	韓国語、文法、文化				
授業の目標	韓国語を理解するとともに、その背後にある文化を理解する。				
学習内容	韓国語の仕組み、文法、文化事項についての理解を向上する。				
授業計画	韓国語のテキストを読みながら、文法、表現能力、読解の能力を高めていく。教材に沿って説明し、反復練習し、理解を確認する。				
受講要件	人文学部言語文化学科2・3・4年次（韓国語を履修したことのない学生）				
テキスト	李昌圭『韓国語を学ぼう（初級編）』（朝日出版社、2006年）				
参考書	教員が指定する				
予習・復習について	その都度指示する。				
成績評価の方法・基準	出席、試験、課題などを合わせて評価する				
オフィスアワー	月曜日7／8限				
担当教員からのメッセージ	基本的に楽な授業で、いろいろとためになるのかも（?）。				

授業科目名	比較文学文化基礎講読V				
担当教員名	花方 寿行	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟515		
分担教員名					
クラス	人文専門1B	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	火9・10
キーワード	スペイン語、スペイン				
授業の目標	スペイン語読解力を高めると共に、スペインの文化・社会についての基礎知識を身につける。				
学習内容	初修外国語で学んだ文法事項を確認しながら、スペイン語の長文読解力を身につける。必要に応じて新しい文法事項も学ぶ。またスペインを扱ったテキストを読むことで、スペインの文化・社会についての基礎知識も身につける。				
授業計画	1年次の必修初修外国語と、2年次前期の選択授業で学んだスペイン語の知識を利用して、テキストを読み進めていく。授業は基本的に訳読で、受講生は指定された箇所を前もって辞書を引き、訳せるよう準備してくる。習っていない文法事項が出てきた場合には、その都度教員の側が説明をする。また扱われるスペイン事情については、花方が情報を補い、その歴史や現状について教える。なお、この授業は初修の教科書の文法事項を学び終えていることを前提に行うので、原則として1年次の初修スペイン語と、2年次前期に開講されている選択スペイン語の授業を受講していること。ただし何らかの理由で授業では教科書を終えていなくても、独学で文法事項を一通り学んだ場合には、参加を許すこともある。最初の授業で相談するように。				
受講要件	「授業計画」参照。				
テキスト	アルフレッド・ロペス著、国本伊代編『スペイン紀行』弘学社、1600円（+消費税）				
参考書	初修スペイン語のテキスト（コピーまたは教科書）と西和辞書は、必ず持ってくる。				
予習・復習について	訳読の授業なので、辞書をきちんと引き、訳文を考えてくるのは忘れない。またスペイン語の復習ももちろんだが、興味を持った事象については、図書館などで積極的に情報を得るように。				
成績評価の方法・基準	出席・授業態度（訳がきちんと準備してあるか、等）・レポートの総合評価。				
オフィスアワー	最初の授業でアナウンスします。				
担当教員からのメッセージ	1. 県大との単位互換（認めない） 2. 科目等履修生（認めない）				

授業科目名	中国言語文化基礎講読Ⅱ				
担当教員名	埋田 重夫		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟518	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	水3・4
キーワード	中国語、読解力、中国文化、漢民族、異文化理解				
授業の目標	中国語の語学力を高めながら、中国文化全般に対する理解を深める。				
学習内容	日本と中国とは、古来さまざまな文化レベルにおいて密接な関係があり、日本人は中国の文化に対して常に憧憬にも似た関心を持ち続けてきた。近年では中国の存在は一段と高まり、各分野での日中交流も急速に進展している状況にある。こうした21世紀の国際環境のなかで、真の意味でこの国と交流していくためには、中国文化全般に対する基礎知識を学ぶことが絶対不可欠となる。この演習講読科目では、中国文化の基礎的な知識・教養を中国語の学習とともに習得し、中国学に対する総合的な見識を獲得することを目的とする。				
授業計画	<p>中国語で学ぶ中国文化基礎知識（継続専門科目）</p> <p>中国文化とは、中国社会を構成する中国人によって習得・共有・伝達される行動様式ないし生活様式の総体であるとの前提に基づき、中国文化伝統におけるさまざまな諸相について、分析と考察を深めていきたい。参考までにこの授業で扱う項目について、以下に箇条書きで紹介しておく。言及する項目は、年度ごとの使用教科書によって若干の異同がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 言語・文字 2 地理・歴史 3 民族・人口 4 政治・経済 5 歳時・風俗 6 社交・人情 7 思想・宗教 8 文学・芸術 9 生活・習慣 10 文化・交流 				
受講要件	中国語の初級を既に履修していることが前提となる。				
テキスト	初回授業のガイダンスにおいて詳しく説明する。				
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1 小島晋治ほか・中国百科（改訂版）・大修館書店 *ISBN4-469-23138-x 2 相原茂・中国語学習ハンドブック（改訂版）・大修館書店 *ISBN4-469-23125-8 				
予習・復習について	授業参加者全員の予習・復習が不可欠である。また輪読担当者は音読と翻訳の準備が必要となる。				
成績評価の方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1 試験（定期試験を予定している） 2 数回の小課題（平常授業時に提出） <p>*上述の2点を総合して成績評価を行う。</p>				
オフィスアワー	<p>月曜日の昼休み（12時から12時45分）を予定。事前に連絡が必要。</p> <p>*連絡先はメールアドレスを参照。</p>				
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 県立大学単位互換（認める） 2 科目等履修生（認める） 3 難易度（B） <p>完全な演習形式で行う。</p>				

授業科目名	中国文学史Ⅱ				
担当教員名	桑島 道夫	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟523		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	水9・10
キーワード	中国小説、口語と文語、日本文化への影響				
授業の目標	中国小説の流れをおおまかにつかみます。				
学習内容	<p>『三国志演義』『西遊記』等、テレビや漫画で見たり読んだりした人も多いと思います。しかし、実際に原典で読むのは格別な味わいがあり、たとえば『水滸伝』では、江戸の人びとの熱気や興奮を居ながらにして追体験できるのです。</p> <p>本講ではさわりの部分をできるだけ紹介しながら、スケールの大きさを誇り、バラエティに富む中国の小説がどのような文化的背景のもとで生み出されてきたのか、といったことも考えてゆきたいと思います。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 六朝志怪小説 3. 唐代伝奇 4. 明代四大奇書・その一 『三国志演義』 5. 明代四大奇書・その二 『水滸伝』 6. 明代四大奇書・その三 『金瓶梅』 7. 明代四大奇書・その四 『西遊記』 8. 清代・その一 『聊齋志異』 9. 清代・その二 『紅樓夢』 10. 中華民国期・その一 魯迅 11. 中華民国期・その二 創造社 12. 中華民国期・その三 現代派・巴金・張愛玲ほか 13. 中華人民共和国期・その一 建国から文革まで、文芸復興としての「新时期文学」 14. 中華人民共和国期・その二 中国文学の現在と今後 15. まとめ 				
受講要件	中国語を履修しておくことが望ましいでしょう。				
テキスト	授業中に随時指定。				
参考書	藤井省三・大木康『新しい中国文学史』（ミネルヴァ書房、1997年）				
予習・復習について	授業中に触れることのできる小説はごく一部です。翻訳でもいいですから、興味を持った小説を、授業後にぜひ自分で読破してみてください。				
成績評価の方法・基準	出席点、授業時の積極性、および期末レポートの成績等を考慮します。				
オフィスアワー	火曜日お昼休み 人文A棟523				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B）				

授業科目名	英語音声学				
担当教員名	服部 義弘	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟319		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	水9・10
キーワード	母音、子音、強勢、連続音声過程、リズム、イントネーション				
授業の目標	日本人英語学習者が心得ておかなければならない音声事実の諸相を明らかにしながら、美しい英語発音と、しっかりした聴解能力とを獲得することを目標とする。				
学習内容	個々の母音・子音の発音から、連続音声過程、リズム、イントネーションに至る、さまざまな音声現象について、産出・知覚の両面から音声訓練を行う。				
授業計画	1.音声学への誘い 2.標準発音と各種の変種 3.母音 4.子音 5.音節・音連鎖・連続音声過程 6.強勢・アクセント・リズム 7.イントネーション 8.音響音声学				
受講要件					
テキスト	服部義弘編 日英対照言語学シリーズ第2巻『音声学』（朝倉書店）				
参考書	授業時に指示する。				
予習・復習について	英語音声の習得には日頃から徹底した音声訓練を行うことが必要。予習・復習は欠かさないこと。				
成績評価の方法・基準	期末オーラルテスト（40%）、期末筆記試験（40%）、授業への参加度（20%）。				
オフィスアワー	火曜日5・6時限（12：45－14：15）				
担当教員からのメッセージ	1.県立大学単位互換（認める） 2.科目等履修生（認める）				

授業科目名	日本語文化基礎講読 I				
担当教員名	小二田 誠二		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 322	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード					
授業の目標	音読が“解釈”の表現であることを意識し、深く理解するために必要なことをしっかり調べ、一つ一つの言葉遣いを自覚して発することを目指します。 最終的に音読CDを作れたらいいな、と思っております。				
学習内容	江戸時代の代表的な小説を中心に、江戸時代を扱った戯曲なども含め、声に出して読みます。 “講読”ですが、参加学生達が調べ、読む事が授業の中心です。 受け身の学生には単位が出ません。				
授業計画	以下のような話題に従って材料を配布し、読み進める予定ですが、学生の人数やニーズに応じて大きく変わる可能性があります。 なお、随時CDやビデオを使用します。 1 はじめに 古文と現代文の間・文語と口語の間 素読の効用 2 江戸時代以前の文章 3 元禄以前の文章 4 西鶴 5 近松 6 芭蕉 7 上方と江戸 8 歌舞伎と浄瑠璃 9 時代と世話 10 記述された口語表現 11 江戸戯作の文体 12 位相語・役割語 13 江戸を扱った近現代作品など 14・15 まとめと仕上げ				
受講要件	特段の予備知識は必要ありませんが、古文が抵抗無く読めること。				
テキスト	適宜コピーを配布。				
参考書	授業中適宜紹介。 後期が始まるまでの間に、古典朗読音源を探しておくといいです。				
予習・復習について	配布物は熟読し、解らないことはとことん調べておくこと。 調べた物は必ず読めるようにしておくこと。				
成績評価の方法・基準	日常的な授業への参加と、レポートによって評価します。 遅刻にはペナルティを課します。				
オフィスアワー	あなたと私の空き時間。時間割をネットで公開していますので、確認して、なるべく予約して来てください。 http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jjskoni/time.html				
担当教員からのメッセージ	私にとっても実験的な授業です。 私にも“正解”はわかりません。 みんなで工夫しながら面白い物にしていきましょう。 後期が始まる前の様々な提案歓迎。 1. 県立大学単位互換 (○) 2. 科目等履修生 (○) 3. 難易度 (B)				

授業科目名	行政作用法				
担当教員名	高橋 正人	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人 A613		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード					
授業の目標	行政の行為形式及び義務履行確保制度を修得することにより、行政作用法の体系的な理解を目指す。				
学習内容	行政の行為形式 ー行政立法・行政計画・行政行為・行政裁量・行政契約・行政指導 義務履行確保制度/ 即時強制				
授業計画	1回 1 行政立法 (1) ー法規命令 2回 2 行政立法 (2) ー行政規則・意見公募手続 3回 3 行政計画 4回 4 行政行為 (1) ー定義と分類 5回 5 行政行為 (2) ー行政行為の効力 6回 6 行政行為 (3) ー瑕疵 7回 7 行政行為 (4) ー職権取消しと撤回 8回 8 行政行為 (5) ー附款について/ 行政裁量 (1) 9回 9 行政裁量 (2) ー行政裁量の司法統制 10回 10 行政契約 11回 11 行政指導 (1) ー種類と機能 (弊害) 12回 12 行政指導 (2) ー行政指導の統制 13回 13 義務履行確保 (1) ー行政上の強制執行 14回 14 義務履行確保 (2) ー行政罰その他 15回 15 即時強制				
受講要件	前期の行政法総論を受講していることが望ましい。				
テキスト	稲葉馨＝人見剛＝村上裕章＝前田雅子『行政法 (第2版)』(有斐閣、2010年)				
参考書	小早川光郎ほか『行政判例百選 I (第5版)』、なお、六法は毎回持参することが望ましい。				
予習・復習について	とくに復習が重要。授業の理解を確実にするために、テキスト・判例を熟読すること。				
成績評価の方法・基準	レポート3割、期末試験7割で評価する。				
オフィスアワー	最初の授業の際に伝える。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	国際法				
担当教員名	板倉 美奈子	所属等	法務研究科		
		研究室	人文学部 A 棟 5 3 2		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	火 5・6,金 7・8
キーワード	現代国際法、国際化・グローバル化、国際社会と日本				
授業の目標	国際法の基本概念や基本原則に対する基本的知識の修得を通じて、国際法の特性について理解し、現代国際法の諸問題を法的視点から把握し、自分なりの知見を確立すること。				
学習内容	<p>1648年のウェストファリア条約以降、長い時間をかけて形成されてきた近代国際法は、第二次世界大戦後の戦争の違法化や自決権の確立による構造転換を経て、国際化、さらにはグローバル化と評される時代状況の中で、新展開を見せている。</p> <p>この講義では、国際法の基本概念や基本原則について概説し、国際法の特性を描出すると同時に、海洋法、安全保障など現代国際法の主要な諸問題を取り上げる。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際法とは何か 2. 国際法の成立形式（法源） 3. 条約法 4. 国際法の主体／国家の成立 5. 国家の基本的権利・義務と管轄権 6. 領域国際法／海洋法 7. 平和と安全の維持 8. 国家責任法／国際環境法 				
受講要件	特になし				
テキスト	松井芳郎・佐分晴夫ほか『国際法〔第5版〕』（有斐閣Sシリーズ） このほか、授業時間中にレジュメを配布する。				
参考書	小寺・森川・西村『国際法判例百選〔第2版〕』（有斐閣）など。詳細は初回講義で指示する。				
予習・復習について	予習は不要。まず授業時間中にしっかりとノートを取り、テキストを読んで復習をすること。				
成績評価の方法・基準	<p>学期末の試験期間中に期末試験（論述式）を実施する。</p> <p>このほか授業期間中に小テストやレポートの提出を求めるときもありうる。</p> <p>成績評価は期末試験の結果に基づいて行う。上述の小テスト・レポート提出を課した場合には、これを加点要素として評価に組み込む。</p>				
オフィスアワー	初回講義時に指示する。事前のメール連絡が望ましい（jmitaku@ipc.shizuoka.ac.jp）。				
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） <p>この授業を通して、国際社会のさまざまな問題に対する知的好奇心を高め、国際社会や日本のありようについて、自分なりの視点を持てるようになることを期待しています。</p>				

授業科目名	外国書講読 I				
担当教員名	佐藤 信一	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 6 1 1		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年,4 年	難易度	B	曜日・時限	火 5・6
キーワード	Barack Obama、foreign policy、globalization				
授業の目標	英語の読解力を高めるとともに、今日のアメリカの政治・外交および国際問題について理解を深める。				
学習内容	New York Times, Foreign Affairs などの新聞・雑誌記事の中から、今年 1 1 月に行われるアメリカ大統領選挙に関する文献を選び、読み進める。ただ逐語訳するだけでなく、大意をつかむコツや記事の内容のより深い理解も重視する。				
授業計画	大統領選挙で争点になっている内政・外交の諸問題（格差、失業、対北朝鮮政策、米中関係、アフガニスタン政策など）について、ある程度テーマを絞り込んで、読み進めてゆく。 読む記事については、適宜コピーして配布する。				
受講要件					
テキスト	使用しない。				
参考書	授業で指示する。				
予習・復習について	十分に予習をし、質問なども用意して授業に臨むこと。				
成績評価の方法・基準	報告内容、授業中の発言、日本語訳テストなどにより評価する。				
オフィスアワー	水曜日 13 : 15 ~ 14 : 15				
担当教員からのメッセージ	英語力もさることながら、現在国際社会でどのようなことが起こっているのかということに関心を持って授業に臨んでください。				

授業科目名	商取引法				
担当教員名	小林 道生		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文学部 A 棟 5 1 1	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年,4年	難易度	B	曜日・時限	水 1・2
キーワード	商人、商号、営業、商業使用人、代理商、商業登記				
授業の目標	主として商法総則分野の基本的な理解を得る				
学習内容	本講義の内容は主に商法総則分野を対象とする。講義にあたっては、商法の規定する制度の意義、また、制度相互の関係など、基礎的なところから丁寧に、できるかぎり分かりやすく説明していきたいと考えている。重要判例についても、下級審のものをふくめて時間の許すかぎり紹介するつもりである。授業にあたっては、毎回、レジュメを配布する。				
授業計画	1回 商法の意義、商法の法源 2回 商法の特徴、商法の適用の順序 3回 商人の意義、商人概念と商行為概念の関係 4回 商人資格の得喪、営業能力 5回 営業の自由と制限 6回 商号の意義、商号の選定 7回 商号登記制度 8回 商号の保護 9回 名板貸 10回 営業の意義 11回 営業所、取引の対象としての営業 12回 商業使用人、とくに支配人 13回 代理商 14回 商業登記の意義 15回 商業登記の効力				
受講要件	民法の財産法分野の科目の履修を前提に講義を行う				
テキスト	テキストはとくに指定しないが、今年度はおおむね下記参考書の叙述どおりに授業を進める。				
参考書	森本滋編『商法総則講義 第3版』（成文堂,2007）、森本滋編『商行為法講義 [第3版]』（成文堂,2009）				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験による				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業終了後に受け付ける				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	刑法総論Ⅱ				
担当教員名	神馬 幸一	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 516		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	刑法総論				
授業の目標	初学者を対象に、刑法総論の基礎を講じ、刑法の理解を深める。				
学習内容	本講義では、刑法総論の基本的な問題について、下記の授業計画に基づき進行することにする。講義では、適宜、新しい判例及び刑法関連の改正内容についても採り上げる。				
授業計画	1 回 刑法総論Ⅰの復習（構成要件論から違法性論まで） 2 回 刑法総論Ⅰの復習（構成要件論から違法性論まで） 3 回 違法性論の応用問題：終末期医療と刑法 4 回 責任論（1）：責任能力 5 回 責任論（2）：原因において自由な行為 6 回 責任論（3）：違法性の意識・違法性阻却事由の錯誤 7 回 共犯論（1）：共犯の従属性 8 回 共犯論（2）：処罰根拠論 9 回 共犯論（3）：共同正犯論 10 回 共犯論（4）：教唆犯・幫助犯 11 回 共犯論（5）：共犯論の諸問題（共犯と身分） 12 回 共犯論（6）：共犯論の諸問題（共犯の錯誤） 13 回 共犯論（7）：共犯論の諸問題（共犯からの離脱） 14 回 罪数論：一罪として評価される特殊な場合 15 回 罪数論：犯罪が競合する場合				
受講要件	初学者向けであるので特になし				
テキスト	追って指定する。				
参考書	追って指定する。				
予習・復習について	第1回目の講義の際に、指摘する。				
成績評価の方法・基準	第1回目の講義の際に、指摘する(基本的に、期末の試験による)。				
オフィスアワー	追って指定する。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（○） 2. 科目等履修生（○） 3. 難易度（B） 法律学を学ぶときには、法令と並んで、裁判所の判例も重要である。追って指定されるテキスト・参考書に掲載されているような代表的な判例に関しては、その概略のみならず、実際に、判例集を自分なりに調べてみて、何故、そのような結論に至ったのかを考えてみてほしい。				

授業科目名	国際政治				
担当教員名	佐藤 信一		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 6 1 1	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4, 金 3・4
キーワード	孤立主義、国際主義、パックス・アメリカーナ、冷戦、グローバリゼーション				
授業の目標	20 世紀から 21 世紀初頭にいたる国際政治の動向を理解する。				
学習内容	最初にアメリカ外交における孤立主義と国際主義の 2 つの流れについて説明し、アメリカ外交を軸にして 20 世紀の国際社会の流れを理解する。その際特に、第二次大戦後のアメリカ外交の展開を、パックス・アメリカーナ（アメリカの覇権）の変遷という視角から、国内の政治・経済・社会の動きも含めて学ぶ。また、最近の中国、ロシア、インド、ブラジルなど新興諸国の台頭についても触れ、21 世紀におけるの国際社会構造の変動と今後の課題についても考える。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 アメリカ外交における孤立主義と国際主義 2 第一次大戦とアメリカ外交—ウィルソン大統領と国際連盟 3 第二次大戦とアメリカ外交—F. ルーズベルト大統領と国際連合の成立 4 パックス・アメリカーナの世界と冷戦—共産主義封じ込めと自由貿易体制の成立 5 ベトナム戦争敗北の衝撃とアメリカ社会の混迷—パックス・アメリカーナの蹉跌 6 ベトナム戦争後のアメリカ再生戦略—パックス・アメリカーナの再編 7 冷戦終結とグローバリゼーション下のパックス・アメリカーナ 8 イラク戦争とパックス・アメリカーナの後退 9 21 世紀国際社会の課題—国際協調は機能するか <p>授業は講義形式とし、適宜資料を配布する。またビデオ（映像の世紀など）を併用する。</p>				
受講要件					
テキスト	佐藤信一・太田正登編著『グローバル時代の国際政治史』ミネルヴァ書房、2008 年。				
参考書	授業で紹介する。				
予習・復習について	授業の前にテキストを読んで質問表を提出してもらい、それを参考にして講義を進める。				
成績評価の方法・基準	学期末のペーパー・テスト（60 点）に質問表とビデオの感想文（40 点）を加えて、評価する。				
オフィスアワー	水曜日 13:15~14:15				
担当教員からのメッセージ	日頃から、新聞や雑誌の国際問題に記事に目を通すなど、いま世界で起こっているさまざまに出来事に関心を持って授業に臨んで下さい。				

授業科目名	法律系特殊講義Ⅲ				
担当教員名	山本 雅昭	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文学部 A 棟 603		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年,4年	難易度	B	曜日・時限	水3・4
キーワード					
授業の目標	経済活動をめぐる犯罪現象について理解を深める。				
学習内容	経済刑法という刑法学の特殊領域を取り扱う。刑法各論の課題でもある財産犯のうちとくに経済活動と密接に関係する態様で行われる犯罪を端緒とするが、これにとどまらず、刑法典以外の法令に定める数多くの経済犯罪の中から、財産犯に還元できない態様の犯罪にまで及ぶこととしたい。				
授業計画	1回 経済犯罪対策の沿革 2回 企業経営の初期段階における犯罪 3回 企業経営の過程における犯罪 4回 企業経営の自律性と犯罪 5回 企業の内部統制と犯罪 6回 企業活動の終焉に伴う犯罪 7回 競争秩序に対する犯罪 8回 入札談合 9回 金融商品取引法違反 10回 不正競争防止法違反 11回 特定商取引法と犯罪 12回 知的財産権保護と犯罪 13回 経済犯罪における犯罪者処遇 14回 事業主処罰・法人処罰 15回 経済犯罪の規制手段				
受講要件	刑法総論、刑法各論ともに履修済みであることが望ましい。				
テキスト	配付するレジュメに即して授業を進める。なお、六法を必ず持参すること。				
参考書	山口厚『刑法各論[第2版]』有斐閣（平成22年）、神山敏雄ほか『新経済刑法入門』成文堂（平成20年）等				
予習・復習について	とくに、復習に際し、各単元について参考書の該当する記述を参照するほか、刑法典以外の法令に定める経済犯罪については、経済法等関連領域の参考書や雑誌に配慮することも重要である。				
成績評価の方法・基準	原則として、定期試験の成績で評価する。				
オフィスアワー	第1回の授業の際に指示する。				
担当教員からのメッセージ	難易度は中程度。経済刑法とは、経済活動に対する理解なくしては解明できないタイプの犯罪を取り扱う関係上、会社法や経済法など経済活動を規律する他の法分野に関心のある受講者も歓迎する。				

授業科目名	法制史Ⅱ				
担当教員名	橋本 誠一	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟609		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	水5・6
キーワード	日本近代法、法の継受				
授業の目標	19世紀後半の日本は、他の多くの非西欧世界と同様に、近代西欧法を継受することによって近代国民国家形成の歩みを開始しました（そして、現在に至っています）。そこで本講では、この世界史的現象である「法の継受」を当時の日本がどのように実行し、そしていかにそれを内実化させたのか（あるいは、内実化できなかったのか）という問題を考えてみたいと思います。				
学習内容	この授業で学習するのは、おもに①法制史的知識の習得、②資料に基づいて実証的に結論（仮説）を導出する訓練、の二つです。①は教師の講義により、②はとくに受講生の皆さんのレポート作成によって習得を目指します。				
授業計画	1回 はじめにー授業概要の説明 2回 近代ヨーロッパ法学の輸入1 3回 近代ヨーロッパ法学の輸入2 4回 自由民権運動と立憲国家構想1 5回 自由民権運動と立憲国家構想2 6回 明治前期の法1ー刑事法を中心に 7回 明治前期の法2ー民事法を中心に 8回 憲法の成立過程1ー憲法調査 9回 憲法の成立過程2ー国内制度改革 10回 明治憲法の成立とその特徴 11回 議会制度ー初期議会を中心に 12回 内閣制度ー天皇・軍部との関係を中心に 13回 裁判所制度ー司法裁判所と行政裁判所 14回 地方制度ー府県制郡制と市制町村制 15回 小テスト				
受講要件	授業内容を理解するためには、高校日本史、憲法、民法、刑法を履修していることが望ましい（必須条件ではありませんが）。				
テキスト	資料を配付します。				
参考書	各テーマごとに参考文献を紹介します。				
予習・復習について	日本史や法学の基礎知識について丁寧に説明している時間はありませんので、不明な点があれば、自学自習するよう心がけて下さい。				
成績評価の方法・基準	・小テスト（1回×40点）とレポート（1回×60点）をもとに成績を評価します。 ・レポートを作成する場合、授業内容から問題（たとえば、「□□はなぜ○○○なのか？」という疑問）を見つけ、それに関する資料や文献を図書館などで調査した上で、自分なりの答え＝仮説（「□□は△△△である」）を提示してください。 ・レポート作成に際し使用した文献資料はすべて注記すること。注記のないものは無条件で「0点」とします。				
オフィスアワー	木曜日10:20～11:50				
担当教員からのメッセージ	・県立大学との単位互換の可否（○）、科目等履修生の可否（○）、難易度（やや難）				

授業科目名	人権総論				
担当教員名	小谷 順子	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟612		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	B	曜日・時限	木1・2
キーワード	憲法、法の支配、立憲主義、権力分立、基本的人権、人権保障、自由、権利				
授業の目標	人権保障の歴史と意義、日本国憲法上の人権保障規定についての基礎知識を習得した上で、人権をめぐる各種論点（時事的な論点も含む）に関する詳細な知識・応用力を習得することを目標とする。				
学習内容	世界における「人権保障」の歴史的経緯・近代的意義を確認した上で、日本国憲法における人権保障について学ぶ。まず、人権全般に関する基礎的な事項を確認した上で、各条文の内容や論点について、国内の判例・学説や外国の例を参照しつつ学ぶ。				
授業計画	1回 基本的人権総論（憲法とは、人権保障の意義） 2回 基本的人権総論（人権の分類、制度的保障、人権の享有主体） 3回 基本的人権総論（人権の享有主体） 4回 基本的人権総論（人権の享有主体） 5回 基本的人権総論（人権保障の限界、私人間の人権保障） 6回 包括的人権と法の下での平等（幸福追求権） 7回 包括的人権と法の下での平等（法の下での平等） 8回 包括的人権と法の下での平等（法の下での平等） 9回 包括的人権と法の下での平等（法の下での平等） 10回 精神的自由権（二重の基準、思想良心の自由） 11回 精神的自由権（信教の自由） 12回 精神的自由権（政教分離） 13回 精神的自由権（表現の自由） 14回 精神的自由権（表現の自由） 15回 精神的自由権（表現の自由）				
受講要件	必修科目「憲法総論・統治機構」の内容を修得していることを前提としている。				
テキスト	芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第5版）』（岩波書店、2011年）				
参考書	六法： 出版社問わず 判例集（例）： 野中俊彦・江橋崇編著『憲法判例集』（有斐閣新書）、『憲法判例百選 I（第5版）』（有斐閣）など 用語集（例）： 大沢秀介編『確認憲法用語300』（成文堂）など				
予習・復習について	予習： 予め教科書の該当箇所を読む。 復習： 毎回の講義終了後、各自で、学務情報システム上の「授業支援システム」にログオンし、授業内容を再確認するための小テストを受験する。				
成績評価の方法・基準	授業支援システムの「小テスト」の成績30-40%程度、期末試験60-70%程度で評価する。期末試験は、教科書等の一切の資料の参照不可。 ※授業支援システムについては、授業中に説明する。				
オフィスアワー	木曜1コマ目の授業終了後。その他、メールにて、いつでも質問可。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(○) 2. 科目等履修生(○) 3. 難易度(B) 難易度(B)は、「憲法総論・統治機構」の授業で扱う憲法についての基礎知識を修得していることを想定したレベルです。				

授業科目名	刑事訴訟法				
担当教員名	山本 雅昭	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文学部 A 棟 603		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年,4年	難易度	B	曜日・時限	木 1・2
キーワード	刑法、刑事政策				
授業の目標	刑事手続の基礎を講じ、その理解を深める。				
学習内容	国は犯罪者に対して刑罰権をもつが、その実現には、捜査機関の捜査に始まり、裁判所の審理・判決を経て、行刑機関による刑罰の執行に至る一連の刑事手続を踏まなければならない。本科目においては、こうした刑事手続の流れとその問題点を概観する。				
授業計画	1回 刑事訴訟法の基礎 2回 刑事訴訟の主体 3回 捜査の端緒と捜査の原則 4回 被疑者の確保 5回 物的証拠の収集① 6回 物的証拠の収集② 7回 捜査の諸問題 8回 公訴の提起 9回 訴因と公訴事実 10回 公判の原則 11回 公判の準備 12回 公判の流れ 13回 証拠一般 14回 伝聞法則と伝聞例外 15回 自白法則・補強法則				
受講要件	刑法の知識を必要とするので、刑法（刑法総論又は刑法各論）を履修済みであることが望ましい。				
テキスト	配付するレジメに即して授業を進める。なお、六法を必ず持参すること。				
参考書	福井厚『刑事訴訟法』[第6版]（有斐閣双書プリマ・シリーズ）、田口守一『刑事訴訟法』[第5版]（弘文堂・法律学講義シリーズ）等				
予習・復習について	とくに、復習に際し、各単元について参考書の該当する記述を参照するほか、関連する判例を検索して学説と対比させてみることが重要である。				
成績評価の方法・基準	原則として、定期試験の成績で評価する。				
オフィスアワー	第1回の授業の際に指示する。				
担当教員からのメッセージ	難易度は中程度。刑事手続においては、実体的真実の発見と被疑者・被告人等に対する適正手続の保障との間で適当なバランスをとることが求められるのであって、いずれか一方に偏したものの見方に陥らないよう留意しなければならない。				

授業科目名	人権各論				
担当教員名	小谷 順子	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 6 1 2		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年,4 年	難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード	日本国憲法、憲法、人権保障、権力分立、立憲主義、基本的人権、自由、権利、平等				
授業の目標	人権保障に関する基礎知識をふまえ、人権保障をめぐる各論点（時事的な論点も含む）に関する詳細な知識・応用力を修得することを目標とする。				
学習内容	日本国憲法で保障される人権をめぐる各種論点について、現況や歴史的背景を確認した上で、国内の判例・学説を掘り下げて学習する。				
授業計画	1 回 ガイダンス、人権保障の再確認 2 回 精神的自由権（表現の自由） 3 回 精神的自由権（表現の自由） 4 回 精神的自由権（表現の自由） 5 回 精神的自由権（集会・結社の自由、通信の秘密） 6 回 精神的自由権（集会・結社の自由、通信の秘密） 7 回 精神的自由権（学問の自由） 8 回 経済的自由権（職業選択の自由） 9 回 経済的自由権（居住移転の自由、財産権の保障） 10 回 経済的自由権（財産権の保障） 11 回 人身の自由（適正手続） 12 回 人身の自由（被疑者・被告人の権利） 13 回 国務請求権・参政権 14 回 社会権（生存権、教育を受ける権利） 15 回 人権の享有主体性（公務員の人権）				
受講要件	「憲法総論・統治機構」、「人権総論」の授業レベルの知識を修得していること				
テキスト	芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第5版）』（岩波書店、2011年）（但し、「第4版」でも構わない。）				
参考書	教科書（例）： 野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利『憲法 I』（有斐閣）など 判例集（例）： 野中俊彦・江橋崇編著『憲法判例集』（有斐閣新書）、『憲法判例百選 I（第5版）』（有斐閣）など 用語集（例）： 大沢秀介編『確認憲法用語 300』（成文堂）など				
予習・復習について	予習： 予め教科書の該当箇所を読む。 復習： 毎回の講義終了後、各自で、学務情報システム上の「授業支援システム」にログオンし、授業内容を再確認するための小テストを受験する。				
成績評価の方法・基準	授業支援システムの「小テスト」の成績 20-40%程度、期末試験 60-80%程度で評価する。期末試験は、教科書等の一切の資料の参照不可。 ※授業支援システムについては、初回の講義で説明する。				
オフィスアワー	授業終了後。その他、メールにて、いつでも質問可。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（○） 2. 科目等履修生（○） 3. 難易度（B） 「人権総論」の授業で扱う内容を修得していることを前提としています。				

授業科目名	政治思想 I				
担当教員名	井柳 美紀	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 605		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	デモクラシー、公共性、主権、国家、権力分立、リベラリズム				
授業の目標	今日、私たちが用いている基本的な政治学上の理念や価値の歴史と意義を学ぶ。				
学習内容	政治思想の中でもヨーロッパの政治思想を中心に、古代ギリシアの政治思想から出発して、近代政治学までを主な対象として、各々の時代の主要な政治思想家の政治思想を検討して、政治学上の理念や価値の変遷、及びその意義を学ぶことで、現代政治の諸価値を再検討するための手がかりを得る。				
授業計画	1回 プラトンの政治思想 2回 アリストテレスの政治思想 3回 キリスト教とアウグスティヌス 4回 マキアヴェリと近代政治学 5回 ボダンと主権論 6回 グロチウスと近代自然法論 7回 ホッブズ 8回 ロック 9回 モンテスキュー 10回 文明社会とルソー 11回 アメリカ革命の政治思想 12回 保守主義－バーク、ヘーゲル 13回 社会主義－マルクス 14回 自由主義－ミル、トクヴィル 15回 20世紀の自由民主主義				
受講要件	特になし。				
テキスト	・岡崎晴輝・木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』（ミネルヴァ書房、2008年）				
参考書	・佐々木毅・鷲見誠一・杉田敦『西洋政治思想史』（北樹出版、1995年） ・福田歓一『政治学史』（東京大学出版会、1985年）				
予習・復習について	テキスト、及び授業中の配付物を、予習・復習用の資料として参照されたい。				
成績評価の方法・基準	論述式による期末試験を中心に評価する。				
オフィスアワー	授業終了後の7・8時限（事前にご連絡の上お越し下さい。）				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（○） 2. 科目等履修生（○） 3. 難易度（B） 西洋の政治思想の歴史を学ぶが、現代政治への関心をもった学生の参加も歓迎する。				

授業科目名	債権各論				
担当教員名	米谷 壽代		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 2 5	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	金 5・6
キーワード	債権各論、契約法、契約各論、不当利得、事務管理、不法行為				
授業の目標	債権各論の対象とする範囲の基礎的な知識の修得を前提とした上で、判例の学習等を通じて、実社会における多様な問題につき、過去にいかなる紛争が生じ、それに対する解決策としてどのような解釈論が提示できるのか具体的な事例ごとに議論し、多角的に考える姿勢を身に付ける。また、近年の債権法改正の議論についても適宜見ていくことができればと考えている。				
学習内容	債権各論についての基本的な理解と現在の理論状況を学修する。				
授業計画	1 回 授業の概要 2 回 契約の基礎 3 回 契約の成立・効力 4 回 契約の解除 5 回 売買（1）予約、手付、買戻し 6 回 売買（2）売買の効力（瑕疵担保責任） 7 回 贈与 8 回 消費貸借・使用貸借 9 回 賃貸借 10 回 雇用・請負 11 回 委任・寄託・組合・和解 12 回 事務管理 13 回 不当利得 14 回 不法行為法の構造 15 回 特殊な不法行為				
受講要件					
テキスト	永田ほか『債権—エッセンシャル民法3』（有斐閣ブックス）松本恒雄・潮見佳男『判例プラクティス民法 II 【債権】 』				
参考書	中田ほか編『民法判例百選 II 債権（第6版）』（有斐閣） 潮見佳男『債権各論 I 契約法、事務管理、不当利得』（新世社） 潮見佳男『基本講義 債権各論〈2〉不法行為法』（新世社） 授業時に適宜指定する。				
予習・復習について	講義内容が広範囲にわたり、かつ初学者には理解が容易でない分野も多いので、講義の内容については、必ず毎回予習・復習をすること。（講義に関連する項目の新聞記事の切り抜きなど、受講生の関心に応じて課題を出すこともある。）				

成績評価の方法・基準	原則として、学期末に実施する筆記試験による。 学期の途中に小テスト、レポートを課す場合もある。
オフィスアワー	初回授業時に指定する。
担当教員からのメッセージ	

授業科目名	債権総論				
担当教員名	藤巻 梓	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人 A617		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	金 9・10
キーワード	民法、債権総論、債権法				
授業の目標	契約の基本構造を理解するとともに、私たちが社会生活を送るうえで最も基本的な法律である「民法」の意義とその社会的機能を考える。				
学習内容	一般的に抽象的な印象のある債権総論であるが、具体的な紛争事例を参考にして学修を進めることにより、債権総論の有する目的および社会的機能についての理解を深める。				
授業計画	1回 インTRODクシヨン（債権・債務関係） 2回 債権の種類と目的 3回 債権の効力・履行の強制 4回 債務不履行 5回 債務不履行と損害賠償 6回 受領遅滞 7回 責任財産の保全（1）債権者代位権 8回 責任財産の保全（2）詐害行為取消権 9回 多数当事者の債権、連帯債務 10回 保証債務 11回 債権関係の移転（1）債権譲渡① 12回 債権関係の移転（2）債権譲渡②、その他 13回 債権の消滅（1）弁済 14回 債権の消滅（2）相殺 15回 債権法改正の動向				
受講要件	【要注意】下欄の「担当教員からのメッセージ」を参照すること				
テキスト	永田眞三郎ほか『債権 - エッセンシャル民法3』（有斐閣ブックス）、松本恒雄ほか『判例プラクティスII 債権』（信山社）を毎回持参すること				
参考書	中田裕康『新版 債権総論』（岩波書店）、田山輝明『債権総論』（成文堂）、内田貴『民法III 債権総論・担保物権』（東京大学出版会）、民法判例百選（有斐閣）、内田貴『債権法の新時代』（商事法務）等 詳細については、講義時に適宜指示する。				
予習・復習について	学修の範囲は広汎で、内容の難易度も上がるため、講義の予習・復習および指示された判例の確認が必須である。				
成績評価の方法・基準	原則として、学期末の試験期間内に実施する試験の結果による				
オフィスアワー	初回の講義時に指示する				
担当教員からのメッセージ	平成16年度以前の入学生は、「債権総論」と「債権各論」の2科目を修得した場合、「金融商品取引法（4単位）」に読替える。平成17年度から平成22年度の入学生は、「債権総論」と「債権各論」の2科目を修得した場合に、「契約法各論（4単位）」に読替える。 なお、上記のいずれの年度の入学生も、「債権総論」と「債権各論」のいずれか1科目のみを修得した場合には卒業単位には算入されない。				

授業科目名	環境政策				
担当教員名	水谷 洋一	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通L棟401		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年,4年	難易度	B	曜日・時限	火3・4,金5・6
キーワード	地球温暖化、京都議定書、コペンハーゲン合意、京都議定書目標達成計画、環境税（温暖化対策税）、排出量(権)取引				
授業の目標	主要な環境問題をめぐる国内外の政策動向とそれへの経済学をベースとした政策的アプローチのエッセンスを修得することを目標とする。				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化問題を取り上げ、日本経済のあり方と各問題との関連、国内外の対策の動向、各分野での様々な政策・措置につき講義する。 ・環境政策における経済的手段のうち、主要なものをいくつか取り上げ、それぞれのアプローチの概要を具体例を引きながら講義する。 				
授業計画	<p>■前半</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地球温暖化と温室効果ガスの排出 ② 地球温暖化の将来予測と影響 ③ 地球温暖化防止に向けての国際的な取り組み1：京都会議まで ④ 地球温暖化防止に向けての国際的な取り組み2：京都議定書の内容 ⑤ 地球温暖化防止に向けての国際的な取り組み3：マラケシュ会議と京都議定書の発効 ⑥ 地球温暖化防止に向けての国際的な取り組み4：京都議定書からコペンハーゲン合意へ ⑦ 日本における地球温暖化対策の展開1：京都会議まで ⑧ 日本における地球温暖化対策の展開2：京都議定書と「大綱」 ⑨ 日本における地球温暖化対策の展開3：京都議定書目標達成計画とその見直し ⑩ 日本における地球温暖化対策の展開4：中期目標をめぐる議論とコペンハーゲン会議 ⑪ 諸外国における地球温暖化対策の動向1：EU諸国 ⑫ 諸外国における地球温暖化対策の動向2：アメリカ ⑬ 諸外国における地球温暖化対策の動向3：主要途上国 <p>■後半</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑭ 市場均衡と外部性 ⑮ 市場の失敗とピグー税の考え方 ⑯ 環境政策における経済的手段①～直接規制とピグー税～ ⑰ 環境政策における経済的手段②～ボームル＝オーツ税～ ⑱ EUにおける環境税と日本における環境税導入論議 ⑲ 環境政策における経済的手段③～排出量取引～ ⑳ EU排出量取引制度とイギリスにおけるポリシー・ミックス <p>■特別講座（テーマ未定）</p>				
受講要件	とくになし				
テキスト	なし（適宜、レジュメや資料プリント等を配布する）				
参考書	授業でそのつど紹介する。				
予習・復習について	1回の授業につき、予習・復習合わせて週1時間程度レジュメ、資料プリントを読めば十分である。宿題を出す場合がある。				
成績評価の方法・基準	講義前半が終わったところで指定したテーマでレポートを作成・提出してもらおう。また、最終の講義の際に筆記試験を行う。レポートの評価点が合格ライン（100点満点中60点）をこえなければ単位を認定しない。合格ラインをこえた場合には、筆記試験の点数により成績評価を行う。				
オフィスアワー	火曜日 11・12時限を予定。事前連絡が必要。 連絡先メールアドレス（jeymizu@ipc.shizuoka.ac.jp）				
担当教員からのメッセージ	講義に計画的に遅刻したり、講義中におしゃべりをする等、受講態度がわるい者には単位を認定しないことがあるので、気をつけること。				

授業科目名	会計学Ⅱ				
担当教員名	永田 守男	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通L棟324		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	火5・6
キーワード	会計制度、資産会計、負債会計、純資産会計、損益会計				
授業の目標	財務会計の基本を把握し、損益計算書と貸借対照表の理解を深めることを目標とする。				
学習内容	財務諸表に現れる基本的な項目の意味を、ついでその理論的な背景について理解する。これらを踏まえて、受講生の理解度に応じて高度な会計処理について学習する。				
授業計画	1回 会計学Ⅰの復習および負債概念 2回 流動負債および固定負債1 3回 固定負債2（社債） 4回 固定負債3（年金負債） 5回 引当金1 6回 引当金2 7回 小テスト＋純資産概念 8回 株主資本1 9回 株主資本2 10回 剰余金の配当 11回 連結財務諸表1 12回 連結財務諸表2 13回 個別課題1（資産除却債務） 14回 個別課題2（リース会計） 15回 個別課題3（税効果会計）				
受講要件	1年次の簿記Ⅰ・Ⅱを履修していること、かつその単位を修得していることが望ましい。また、会計学Ⅰを履修し、その単位を修得していることが望ましい。				
テキスト	加藤盛弘・志賀理・上田幸則・川本和則・山内高太郎『会計学の基本』森山書店、2009年。				
参考書	必要に応じて講義中に指示します。				
予習・復習について	会計学はテクニカルタームがたくさん出てきます。とくに復習を欠かさないことが大切です。				
成績評価の方法・基準	講義期間中におこなう中間テスト(40点相当)＋期末テスト(60点相当)の合計によって評価します。				
オフィスアワー	火曜日 10:30～11:30				
担当教員からのメッセージ	1.県立大学単位互換（認める） 2.科目等履修生（認める） 3.難易度 B 各自1年次の簿記Ⅰ・Ⅱの内容を復習すること。				

授業科目名	地方財政論				
担当教員名	川瀬 憲子		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟409	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年,4年	難易度	C	曜日・時限	火5・6,水3・4
キーワード					
授業の目標	資本主義国家における地方財政や地方分権、自治・参加のシステムがどのようにして発達してきたのか、いま、どのような改革が求められているのかといった課題に対して、歴史や国際比較という観点を交えながら、様々な角度から洞察力を培うことを目標としている。				
学習内容	前半は、地方財政入門編と歴史編に分かれるが、前者では、日本の地方財政の仕組みや課題、後者では主として歴史的な流れに即して、欧米と日本の地方財政がどのようにして発達してきたのかを幅広い観点から取り上げる。後半は、現代日本の問題に焦点を当てて、公共事業、社会福祉政策、地方税、地方交付税や補助金、地方債などの個々の問題ごとに、制度を含めて解題していく。市町村合併、三位一体の改革、地域主権改革によって、国民生活や地域社会に及ぼされる影響についても、具体的な事例をあげながら、わかりやすく説明を加えることにしている。				
授業計画	1回 ガイダンス 2回 地方財政の仕組みと地方自治 3回 分権改革と市町村合併 4回 三位一体の改革と地方財政 5回 17世紀ヨーロッパの市民的財政思想 6回 自由主義的財政思想とイギリス産業革命 7回 19世紀末期における英独の地方財政改革 8回 世界恐慌とアメリカニューディール期の財政改革 9回 サッチャー政権下の地方財政改革 10回 明治地方自治制と地方財政 11回 大正デモクラシー期の自治要求 12回 昭和恐慌と井上・高橋財政 13回 戦後改革とシャープ勧告 14回 地方予算・ローカルガバナンスと財政民主主義 15回 経費論① 国家の役割と地方経費				
受講要件	毎回出席すること				
テキスト	川瀬憲子（2011）『「分権改革」と地方財政—住民自治と福祉社会の展望』自治体研究社				
参考書	川瀬憲子（2001）『市町村合併と自治体の財政』自治体研究社、宮本憲一・遠藤宏一編（2006）『セミナー現代地方財政Ⅰ』勁草書房、宮本憲一・鶴田廣巳編（2008）『セミナー現代地方財政Ⅱ』勁草書房他				
予習・復習について	テキスト、参考文献、新聞などをしっかり読んでおくこと。				
成績評価の方法・基準	出席（30%）と試験（70%）をもとに評価を行う。出席点としては、適宜、感想やまとめを課す予定。テストは、中間テストと期末テストの2回に分けて実施する予定。				
オフィスアワー	オフィスアワー一覧表を参照のこと。				
担当教員からのメッセージ	携帯電話の電源を切っておくこと。 県立大学との単位互換：認める。 科目等履修生：認める。 難易度 C				

授業科目名	ミクロ経済学Ⅱ				
担当教員名	山下 隆之		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟312	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水5・6
キーワード	経済理論、ミクロ経済学、消費者行動、独占、寡占				
授業の目標	市場メカニズムの意義について考察します。市場メカニズムで解決できない問題に関しては、代わる解決策を考えます。現代の経済問題を理論的に分析する力を養ってもらいたいと考えています。併せて、国家公務員Ⅰ種試験レベルのミクロ経済学の問題を解ける力を身に付けてもらいたいと思っています。				
学習内容	1年次の「ミクロ経済学Ⅰ」に引き続いて、ミクロ経済理論を学習します。消費者行動の理論と不完全競争の理論に関して、中級レベルの内容を学びます。				
授業計画	1回 オリエンテーション 2回 近代経済学の歴史 限界革命 3回 消費者行動の理論(1) 選好と無差別曲線 4回 消費者行動の理論(2) 予算制約と最適選択 5回 消費者行動の理論(3) 効用分析, 双対性 6回 消費者行動の理論(4) スルツキー分解, 需要曲線の導出 7回 消費者理論の応用 労働供給 8回 独占の理論(1) 独占均衡 9回 独占の理論(2) 価格差別化 10回 独占の理論(3) 独占の規制, 部分独占 11回 寡占の理論(1) クールノー複占 12回 寡占の理論(2) シュタッケルベルグ複占 13回 寡占の理論(3) ベルトラン複占 14回 寡占の理論(4) 屈折需要曲線理論 15回 独占的競争の理論				
受講要件	ミクロ経済学Ⅰ・経済数学Ⅰを履修済みでないと、単位取得は難しいでしょう。 なお、平成16～22年度入学者は履修不可です。(月曜5・6&水曜1・2を履修すること。)				
テキスト	奥野正寛編著『ミクロ経済学』東京大学出版, 2008年. 浅利一郎・山下隆之著『はじめよう経済数学』日本評論社, 2003年.				
参考書	必要に応じて紹介します。				
予習・復習について	予習…テキストを読むこと。 復習…授業時間の2倍を目安として、例題や多くの練習問題を解いて下さい。(学生便覧の人文学部規則第6条を参照。)				
成績評価の方法・基準	学期末の筆記試験(100%)				
オフィスアワー	月曜日 10:20-11:20 (前学期) / 月曜日 14:25-15:25 (後学期), 研究室 (L312)				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(認める) 2. 科目等履修生(認める) 3. 難易度(B)				

授業科目名	マクロ経済学 I				
担当教員名	石橋 太郎	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通 L 棟 4 1 5		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	木 3・4
キーワード	マクロ的視点、市場、国内総所得 (GDP)				
授業の目標	経済のマクロ (巨視) 的見方とはどういうものか、そしてマクロ的にとらえる市場とはどういうものか、GDP とは何か、GDP で何が分かるかについて理解することで、2 年生以降の経済学学習の基礎を構築する。				
学習内容	本講義では、「マクロ経済学」の入門的レベルについて解説する。				
授業計画	以下の 6 項目について講義を行う予定である。なお、1 項目あたり、講義 2 回から 3 回分を予定している。 1 マクロ経済学の範囲—マクロ経済学によって分析する対象、マクロ的視点とは— 2 マクロ経済学の範囲と市場 3 GDP とは何か 4 GDP と国民所得勘定 (国の家計簿) 5 GDP はどのようにして決まるか 6 GDP と経済政策				
受講要件	必ずしも受講要件ではないが、ミクロ経済学、経済数学の講義を併せて履修することが望ましい。				
テキスト	最初の授業で示します。				
参考書	教科書と合わせて、最初の授業で示します。				
予習・復習について	復習の方に重点をおいた学習を心がけてください。				
成績評価の方法・基準	中間試験 (時期は、11 月下旬ころ) 50%、期末試験 50%で行います。				
オフィスアワー	最初の授業で示します。				
担当教員からのメッセージ	オフィスアワーは、最初の授業で受講生が質問しやすい時間を聞いた上で決めますが、それ以外の時間に質問に来たい人は、次のメールアドレスに連絡をしてもらえれば調整します。 jetishijp@gmail.com メールだけの質問も構いません。メールで返答します。				

授業科目名	統計学Ⅱ				
担当教員名	上藤 一郎	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通L棟 326		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	金 5・6
キーワード	母集団と標本、無作為標本抽出、確率変数と確率分布、統計的推定、統計的検定				
授業の目標	推測統計学の基礎と応用について学習します。				
学習内容	<p>本講義では、推測統計学の初歩的な基礎理論とその応用を学習します。推測統計学とは、確率論をベースとしたデータ解析の方法（統計的推測の方法）に関する科学です。従って講義ではまず確率論の基礎を学習します。続いて、母集団と標本の区別と、それに基づく推測統計学の基礎概念や諸定理を取り上げそれらについて平易に解説します。その上で、応用上重要な方法である統計的推定と統計的検定法について、さまざまな方法を具体的な分析事例を用いながら解説します。なおその際、これらの手法を統計データ（人間の行動や社会・経済に関するデータ）に適用する場合の問題点に留意しながら講義を進めていく予定です。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確率の基本 2. 確率変数と確率分布 <ol style="list-style-type: none"> (1) 確率変数と分布 (2) 期待値と分散 (3) 2項目分布 (4) 正規分布 3. 母集団と標本 <ol style="list-style-type: none"> (1) 母集団と標本の峻別 (2) 確率化、復元抽出と非復元抽出 (3) 大数の法則 (4) 衷心極限定理 4. 統計的推定 <ol style="list-style-type: none"> (1) 良い推定量の基準 (2) 最尤法 (3) 区間推定 5. 統計的検定 <ol style="list-style-type: none"> (1) 統計的検定の論理 (2) 標本分布 (3) さまざまな統計的検定 6. 標本調査法 				
受講要件	必要条件ではありませんが、統計学Ⅰを履修していることが望まれます。				
テキスト	金子治平・上藤一郎編『よくわかる統計学Ⅰ－基礎編－』ミネルヴァ書房，2007年。				
参考書	講義を通じて随時指示します。				
予習・復習について	予習：テキストの精読 復習：テキストの章末問題等の計算				
成績評価の方法・基準	成績は、①平常点（10%）、②各単元毎の課題（30%）、③期末テスト（60%）によって評価します。				
オフィスアワー	開講時に指示します。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B）				

授業科目名	経済政策Ⅱ				
担当教員名	寺村 泰	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通L棟315		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	金9・10
キーワード	経済政策、重商主義、自由主義、帝国主義、現代資本主義、福祉国家				
授業の目標	重商主義から現代資本主義にいたる経済政策を概観し、経済政策の発展過程を学ぶ				
学習内容	本講義は、経済学を学ぶものにとっての基礎教養ともいえる大局的な経済政策の発展過程について考察する。資本主義的な経済システムの展開過程と経済政策の発展・展開過程は密接に関連している。したがって、歴史的な序列に従いながら経済政策の基本的性格の段階的変化を解説する。				
授業計画	重商主義期の経済政策 A 重商主義とは B 前期重商主義の経済政策 C 後期重商主義の経済政策 自由主義期の経済政策 A 産業革命の展開(経済的基礎過程の変化) B 資本主義確率過程における国家の変容(政策主体の確立) C 重商主義政策の廃棄と自由主義経済政策の定置(政策内容) 帝国主義期の経済政策 A 大不況と独占資本の成立(経済的基礎過程の変化、政策主体の変容) B 各国の経済政策(政策内容) C 帝国主義批判の経済政策思想 現代資本主義の経済政策 A 現代国家の特徴 B 現代資本主義の経済政策の形成 C 福祉国家型現代資本主義の成立 D 軍事国家型現代資本主義の成立 E 産業国家型現代資本主義の成立 F 社会主義体制の崩壊と現代資本主義の変容				
受講要件	特になし				
テキスト	レジュメを配布する				
参考書	講義中に指示する				
予習・復習について	予習は必要ない。講義で関心を持ったことをさらに自分で調べてもらいたい				
成績評価の方法・基準	期末の記述式テストで判定する				
オフィスアワー	掲示する				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(認める) 2. 科目等履修生(認める) 3. 難易度B(普通)				

授業科目名	応用数学基礎				
担当教員名	畑 宏明		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 408	
分担教員名					
クラス	数学	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月 9・10
キーワード	確率、統計				
授業の目標	確率統計の基礎の完成				
学習内容	組合せ計算、確率とその計算、期待値、分散、標本データ、推定、検定の基礎を学ぶ。				
授業計画	1回 個数の処理、順列と組合せ、二項定理 2回 確率とその計算、事象の独立 3回 条件付き確率、ベイズの定理 4回 確率変数、期待値、分散 5回 2項分布(1) 6回 2項分布(2) 7回 標本と母集団 8回 確率分布の性質 9回 正規分布、2項分布の正規近似 10回 推定とは・・・ 11回 区間推定 12回 仮説と2種類の誤り 13回 平均値の検定 14回 相関と回帰(1) 15回 相関と回帰(2)				
受講要件	集合と論理基礎、微分積分学基礎を受講していること。				
テキスト	篠田正人著『教育系学生のための数学シリーズ 確率論・統計学入門』共立出版				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	講義中に指示する。				
成績評価の方法・基準	中間試験、学期末試験で評価する。				
オフィスアワー	初回の講義で紹介する。				
担当教員からのメッセージ	確率、統計の基礎を高校の復習から学んでいきます。講義だけではなく、演習レポートを通じて確率統計を実践的に理解してもらえればと思います。				

授業科目名	系統生物学				
担当教員名	伊藤 富夫		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部C棟505	
分担教員名					
クラス	理科	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	A-B	曜日・時限	火5・6
キーワード	生物の系統、生物の進化、生物の栄える理由、滅びる理由				
授業の目標	生物の進化の過程で、人類がどこから来て、どういう位置にいるのかを、わかりやすく講義する。				
学習内容	1. 進化の道筋をたどりながら、各生物群の特徴と系統関係を知る。 2. 地球の歴史の中で大きな環境の変化につれ、各生物がどのように栄え、滅び、変遷してきたかを理解する。				
授業計画	1. I. 序 A. 系統生物学とは B. 系統生物学の歴史 C. 地球と生物の歴史 2. II. 原核生物 (細胞核を持たない単細胞生物) 3. III. 原生生物 (細胞核を持つ単細胞生物) 4. IV. 植物の世界 V. 菌の世界 5. VI. 動物への道: 中生動物 海綿動物 (側生動物) 6. VII. 真正後生動物 7. A. 無体腔動物: 扁形動物 腔腸動物 紐形動物 8. B. 擬体腔動物: 袋形動物 9. C. 真体腔動物 10. 1. 原腔動物: 触手動物 毛顎動物 半索動物 棘皮動物 11. 動物の幼生 生きている化石 動物の血液 12. 2. 真正真体腔動物: (1) 無体節動物: 軟体動物 13. (2) 体節動物: 環形動物 節足動物 脊椎動物 14. VIII. 最初の王者、三葉虫 IX. 脊椎動物の起源 X. 生物の上陸 15. XI. 空への進出 XII. 恐竜の滅びた理由 XIII. 人の進化				
受講要件					
テキスト	海と生物の世界が人間に教えてくれること (サイエンスハウス) 複合の生物学 (杉山書店)				
参考書	胚という名の宇宙から (サイエンスハウス) 歴史の中のカブトガニ (サイエンスハウス)				
予習・復習について	1時間の予習、1時間の復習を期待します。				
成績評価の方法・基準	出席と試験 (場合によってはレポート)				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	微分積分学				
担当教員名	大和田 智義		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 410	
分担教員名					
クラス	数学	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	B	曜日・時限	火 7・8
キーワード	不定積分、定積分				
授業の目標	微分積分学の基礎を学ぶ。				
学習内容	高等学校で数学 III を履修していないことを前提にして、微分積分学の講義を行う。 前期の「微分積分学基礎」の続き。				
授業計画	1回 高次導関数 2回 ロルの定理 3回 平均値の定理 4回 ロピタルの定理 5回 いろいろな極限 6回 テイラーの定理とその周辺 1 7回 テイラーの定理とその周辺 2 8回 極大・極小 9回 最大・最小 10回 凹凸・変曲点 1 11回 凹凸・変曲点 2 12回 曲線の概形 1 13回 曲線の概形 2 14回 方程式・不等式 1 15回 方程式・不等式 2				
受講要件	前期「微分積分学基礎」を受講していること。				
テキスト	「微分積分」矢野 健太郎, 石原 繁 著, 裳華房				
参考書	初回の講義で紹介する。				
予習・復習について	講義後復習を行い、確実に理解すること。				
成績評価の方法・基準	期末試験, 小テスト, レポート, 出席状況から総合的に判断をする。詳細は初回の講義で説明する。				
オフィスアワー	火曜日 12:00~14:00				
担当教員からのメッセージ	高校までの計算主体の講義から、「何故そうなるのか」という理論展開を中心とした講義になります。理論的な考え方は講義を聞くだけでは身につけません。授業で学習した内容を、自分の力で正しく理解できるようになるまで、何度でもノートを読み返して復習するようにしてください。				

授業科目名	集合と論理				
担当教員名	山田 耕三		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 401	
分担教員名					
クラス	数学	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	B	曜日・時限	火 9・10
キーワード	実数、有理数、無理数、無限、有限				
授業の目標	写像（関数）について学んだ後、実数の性質と無限集合について考える。				
学習内容	実数の性質と無限の概念について、演習を交えながら講義をする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 写像と関数 2. 写像と関数 3. 写像と集合の演算 4. 写像と集合の演算 5. 有理数と無理数 6. 有理数と無理数 7. 実数の性質 8. 実数の性質 9. 実数の性質 10. 有限と無限 11. 有限と無限 12. 集合の濃度 13. 集合の濃度 14. 可算集合と非可算集合 1 15. 可算集合と非可算集合 2 				
受講要件	前期の「集合と論理基礎」を受講していること。				
テキスト	講義中に紹介する。				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	授業後にしっかり復習して、ノートを整理しておくこと。課題をレポートとして提出する。				
成績評価の方法・基準	レポートの提出状況と成績、及び期末試験の成績を合わせて評価する。				
オフィスアワー	講義のはじめに知らせます。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	代数学Ⅱ				
担当教員名	谷本 龍二		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 403	
分担教員名					
クラス	数学	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	火 9・10
キーワード					
授業の目標	本講義の主題は、行列の対角化にある。対角化を理解するために、以下3つの目標を立てている。第1の目標は、線形代数学の基礎的概念の定義を記憶し再生できることである。第2の目標は、具体的な正方行列が対角化可能であるか判定できることである。第3の目標は、具体的な対角化可能正方行列の対角化の計算ができることである。				
学習内容	あたえられた正方行列が対角化可能であるとき、固有値や固有ベクトルを用いて、その正方行列の対角化を計算することができる。正方行列が対角化可能であるかないかについての判定法は、固有空間を用いてあたえられている。どのような実対称行列も、ある直交行列により対角化可能である。				
授業計画	1回 対角化について 2回 固有値と固有ベクトル 3回 固有空間 4回 固有多項式 5回 まとめ 6回 行列の対角化 7回 対角化可能についての判定法 8回 まとめ 9回 内積 10回 ノルム 11回 正規直交基 12回 直交変換 13回 直交行列 14回 実対称行列の対角化 15回 総まとめ				
受講要件	線形代数学基礎および線形代数学を履修していること。また、代数学Ⅰを履修していることが望ましい。				
テキスト	三宅敏恒著『線形代数学－初歩からジョルダン標準形へ』培風館 定価（本体 1900 円＋税）				
参考書	必要があれば適宜紹介する。				
予習・復習について	予習・復習とも電子メール等により適宜連絡する。				
成績評価の方法・基準	小テスト（合計20点）とレポート（合計20点）と試験（合計60点）を用いて成績評価をする。小テストにより、第1の目標の達成状況についての評価をする。レポートにより、第2、第3の目標の達成状況についての評価をする。試験は、第1、第2、第3の目標の達成状況についての評価をする。				
オフィスアワー	水曜日 9・10時限				
担当教員からのメッセージ	テキストの行間を埋めながら、繰り返し読むことが上達の鍵です。				

授業科目名	生態学				
担当教員名	小南 陽亮		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部C棟508	
分担教員名					
クラス	理科	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	B	曜日・時限	水5・6
キーワード	生物種、生物群集、生態系、共生、生物多様性、保全生物学				
授業の目標	生態学に関する基礎的な知識を広く習得するとともに、学校教育において生物と環境との関係を正確に指導できる力の向上を目指す。				
学習内容	生態学が扱う基本的な事柄である種の戦略、種間の関係、種の集団（群集）について順に講義する。さらに、生態学の研究法や生物の保全についても学習する。講義では、基礎的な知識だけでなく、未解明の仮説も紹介しながら、生物の生態について幅広く習得する。				
授業計画	1 はじめに <ul style="list-style-type: none"> ・生態学とは 2～5 種の戦略と種間関係 <ul style="list-style-type: none"> ・トレードオフ ・遺伝子のふるまい ・動物行動の選択 ・個体群の変動 6～8 生物の集団と共存 <ul style="list-style-type: none"> ・群集と生態系 ・共生と相利関係 ・生物の共存 9～11 生態学研究法 <ul style="list-style-type: none"> ・野外実験と長期観測 ・数理モデルによるアプローチ 12～14 生物の保全 <ul style="list-style-type: none"> ・絶滅危惧種の保全 ・生態系の保全 ・生物多様性の保全 15 まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・生態学と学校教育 				
受講要件	特に無し				
テキスト	毎回資料を配布				
参考書	日本生態学会編「生態学入門」東京化学同人 ISBN4-8079-0598-8				
予習・復習について	参考書も通読することが望ましい				
成績評価の方法・基準	授業への参加姿勢（20%）、授業中に行う1問だけのミニテスト（40%）、レポート（40%）で評価				
オフィスアワー	金曜午後。事前に連絡すること				
担当教員からのメッセージ	生態学の知識は小学校～高校の理科を指導する上で幅広く必要となりますので、この授業で体系的に習得して下さい。				

授業科目名	解析学Ⅱ				
担当教員名	大和田 智義		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 410	
分担教員名					
クラス	数学	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水 9・10
キーワード	定積分、広義積分、2変数関数、偏微分				
授業の目標	解析学Ⅰで学習した積分法の続きから始まり、2変数（多変数）で定義された関数の微分積分について学習します。理論的な背景を正しく理解して、具体的な関数で実際に計算が出来ることが目的です。				
学習内容	解析学Ⅰの続きの授業です。定積分に関する様々な応用や、2変数関数の微分法（偏微分）について学習します。				
授業計画	1回 定積分の計算（その1） 2回 定積分の計算（その2） 3回 図形の面積計算 4回 立体図形の体積計算 5回 曲線の長さ 6回 定積分の近似計算（その1） 7回 定積分の近似計算（その2） 8回 広義積分の計算（その1） 9回 広義積分の計算（その2） 10回 平面の開集合、領域について 11回 2変数の関数 12回 偏導関数の定義 13回 偏微分の計算 14回 合成関数の微分 15回 2変数関数の極大値、極小値				
受講要件	解析学Ⅰの授業の続きだから、それを承知で受講すること。				
テキスト	「微分積分」矢野 健太郎, 石原 繁 著, 裳華房				
参考書	「やさしく学べる微分積分」石村園子著 共立出版				
予習・復習について	復習は必ず行うこと。授業で配るプリントや演習書の問題を常に解くようにすること。				
成績評価の方法・基準	授業中に行う小テストを中心として、レポートおよび出席状況から総合的に判断する。				
オフィスアワー	水曜日の午後。				
担当教員からのメッセージ	ノートをしっかりととり、学習した内容を暗記するのではなく、どのように理論が展開されて行くのかを理解すること。				

授業科目名	発生生物学 I				
担当教員名	伊藤 富夫		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部C棟505	
分担教員名					
クラス	理科	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A-B	曜日・時限	木5・6
キーワード	遺伝子、細胞分化、ガン、エイズ、肝炎、ウイルス、免疫				
授業の目標	主に、生物学の概要を学んだ学生が、細胞学や発生学の現象を中心とする最新の生物学を理解できるようにする。 ただし、初心者でも聞けるように配慮した。				
学習内容	1. 遺伝子がいかに働いて生物体を形成していくか、分子および細胞のレベルで見ていく。 2. ガンやエイズ、免疫のしくみを理解する。				
授業計画	1 発生生物学とは何か 2 発生生物学の歴史 3 細胞の分化 4 クロマチン（染色質）の構造 5 RNA、たんぱく質の合成 6 細胞分化のしくみ 7 ガン、エイズ、肝炎 8 免疫のしくみ 9 10 11 12 13 14 15				
受講要件					
テキスト	胚という名の宇宙から（サイエンスハウス） 複合の生物学（杉山書店）				
参考書	海と生物の世界が人間に教えてくれること（サイエンスハウス）				
予習・復習について	1時間の予習、1時間の復習を期待します。				
成績評価の方法・基準	出席と試験				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	発生生物学Ⅱと、合わせて受講してほしい。				

授業科目名	発生生物学Ⅱ				
担当教員名	伊藤 富夫		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部C棟505	
分担教員名					
クラス	理科	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A-B	曜日・時限	木5・6
キーワード	発生の過程、発生のしくみ、センター、器官形成、再生				
授業の目標	一つの細胞である受精卵が、なぜ肉団子やガン細胞のかたまりの様にならず、きちんとした個体を形成していくかを理解する。				
学習内容	1. 各生物の発生過程をたどり、共通するしくみと発生の原理について考えていく。 2. 体の各部の器官の形成や再生のしくみを理解する。				
授業計画	1 I. 個体の発生とそのしくみ 2 1. 細胞の社会としての生物体、その形成としての発生 3 2. 植物および原始的動物 4 (1)植物 (2)粘菌、菌 (3)海綿動物と腔腸動物 5 3. 左右相称動物 6 (1)概論 (2)ゴカイ、貝 (3)節足動物 7 (4)ウニ (5)魚類、両生類、は虫類、哺乳類 8 4. まとめ 9 II. 体の部分の形成のしくみ 10 1. 器官形成 2. 再生 3. 栄養生殖(無性生殖) 11 12 13 14 15				
受講要件					
テキスト	胚という名の宇宙から(サイエンスハウス) 複合の生物学(杉山書店)				
参考書	海と生物の世界が人間に教えてくれること(サイエンスハウス) 歴史の中のカブトガニ (サイエンスハウス)				
予習・復習について	1時間の予習、1時間の復習を期待します。				
成績評価の方法・基準	出席と試験				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	発生生物学Ⅰと合わせて受講してほしい。				

授業科目名	幾何学 I				
担当教員名	久村 裕憲	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 603		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード	曲率、捩率、基本定理、第一基本形式、第二基本形式、測地線、ガウス曲率				
授業の目標	曲面論におけるガウス・ボンネの定理を目標にする				
学習内容	微分積分学や線形代数学を使って曲線や曲面の様子を調べることから、曲面論におけるガウス・ボンネの定理の意味を理解することを目標に内容を組み立てていく				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 曲線－曲率・捩率 2. 曲線－基本定理 3. 曲面と第一基本形式 4. 曲面の第二基本形式 5. ガウス曲率と平均曲率 6. 測地線 7. ガウス・ボンネの定理 				
受講要件	微分積分学、線形代数学、幾何学および位相数学を学んでいること				
テキスト	梅原雅顕・山田光太郎著「曲線と曲面」裳華房(ISBN: 978-4785315313)				
参考書	川崎徹郎 著「曲面と多様体」朝倉書店(ISBN: 978-4254115949)				
予習・復習について	週 2 日 2 時間程度の予習・復習をテキストおよびノートで行うこと。				
成績評価の方法・基準	レポート及び試験により判断する。				
オフィスアワー	授業中に指示する				
担当教員からのメッセージ	微分積分学や線形代数学を使って素朴に曲線や曲面の様子を調べることからガウス・ボンネの定理へ発展していく様を体感して欲しい。				

授業科目名	微分積分学Ⅱ				
担当教員名	田中 直樹		所属等	理学部	
			研究室	理学部 C 棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	B	曜日・時限	月 5・6
キーワード	Taylor の定理、不定積分、定積分、広義積分、級数、一様収束				
授業の目標	解析学の基礎となる微分積分学の定理の証明を述べます。応用上有用な Taylor の定理、1 変数関数の積分、関数列の収束について、基本的な諸定理の厳密な証明を理解することを目標とします。				
学習内容	微分積分学Ⅰで学習した数学用語・定理を用いて、Taylor の定理、定積分の定義および基本定理、広義積分の収束・発散、関数列の収束について論じます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高次導関数 2. Taylor の展開 3. 級数 4. 定積分 5. 定積分の基本的性質 6. 不定積分の計算法 7. 広義積分 8. 定積分の計算と曲線の長さ 9. 関数項級数 10. 関数列の一様収束 11. 項別微分と項別積分 12. ベキ級数 				
受講要件	微分積分学Ⅰの内容を理解していることが望ましいです。				
テキスト	「解析学入門」、白岩謙一著、(学術図書出版社) ISBN 4-87361-114-8; ISBN 978-4-87361-114-3				
参考書	青木利夫・吉原健一・樋口禎一・寺田敏司共著「改訂 演習・微分積分学」(培風館) ISBN 4563-00197-X; ISBN 978-4563001971				
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。数学の問題に取り組むことが重要です。				
成績評価の方法・基準	成績評価は受講態度、レポート(20%)および試験(80%)により行われます。試験では論述的な解答が求められます。				
オフィスアワー	初回の講義のときにお知らせします。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	確率モデル論				
担当教員名	板津 誠一	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 605		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	月 7・8
キーワード	平均値、ランダム・ウォーク				
授業の目標	自然現象の問題を扱う方法に、理論的なモデルを立てる方法がある。古典的なランダム・ウォークは現在でも研究の対象となっている。 問題の設定、または方程式を導くことによりモデルを考察して行く。次にその問題について解を求めたり、一般化について数学的に推論する。基本的なモデルと自然現象に対応したモデルを述べる。				
学習内容	基本的であるランダムウォークを扱う。次に一般のマルコフ連鎖について自然現象に関するモデルを挙げて性質を説明する。次にマルコフ過程についての極限の性質や定常状態について考察する。モデルについての数学的な推論が主として用いられます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確率空間と確率変数 2. 期待値と分散 3. ランダム・ウォーク 4. マルコフ連鎖の再帰性と定常分布 5. パーコレーション 6. セル・オートマトン 				
受講要件					
テキスト	テキストはとくに指定しない。				
参考書	「シナイ確率論入門コース」、Ya.G. シナイ 著, 森 真 翻訳, シュプリンガー・フェアラーク東京, 1995, ISBN-10: 4431706860, ISBN-13: 978-4431706861				
予習・復習について	各自のノートおよび配布するレジュメで予習および復習をしてください。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、レポートおよび演習問題を加えて評価します。				
オフィスアワー	月曜 9・10時限				
担当教員からのメッセージ	(※この科目は隔年開講です)				

授業科目名	解析学 I				
担当教員名	清水 扇丈	所属等	理学部		
		研究室	理 C510		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火 1・2
キーワード	関数空間、Banach 空間、Hilbert 空間、線形作用素、共役空間				
授業の目標	関数解析とは、関数にその導関数を対応させる微分に代表される作用素、関数にその定積分値を対応させることに代表される汎関数に対して成り立つ性質を抽象的にまとめ上げた理論である。本講義では、偏微分方程式論や確率論への応用としても重要な手法である関数解析の基礎理論を修得することを目標とする。				
学習内容	完備な空間である、Banach 空間、Hilbert 空間を定義し、応用上重要な、不動点定理、Riesz の表現定理について述べる。位相的・代数的に不変な方法によって証明される、関数解析における three basic principle と呼ばれる 一様有界性の原理、開写像定理、Hahn-Banach の定理について述べる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 線形空間、ノルム空間 2. Hilbert 空間 (閉凸集合への射影, Riesz の表現定理, 基底) 3. Banach 空間 (完備性, L^p 空間, 不動点定理) 4. Banach-Steinhaus の定理 (一様有界性の原理) 5. 開写像定理と閉グラフ定理 6. Hahn-Banach の諸定理 (線形汎関数の拡張, 凸集合の分離) 7. 共役作用素 8. 弱位相, 回帰的空間 9. コンパクト作用素 				
受講要件	「解析学」(3年前期開講)を受講していることが望ましい。				
テキスト	黒田成俊著「関数解析 (共立数学講座 15)」共立出版(4-320-01106-6)				
参考書	伊藤清三・黒田成俊・藤田宏著「関数解析 (岩波基礎数学選書)」岩波書店(4-00-007810-0)				
予習・復習について	抽象的内容が多く一般的に真の理解には時間がかかるので、予習・復習により補うことが必要である。				
成績評価の方法・基準	受講態度, レポート, 小テスト, 最終試験の結果を総合的に判断する。				
オフィスアワー	初回の授業の時に曜日と時限を決める。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	代数学 I				
担当教員名	浅芝 秀人	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 615		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	火 3・4
キーワード	体、体の拡大、ガロア理論				
授業の目標	1 変数多項式 $f(x)$ によって $f(x)=0$ で表される方程式のすべての根が、その多項式の係数から四則演算とベキ根を取る操作で表されるとき、その方程式は代数的に解かれるという。そのための必要充分条件を $f(x)$ のガロア群が可解であるという形で与える。				
学習内容	このために、まず四則演算で閉じている集合である体とその拡大体を研究する。次に、体の拡大 L/K に対して L の K -自己同型の全体のなす群を考える。この拡大がガロア拡大であるとき、この群の部分群と、 L/K の中間体の間に包含関係を逆にする 1:1 の対応が存在することを見る (ガロア理論の基本定理)。方程式 $f(x)=0$ が代数的に解けることは、 $f(x)$ の係数の体 K にその方程式の根を添加してできる体 L (f の K 上の分解体) が、 K にベキ根を添加してできる拡大体に含まれることと言換えられる。このことを基本定理を用いて、拡大 L/K のガロア群 (= $f(x)$ のガロア群) を調べることによって判定できるようにする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体の拡大 2. 代数拡大 3. 正規拡大 4. ガロア理論の基本定理 5. 分離性 6. 超越拡大 7. 有限体 8. 単純拡大 9. 代数的閉体 10. 多項式のガロア群 11. 方程式の可解性 				
受講要件	代数学入門および代数学を履修していること。				
テキスト	代数入門 (東郷重明, サイエンス社)。あるいは下記の参考書。				
参考書	現代代数学 (服部昭著, 朝倉書店) 代数系入門 (松坂和夫著, 岩波書店) ガロア理論 (E. アルティン著, 寺田文行訳, 東京図書) 代数学 (彌永昌吉, 彌永健一共著, 岩波全書) ガロアの時代ガロアの数学, 第二部 (彌永昌吉著, シュプリンガー・フェアラーク東京)				
予習・復習について	教科書や参考書で予習, 授業ノートや教科書で復習すること。自主的に練習問題を解くこと。理解できないところは, できるだけ早く質問に来て理解すること。				
成績評価の方法・基準	出席, レポートによる平常点 20%と試験 80%で評価する。				
オフィスアワー	月曜 9・10 限の予定 (変更の可能性あり)				
担当教員からのメッセージ	授業の内容で分からないことがあったら, できるだけ早く質問に来て下さい。				

授業科目名	マルチメディア表現法				
担当教員名	板津 誠一	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 605		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	火5・6
キーワード	画像処理、Web ページ				
授業の目標	情報メディアの取り扱いについて、Web による表現、画像処理などの問題が明らかにできることを目標としています。				
学習内容	<p>マルチメディアにおける情報の取り扱いと表現について述べる。始めに通信と情報のデータを扱うことについての基礎の理論から説明し、つぎに応用するための問題点について展開する。</p> <p>現在情報をインターネットから得ることは必要になっている。その通信と情報の基礎となる理論について理解を深めることができる。また限られた時間のなかで、情報を得てから判断するとき、単なる知識を身につけるだけでなく、これらが現実のマルチメディアにどのように関係しているかを、実習を通して理解して行くことも重要なことである。</p> <p>この講義の前提は特にはない。実習を並行して行うので理解の助けになるだろう。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. データの符号化と通信 2. 誤りの訂正 3. 文字情報処理 4. 音声処理 5. 画像・映像処理 6. 情報の圧縮 7. データの変換とメディア 8. Web ページの編集 <p>(注) 適宜練習問題を出し、実習を行う。</p>				
受講要件	この講義の前提は特にありません。				
テキスト	テキストはとくに指定しない。				
参考書	参考書は適宜紹介する。				
予習・復習について	各自のノートおよび配布するレジュメで予習および復習をしてください。				
成績評価の方法・基準	成績評価は課題研究の提出、および演習問題による。				
オフィスアワー	月曜9・10時限				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	数理情報学				
担当教員名	依岡 輝幸	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 C616		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火 7・8
キーワード					
授業の目標	計算機科学の基礎と応用において重要な数学的理論について、幾つかのテーマから学ぶ。				
学習内容	計算機科学の基礎と応用において、数学は重要な役割を演じている。そうした数学的理論について重要なテーマを選び、概説する。				
授業計画	<p>初めに順序数と基数の理論を学び、次に受講生の希望に応じて次のいくつかを学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ダイヤモンド、マーティンの公理とスースリン仮説 2. ダイヤモンド、マーティンの公理とホワイトヘッド群 3. カントリーマン線とアロンシャイン線 4. 強制法と連続体仮説の独立性と選択公理の独立性 5. 基本的な巨大基数公理 				
受講要件	「数理論理学」の知識を前提とする。特に、万が一上記3を行うことになれば、欠かすことができない。				
テキスト	指定しない。				
参考書	<p>新井敏康, 『数学基礎論』, 岩波書店, 2011, 978-4000055369.</p> <p>K. Kunen 著 藤田博司訳, 『集合論—独立性証明への案内』, 日本評論社, 2008, 978-4535783829.</p> <p>A. Kanamori 著 渕野昌訳, 『巨大基数の集合論』, シュプリンガー・フェアラーク東京, 1998, 978-4431707691.</p> <p>『ゲーデルと20世紀の論理学 4 集合論とプラトニズム』, 東京大学出版会, 2007, 978-4130640985.</p>				
予習・復習について	復習をする必要がある。				
成績評価の方法・基準	レポートの成績で判定する。				
オフィスアワー	http://researchmap.jp/yorioka/ でオフィスアワーの時間を公開しています。				
担当教員からのメッセージ	受講生の理解度に応じてゆっくり進めることを考えますので、分からない点はその都度質問してください。				

授業科目名	代数学入門				
担当教員名	毛利 出	所属等	理学部		
		研究室	理学部C棟511		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火7・8
キーワード	群、部分群、巡回群、置換群、準同型、剰余類、正規部分群、剰余群、準同型定理				
授業の目標	群論の基本を学ぶこと。				
学習内容	大学で学ぶ抽象代数学の典型的な例として群・環・体があるが、この講義ではそのうち最も公理の少ない群について習得する。また群を学習することを通して、抽象代数学の基本的考え方について慣れ親しむ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 群の定義と例 2. 群の性質と部分群 3. 巡回群 4. 置換群 5. 準同型 6. 剰余類と正規部分群 7. 剰余群と準同型定理 				
受講要件					
テキスト	代数学の入門書、または群論の入門書を自分で選んで必ず1冊は購入してください。				
参考書	代数学（倉田吉喜著）近代科学社 ISBN4-7649-1029-2 代数入門一群と加群一（堀田良之著）裳華房 ISBN4-7853-1402-8 入門代数学（三宅敏恒著）倍風館 ISBN4-563-00280-1 代数概論（森田康夫著）裳華房 ISBN4-7853-1311-0				
予習・復習について	数学は積み重ねの学問なので、前回の授業内容を確実に理解した上で授業に参加すること。復習しても理解できなかった点は、できるだけ早く質問に来るなどして解明すること。				
成績評価の方法・基準	授業参加態度、レポート、期末試験等で評価する。				
オフィスアワー	授業開始後決定する。				
担当教員からのメッセージ	初めて本格的な抽象代数学を学習するので、苦戦するかもしれないが、具体例を多く取り上げる予定なので、がんばってほしい。				

授業科目名	微分積分学Ⅳ				
担当教員名	板津 誠一		所属等	理学部	
			研究室	理学部 C 棟 605	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	C	曜日・時限	水3・4
キーワード	重積分、積分可能、累次積分、ヤコビアン				
授業の目標	「微分積分学Ⅲ」に引き続き、多変数の積分について講義する。				
学習内容	多変数関数の積分（重積分と呼ばれる）を学ぶ。重積分の定義からはじめて、多変数関数の積分の基本性質を学ぶ。多変数関数の積分は1変数関数の定積分とある程度平行して進められる一方で、積分の順序交換やヤコビアンなど多変数関数の積分に特有な概念が重要である。定理や公式の証明とともにその性質の利用方法を修得する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 長方形上の二重積分 重積分の定義、重積分の性質 2. 面積確定集合上の重積分 有界集合の上の二重積分、多重積分 3. 累次積分と積分の計算 累次積分、積分の順序交換 4. 重積分の変数変換公式 変数変換公式、ヤコビアン、極座標変換 5. 広義積分 広義積分の絶対収束、ガンマ関数とベータ関数 6. 線積分と面積分 線積分、曲面積、面積分 レポートや演習で講義の内容を確かめます。				
受講要件	微分積分学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを受講していることが望ましい。				
テキスト	白岩謙一「解析学入門」(学術図書) ISBN 4-87361-114-8				
参考書	青木利夫・吉原健一・樋口禎一・寺田敏司共著「改訂 演習・微分積分学」(培風館) ISBN4-563-00197-X				
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、レポート・小テストを加えて評価します。				
オフィスアワー	月曜9・10時限				
担当教員からのメッセージ	1年次にあった演習の時間がなくなるため、テキストや参考書の演習問題を各自解くことを勧めます。問題に取り組むことで理解が深まります。				

授業科目名	位相数学入門				
担当教員名	依岡 輝幸		所属等	理学部	
			研究室	理学部 C 棟 C616	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	C	曜日・時限	木 1・2
キーワード					
授業の目標	前期に学んだ「距離空間」を抽象化・一般化した「位相空間」について学びます。				
学習内容	2年次前期に学んだ「集合・位相」および「集合・位相演習」の続きです。				
授業計画	<p>位相空間という構造について学びます。これは、「集合・位相」で学んだ距離空間を一般化したものです。トピックを挙げると、次のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 位相空間（開集合・位相・開基） 2. 位相空間上の連続関数 3. 分離公理 4. 位相空間のコンパクト性 5. 位相空間の連結性 6. 位相空間の完備性 				
受講要件	2年次前期「集合・位相」および「集合・位相演習」の知識を前提に授業を行います。				
テキスト	理学部数学科掲示板にて、9月に公開します。				
参考書	<p>大田春人著、『はじめよう位相空間』, 日本評論社, 2000, 978-4-535-78277-8</p> <p>内田伏一著、『集合と位相』, 裳華房, 1986, 978-4-7853-1401-9</p> <p>矢野公一著、『距離空間と位相構造 (共立講座 21 世紀の数学)』, 共立出版, 1997, 978-4320015562</p>				
予習・復習について	授業を理解する上で予習・復習をすることが必要です。この授業は今までよりも特に抽象度の高い内容なので、特に復習に力を入れて欲しいです。				
成績評価の方法・基準	レポート 30%, 期末試験 70% で評価します。				
オフィスアワー	http://researchmap.jp/yorioka/ でオフィスアワーの時間を公開しています。				
担当教員からのメッセージ	授業中内で全てが理解できるなどと勘違いしないように。毎回の授業で、しっかりノートを取って、復習してはじめて理解ができるものだと思います。				

授業科目名	符号理論と代数学				
担当教員名	毛利 出		所属等	理学部	
			研究室	理学部C棟511	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	木3・4
キーワード	有限体、符号理論				
授業の目標	有限体とその上の多項式について学習し、その応用として線形符号と巡回符号について学ぶ。				
学習内容	現実のデータ通信においては誤りの生じる可能性がいつでもあります。符号理論とは、それら通信時に起こる誤りを検出し、さらに訂正する理論です。この講義では、有限体の代数的理論を用いて線形符号と巡回符号の基礎について学びます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体上の多項式 2. 有限体の構造 3. 線形符号 4. 巡回符号 				
受講要件					
テキスト					
参考書	符号と暗号の数理（藤原 良、神保 雅一著）共立出版株式会社 ISBN4-320-02661-6				
予習・復習について	予習と復習を必ずするように。				
成績評価の方法・基準	授業参加態度、小テスト、レポートなどで判断して評価する。				
オフィスアワー	授業開始後決定する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	線型代数学Ⅱ				
担当教員名	鈴木 信行		所属等	理学部	
			研究室	理学部 C 棟 601	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード					
授業の目標	ベクトル空間の基礎を学び、行列の対角化と上三角化を学ぶ。				
学習内容	線型代数学Ⅰでは行列の基本的性質と、それを用いて具体的に連立1次方程式を解くことを学習してきたが、線型代数学Ⅱではそれらを抽象化したベクトル空間の概念を理解するとともに、応用上有益な固有値・固有ベクトルまた行列の対角化について学習する。				
授業計画	第3章 ベクトル空間 3. 1 ベクトル空間の定義と線形写像 3. 2 基底と次元 3. 3 部分空間 3. 4 和空間と直和 3. 5 表現行列と基底の取り替え 第4章 固有値・固有ベクトルおよび行列の対角化 4. 1 固有値と固有ベクトル 4. 2 行列の対角化 4. 3 行列の上三角化 4. 4 行列の同時対角化				
受講要件	線型代数学Ⅰを受講していること。				
テキスト	基礎講義 線形代数学 (二木昭人 著, 培風館, ISBN-13: 978-4563002756)				
参考書	線形代数入門 (斉藤正彦 著, 東京代数学出版会, ISBN-13: 978-4130620017) 数学選書1 線型代数学 (佐武一郎著, 裳華房, ISBN978-4-7853-1301-2)				
予習・復習について	教科書や参考書で予習, 授業ノートや教科書で復習すること。自主的に練習問題を解くこと。理解できないところは, できるだけ早く質問に来て理解すること。				
成績評価の方法・基準	試験の得点による。				
オフィスアワー	授業時に連絡する。				
担当教員からのメッセージ	線型代数学Ⅰと違って線型代数学Ⅱは内容がかなり抽象的になります。授業の内容で分からないことがあったら, できるだけ早く質問に来て下さい。				

授業科目名	複素解析学 I				
担当教員名	奥村 善英	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 613		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード					
授業の目標	正則関数の幾何学的な特徴付けを中心に解説を行います。 はじめに、等角写像を定義し、正則関数との関係を説明します。次に、Riemann の写像定理を解説します。また、具体的な Riemann 写像の例として、Schwarz-Christoffel 変換を説明します。				
学習内容	等角写像の議論は、解析関数論の幾何学的な部分において重要な役割を果たしています。例えば、複素平面 C 内の領域で定義された等角写像は単葉な正則関数と同じになります。また、「 C 内の単連結領域 R は C と一致しなければ、いつでも単位円板 D と等角同値になります（つまり、 R から D への全単射な正則関数が必ず存在する）！」という驚くべき Riemann の写像定理があります。 この講義では、正則関数や有理関数の続きとして、等角写像の基礎的な部分から説明を始めます。また時間があれば、等角写像論、 D 上の等角写像を等長変換に持つ双曲平面の導入、このような等長変換からなる不連続群とその軌道空間、Riemann 面そして複素力学系の初歩について解説します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 等角写像と正則関数. 2. 等角写像の例. 3. 一次変換とその性質. 4. Riemann の写像定理. 5. 正規族と正則関数列. 6. Schwarz-Christoffel 変換. 時間があれば、以下の話題についても解説する： <ol style="list-style-type: none"> 7. 双曲計量と双曲平面. 8. 等長変換からなる不連続群. 9. 不連続群の軌道空間と Riemann 面. 10. 複素力学系. 				
受講要件	「関数論入門」及び「複素解析学」を受講していることが望ましい。				
テキスト	林一道著、初等関数論（改訂版）（裳華房）				
参考書	神保道夫著、複素関数入門（岩波書店） 野口潤次郎著、複素解析概論（裳華房） L.V.アールフォルス著、複素解析（現代数学社）. 佐藤宏樹著、複素解析学（近代科学社）. 谷口雅彦・奥村善英共著、双曲幾何学への招待（培風館）. 洲之内治男著、演習 関数論（サイエンス社）. 辻正次・小松勇作共編、大学演習関数論（裳華房）.				
予習・復習について	この講義では、美しい結果や驚くような結果が多く出てきます。最初は説明や証明が難しいかもしれませんが、そのからくりが理解できるように、講義、講義ノートや教科書を見直して下さい。				
成績評価の方法・基準	出席、レポート、テスト等で評価し判定します。				
オフィスアワー	講義中に連絡します。				
担当教員からのメッセージ	この講義から、複素解析学の第三部の勉強がはじまります。複素関数論の美しい結果や驚くような結果を味わって下さい。そして、複素関数論が他の分野と密接に関わり、実り多い学問であることを実感して下さい。				

授業科目名	計算機構論				
担当教員名	鈴木 信行		所属等	理学部	
			研究室	理学部 C 棟 601	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	金 5・6
キーワード	計算理論、原始帰納的関数、帰納的関数、決定問題、算術的階層				
授業の目標	計算可能性理論について、数学科の学生にふさわしいレベルの基礎知識を講義する。				
学習内容	計算機科学の基礎と応用において重要な計算可能性の理論を概説する。				
授業計画	<p>下記の 6 までを目標に講義し、余裕があれば 7 や 8 まで言及したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 仮想計算機構 Register machine 2. 原始帰納的関数 3. 一般帰納的関数 4. 仮想計算機構 Turing machine 5. Church's Thesis 6. 決定問題 7. 帰納的集合、帰納的可算集合 8. 算術的階層 				
受講要件	特になし。プログラミングの経験あれば、理解の助けになるだろう。				
テキスト	使用しない。講義中にプリントを配布する。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	他の講義と比べて、扱うものが少しことなるので、手を動かして実際にやってみる、という作業が大切である。				
成績評価の方法・基準	試験の得点による。(適宜、レポートの評価を加算する。)				
オフィスアワー	最初の講義で伝える。出張・会議によって対応できない場合もあります。アポイントをとってけると確実です。				
担当教員からのメッセージ	予習・復習などの自宅での自発的かつ積極的な学習なくしては、身に付くものも少ない。しっかり勉強してほしい。				

授業科目名	位相数学 I				
担当教員名	久村 裕憲	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 603		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	金 7・8
キーワード	ホモロジー、単体、複体、多面体、鎖群、単体写像、鎖準同型写像、単体近似、オイラー標数				
授業の目標	位相幾何の中で最も基本的な研究手法の1つであるホモロジー論の基礎を学ぶ。				
学習内容	多面体のホモロジー論は、位相幾何学のように連続性を基本とする幾何学を単体的複体の組合せ的性質によって規定していくものである。幾何学を如何に代数化するか、現代数学の端緒となったホモロジー論を学ぶ。				
授業計画	<p>教科書に沿って講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 同値関係と商空間、(教科書の3節と4節は省く) 2. 単体と複体と多面体 3. 重心細分 4. 鎖群とホモロジー群 5. 単体写像と鎖準同型写像 6. 単体近似 7. 多面体のホモロジー群 8. オイラー標数 9. ホモロジー群と準同型写像 10. Mayer-Vietoris 完全系列 11. いろいろな応用 				
受講要件	集合・位相、線形代数、群論の基礎知識を持っていることが望ましい				
テキスト					
参考書	佐藤肇(著) 位相幾何 (岩波書店)				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	試験による				
オフィスアワー	授業中に指示する				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	力学 I				
担当教員名	松本 正茂	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A 棟 A501		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期 (前半)		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6, 金 3・4
キーワード	力学				
授業の目標	ニュートン力学を、数学を用いて理解すること。				
学習内容	力学 (ニュートン力学) は、これから学ぶ物理学の中で最も基本となる学問である。この、ニュートン力学について詳しく学ぶ。				
授業計画	後期前半・週 2 回 教科書の第 4 章以降を、教科書に沿って授業を進める。 1. いろいろな運動 2. 運動座標系				
受講要件	基礎物理学 I、基礎物理学 I I を習得していることが望ましい。				
テキスト	力学 吉岡大二郎 著 朝倉書店 ISBN 978-4-254-13756-9 (基礎物理学 I、基礎物理学 I I で使用している教科書と同じ)				
参考書	力学 植松恒夫 著 学術図書出版社 ISBN 4873619181				
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要であるため、必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験の結果によって成績を評価する。				
オフィスアワー	適宜。場合によっては、必要に応じて設定する。				
担当教員からのメッセージ	黒板に詳しく板書し、それを説明しながら授業を進めます。授業のノートを後で見直したとき、授業内容が理解できるようにしているので、ノートをしっかりとってください。				

授業科目名	力学Ⅱ				
担当教員名	松本 正茂	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A棟 A501		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期（後半）		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	月5・6,金3・4
キーワード	力学				
授業の目標	ニュートン力学を、数学を用いて理解すること。				
学習内容	力学（ニュートン力学）は、これから学ぶ物理学の中で最も基本となる学問である。この、ニュートン力学について詳しく学ぶ				
授業計画	後期後半・週2回 教科書の第6章以降を、教科書に沿って授業を進める。 1. 質点系 2. 剛体 3. 波動				
受講要件	基礎物理学Ⅰ、基礎物理学ⅠⅠ、力学Ⅰを習得していることが望ましい。				
テキスト	力学 吉岡大二郎 著 朝倉書店 ISBN 978-4-254-13756-9 （基礎物理学Ⅰ、基礎物理学ⅠⅠ、力学Ⅰで使用している教科書と同じ）				
参考書	力学 植松恒夫 著 学術図書出版社 ISBN 4873619181				
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要であるため、必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験の結果によって成績を評価する。				
オフィスアワー	適宜。場合によっては、必要に応じて設定する。				
担当教員からのメッセージ	黒板に詳しく板書し、それを説明しながら授業を進めます。授業のノートを後で見直したとき、授業内容が理解できるようにしているので、ノートをしっかりとってください。				

授業科目名	解析力学				
担当教員名	土屋 麻人	所属等	理学部		
		研究室	理 A 4 0 1		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	C	曜日・時限	火 1・2
キーワード					
授業の目標	古典力学を数学的に整備し、現代物理学を学ぶ準備とする。				
学習内容	解析力学について学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラグランジュの方程式と一般化座標 2. ハミルトンの原理 3. 正準運動方程式 4. 正準変換と位相空間 5. ハミルトン・ヤコビの方程式と量子力学への導入 6. 対称性と保存則 				
受講要件	力学 I、II を受講していること。				
テキスト	なし				
参考書	高橋康「量子力学を学ぶための解析力学入門」講談社、市村宗武「力学」朝倉書店、伊藤克司「解析力学」講談社、ランダウ・リフシッツ「力学」東京図書、ゴールドスタイン「古典力学 上、下」吉岡書店				
予習・復習について	復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	定期試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	解析力学は量子力学を学ぶために必須である。この授業は量子力学への橋渡しを意識して進めていく。				

授業科目名	応用物理学 I				
担当教員名	嶋田 大介		所属等	理学部	
			研究室	理 A 4 0 7 (理学部 A 棟)	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期 (前半)		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	火 3・4
キーワード	半導体、シリコン、電気伝導度、pn 接合、ダイオード、バンド理論、フェルミ準位、発光ダイオード (LED)				
授業の目標	今まで学んできた基礎物理の知識をもとに、現在広く応用されているエレクトロニクスの基礎を物理学の観点から学ぶ。これにより、基礎的な知識から応用的な技術に結びつけることを学ぶ。				
学習内容	固体物理学から見た半導体の特性について学ぶ。固体中のバンド構造から、導体、半導体、絶縁体の違いを解説する。その後、半導体の物理的な性質について学び、最後に広く応用されている p n 接合を持つダイオードの構造やその特性、および、それらを使った回路についての解説を行う。				
授業計画	固体中の原子の結合 固体の電子バンド構造 半導体の物性 不純物半導体 p n 接合 ダイオードの構造と特性				
受講要件	特になし				
テキスト	無し。				
参考書	必要があれば、授業でそのつど紹介する。				
予習・復習について	予習は必要ないが、講義内容の復習は十分行う必要がある。				
成績評価の方法・基準	レポートにて成績を出す。				
オフィスアワー	水曜日、午後 2 時 - 4 時、A407 室または B207				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	原子核物理学				
担当教員名	松山 晶彦	所属等	理学部		
		研究室	共通教育C棟C414		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期（後半）		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火3・4
キーワード	原子核物理学				
授業の目標	原子核物理学の基礎を理解すること。				
学習内容	原子核物理学				
授業計画	1.原子核の基本的性質 2.核力 3.原子核の構造 4.原子核の安定性 5.ベータ崩壊と弱い相互作用				
受講要件					
テキスト	随時プリントを配布します。				
参考書					
予習・復習について	予習と復習を必ずすること。				
成績評価の方法・基準	出席とレポート				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	計算物理学				
担当教員名	溜瀧 継博		所属等	理学部	
			研究室	理 A 5 0 5	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期（後半）		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火 5・6,火 7・8
キーワード					
授業の目標	パソコン上で物理系の簡単なシミュレーションを行いながら、計算物理学の考え方と方法の初歩について学ぶ				
学習内容	<p>「計算物理学」とは、理論計算での紙と鉛筆、実験における実験装置に代って、コンピューターを主な道具とする物理学の総称であり、「理論物理学」、「実験物理学」と並んだ第三の物理学とも呼ばれている。物理学におけるコンピューターの応用は多岐にわたるので、この授業で扱う項目は必ずしもいわゆる「計算物理学」のものには限定しない。その代り、さまざまな場面で役に立つと思われるいくつかの問題を取り上げて Fortran による実習を交えながら講義を進め、最終的には「計算物理学」の大きな柱の一つとしてのコンピューター・シミュレーションの簡単な例題のいくつかを扱う予定である。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 端末の操作と Fortran の基本構文の復習 2. アルゴリズムとプログラミング 3. 計算結果の可視化 4. 単振動からカオスへ（常微分方程式の数値解法） 5. 高速フーリエ変換（FFT） 6. 擬似乱数とモンテ・カルロ法 7. ランダム・ウォークと拡散問題 8. importance sampling の考え方 				
受講要件	計算物理学入門の単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	指定しない				
参考書	H.ゴールド他著「計算物理学入門」（ピアソン・エデュケーション、ISBN-13: 978-4894713185）				
予習・復習について	学習のすべてについて言えることではあるが、プログラミングの学習の場合には自分の手を動かすことが何より大事である。情報処理センターの機器などを大いに活用して自らプログラミングにチャレンジしてほしい。				
成績評価の方法・基準	定期試験は行わずに全授業の終了時にレポート課題を課す。成績は課題やレポート等で評価する。				
オフィスアワー	随時（不在の時は何度でも訪ねてきてほしい）				
担当教員からのメッセージ	この授業は「計算物理学入門」が終了した、後期8週目から始めます。「入門」で学んだことをよく復習しておいてください。				

授業科目名	熱力学				
担当教員名	溜瀧 継博	所属等	理学部		
		研究室	理 A 5 0 5		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	温度、熱、エントロピー、熱平衡、準静的、カルノーサイクル、自由エネルギー				
授業の目標	熱力学の体系的理解を目指し、応用力を身につける。				
学習内容	熱力学は温度や体積、圧力といった少数の巨視的変数（熱力学量）の間に成り立つ一般的な関係を導く理論体系であり、さまざまな実験状況に応じた熱力学的諸量の間での正確な変換を与える。また、現代物理学の柱の一つである統計力学の基礎を構成するという意味においても、熱力学は非常に重要である。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 温度と熱 2. 理想気体 3. 準静的過程 4. 熱力学第1法則 5. 可逆過程と不可逆過程 6. 熱力学第2法則 7. カルノー・サイクル 8. エントロピー 9. 自由エネルギー 10. 熱平衡条件 11. 熱力学第3法則 				
受講要件	偏微分についてよく復習しておくこと				
テキスト	戸田盛和著 「物理入門コース7：熱・統計力学」 （岩波書店、ISBN-13: 978-4000076470）				
参考書	原島鮮著 「熱力学・統計力学」 （培風館、ISBN-13: 978-4563021399）				
予習・復習について	授業中は理解できたつもりでいても後になると分からなくなってしまうことはよくあることである。そのような非効率を避けるためにも、授業後はその日のうちにノートをまとめる習慣をつけると良い。				
成績評価の方法・基準	試験、レポート、等で評価する。				
オフィスアワー	随時 （不在の時は何度でも訪ねてきてほしい）				
担当教員からのメッセージ	授業中も質問は随時受け付けるので、なるべくその場で理解するよう努力してほしい。				

授業科目名	電磁気学Ⅱ				
担当教員名	嘉規 香織		所属等	理学部	
			研究室	理学部 A 棟 405号室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	木1・2
キーワード					
授業の目標	電磁気学の電流や磁場に関することがらを主に学ぶ。				
学習内容	電磁気学Ⅰに引き続き、磁場にかかわる事柄から Maxwell 方程式までを学ぶ。				
授業計画	1回 定常電流の性質 2回 磁場中の電流にはたらく力 3回 電流の作る磁場 4回 磁気双極子 5回 Ampere の法則 6回 Faraday の法則 7回 電磁誘導の一般法則 8回 インダクタンス 9回 振動電流・インピーダンス 10回 変位電流 11回 Maxwell の方程式 12回 電磁波の放射と伝播 13回 磁性体 14回 物質中の Maxwell の方程式 15回 導体・誘電体と電磁波				
受講要件	原則として、基礎物理学Ⅰ,Ⅱ, 力学Ⅰ,Ⅱ, 電磁気学Ⅰ, 数学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲを履修していること				
テキスト	岩波物理入門シリーズ「電磁気学Ⅰ,Ⅱ」, 長岡洋介著				
参考書	必要に応じて講義中に紹介する。				
予習・復習について	授業時間の2倍の(予習)復習をすることが標準である。				
成績評価の方法・基準	提出物および学期末試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	統計力学Ⅱ				
担当教員名	青山 昭五	所属等	理学部		
		研究室	理学部A棟 402		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	木3・4
キーワード					
授業の目標	「統計力学Ⅰ」の授業に引き続き、統計力学の応用について学ぶことを目標とする。				
学習内容					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 低温と量子効果 2. 開いた系と化学ポテンシャル 3. フェルミ統計とボーズ統計 4. プランクの輻射式 5. 格子振動による固体の比熱 6. 理想ボーズ気体 7. ボーズ・アインシュタイン凝縮 8. 理想フェルミ気体 9. 金属の電子比熱 10. 超流動と超伝導 				
受講要件	熱力学を理解していること				
テキスト	「統計力学」 岩波書店 長岡洋介 著				
参考書	「大学演習 熱学・統計力学」 裳華房 久保亮五 編 「統計力学」 共立出版 久保亮五 著				
予習・復習について	毎回やること。特に復習が重要。				
成績評価の方法・基準	中間・期末試験（欠席は受講放棄とみなす）とレポート・出席で総合評価。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	量子力学Ⅱ				
担当教員名	嘉規 香織	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A 棟 405号室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード					
授業の目標	量子力学Ⅰに引き続き、量子力学の基礎的な考え方に関して習熟することを目指す。				
学習内容	量子力学Ⅰで学んだ基本的な事柄に基づいて、水素原子に束縛されている電子やその状態を特徴づける角運動量やスピンについて説明する。				
授業計画	1回 Laplacian と角運動量演算子 2回 球面調和関数 3回 Legendre 多項式 4回 電子の軌道 5回 動径方向の波動関数 6回 Coulomb ポテンシャル中の動径方向の波動関数 7回 基底状態での不確定性関係 8回 3次元井戸型ポテンシャル 9回 角運動量の交換関係・同時対角化 10回 昇降演算子 11回 角運動量演算子の行列表示 12回 角運動量の一般化 13回 スピン演算子とスピンの状態 14回 Larmor 歳差運動 15回 角運動量やスピンの合成				
受講要件	基礎物理学Ⅰ,Ⅱ,力学Ⅰ,Ⅱ,解析力学,電磁気学Ⅰ,Ⅱ,物理数学Ⅰ,Ⅱ及び量子力学Ⅰが履修済みであること。				
テキスト	裳華房テキストシリーズ - 物理学「量子力学」小形正男著 の後半部分を講義する予定。				
参考書	必要に応じて講義中に紹介する。				
予習・復習について	授業時間の2倍の(予習)復習が標準です。				
成績評価の方法・基準	提出物および学期末試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	演習問題を自分で解く自習等をも積極的にを行うことを希望します。				

授業科目名	固体物理学				
担当教員名	松本 正茂	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A棟 A501		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	金 5・6
キーワード					
授業の目標	物質中の電子について量子力学を適用し、金属・絶縁体・半導体を理解するために必要となる、バンド理論の理解を目標とする。				
学習内容	固体物理学は、現代のエレクトロニクスの発展に大きく寄与して来た学問である。その中心となるバンド理論について、物質中の電子に量子力学を適用して詳しく説明する。				
授業計画	以下の内容について講義する。 1. 原子・分子・結晶 2. バンド理論 3. X線回折 4. 格子振動				
受講要件	量子力学Iと統計力学Iを履修していることが望ましい。				
テキスト	講義の際に紹介する。				
参考書	講義の際に紹介する。				
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要であるため、必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験とレポートによって成績を評価する。				
オフィスアワー	適宜。場合によっては、必要に応じて設定する。				
担当教員からのメッセージ	黒板に詳しく板書し、それを説明しながら授業を進めます。授業のノートを後で見直したとき、授業内容が理解できるようにしているので、ノートをしっかりとってください。				

授業科目名	反応有機化学				
担当教員名	山中 正道		所属等	理学部	
			研究室	理学部 B 棟 3 1 1 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード					
授業の目標	有機化学を構造論と反応論の両面から理解する				
学習内容	基礎有機化学 I、II および構造有機化学では、有機化合物は官能基によって分類され、その反応は官能基の変換であることを学んだ。本講義でも引き続き官能基の構造とその反応性について、アルコール、エーテル、アルケン、アルケン、アルキン、さらに非局在化したパイ電子系化合物を中心に学習する。また、有機反応を電子の動きと結合の分極性に基づくと考える有機電子論を基に様々な反応を学び理解する。				
授業計画	<p>テキストに従って以下の章を解説する。</p> <p>8 章 ヒドロキシ官能基：アルコールの性質と合成戦略</p> <p>9 章 アルコールの反応とエーテルの化学</p> <p>1 1 章 アルケン</p> <p>1 2 章 アルケンの反応</p> <p>1 3 章 アルキン</p> <p>1 4 章 非局在化したパイ電子系</p>				
受講要件					
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上 (第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監修) (化学同人)				
参考書	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下 (第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監修) (化学同人)				
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。				
オフィスアワー	特に定めない。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	応用生化学				
担当教員名	瓜谷 眞裕	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A 棟 312 室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード					
授業の目標	代謝の制御機構、高次の生命現象の分子機構、および生化学・分子生物学の解析手段や実験手法の原理を学ぶ。				
学習内容	現在研究されている、さまざまな高次の生命現象の分子機構について学習する。また、マイクロ化された特殊な実験法や先端機器を使った解析手段など、生化学・分子生物学で用いられる研究法の原理と応用について理解する。				
授業計画	<p>テキストやプリントを使いながら、以下の内容を解説します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 生化学の実験・解析方法の原理と応用 <ul style="list-style-type: none"> 遺伝子の研究法（DNA の分離と定量、遺伝子クローニング、遺伝子発現の解析） タンパク質の研究法（定量と分離精製、特異的検出法、複合体解析法） 先端技術による新研究法（バイオインフォマティクス、遺伝子の網羅的解析、生きた細胞での生体分子の可視化、RNA 干渉、生体分子の相互作用の測定法） 代謝の制御機構 <ul style="list-style-type: none"> ホルモンによるグリコーゲン代謝の調節の分子機構 情報伝達の分子機構 高次の生命現象の分子機構 <ul style="list-style-type: none"> 免疫応答 細胞周期とガン 細胞死（アポトーシス） 細胞分化・発生の分子機構 				
受講要件	基礎生化学、代謝生化学の履修を前提とする。生物学 I・II および情報生化学を履修していることが望ましい。				
テキスト	ヴォート基礎生化学 第3版（東京化学同人）				
参考書	細胞の分子生物学 第4版（ニュートンプレス）、カーブ分子細胞生物学 第4版（東京化学同人）、ルーイン細胞生物学（東京化学同人）、アメリカ版大学生物学の教科書 1～3 巻（講談社ブルーバックス）				
予習・復習について	テキストやノート、配付資料などをよく読むなど、予習と復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	単位の認定と成績の評価は、レポート（30%）および期末試験（70%）の総点で判断する。ただし、単位の認定にあたっては、原則として3分の2以上の出席を前提とする。				
オフィスアワー	空いているときはいつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ	アメリカ版大学生物学の教科書 1～3 巻（講談社ブルーバックス）は高校で生物を学ばなかった人にも理解できる内容のおすすめの本です。				

授業科目名	基礎有機化学Ⅱ				
担当教員名	塚田 直史	所属等	理学部		
		研究室	理 B312		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	反応有機化学、反応機構、有機合成反応				
授業の目標	有機電子論に基づき様々な反応を学び理解する				
学習内容	基礎有機化学Ⅰでは有機化学の基礎を学んだ。それを踏まえて本講義ではアルコールやカルボニル化合物など様々な官能基を有する有機化合物の反応について学習し、有機電子論に基づく反応機構のより深い理解を行う。				
授業計画	7 アルコールとフェノール, およびエーテルとエポキシド 8 アルデヒドとケトン 9 カルボン酸およびカルボン酸誘導体 10 カルボニル化合物のもう一つの性質と反応性 11 アミンおよびその誘導体 12 基本となる生体物質 13 アミノ酸・タンパク質, および酵素				
受講要件					
テキスト	山口良平・山本行男・田村類共著 「ベーシック有機化学」(化学同人)				
参考書					
予習・復習について	予習と復習を必ず行ってください。				
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	放射化学 I				
担当教員名	大矢 恭久	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A202		
分担教員名	奥野 健二				
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月 7・8
キーワード	放射化学、原子核、放射線、放射性核種、放射線測定、原子力発電、核融合発電				
授業の目標	放射性核種及び放射線の基礎知識を取得する				
学習内容	<p>一般の化学が原子核のまわりの核外電子、特に価電子についてのみ取扱うのに対し、放射化学および核化学では原子核そのものやその挙動を対象としている。</p> <p>授業前半（担当：奥野）の講義では、原子核の様々な現象を物質の基本的概念として捕えることが出来るようなシラバスの項目、(1)、(2)について主に解説する。また、原子力エネルギー（核分裂、核融合）の原理等についても解説する。</p> <p>授業後半（担当：大矢）では、シラバスの項目、(3)、(4)に基づき放射線の物質中での振る舞いや放射線による化学反応について解説する。また、研究並びに放射線管理の手段として、欠かすことのできない放射線測定器に関する基礎的原理についても言及する。</p> <p>放射線取扱主任者試験を受験するものは本講義を受講する事が望ましい。</p>				
授業計画	<p>(1)原子核のなりたちと壊変現象</p> <ul style="list-style-type: none"> 核化学や放射化学における核現象の一つとして、放射能が主題となる。まずは原子核の組成やその安定性について解説し、放射能とは何かを理解する。 <p>(2)原子核現象と化学状態</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子核と核外電子との相互作用、放射性核種の壊変定数等の化学状態による変化、核γ線共鳴(メスバウアー効果)および原子核の壊変に伴う化学的効果 <p>(3)放射線と物質との相互作用</p> <ul style="list-style-type: none"> 放射線の定義、種類、分類、それぞれの放射線についての特性 および物質との相互作用 放射線による化学反応：スプールの生成、素反応、水分子の放射線分により生成する活性酸素及びフリーラジカル 放射線の生体に及ぼす影響：高線量放射線によるDNA損傷、放射線感受性、放射線障害放射線防御、低線量放射線による放射線ホルミシス現象 <p>(4)放射線の検出と測定</p> <ul style="list-style-type: none"> 主な放射線測定器の種類、基本構造、原理、測定技術 <p>講義期間中に浜岡原子力発電所見学会を予定しています。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	放射化学概論（富永健、佐野博敏著、東京大学出版会）				
参考書					
予習・復習について	ホームページ（ http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~srkokun/ ）に公開している教材を活用して、予習・復習をすること				
成績評価の方法・基準	期末試験、演習、レポート、出席状況（重視）にもとづき総合評価				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	放射線取扱主任者試験を受験するものは本講義を受講する事が望ましい。				

授業科目名	基礎熱化学				
担当教員名	岡林 利明		所属等	自然科学系教育部	
			研究室	総合研究棟 504	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	火 1・2
キーワード					
授業の目標	物理化学のひとつの柱である熱化学について、その基礎を学ぶ				
学習内容	物理化学のひとつの柱である熱化学について、数学・物理学的背景を含めてその基礎を学ぶ				
授業計画	<p>テキストの次の章を、以下の順序で講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第2章 気体の分子論(1) 2. 第2章 気体の分子論(2) 3. 第2章 気体の分子論(3) 4. 第2章 気体の分子論(4) 5. 第2章 気体の分子論(5) 6. 第3章 化学系のエネルギー：熱力学第一法則(1) 7. 第3章 化学系のエネルギー：熱力学第一法則(2) 8. 第3章 化学系のエネルギー：熱力学第一法則(3) 9. 第3章 化学系のエネルギー：熱力学第一法則(4) 10. 第3章 化学系のエネルギー：熱力学第一法則(5) 11. 第1章 気体の物理的性質(1) 12. 第1章 気体の物理的性質(2) 13. 第1章 気体の物理的性質(3) 14. 第1章 気体の物理的性質(4) 15. 第1章 気体の物理的性質(5) 				
受講要件	微積分の考え方が出てくるので、高校の数学の復習をしておくとともに、関連した数学の授業をよく聞いておくこと				
テキスト	G.M. Barrow 著 大門・堂免 訳 「バーロー物理化学(上)」(東京化学同人) 定価 4410 円				
参考書					
予習・復習について	復習には、1回 30分くらいで十分であるが、週1時間くらいは章末問題の勉強に当てること				
成績評価の方法・基準	最終試験に基づいて評価する。試験問題は主として章末問題に類似した問題を出題するので、各自で勉強しておくこと。もし解らなければ、随時質問を受け付けているので、相談のこと。				
オフィスアワー	随時。但し会議等の都合で対応できない場合があるので、個別に確認すること				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	代謝生化学				
担当教員名	山本 歩	所属等	理学部		
		研究室	理学部A棟 311		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード	エネルギー代謝、異化作用、同化作用、栄養、グルコース、アミノ酸、脂質、ATP				
授業の目標	生化学の主要な代謝経路について学習し、その原理を学ぶ。				
学習内容	<p>「人はパンのみにて生きるにあらず」という言葉がありますが、パン（食物）なくして生きることができないのも事実です。人は食物を摂り、消化し、栄養を吸収します。生きていくのに必要なエネルギーと、体を作るのに必要な物質を、ともに栄養から得ているからです。栄養からどのようにしてエネルギーを取り出すのか？どのようにして体に必要な物質を合成するのか？こういった、エネルギーや物質の変化と流れを「代謝」と言います。ここでは、生化学の主要な代謝経路について解説をします。</p>				
授業計画	<p>教科書にそって、次の順序で代表的な代謝経路を解説します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代謝 2. グルコースの異化代謝 3. グリコーゲン代謝と糖新生 4. クエン酸サイクル 5. 電子伝達と酸化的リン酸化 6. 光合成 7. 脂質代謝 8. アミノ酸代謝 				
受講要件	基礎量子化学、基礎熱化学、基礎有機化学Ⅰ・Ⅱ、基礎生化学、生物学Ⅰ・Ⅱの履修を前提とする。				
テキスト	ヴォート基礎生化学 第3版（東京化学同人）				
参考書	必要があれば、授業でそのつど紹介する。				
予習・復習について	テキスト・ノートを読むなどの予習・復習をすること。				
成績評価の方法・基準	単位の認定と成績の評価は、レポートおよび期末試験の総点で判断する。単位の認定は3分の2以上の出席を前提とする。				
オフィスアワー	空いているときはいつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	天然物有機化学				
担当教員名	坂本 健吉	所属等	理学部		
		研究室	理学部B棟 301号室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水1・2
キーワード	有機化学、官能基、構造、反応、反応機構				
授業の目標	有機化合物の構造と反応を理解する。				
学習内容	天然物有機化学とは、生命活動において必須の糖類(炭水化物)・ペプチド(蛋白質)・核酸(DNA)、および、生物が生産する二次代謝産物を研究する分野である。この分野の理解は、生命の原理や医薬品・農薬の化学の基礎を理解するうえで大切である。本講義では、以下の項目についてテキストをもとに講述すると共に、天然高分子の高次構造を司る分子間相互作用についても概観する。				
授業計画	2 1 章 アミンおよびその誘導体：窒素を含む官能基 2 2 章 ベンゼンの置換基の反応性：アルキルベンゼン、フェノールおよびベンゼンアミン 2 3 章 エステルエノラートとクライゼン縮合： β -ジカルボニル化合物の合成、アシルアニオン等価体 2 4 章 炭水化物：自然界に存在する多官能性化合物 2 5 章 ヘテロ環化合物：ヘテロ原子を含む環状有機化合物 2 6 章 アミノ酸、ペプチド、タンパク質、核酸：自然界に存在する含窒素ポリマー				
受講要件	特になし。				
テキスト	ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下巻 (第4版) (古賀憲司・野依良治・村橋俊一監訳) (化学同人)				
参考書					
予習・復習について	予習・復習は必須である。有機化学的考え方をもとに、出会った反応を紙に書いて機構について考察してみよう。				
成績評価の方法・基準	試験により評価する。				
オフィスアワー	時間がある限り対応する。質問があったら気軽に居室に来てほしい。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	量子化学 I				
担当教員名	三井 正明	所属等	理学部		
		研究室	三井研究室 (共通教育 C 棟 303)		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	量子論、シュレーディンガー方程式、波動関数、ハミルトニアン、電子スピン、原子軌道、項記号				
授業の目標	原子中の電子のエネルギーが量子化されていることや原子軌道の成り立ちをシュレーディンガーの波動方程式を解くことを通じて理解し、量子力学的な考え方の基礎を習得することを目指す。また、より高度な量子力学的問題 (例えば、分子の化学結合や分子軌道法など) を学習していくための基礎を養う。				
学習内容	原子や分子に代表されるミクロな物質の性質や挙動は量子論によって記述される。本講義では、光子や電子の粒子性と波動性、エネルギーの量子化などの前期量子論に関する解説から始め、ミクロな粒子が従うシュレーディンガー方程式を解くことを通じてエネルギー量子化や原子軌道の成り立ちなどについて学んでいく。				
授業計画	0. 量子化学とは？ 1. 前期量子論 1.1 黒体輻射 1.2 光電効果 1.3 ド・ブロイ波 1.4 波動関数と存在確率 2. シュレーディンガー方程式 2.1 演算子とシュレーディンガー方程式 2.1.1 古典物理量と演算子 2.1.2 ハミルトン演算子 (ハミルトニアン) 2.1.3 シュレーディンガー方程式 2.2 シュレーディンガー方程式の 1 次元並進運動への適用 2.2.1 自由粒子の 1 次元並進運動 2.2.2 井戸型ポテンシャルの中の粒子 2.2.3 3 次元系への拡張 2.3 シュレーディンガー方程式の 2 次元回転運動への適用 2.3.1 回転運動の古典的な取扱い 2.3.2 回転運動の量子力学的な取扱い 2.4 シュレーディンガー方程式の 3 次元回転運動への適用 3. 水素類似原子 (1 電子系) の電子構造 3.1 水素原子スペクトル 3.2 水素原子のボーアモデル 3.3 シュレーディンガー方程式の水素類似原子への適用 4. 電子スピンと電子スピン関数 4.1 電子スピン 4.2 電子の反対称性 “パウリの排他原理” 5. 多電子原子の電子構造 5.1 ヘリウム原子へのシュレーディンガー方程式の適用 5.2 二電子系の全波動関数 5.3 原子の電子配置と構成原理 5.4 項記号				
受講要件	古典力学、簡単な微積分・三角関数に関する知識				
テキスト	「バーロー物理化学 (上)」 第 2 章 (2.3 - 2.7)、「バーロー物理化学 (下)」第 9 章、第 10 章前半 (原子) の内容を主に解説する。				
参考書	「アトキンス 物理化学(上)」(東京化学同人)、「マッカーリ サイモン 物理化学 分子論的アプローチ(上)」(東京化学同人)				
予習・復習について	予習・復習合わせて、週 1 時間程度はテキスト・ノートを読むこと。				
成績評価の方法・基準	数回のレポート (10%) と期末試験(90%)で評価する。				

オフィス アワー	特に定めませんが、なるべく講義後に質問してください。
担当教員か らのメッセ ージ	取り扱う内容が物理に基礎をおいているため、多少難しく感じるかもしれないが、量子化学は化学の基本原理を理解していく上で必須の基礎知識となります。特に復習に力を入れて、内容の理解に努めてください。自分でよく考えても分からない事があれば、質問してください。

授業科目名	構造化学				
担当教員名	小堀 康博		所属等	理学部	
			研究室	総合研究棟 513 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	水 3・4
キーワード					
授業の目標	物理化学のひとつの分野である構造化学について、その基礎を学ぶ				
学習内容	化学の種々分野で応用されている分光法は量子化学的知識に基づいて理解することにより、その特徴および限界などをよく把握できる。そのために必要な基礎的事項を学ぶ。また、分子の電気的、磁氣的性質についても講義する。				
授業計画	<p>テキストの次の章を、以下の順序で講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 第 12 章 分光学 電磁波の吸収 第 12 章 分光学 直線分子の回転スペクトル 第 12 章 分光学 振動のエネルギーとスペクトル：二原子分子 第 12 章 分光学 振動-回転スペクトル 第 12 章 分光学 多原子分子の振動スペクトル 第 12 章 分光学 可視から紫外にかけての吸収：電子スペクトル 第 12 章 分光学 光電子分光 第 12 章 核と電子の磁気スペクトル 核スピン状態 第 12 章 核と電子の磁気スペクトル 核磁気共鳴分光法 第 12 章 核と電子の磁気スペクトル 核磁気共鳴スペクトル 第 12 章 核と電子の磁気スペクトル 電子スピン共鳴分光法 第 14 章 分子の電気的および磁氣的性質(1) 第 14 章 分子の電気的および磁氣的性質(2) 第 14 章 分子の電気的および磁氣的性質(3) 第 14 章 分子の電気的および磁氣的性質(4) 				
受講要件	量子化学 I, II の知識が必要になるので、よく復習をしておくこと。				
テキスト	G.M. Barrow 著 大門・堂免 訳 「バーロー物理化学 (下)」(東京化学同人) 定価 4620 円				
参考書					
予習・復習について	前もって教科書の目を通しておくこと。復習として教科書の問題を解く。レポートあり				
成績評価の方法・基準	出席と最終試験に基づいて評価する。試験問題は主として章末問題および配布プリントに基づいて出題する。随時質問を受け付けているので、相談のこと。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	質問は随時受け付けます。わからないままにせず、どんどん訊いてください。				

授業科目名	無機機器分析				
担当教員名	加藤 知香	所属等	理学部		
		研究室	理学部A棟 307		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水5・6
キーワード	分光学、吸光光度分析、赤外吸収分析法、原子吸光分析、X線分析法、磁気共鳴分析、質量分析、クロマトグラフィー、熱分析				
授業の目標	最近の測定機器の発達によって、分析化学における機器分析の占める比重は大きなものになっている。この講義では、無機イオン・無機化合物を分析対象とした機器分析化学の基礎を方法別に学習する。				
学習内容	物質と電磁波（X線、紫外線、可視光線、赤外線、マイクロ波など）との相互作用や、物質の電気化学的性質に基づいた分析法の基礎を学習する。				
授業計画	1回 第1章 序論 2回 第2章 吸光光度分析と蛍光光度分析 3回 第3章 赤外吸収・ラマンスペクトル分析法 4回 第3章 赤外吸収・ラマンスペクトル分析法（続き） 5回 第4章 原子吸収光分析、フレイム分析および発光分光分析 6回 第4章 原子吸収光分析、フレイム分析および発光分光分析（続き） 7回 第5章 X線分析法 8回 第5章 X線分析法（続き） 9回 第6章 磁気共鳴分析 10回 第6章 磁気共鳴分析（続き） 11回 第7章 質量分析 12回 第7章 質量分析（続き） 13回 第8章 クロマトグラフィー 14回 第8章 クロマトグラフィー（続き） 15回 第10章 熱分析				
受講要件					
テキスト	庄野利之・脇田久伸編著 「入門機器分析化学」（三共出版）				
参考書					
予習・復習について	1回の授業につき、予習・復習合わせて週1時間程度テキストを読めば十分である。				
成績評価の方法・基準	基本的にレポートにて評価するが、受講態度も加味する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	関数電卓を持ってきてください。				

授業科目名	無機化学 I				
担当教員名	菅野 秀明		所属等	理学部	
			研究室	理学部A棟3階 A306室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	木1・2
キーワード	原子の電子構造、局在化結合理論、分子軌道法、電子不足分子、多原子陰イオン				
授業の目標	無機化学を理解するための基本的な法則や原理を学ぶ。				
学習内容	無機化学は周期表にあるすべての元素を対象としており、それらから構成される単体、イオン性化合物、共有結合性化合物など多様な物質を扱う。この講義では、無機化学の基礎として、無機化合物の性質や構造を体系的に理解するための基本的な法則や原理を学習する。				
授業計画	1回 2章 原子の電子構造： 原子軌道 2回 2章 原子の電子構造： 電子配置 3回 2章 原子の電子構造： 有効核電荷 4回 2章 原子の電子構造： 元素の性質における周期的な傾向、原子およびイオンの磁気的性質 5回 3章 分子の構造と結合生成： 混成理論 6回 3章 分子の構造と結合生成： 原子価殻電子対反発理論 7回 3章 分子の構造と結合生成： 結合距離、分子のパッキング、分子軌道法 8回 3章 分子の構造と結合生成： 電子不足分子中の多中心結合 9回 4章 イオン性固体： 代表的なイオン性固体の構造 10回 4章 イオン性固体： 格子エネルギー、ボルン-ハーバーのサイクル 11回 4章 イオン性固体： 結晶格子の立体配置、最密パッキング 12回 4章 イオン性固体： 混合金属酸化物 13回 5章 多原子陰イオンの化学： 酸化物イオン、水酸化物イオン 14回 5章 多原子陰イオンの化学： オキソ酸陰イオン、多核オキソ酸イオン 15回 5章 多原子陰イオンの化学： ハロゲンを含む陰イオン、硫化物イオンおよび硫化水素化物イオン				
受講要件	特になし				
テキスト	F. A. Cotton, G. Wilkinson, P. L. Gauss 著／中原勝儼 訳 「基礎無機化学（原著第3版）」（培風館）				
参考書	講義中に紹介する				
予習・復習について	授業毎に予習と復習をすること。また、復習のための課題を与えるのでレポートとして提出すること。				
成績評価の方法・基準	レポートの内容（20%）と期末試験の得点（80%）で評価する。				
オフィスアワー	特に指定しない				
担当教員からのメッセージ	質問はできるだけ授業中に。研究室での質問等も随時受け付ける。				

授業科目名	反応錯体化学				
担当教員名	近藤 満	所属等	機器分析センター		
		研究室	総合研究棟 501		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	木 3・4
キーワード	金属錯体の反応、 π 酸性配位子、有機金属化合物、触媒反応、生体関連錯体				
授業の目標	金属錯体、有機金属化合物、生体関連錯体について反応の基礎を習得する。				
学習内容	金属錯体（配位化合物）はさまざまな反応性を示し、組成や立体構造、中心金属の電子状態の変化など多種多様である。この講義では、それら反応の機構や速度を支配する因子について解説する。さらに、有機金属錯体の基礎と反応性および触媒作用、生体内反応における金属錯体の役割についても解説する。				
授業計画	<p>テキストの章に従い、次の項目を講義する。</p> <p>6章：配位化学（5節、6節） *金属錯体が示す様々な化学反応について解説する。 項目）配位化合物の反応性、置換反応、アネーション反応、アクア化反応、酸加水分解反応、塩基加水分解反応、トランス効果、電子移動反応、異性化反応、ラセミ化反応など</p> <p>28章：金属カルボニルおよびπ受容性（π酸性）配位子との遷移金属錯体 *金属から配位子への逆供与など、金属-配位子の結合について解説する 項目）単核・多核金属カルボニル、18電子則、ニトロシル錯体、シアノ錯体など</p> <p>30章：有機金属化合物の化学量論的反応および触媒反応 *金属-炭素結合をもつ化合物（有機金属化合物）による多様な触媒反応について解説する 項目）配位的不飽和、酸化的付加反応、挿入反応、水素化反応、接触付加、触媒反応など</p> <p>31章：生物無機化学 *金属酵素の構造と機能について解説する 項目）ポルフィリン錯体、鉄-硫黄タンパク質、ビタミンB12、など</p>				
受講要件	なるべく構造錯体化学を履修していること。				
テキスト	基礎無機化学（原著第3版）、Cotton,他著／中原勝儼 訳、培風館、1998年、4-563-04551-9				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	毎回の講義につき1時間程度の予習・復習が望ましい。				
成績評価の方法・基準	レポート、期末試験の結果を総合的に評価する。（欠席が多い場合は、試験を受けても成績の評価対象としない）				
オフィスアワー	質問はできるだけ授業中に。特に時間を指定しないが、研究室での質問等は随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	化学反応論				
担当教員名	関根 理香	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A 棟 3 階 302 号室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード	反応速度、反応次数、遷移状態理論、衝突理論、触媒反応				
授業の目標	化学の、基本的な概念である化学反応の理論を学ぶ。素過程、反応機構、遷移状態、発光過程など、反応にかかわる概念と、その取り扱いを学び、反応の解析法について学習する。				
学習内容	化学反応の速度と機構、および素反応過程と反応速度の理論を学習する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 反応速度式と速度定数、一次反応の速度式、二次反応の速度式 2. 反応速度と平衡、緩和法 3. 反応速度と反応機構、複雑な反応速度式、気相単分子反応 4. 酵素触媒反応、酵素触媒反応の反応機構 5. 表面過程、吸着 6. 表面における分解反応 7. 素反応、分子間の衝突 8. 反応性衝突および反応速度の衝突理論 9. 反応速度の遷移状態理論 10. 衝突理論と遷移状態理論との比較 11. 溶液反応の衝突理論、溶液反応の遷移状態理論 12. 発光過程、電磁波の吸収および放出 13. 光化学反応、光化学反応の速度論 14. せん光分解 15. レーザー (LASER) 				
受講要件	基礎量子化学、基礎熱化学の履修。物理学 I,III の履修。また、量子化学 I,II、熱化学 I,II を履修していることが望ましい。				
テキスト	バーロー物理化学 (下) 15 章、16 章				
参考書	バーロー 物理化学問題の解き方 第6版、ISBN4-8079-0504、3800 円				
予習・復習について	力学 (物理学 I)、量子化学、熱化学を充分学習しておくこと。宿題を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験 (70%)、宿題 (レポート) の提出 (20%)、毎回の小テスト (10%)				
オフィスアワー	特に指定しません。				
担当教員からのメッセージ	化学反応論は物理化学分野の総まとめです。しっかり復習しましょう。				

授業科目名	有機機器分析				
担当教員名	小林 健二		所属等	理学部	
			研究室	小林研究室 (総合研究棟 514)	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	金 5・6
キーワード	核磁気共鳴(NMR)分光法、赤外(IR)分光法、質量(Mass)分析法、紫外・可視分光法				
授業の目標	核磁気共鳴分光法、赤外分光法、紫外可視分光法および質量分析法で得られるスペクトルを解釈して有機化合物の構造を決定する方法を修得する				
学習内容	ここに一つの有機化合物(分子)がある。どのような元素からできているだろうか。分子量はどのくらいか。どのような官能基を含んでいるか。いったいどのような構造なのか。このような疑問に答えるのが、有機機器分析である。有機化合物を合成・単離精製し、種々のスペクトルを測定して読み解くことによって、有機化合物の構造式を決定できる。それ故に、有機化合物を扱う人には有機機器分析は必須となっている。本講義では、様々なスペクトルを解釈して有機化合物の構造を決定するための入門コースである。				
授業計画	テキストの有機機器分析に関する章を解説する 10章 核磁気共鳴(NMR)分光法 11章 赤外(IR)分光法、質量(Mass)分析法 14章 紫外・可視(UV-vis)分光法 および次の章の分光法に関する項目 11章、13章、15章、17章、19章、21章				
受講要件					
テキスト	第6版「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上」、第6版「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下」 (古賀憲司・野依良治ら監修) (化学同人)				
参考書	配布資料				
予習・復習について	授業前にテキストに目を通しておくこと。章末問題を解く等復習をすることが望ましい。				
成績評価の方法・基準	主に試験により評価するが、演習の状況も考慮する				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	テキストの一部しか用いないが、購入することを強く推奨する。下巻は3年次の「有機反応論」、「天然物有機化学」で使用する。				

授業科目名	植物生化学				
担当教員名	天野 豊己	所属等	理学部		
		研究室	総 721		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード	タンパク質、葉緑体、光合成、分子シャペロン、膜透過、老化、過敏反応				
授業の目標	植物のタンパク質合成および分解の分子機構を、発生および分化、老化と合わせて総合的に理解する。				
学習内容	光化学系の構造と機能、その構築機構、膜透過装置の作用機構などについて、タンパク質の立体構造とその機能変化の視点から解説を行う。これらのタンパク質複合体が形成する上で重要な分子シャペロンの作用機構および膜透過に関与するトランスロケーターについて解説する。また植物の老化および病原菌への作用機構など、生理学的に興味深い現象についても解説を行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 植物の熱ショック応答の分子機構 2. 分子シャペロンの構造と機能 3. 葉緑体へのタンパク質の輸送 4. タンパク質の輸送とブラウン運動 5. 葉緑体におけるタンパク質分解 6. 光化学系の構造と変動 7. 光リン酸化の分子機構 8. プロテアーゼによる基質認識メカニズム 9. 植物の老化過程の分子機構 10. 植物病原体に対する応答 				
受講要件	植物の生化学およびタンパク質科学について興味があること				
テキスト	主としてプリントを配布する。				
参考書	植物の生化学・分子生物学（学会出版センター）、細胞の分子生物学（Newton Press）、ヴォート生化学（東京化学同人）、など。				
予習・復習について	上記参考書の該当部分を熟読すること				
成績評価の方法・基準	成績は、試験と出席状況から総合的に判断する。				
オフィスアワー	質問は適宜受け付ける。前もってメール(sbtaman@ipc.shizuoka.ac.jp)に連絡が望ましい。				
担当教員からのメッセージ	タンパク質を通じて生命現象を考えたいと思います。				

授業科目名	生物環境科学概論Ⅱ				
担当教員名	加藤 憲二	所属等	理学部		
		研究室	共通教育C棟 602		
分担教員名	鈴木 款,北村 晃寿				
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	地球環境、進化、水圏生態系、森林生態系、物質循環、微生物				
授業の目標	地球環境と生命活動に関して進化的な視点から大きく眺めることと、現在の多様な生態系についての理解から環境問題の本質を見抜く力を養う。				
学習内容	生命と地球がどのように関わり合っているのかを現在の地球環境と生物の多様性が形成されたのかを考えると、地球環境と生命のありようについての考え方の枠組みを学ぶ。また地球上の多様な生態系について、その仕組みを物質循環の観点から理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境とは何だろうか (加藤) 2. 地球環境の現在とその形成への道のり (加藤) <ul style="list-style-type: none"> ・ 生命進化の 30 億年 ・ エネルギー代謝系の獲得と地球環境の変化 3. 顕正代の気候変動 (北村) 4. 地球上の多様な生態系 <ul style="list-style-type: none"> ・ 海洋生態系と物質循環 (鈴木) ・ 森林生態系を支えるもの (加藤) ・ 地下圏に広がる生態系 (加藤) 3. 温暖化と生態系変化の可能性 (鈴木・北村・加藤) 				
受講要件	地球環境と生命の関わりについて関心を持ち、理解を深めようと努力すること。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	適宜紹介する。				
予習・復習について	自ら知識を整理し、問題点を見つけるよう心がけること。講義中に配布される資料は精読すること。これについて簡単なレポートを課すことがある。				
成績評価の方法・基準	期末試験と、講義の進行に併せて課す小レポートによる。				
オフィスアワー	毎講義終了後の 30 分と月曜日の昼休み時間				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	分子生物学				
担当教員名	山内 清志		所属等	理学部	
			研究室	総合研究棟602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	月5・6
キーワード					
授業の目標	生物学の一分野として、生命現象を分子レベルで理解するための基礎的な概念や専門用語などを修得し、分子生物学への興味を深める。				
学習内容	生命を理解する上で、マクロな視点を据えたミクロな視点（細胞・分子レベル）から学習し、現在得られつつある研究の趨勢を理解するための基礎を提供する。				
授業計画	1回 はじめに 2回 遺伝学の歴史 3回 遺伝物質の同定 4回 遺伝子の機能と構造 5回 DNAの機能と構造 6回 RNAの機能と構造 7回 タンパク質の機能と構造 8回 染色体構造とヌクレオソーム 9回 DNA変異 10回 DNA複製 11回 DNAからRNAへ（転写） 12回 RNAからタンパク質へ（翻訳） 13回 遺伝子研究の技術開発（1） 14回 遺伝子研究の技術開発（2） 15回 まとめ				
受講要件	「基礎生物学I」（1年・前期）を履修しておくことが望ましい。				
テキスト	ブルース・アルバーツほか著、中村桂子・松原謙一監訳「細胞の分子生物学（第5版）」（ニュートンプレス）				
参考書	指定しない。				
予習・復習について	授業の進行に合わせてテキストを用いて予習・復習に取り組むこと。 HP(http://www4.tokai.or.jp/kyama)に「講義の概要と手引き」があるので、予習・復習に活用するとよい。				
成績評価の方法・基準	毎回の授業の開始時に前回の授業の復習を兼ねて小テストを行い、それによって普段の学習への姿勢を評価し（33%）、2回の試験において到達度を評価する（66%）。両者の評価を総合して最終的な成績評価とする。				
オフィスアワー	適宜応じる。事前に sbkyama@ipc.shizuoka.ac.jp に連絡すること。				
担当教員からのメッセージ	積極的な姿勢で受講してほしい。				

授業科目名	生物科学の最前線				
担当教員名	塩尻 信義	所属等	理学部		
		研究室	理学部A棟 611		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火1・2
キーワード	最新の話題、環境応答学、生体調節学、細胞・発生、研究室紹介、進路指導				
授業の目標	生物科学の最新の成果を理解し、卒業研究の配属研究室を決める。また卒業後の進路について具体的に考察・決定し、その達成に向け行動できるように指導する。				
学習内容	生物科学の最新の話題、特に各講座・研究室の研究成果を中心に解説し、4年次の研究室選択の際の参考にする。また3年次、4年次開講の専門科目受講にあたっての考え方の指導ならびに進路指導（進学・就職・教職など）を行う。学生がそれぞれの進路を具体的に決め、その達成に向け行動できるように指導する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 植物生態学分野の話題 3. 植物生理学分野の話題 4. 植物発生学・植物分子生物学分野の話題 5. 生体調節学分野の話題 6. 分子遺伝学分野の話題 7. 神経行動学・環境生化学分野の話題 8. 細胞生物学・分子発生学分野の話題 9. 発生生物学分野の話題 10. 進学指導 11. 企業への就職指導（就職説明会） 12. 企業への就職指導（就職活動の実際） 13. 企業への就職指導（OB・OGからの話） 14. 教職に関する指導 15. まとめ 				
受講要件					
テキスト	特に指定しない。				
参考書	随時紹介する。				
予習・復習について	積極的に予習・復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	毎回のレポート等に基づいて総合的に評価する。期末試験はなし。				
オフィスアワー	特に設けませんが、質問等のある方は各研究室をのぞいて下さい。				
担当教員からのメッセージ	みなさんがそれぞれ10年後にどのような仕事をしたいのか、あるいはしているのか想像し、それに向け実力をつけましょう。また卒業研究は4年間の総仕上げです。積極的に情報を集めてください。				

授業科目名	植物発生学				
担当教員名	木寄 暁子	所属等	理学部		
		研究室	総合研究棟 701		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	C	曜日・時限	火 5・6
キーワード	植物、発生、形態形成、遺伝子、遺伝子組換え植物				
授業の目標	植物の形態形成にかかわる遺伝子の働き，およびその研究方法を理解する。 また、植物の分子生物学の基礎（特に遺伝子組換え植物等）を理解する。				
学習内容	近年，植物の形態形成を支配する遺伝子の同定・制御機構の研究がめざましい成果をあげている．本講義では，これら植物の形態形成を制御する遺伝子について解説するとともに，どのようにこのように研究が進められているか（方法論）について解説する．				
授業計画	1. 植物の分子生物学の基礎と応用 2. (遺伝子組み換え植物等) 3. " 4. " 5. " 6. " 7. " 8. 形態形成にかかわる遺伝子の同定（方法） 9. " 10. " 11. " 12. 形態形成にかかわる遺伝子の働き 13. " 14. " 15. "				
受講要件					
テキスト	ベーシックマスター 植物生理学				
参考書	植物の生化学・分子生物学，細胞の分子生物学				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	試験および出席により評価する				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	基礎生物学Ⅱ				
担当教員名	鈴木 雅一	所属等	理学部		
		研究室	理 A616		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	火 5・6
キーワード	脊椎動物、組織、構造、機能、分子				
授業の目標	脊椎動物の組織構築、並びに組織や器官の機能を理解する。				
学習内容	脊椎動物の体は様々な器官から成り立っている。各器官は協調しあいながらそれぞれ独自の機能を果たしており、それによって個体の生命は維持され子孫を残すことも可能になる。本講義では肉眼レベル、光学顕微鏡レベル、電子顕微鏡レベル、分子レベルの様々な階層で各器官を概観し、その構造と機能を概説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 四大組織 2. 上皮組織 3. 支持組織Ⅰ (結合組織) 4. 支持組織Ⅱ (結合組織) 5. 支持組織Ⅲ (軟骨・骨) 6. 支持組織Ⅳ (血液・骨髄) 7. 免疫系 8. 筋組織 9. 循環系 10. 神経組織Ⅰ (神経系・ニューロン) 11. 神経組織Ⅱ (グリア細胞) 12. 試験 				
受講要件					
テキスト					
参考書	標準組織学 総論・各論 (著; 藤田・藤田: 医学書院)、現代の組織学 (著; 山田: 金原出版) など				
予習・復習について	関連する事項について、随時、生物学の本を参照して自ら理解を深めて欲しい。				
成績評価の方法・基準	主として最終授業の試験の結果で成績評価する。その際、出席回数も考慮する。レポートを課した場合、それも評価の対象とする。				
オフィスアワー	火曜日 昼休み (12時10分-13時00分) を予定				
担当教員からのメッセージ	今後の実習や研究に必要な基礎知識なので、是非学習して欲しい。				

授業科目名	発生生物学Ⅱ				
担当教員名	塩尻 信義		所属等	理学部	
			研究室	理学部A棟 611	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水3・4
キーワード	器官形成、誘導、形態形成、細胞分化、細胞間相互作用、遺伝子発現、実験発生学				
授業の目標	発生過程で多様な器官が形成される仕組みを、細胞レベルならびに分子レベルで理解する。				
学習内容	多細胞動物の体は、特有の機能と形態・構造をそれぞれ有する多様な器官から構成されており、それらの統合により個体自身ならびに個体の属する種が維持される。本講義では、マウスやニワトリなどの高等脊椎動物をモデルとして、発生過程で多様な器官が形成される仕組みについて、どのような実験によりその仕組みが証明されたかなど、実験発生学の成果にもとづきながら解説する。特に、各器官形成系でおこる細胞分化、増殖、細胞移動、誘導、形態形成、細胞間相互作用など“細胞社会”として制御されている側面とその分子メカニズムについて講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 卵割から胚葉形成まで 3. 神経胚形成 4. 発生運命地図と誘導・体軸形成 5. 表皮の発生・分化 6. 神経堤細胞の移動と分化 7. 体節の形成 8. 心臓形成と血管系の発生 9. 造血細胞の起源 10. 排出器官の発生 11. 生殖巣の形成 12. 生殖輸管などの発生 13. 消化器官の発生 14. 肝臓形成 15. まとめ 				
受講要件	特になし。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	武田洋幸・相賀裕美子著『発生遺伝学』（東京大学出版会）、東中川徹他編著「ベーシックマスター発生生物学」（オーム社）、八杉貞雄著「動物の形態 ー進化と発生ー」（裳華房）など。随時紹介する。				
予習・復習について	予習・復習を必ず行って下さい。				
成績評価の方法・基準	レポート、期末試験などに基づいて総合的に評価する。				
オフィスアワー	特に指定しませんが、質問があれば研究室まで。				
担当教員からのメッセージ	発生現象は見ていて大変美しいものです。またその仕組みも巧妙です。				

授業科目名	生物学Ⅱ				
担当教員名	塩井 祐三	所属等	自然科学系教育部		
		研究室	総合研究棟 7 1 3		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	木 1・2
キーワード	植物の特徴、多様性、分類および系統、植物の構造、細胞内小器官、細胞壁				
授業の目標	植物のもつ特徴、多様性、生活環を中心とした基礎、さらに、植物の膜構造からなる細胞内小器官および細胞壁、細胞壁を構成する糖の基礎的な化学についても学習する。植物の多様性を含めた生物学的特徴を総合的に学習・習得し理解を深める。				
学習内容	植物のもつ特徴、多様性、生活環を中心としたエネルギー獲得などの基本反応について解説する。植物の特徴を利用したバイオテクノロジーなどの身近な生物学も取り上げ、植物の持つ生物学的特徴を総合的に学ぶ。				
授業計画	1 回 序論： 植物の誕生と多様性： 最古の植物はシアノバクテリア？ 2 回 エネルギー獲得形式から見た生物の多様性： ミドリムシは植物か動物か 3 回 植物の独立栄養： エネルギーの根元としての植物 4 回 植物の生活環と植物の特徴： 植物に寿命はあるのか 5 回 植物の形態的特徴： 環境に応じて形を変える植物 6 回 植物の全能性を生かしたバイオテクノロジー： 1 個から 2 0 万個の植物を作る 7 回 真核細胞の誕生と 2 つの説： 葉緑体（光合成器官）はシアノバクテリアか 8 回 植物の分類と系統 9 回 無管束陸上植物と維管束隠花植物，種子植物：裸子植物，被子植物 10 回 植物の膜と膜構造 11 回 オルガネラの細胞内機能と動態 12 回 植物の光反応 13 回 植物の光合成反応Ⅰ 14 回 植物の光合成反応Ⅱ 15 回 生物学Ⅱの総括				
受講要件					
テキスト	植物の生化学・分子生物学，細胞の分子生物学				
参考書	指定しない。必要があればそのつど紹介する。				
予習・復習について	毎回，出欠の代わりとして，前回の復習を兼ねた小テストをするので，予習・復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	出席，レポートの提出および試験の結果より総合的に判断する 試験は，期末試験 1 回で終了する予定。プリント，自筆ノートは持ち込み不可。生物学として基本的問題を出す予定で，多くのまじめな出席学生が単位取得できることを目指す。				
オフィスアワー	月曜日 7・8 時限を予定。				
担当教員からのメッセージ	授業計画通りに行う予定であるが，内容や進度によりシラバスと前後することがある。				

授業科目名	神経科学				
担当教員名	竹内 浩昭	所属等	理学部		
		研究室	理学部A棟 6階 612室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	木3・4
キーワード					
授業の目標	脳科学・神経科学・神経行動学における基本的知識の修得				
学習内容	<p>21世紀は脳科学・神経科学の時代と言われ、脳科学・神経科学の進歩は脳の老化防止、アルツハイマー病など脳・神経系難病の克服、脳の原理を生かしたコンピュータやロボットの開発に繋がることから、基礎研究のみならず応用研究の進展が多分野から注目されている。</p> <p>本講義の前半では、脳神経系の構造と発生、膜電位の生成機構、細胞の興奮、刺激受容などこの分野の基本事項を解説し、後半では古典的な神経解剖学・電気生理学的解析法から近年発達著しいニューロイメージングまで代表的な研究手法を紹介する。また、本能行動発現や記憶・学習の脳内メカニズムなどについても、重要な研究例をピックアップして解説する。</p>				
授業計画	<p>01～03. 脳神経系の構造と発生、進化 04～06. 細胞膜の構造と膜電位の生成機構 07～09. 細胞の興奮と興奮の伝導・伝達 10～11. 刺激受容と感覚情報処理 12～13. 神経科学の研究手法 14～15. 本能行動発現・記憶・学習の脳内メカニズム</p>				
受講要件	授業に遅刻せず出席し、集中して聴講し、最低限の予習・復習ができること。				
テキスト	テキストは特に指定せず、適宜、資料・プリントを配布するが、下記参考書に目を通すことが望ましい。				
参考書	<p>神経科学テキスト(第2版), N.R.カールソン(著)・泰羅雅登・中村克樹(訳), 丸善, 2007, 9784621079133</p> <p>脳・神経科学入門講座 前編 改訂版, 渡辺雅彦(著), 羊土社, 2008, 9784758107297</p> <p>脳・神経科学入門講座 後編 改訂版, 渡辺雅彦(著), 羊土社, 2008, 9784758107303</p> <p>脳・神経と行動, 佐藤真彦(著), 岩波書店, 1996, 9784000078764</p> <p>生き物をめぐる4つの「なぜ」, 長谷川眞理子(著), 集英社, 2002, 9784087201680</p>				
予習・復習について	1回の授業につき、予習・復習それぞれ15分以上。				
成績評価の方法・基準	授業の出席状況、授業時の小テスト(資料持込可)と期末試験(資料持込不可)の答案あるいはレポートの内容に基づいて成績を評価する。なお、答案は模範解答の6割程度を合否基準として成績を判定する。				
オフィスアワー	金曜日 9・10時限(16:05-17:35)を予定。				
担当教員からのメッセージ	新聞やインターネット上の科学関連情報を積極的に利用して、予習・復習に努めてください。質問は、できるだけ授業中あるいは授業直後にしてください。ただし、メールでの質問も歓迎します。				

授業科目名	微生物学				
担当教員名	藤原 健智	所属等	理学部		
		研究室	総 614		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード					
授業の目標					
学習内容	地球上のあらゆる環境に、肉眼では見ることのできない微小な生物たちが住んでいる。微生物の高い環境適応能力はどのようにもたらされるのであろうか。原核微生物（バクテリア・アーキア）の多様な生化学的機能に主眼をおいて微生物学を講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学の歴史 2. 原生動物・細菌・ウイルス 3. 細胞・遺伝子の構造 4. 系統分類 5. 発酵・呼吸・光合成 6. 極限環境微生物 7. 共生・進化 8. 地球環境と微生物 9. 病原性微生物 10. 工業的利用 				
受講要件					
テキスト	「Brock 微生物学」（オーム社）を元に作成したプリントを随時配布し資料とする。				
参考書	特に指定はしないが各自手持ちの一般的な生化学の教科書も参考文献とする。				
予習・復習について	要復習				
成績評価の方法・基準	学期末に試験を行います。また出席回数が10回以下の場合、成績評価の対象としない場合があります。				
オフィスアワー	月-金曜日午後（12:00-16:00）				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	進化古生物学				
担当教員名	生形 貴男	所属等	理学部		
		研究室	共通 C 棟 312		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期 (前半)		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード	生物、古生物、進化				
授業の目標	“進化論”にありがちな浪漫主義を廃し、通俗的進化観を科学的理解に昇華する。				
学習内容	進化古生物学の体系と理論と基本概念を解説し、古生物を生物学的・進化的側面から学ぶ。				
授業計画	<p>個体群レベルの進化古生物学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 変異と遺伝 (メンデルの法則, ハーディー・ワインベルグの定理) 2. 遺伝的浮動 (集団サイズ, ヘテロ接合体率, 創始者効果, 遺伝子流動, 近交弱勢) 3. 自然選択 (適応, 適応度, 相加遺伝分散, 自然選択の基本定理, 不利な遺伝子の除去, 遺伝的荷重) 4. 個体群動態 (個体群の成長, ロジスティック曲線, 生存曲線, 生命表) <p>種レベルの進化古生物学</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 種と種分化 (様々な種概念, 生殖的隔離機構, 種分化の様式) <p>高次レベルの進化古生物学</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 系統 (原始形質・派生形質, 相同と同形, クレードとグレード, 系統推定法, 体系学論争) 7. 発生と“大進化” (ボディープラン, 異時性と異座性, ファイロタイプ, モジュール性, 発生的制約) 				
受講要件	なし				
テキスト	なし				
参考書	Futuyma, D. J. 2005. Evolution. Sinauer, Sunderland, 603p.				
予習・復習について	毎回の授業で次回分のプリントを配布するので、予習でそれらに目を通しておくこと。毎回出される「期末試験想定問題」の中から期末試験問題を出題するので、各自しっかり復習すること。				
成績評価の方法・基準	試験による				
オフィスアワー	なし				
担当教員からのメッセージ	なし				

授業科目名	構造地質学				
担当教員名	狩野 謙一	所属等	理学部		
		研究室	総合研究棟 314		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期（前半）		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火 1・2
キーワード	地質構造、歪、応力、変形メカニズム、断層、節理、褶曲、岩石組織				
授業の目標	構造地質学は地殻の構造(地質構造)を解析するための基礎となり、また応用範囲の広い分野でもある。本講義ではその基礎となる歪と応力の関係、実際に形成される断層や褶曲などの記載方法と、形成にいたる運動過程・物理過程についての基礎的取扱いについて解説する。				
学習内容	この講義では、最初に地質構造とは何かを解説し、その地質構造を形成する歪と応力の力学的基礎を学ぶ。それらをふまえて地下深部から表層部の異なる環境下において断層や褶曲などがどのような過程を経て形成され、発達していくのかを学ぶ。				
授業計画	<p>おおよそ以下の順序で講義を行う。ただし、一項目が一回の講義になるとは限らない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地質構造とは何か？ 地質構造の記載 2. 歪と応力の基礎 3. 地殻物質の性質 4. 変形メカニズムと変形相 5. 断層と節理 6. 褶曲 7. 岩石組織 				
受講要件					
テキスト	天野一男・狩野謙一：フィールドジオロジイ 6 「構造地質学」。 共立出版，2009年				
参考書	狩野謙一・村田明広：構造地質学。 朝倉書店，1998年，				
予習・復習について	上記のテキスト，参考書を講義前・後に読んでおくと良い。				
成績評価の方法・基準	地質構造の形成過程と形成条件が理解されているかについて，講義時間内の小テスト，期末テストの結果などから総合的に評価する				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	関連した内容を持つ構造岩石学，地震地質学，テクトニクスなどの基礎となる分野である。				

授業科目名	マイクロテクニクス				
担当教員名	道林 克禎		所属等	理学部	
			研究室	理学部C棟 401	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期（後半）		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火 1・2
キーワード	微細構造、組織、ファブリック、差応力、レオロジー				
授業の目標	岩石の構造を理解し、そこに記録されているレオロジーの情報を読み取る力を培う				
学習内容	主に偏光顕微鏡下で観察される岩石の微細構造を学ぶ。				
授業計画	マイクロテクニクス 微細構造と組織，そしてファブリック 鉱物の細粒化（石英，かんらん石など）と差応力計 変形メカニズムマップ				
受講要件					
テキスト	なし				
参考書	講義中に適宜紹介する				
予習・復習について	配付資料や参考書を元にして予習・復習をして理解を深めてほしい				
成績評価の方法・基準	出席状況と試験等によって，総合的に評価する				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	岩石の構造に秘めた情報を引き出すおもしろさを学んでほしい				

授業科目名	地球化学				
担当教員名	和田 秀樹		所属等	理学部	
			研究室	理学部 C 棟 501 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期 (前半)		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	火 3・4
キーワード					
授業の目標	地球化学に関連した多くの学問分野の発展とともに明らかになりつつある地球の化学像を、元素と同位体をキーワードとして概観する。				
学習内容	地球を含む太陽系は、46億年の歴史を持ち、その間絶えず変動を続け、地表のみならず地殻・マン托ルの物質は、物質移動を通じて化学的な変化を起こしてきた。このような時間とともに変化するダイナミックな地球の姿は、地球の化学的進化と呼ぶことができる。地球はまた、生命の存在する唯一の場所であり、生命活動によって地球表層環境は変化した。地球進化の時間と空間的な物質の流れを理解するために、地球に存在する元素とその同位体比の分布とその基礎を学習する。				
授業計画	1) 地球物質を作る元素とその同位体 [1回] 初期地球、地球の層状構造、元素の分配、海水の化学組成、大気の化学組成 2) 放射性同位体と安定同位体 [2回] 放射性同位体、安定同位体、放射壊変、放射年代測定、同位体の分配 3) 地球内部の物質移動と同位体の進化 [1回] マン托ル物質、沈み込み帯、同位体進化、元素の地球化学的サイクル、 4) 地球における水の役割と物質の移動 [1回] 物質循環、地下流体の形成、水の循環、岩石-水相互作用、マグマ形成 5) 地球の資源と元素の濃縮 [1回] 元素の濃縮、結晶分化作用、鉍化作用、熱水鉍床、堆積作用、変成作用 6) 地球生命と地球環境の変遷 [1回] 一次大気、2次大気、光合成と炭素同位体、食物連鎖、石油、石炭				
受講要件					
テキスト	地球惑星システム科学入門 (東大出版) 鹿園 直建 著、2800 円				
参考書					
予習・復習について	教科書をよく読むこと。				
成績評価の方法・基準	試験とレポートの総合点				
オフィスアワー	常時				
担当教員からのメッセージ	広く分野を超えて地球の化学の基礎を学んでください。				

授業科目名	惑星物質学				
担当教員名	和田 秀樹	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 501 室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期 (後半)		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	火 3・4
キーワード	宇宙、、太陽系、、元素の宇宙存在度、、惑星、、地球、、内惑星、、外惑星、同位体異常				
授業の目標	4 6 億年にわたる太陽系と地球の歴史を概観し、地球とはどのような特徴を持った惑星であるのか、惑星を作る物質や地質学的過程の特徴を、地球化学や同位体地球化学が何を明らかにしたかを理解する。				
学習内容	地球は、太陽系の一員であり唯一生命が存在する惑星である。現代地球惑星科学は、4 6 億年にわたる地球の歴史を次第に明らかにしつつある。地球とはどのような特徴を持った惑星であるのか、惑星を作る物質や地質学的過程の特徴を、主に地球化学や同位体地球化学から見た姿を概説する。				
授業計画	1 : 宇宙を作る物質・・・元素の起源と太陽系の特徴 [1 回] ビッグバンと宇宙の誕生, 元素の宇宙存在度, 隕石とコンドライト 2 : 太陽系はどうしてできたか [2 回] 原始大気, 二次大気, 海洋の形成, 化学進化 3 : 太陽系は何時でできたか [2 回] 地球の年代と宇宙の年代, 放射性年代測定法, 隕石の年代学 4 : 地球の進化と惑星の進化 [1 回] 初期の地球と地球の化学的進化 5 : 惑星地球の仲間の特徴 [1 回] 月・小惑星・彗星				
受講要件					
テキスト	地球惑星システム科学入門 (東京大学出版会) 鹿園 直建著 2800 円				
参考書	太陽系の化学ー地球の成り立ちを理解するためにー 海老原 充著 裳華房 3200				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	試験とレポートを総合して評価する。				
オフィスアワー	いつでも				
担当教員からのメッセージ	今宇宙のことががが面白くなってきた。				

授業科目名	地球科学入門Ⅱ				
担当教員名	北村 晃寿	所属等	理学部		
		研究室	共通教育 C 棟 311		
分担教員名	塚越 哲				
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	火 5・6
キーワード	海洋、化石、時代区分、層序、大気、堆積、地球史、地球表層環境、地層				
授業の目標	4年間の地球科学の専門教育中で、生命・環境分野についての基礎的かつ必須事項を修得する。				
学習内容	地球表層環境の成り立ちについて学ぶ。特に地形と地層、生命の記録、大気と海洋に主眼を置いて、地球史に関する基礎を修得する。				
授業計画	<p>以下の内容について講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な化石（塚越） 2. 地質時代の区分（塚越） 3. 生物界と自然環境の変遷（塚越） 4. 試験（塚越） 5. 地表の変化と堆積作用 1，堆積物・堆積岩，風化作用（北村） 6. 地表の変化と堆積作用 2，浸食作用，運搬作用（北村） 7. 地表の変化と堆積作用 3，堆積作用，地層（北村） 8. 大気と気候・気象（北村） 9. モンスーン，海洋（北村） 10.地球表層環境（北村） 11.試験（北村） 				
受講要件	特になし。				
テキスト	なし。				
参考書	浜島書店 新詳地学図表 ニュービジュアル版				
予習・復習について	授業をよりよく理解するための参考書（適宜紹介）を読んでおくことが望ましい。また授業後はノートと配布資料を使って復習すること。				
成績評価の方法・基準	成績は、試験結果とレポートの内容を総合評価する。ただし出席率が70%以下の場合は不可とする。				
オフィスアワー	教員ごとに異なるので、授業で個々に知らせます。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	構造岩石学				
担当教員名	増田 俊明	所属等	理学部		
		研究室	総合研究棟 313		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期（前半）		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード	応力、歪、岩石の変形				
授業の目標	応力と力の違いを数式を使って理解すること。歪解析の初歩について理解すること。				
学習内容	岩石の変形に関する基本的な知識を、数式を積極的に取り入れて紹介する。特に応力と歪みについて詳しく扱う。数学力としては高校での数学レベルを基本とし、それを逸脱する場合は解説する。				
授業計画	1回 力、単位ベクトル 2回 力の釣り合い 3回 ベクトルの内積、連立方程式と行列表示 4回 固有値 5回 固有ベクトル 6回 座標変換 7回 応力場の例 8回 9回 10回 11回 12回 13回 14回 15回				
受講要件	特になし。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	増田俊明 「はじめての応力」(朝倉出版)				
予習・復習について	数式の展開が必要なレポート課題を数回出題する予定。レポートの出来は成績に反映させる。				
成績評価の方法・基準	試験				
オフィスアワー	9:00 から 17:00 まで				
担当教員からのメッセージ	数学は一見ややこしいが、解ってしまえば一番解りやすい。高校時代の数学の教科書は大学でも使う。				

授業科目名	地球ダイナミクス概論Ⅱ				
担当教員名	道林 克禎		所属等	自然科学系教育部	
			研究室	総合研究棟 312	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水3・4
キーワード	岩石変形、地質構造、大陸移動説、海洋底拡大説、テクトニクス、造山運動、地殻変動、日本列島、東海地域				
授業の目標	地球のダイナミクスを理解する上で重要な構造地質学、プレートテクトニクスを学び、それらをふまえて日本列島で起こる様々な地殻変動の意味を理解する				
学習内容	概論Ⅰに引き続き、地球のダイナミクスを解説するうえで重要な地球内部の構造を理解するための構造地質学の基礎を概説する。引き続き、地殻およびマントル上部の運動を支配するプレートテクトニクスの理論について、その成り立ちと概要を解説する。これらをふまえて、日本列島周辺の過去から現在にかけてのプレートシステムの変遷、変動帯日本列島、とりわけ地殻変動の活発な東海地域周辺の位置づけ、成り立ちを明確にする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 地球ダイナミクスと構造地質学 2 地質構造とは？ 3 応力と歪 4 断層と褶曲 5 弾性、脆性、塑性、粘性 6 プレートテクトニクスとは 7 大陸移動説 8 海洋底拡大説 9 プレート境界過程 10 ホットスポットとプリューム 11 日本列島周辺のプレートシステム 12 東海地域の地殻変動と東海大地震 				
受講要件					
テキスト					
参考書	適宜紹介する				
予習・復習について	レポート等と併せて授業内容に関係した部分について適宜参考書等を独習しておくことを勧める。授業時間中に不明の点について随時質問できるように予習・復習する姿勢を養うこと。				
成績評価の方法・基準	レポート、授業時間内の理解度小テスト、期末試験、出席状況、講義中の積極的な質問・Discussionの姿勢などを総合して評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	地球生命史				
担当教員名	加藤 憲二	所属等	理学部		
		研究室	共通教育C棟 602		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期（前半）		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水3・4
キーワード	地球環境の変遷、環境の中の生命、環境を変える生命、生命進化				
授業の目標	地球と生命の変遷を、両方の側面から理解を深める。				
学習内容	地球の環境と地球型生命の誕生から、生命活動による地球環境の大きな変化、その中での生命の進化を大きな時間変化の中でとらえる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分子系統樹に年代が入った！ 2. 生命の初期進化 <ol style="list-style-type: none"> (1) ベナールの実験 [with demonstration] (2) ミラーの実験 (3) RNA ワールド、ウイルスが先かバクテリアが先か (4) 生命が一回だけ誕生したと考える理由 (5) 最古の化石は本物か？ (6) 生きた細菌をよみがえらせる<岩塩から> 3. 地球大気の酸化と細胞内進化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 代謝回路の獲得 (2) 酸素濃度の上昇とシアノバクテリア (3) カタラーゼの獲得 (4) 大本 vs. ホランド論争（の本質）……課題 4. 高温極限環境の原核生物生態系／微生物バイオマット <ol style="list-style-type: none"> (1) 好熱性硫黄酸化細菌からなる硫黄芝と好熱性シアノバクテリア (2) 光をエネルギー代謝に用いることから情報として認識するまでにかかった時間 5. Universal ancestor と三つのドメイン <ol style="list-style-type: none"> (1) カール・ウーズ登場 (2) 3ドメインと共通祖先 (3) Small Subunit ribosomal RNA 遺伝子の系統樹 (4) 原核生物における種の考え方 6. 中立進化と分子系統樹 7. 真核生物の登場 <ol style="list-style-type: none"> (1) リン・マーギュリスの内部共生説 (2) 古細菌が真核細胞の核になったと考える理由 (3) ジェームス・レイクの Ring of Life (4) 水圏生態系の進化 8. 先カンブリア時代 vs. 顕生代 9. いくつかのエピソード <ol style="list-style-type: none"> (1) エピソード1：月の水は地球のそれより古い！ (2) エピソード2：大進化はどのようにおこったのか？ 10. まとめ 				
受講要件	理解を進める上で自分に欠けている基礎知識がみつかればそれを補う努力をすること。				
テキスト	講義ノートと配付資料が柱となる。				
参考書	適宜紹介する。たとえば、現代進化学入門（C.パターソン、岩波）、全地球史解説（熊澤他、東大出版）、生命と地球の共進化（丸山、磯崎、岩波新書）、スノーボールアース（G.ウォーカー、早川書房）など。				
予習・復習について	提供された資料と講義内容を講義後に確認し、理解すること。疑問点があれば次回に質問すること。				
成績評価の方法・基準	授業への参加（出席することだけではない）と期末試験によって行う。				

オフィス アワー	毎講義終了後の 30 分と月曜日の昼休み時間
担当教員か らのメッセ ージ	

授業科目名	放射化学概論				
担当教員名	矢永 誠人	所属等	放射科学研究施設		
		研究室	理学部A棟 201		
分担教員名	奥野 健二,大矢 恭久				
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水5・6
キーワード	放射線、放射性核種、放射性核種利用				
授業の目標	非密封放射性核種に関する化学分野の基礎を総合的に習得する				
学習内容	本科目では、全学科の学生を対象に放射線取扱主任者試験に向けて必要となる“化学のうち放射線に関するもの”を構成する基礎的な知識と放射性核種の製造、分離、分析、核反応を利用した分析、および標識化合物に関わることを講義するとともに、試験におけるポイントを演習により解説する。(なお、放射線物理学概論を履修していない受講者のために、講義をする上で必要に応じて放射線物理学概論の内容も解説する。)				
授業計画	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 放射性壊変と放射能 放射平衡 天然放射性核種 核反応とR I の製造 核反応の種類、励起関数、原子断面積と同位体断面積、無担体R I の調製法 核分裂 R I の分離法 共沈法、溶媒抽出法、イオン交換法、ラジオコロイド、その他 放射化分析 ホットアトムの化学 R I の化学分析への応用 放射化学分析、放射分析、同位体希釈分析 トレーサとしての化学的利用 放射線化学 				
受講要件	興味を持って受講して頂ければ、特段の予備知識は必要としない。				
テキスト	放射線概論 (飯田博美 編, 通商産業研究社)				
参考書	放射化学概論 (第3版) (富永 健、佐野博敏共著、東京大学出版会)、放射線取扱の基礎 (第4版) (日本アイソトープ協会) など				
予習・復習について	各時間の内容に合わせた簡単な演習を、復習として行っていただくが、特に、放射線取扱主任者の国家試験を受験する者は、確実に合格できるように、普段から演習を行って頂きたい。				
成績評価の方法・基準	平常時の演習 25 点および期末試験 75 点の合計点により評価する。				
オフィスアワー	質問等は、平日午前9時頃から午後6時頃まで、随時、受けつける。				
担当教員からのメッセージ	成績評価の方法に記した平常時の演習として、原則として、毎回の授業時に問題演習を行い、その時間の講義の理解を深める。				

授業科目名	持続可能型農業科学				
担当教員名	南雲 俊之	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 435 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	C	曜日・時限	月 1・2
キーワード	物質循環、土壌、環境保全、持続的農業生産、農業生態系				
授業の目標	農業の持続性と密接に関わる土壌の機能，農業生態系・食料システムの物質循環，今日的な環境問題とのかかわりについて理解を深める。				
学習内容	農業生態系あるいは食料システムの物質循環の視点から，現在の農業が抱える構造的な問題，農業の持続性，今日的な環境問題とのかかわりを解説する。 関連科目：土壌学，資源生態科学論，物質循環学，資源植物環境学，植物栄養学，作物学など。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 農業生態系における物質循環の特徴 Key word) 開放系，内部循環，窒素，リン，反応性窒素 3. 農業と環境 Key word) 有機性廃棄物，水域の富栄養化，地球温暖化，酸性化，LCA 4. 伝統的農業生態系の物質循環 Key word) 焼畑，水田稲作，水田土壌 5. 農業の持続性とその実践形態－代替農業 Key word) LISA，有機農業 6. 化学肥料の特徴と作物生産性への貢献 Key word) 肥料資源，追肥と肥効調節型肥料，黒ボク土，水田土壌 7. 有機性廃棄物の現状と農業利用における課題 Key word) 食料自給率，食料・飼料の輸入と輸出，土壌腐植，堆肥，緑肥，農地の受入れ可能量 				
受講要件	土壌学（土壌圏科学）を履修済みであることが望ましい。				
テキスト	特になし。毎回，資料（プリント）を配布する。				
参考書	講義資料に引用した図表の出典となった書籍全般。				
予習・復習について	図書館等で，講義内容に関連する参考書等を探し，その都度，しっかり復習をすること。				
成績評価の方法・基準	講義ごとに出欠を取ります（60%）。これにレポート（40%）を加算します。 なお，欠席 1 回につき・10%減点します。レポートを提出しない者には単位を与えません（不可にします）。 小テストを課す場合もあります。 秀（>90 点），優（>80 点），良（>70 点），可（>60 点），不可（<59 点）				
オフィスアワー	講義後および随時，来訪を歓迎します。ただし，事前にメール等で問合せること。				
担当教員からのメッセージ	私語は絶対厳禁。				

授業科目名	資源リサイクル論				
担当教員名	鈴木 恭治		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 503 研究室	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	月 1・2
キーワード	資源、リサイクル、廃棄物、循環共生型社会、バイオマス				
授業の目標	地球環境に配慮した循環共生型社会構築のために廃棄物を再資源化しリサイクルすることの重要性がますます高まっている。各種資源リサイクルの現状と問題点を把握し、循環共生型社会構築のために何をなすべきかを学ぶことを目標とする。				
学習内容	各種資源のリサイクルの歴史と現状及び意義について説明し、リサイクル促進を阻んでいる要因を明らかにするとともに、その解決のための技術と限界について述べる。また各論として、合成プラスチックや木材及び紙資源を例にとり、それらのリサイクルの状況及び新利用技術について論述する。				
授業計画	1 回 資源リサイクルとは 2 回 資源リサイクルの歴史 3 回 廃棄物の定義と分類 4 回 廃棄物の処理とリサイクルの意義 5 回 リサイクル法 (その 1) 6 回 リサイクル法 (その 2) 7 回 プラスチックのリサイクル 8 回 生物系廃棄物のリサイクル 9 回 リサイクル技術と経済性 10 回 木材のリサイクル 11 回 紙のリサイクル (その 1) 12 回 紙のリサイクル (その 2) 13 回 リサイクル技術の課題 14 回 地域の資源リサイクル 15 回 循環共生型社会構築のために				
受講要件	関連科目：化学概論 A 及び B、生物学概論、有機化学概論				
テキスト	講義時間にプリントを配布				
参考書	環境省編「環境、循環型社会白書」				
予習・復習について	板書内容やプリントを読み返すこと。				
成績評価の方法・基準	出席状況と定期試験により評価する。出席状況を重視する。秀 90 点以上、優 90 未満～80 点、良 80 点未満～70 点、可 70 点未満～60 点、不可 60 点未満				
オフィスアワー	月曜日 16 時から 17 時をオフィスアワーとする（農学部 A 棟 503 室にて）。				
担当教員からのメッセージ	質問がある場合は予め E-mail にて日時を予約してください。				

授業科目名	植物生理学				
担当教員名	原 正和	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 103 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	月 1・2
キーワード	光合成、呼吸、成長、植物ホルモン				
授業の目標	植物に特徴的な生命現象について、基礎を理解することを目標とする。				
学習内容	一定の場所に固着して独立栄養生活を営む植物は細胞レベルでも個体レベルでも動物と大きく異なっている。ここでは、植物に特徴的な生命現象の基礎的理解をめざす。光合成と呼吸、成長と植物ホルモンを中心に、植物生理の特性を概説する。				
授業計画	第 1 回 植物生理学について 第 2 回～第 4 回 光合成 第 5 回～第 6 回 呼吸 第 7 回～第 1 5 回 成長と植物ホルモン 種子の発芽、成長と運動、成長と分化、光形態形成 第 1 6 回 定期試験				
受講要件	生物学、植物形態学の基礎を理解していることが望ましい。				
テキスト	使用しない。必要に応じ、プリントを配布する。				
参考書	「植物生理学」テイツ／ザイガー（培風館）、「新しい植物ホルモンの科学」小柴恭一・神谷勇治（講談社） 「植物生理学講義」増田方雄（培風館）				
予習・復習について	とりわけ、復習をしっかりと行い、疑問点は遠慮なく質問すること。				
成績評価の方法・基準	小テスト、定期試験により評価する。				
オフィスアワー	事前にメールでコンタクトをとって下さい。				
担当教員からのメッセージ	気軽に研究室へ来て下さい。				

授業科目名	有機化学概論				
担当教員名	衛藤 英男	所属等	農学部		
		研究室	農学部 B 棟 309-2		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	月 3・4
キーワード	分子軌道、構造、命名法、立体化学、反応				
授業の目標	有機化学の重要性を理解し、分子軌道、有機化合物の構造、命名法、立体化学、性質、反応性の基礎を学ぶ。				
学習内容	有機化学の基礎を学び、化学の面白さと生活に密着していることを理解する。				
授業計画	1) 有機化学の必要性について例を挙げながら解説する。(1 - 2回) 2) 原子、分子の構造、軌道について解説する。(3 - 6回) 3) 構造式の表し方、有機化合物の命名法について解説する。(7 - 8回) 4) 有機化合物の立体化学について解説する。(9 - 12回) 5) 有機化合物の反応機構について解説する。(13 - 15回) 毎回、小テストを行う。				
受講要件	高等学校で「化学」を未履修の者は、高等学校の「化学」の教科書をよく読んで学び、一日も早く追いつけるように努力すること。				
テキスト	ビギナーズ有機化学 (川端 潤著) 化学同人				
参考書	ジョーンズ有機化学 東京化学同人				
予習・復習について	分からない点は、すぐに同級生または教員に教えてもらうよう努力すること。				
成績評価の方法・基準	定期試験 (80%) と小テストの結果 (10%) と出席 (10%)。				
オフィスアワー	オフィスアワー：随時 (事前に電話や電子メールで問い合わせること)				
担当教員からのメッセージ	積極的に質問をしてください。				

授業科目名	園芸食品利用学				
担当教員名	山脇 和樹	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 407 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	A - B	曜日・時限	月 3・4
キーワード					
授業の目標	生鮮な果実や野菜の多くは軟弱で貯蔵性が乏しく、また季節性、地域性も強いいため、これらの利用は多くの制約を受ける。このような青果物の収穫から消費までの品質低下やロスを抑える技術は、生産の一部と認識すべきで、世界的に見て更なる開発や整備の余地が大きく残されている。また、缶詰や冷凍、乾燥などの加工は生産物の利用率を上げる重要な手段で、生産と切り離して考えることはできない。講義では、収穫後も生命体であり食品でもある青果物の有効な利用を目指す技術についての理解と関心を深め、さらに農業生産を広い視野で捉える感覚も養う。				
学習内容	園芸生産物の取扱い、貯蔵や流通、加工に関する基礎知識や技術について学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス：講義概要、背景、意義 2. 呼吸生理：養分の供給は断たれても生きている。長所でもあり短所でもある 3. 呼吸の制御：温度、空気組成、エチレン、物理的刺激、熟度、齢など 4. 予冷の意義：なぜ1時間でも早く、1℃でも低く冷したいのか 5. 予冷の実際：差圧通風予冷、真空予冷、ハイドロクーリングなど 6. 予措：流通、貯蔵の前に行う処理。予措乾燥、脱渋、追熟処理など 7. CA貯蔵とMA貯蔵：リンゴが一年中食べられるのはCA貯蔵のおかげ 8. 生理障害と市場病害：収穫した時点で農作物は法的に食品の扱いを受ける 9. 品質評価と選別：傷つけずに成分や品質を測定、評価し、選別する技術が実用化 10. 缶・びん詰、レトルト食品：200年以上の歴史 11. 冷凍食品：単に凍っている食品ではない 12. 色素と変色：きれいな色を保つのは至難のわざ 13. 水分活性と腐敗：水分活性とは？ 14. ゲル化剤としてのペクチン：どうして固まるのか 15. 総括および加工実習 16. 筆記試験 				
受講要件	関連科目：収穫後生理学、果樹園芸学、野菜園芸学など				
テキスト	特に使用しない 資料を適宜プリントして配布する				
参考書	「食品保蔵・流通技術ハンドブック」(建帛社) 「園芸食品の流通貯蔵加工」(養賢堂) 「青果保蔵学汎論」(建帛社) 「野菜の鮮度保持マニュアル」(流通システム研究センター) 他				
予習・復習について	特に予習の必要はないが、身近な果物、野菜の生理現象にも関心をもち、講義に臨んで欲しい。出来るだけ授業時間内に理解し、専門用語も憶えるように努める。以後簡単に復習すること。				
成績評価の方法・基準	出席、小テスト、レポートにより受講意欲や関心度などを評価(50%)し、期末の筆記試験で総合的な理解度を評価(50%)する。				
オフィスアワー	随時(昼休み時間、夕刻)				
担当教員からのメッセージ	講義中の質問は授業への積極的な参加として、加点点評価する。				

授業科目名	有機化学概論				
担当教員名	河岸 洋和		所属等	自然科学系教育部	
			研究室	農学部 A 棟 711 研究室	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	月 3・4
キーワード	分子軌道、構造、命名法、立体化学、反応				
授業の目標	有機化学の重要性を理解し、分子軌道、有機化合物の構造、命名法、立体化学、性質、反応性の基礎を学ぶ。				
学習内容	原子、分子の構造、軌道について理解し、その後、構造式や命名法、立体化学、反応機構の基礎を講義する。				
授業計画	1 回 有機化学の必要性について例を挙げながら解説 2 回 原子、分子の構造、軌道について解説 3 回 原子、分子の構造、軌道について解説 4 回 原子、分子の構造、軌道について解説 5 回 原子、分子の構造、軌道について解説 6 回 構造式の表し方、有機化合物の命名法について解説 7 回 構造式の表し方、有機化合物の命名法について解説 8 回 構造式の表し方、有機化合物の命名法について解説 9 回 有機化合物の立体化学について解説 10 回 有機化合物の立体化学について解説 11 回 有機化合物の立体化学について解説 12 回 有機化合物の反応機構の基礎について解 13 回 有機化合物の反応機構の基礎について解 14 回 有機化合物の反応機構の基礎について解 15 回 有機化合物の反応機構の基礎について解				
受講要件	本講義は「有機化学」に引き継がれる。 高等学校で「化学」を未履修の者は、高等学校の「化学」の教科書を読んで学び、一日も早く追いつけるように努力すること。				
テキスト	ビキナーズ有機化学（川端 潤 著）化学同人				
参考書	ジョーンズ有機化学（上）（下） 東京化学同人				
予習・復習について	授業後と授業前に教科書とノートを読み、理解を深め、小テストに備えること。				
成績評価の方法・基準	定期試験（約 40%）と小テストの結果（約 50%）と出席（約 10%）を総合して評価する。				
オフィスアワー	オフィスアワー：随時（事前に電話や電子メール等で問い合わせること）				
担当教員からのメッセージ	有機化学は生物を扱う学問の大事な基礎です。				

授業科目名	食品機能化学				
担当教員名	森田 達也	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 602 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期	必修選択区分	
対象学年	4 年	難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード	食品の 3 次機能、生体調節機能、科学的根拠と現実性				
授業の目標					
学習内容	食品の持つ生体調節機能について生理、生化学的機構を中心に講義する。				
授業計画	1 序論（日本の栄養摂取量の現状と問題点） 2～ 4 食物繊維の機能（血糖値上昇抑制、コレステロール低下、大腸機能） 5～ 7 脂質の機能（不飽和脂肪酸と虚血性疾患、アレルギー） 8～10 活性酸素（その功罪、抗酸化 Vitamin 及び微量元素摂取の意味） 11～12 タンパク質の機能（アミノ酸組成と脂質代謝） 13～14 炭水化物の機能（消化抵抗性デンプンの栄養生理的意義）				
受講要件	関連科目：栄養化学、生化学				
テキスト	なし。必要な資料はコピーして配付する。				
参考書	「食品機能化学」（三共出版） 「食物繊維」（第一出版） 「フリーラジカルと生体」（学会出版センター）				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	評価は、定期試験を考慮して行う。				
オフィスアワー	月～金の昼休み、または夕方 6 時以降（農学部 A 棟 602）				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	農業簿記入門				
担当教員名	柴垣 裕司		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 326 研究室	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	農業簿記、財務分析				
授業の目標	講義内容（財務諸表の見方、企業の財務分析）を学生が、就職活動等で活用できるようになることを目指す。				
学習内容	農業簿記を題材として、簿記の基本原理を習得してもらう。さらに、簿記記帳により得られる財務情報を基にした財務分析手法を学んでもらう。				
授業計画	1 : 授業ガイダンス 2 : 簿記の計算方法 3 : 財務諸表 4 : 取引、取引要素の結合 5 : 仕訳、仕訳帳記入 6 : 元帳への転記 7 : 合計残高試算表 8～10 : 決算整理 11・12 : 帳簿決算 13～15 : 財務分析 16 : 期末試験				
受講要件	特になし。				
テキスト	工藤賢資・新井肇「農業会計」農文協、1993				
参考書	工藤賢資・新井肇「農業会計演習帳」農文協、1996、4540951068				
予習・復習について	簡単な宿題を出しますが、講義で理解できないところは復習しておくこと。簿記の学習は積み上げ方式のため、わからないまま放置しておくことと先に進めなくなります。				
成績評価の方法・基準	期末試験（100%）で評価するが、小テストの成績も考慮する。 評価基準として、期末試験は講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	相談事のある方は、事前にメールで当方の都合を聞いて下さい。				
担当教員からのメッセージ	簿記は「習うより慣れろ」で、講義中に練習問題を解いてもらいます。また、簿記の学習は積み上げ方式のため、欠席すると先に進めなくなりますので欠席しないこと。 農業簿記について講義しますが、簿記の原理自体は共通ですので、関心のある学生はさらに学習を重ね「商業簿記」等の資格取得にチャレンジして下さい。				

授業科目名	植物ゲノム科学				
担当教員名	大村 三男		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 339 研究室	
分担教員名	本橋 令子				
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	月 7・8
キーワード	分子生物学、遺伝子、機能推定、データベース、DNA、相同性、生物情報				
授業の目標	最近の植物ゲノム解析の進展は、分子生物学、遺伝学などの生命科学ばかりでなく、農業生産にも大きな影響を持つようになってきている。情報解析を中心に植物ゲノム解析の目標、進め方、新しい解析技術などについて幅広く講義することで、現代植物科学とその応用を学ぶ基盤とする。				
学習内容	分子生物学の知識の上に、Web をパソコンベースで利用してゲノムの情報を引き出すための基本的な方法について、実践的に学ぶ。				
授業計画	<p>1 回 ガイダンスー植物ゲノム科学とバイオインフォマティクス</p> <p>2 回 Web-learning によるゲノム科学の基礎 1ー分子生物学、配列比較</p> <p>3 回 Web-learning によるゲノム科学の基礎 2ーホモロジー検索とマルチプルアライメント</p> <p>4 回 Web-learning によるゲノム科学の基礎 3ー配列解析ツールとゲノムシーケンス支援</p> <p>5 回 ゲノムリソースサイトの紹介と利用 (タグライン、変異体コレクション、cDNA など)</p> <p>6 回 Web 情報の活用法とオミックス・データベース 検索エンジン (Yahoo、Geoogle) DNA データバンク (GenBank/EMBL/DDBJ) NCBI からの情報取得 (塩基・アミノ酸配列、PubMed) 配列 Division (EST、HTC、GSS、CoreNucleotide など)</p> <p>7 回 植物オミックス・データベースと主要 Web ツール フリー・テキスト・アノテーションとジーン・オントロジー 各植物のゲノム、トランスクリプトーム、メタボロームのデータベース Web ツール ; InterProScan、PLACE、Primer 3 など</p> <p>8 回 植物オミックス・データベースと主要 Web ツール フリー・テキスト・アノテーションとジーン・オントロジー 各植物のゲノム、トランスクリプトーム、メタボロームのデータベース Web ツール ; InterProScan、PLACE、Primer 3 など</p> <p>9 回 ゲノムアノテーション、ゲノム・EST プロジェクト、 完全長 cDNA、EST、UNIGENE</p> <p>10 回 EST など配列データを活用した研究の紹介、 EST とゲノム配列による遺伝子構造と機能のアノテーション、ジーンオントロジー、KEGG、代謝パスウェイ)</p> <p>11 回 手作業の限界、網羅的研究、大量データの処理・自動化</p> <p>12 回 パブリシティの重要性、web サイトのしくみ</p> <p>13 回 まとめ 実践、応用</p> <p>14 回 まとめ 実践、応用</p> <p>15 回 まとめ 実践、応用</p>				
受講要件	パソコンを操作し、インターネットの利用が自在にできる必要がある。また、分子生物学関連講義を受講していること。				
テキスト	『バイオデータベースとウェブツールの手とり足とり活用法(第2版)』(中村保一・磯合敦・石川淳編) 羊土社				
参考書	『東京大学 バイオインフォマティクス集中講義』(高木利久監修) 羊土社 ほか				
予習・復習について	情報を実際に扱ってみることが重要なので、推薦するソフトウェアの利用を積極的に行うこと。				
成績評価の方法・基準	受講状態とレポートにより評価する。				
オフィスアワー	月曜日・木曜日				

担当教員か
らのメッセ
ージ

授業科目名	生化学				
担当教員名	鳥山 優	所属等	農学部		
		研究室	共通教育 C 棟 509 号室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	C	曜日・時限	火 1・2
キーワード	A T P、エネルギー生成、糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝、ヌクレオチド代謝				
授業の目標	生化学は生き物を分子レベルで理解しようとする学問分野である。この講義では、代謝の基本的な仕組みと原理、エネルギー代謝を中心とした個々の代謝について学ぶ。				
学習内容	指定された教科書の第Ⅲ部、代謝と生体エネルギー論の中で、光合成を除く代謝経路について理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代謝についての序論 (化学反応の自由エネルギー変化) 2. 代謝についての序論 (化学反応における活性化エネルギー) 3. 解糖 4. 解糖の調節 5. クエン酸回路 6. クエン酸回路の調節 7. グリコーゲン代謝と糖新生 8. 糖新生とペントースリン酸回路 9. 電子伝達の概略 10. 電子伝達と A T P 合成 11. β 酸化回路 12. 脂肪酸合成 13. アミノ酸合成 14. アミノ酸異化 15. ヌクレオチド代謝 16. 試験 <p>基本的に、1 回の授業で 1 項目を話しきる予定だが、項目によっては前後にずれ込むことがある。</p>				
受講要件	なし				
テキスト	「ホートン生化学」Horton ら著、鈴木紘一ら訳 (東京化学同人)				
参考書	なし				
予習・復習について	各授業ごとに、教科書の章末の問題番号を指定するので、解答例を見ずに解いて、それをレポートとして提出することで、復習とする。				
成績評価の方法・基準	評価は定期試験のみで決める。定期試験は教科書、ノートなど持ち込み可とする。				
オフィスアワー	月曜日 7, 8, 9, 10 時限, ただし, 事前に電子メールで確認すること				
担当教員からのメッセージ	生物学概論で学習した代謝経路の概略と, 生化学概論で学習した生体構成物質の基礎知識を十分に復習してから授業に臨むこと。有機化学の基礎知識も当然必要である。				

授業科目名	微生物代謝工学				
担当教員名	徳山 真治	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 630 研究室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	火 1・2
キーワード	微生物バイオテクノロジー、代謝制御、遺伝子工学、タンパク質工学				
授業の目標					
学習内容	遺伝子工学、パンパ櫛津工学、制御代謝工学、微生物バイオテクノロジー全般				
授業計画	1 回 ガイダンス 2 回 微生物の多様性 3 回 微生物のバイオテクノロジー 4 回 遺伝工学の基礎 1 5 回 遺伝子工学の基礎 2 6 回 遺伝子工学の基礎 3 7 回 遺伝子工学の基礎 4 8 回 細菌における蛋白質生産 9 回 細菌における物質生産 10 回 放線菌の物質生産 (前) 11 回 放線菌の物質生産 (後) 12 回 酵母におけるタンパク質生産 13 回 アミノ酸発酵 14 回 微生物酵素 15 回 バイオマス				
受講要件	分子生物学及び応用微生物学を受講していることが望ましい				
テキスト	未定				
参考書	ガイダンスで紹介				
予習・復習について	毎回復習することが望ましい				
成績評価の方法・基準	出席・試験成績を評価して総合的に判断する。				
オフィスアワー	平日：8 時～21 時				
担当教員からのメッセージ	遺伝子工学の基礎から、最近のバイオテクノロジーまで紹介します。				

授業科目名	森林環境水文学				
担当教員名	土屋 智	所属等	農学部		
		研究室	農学部A棟 508 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	4年	難易度	B	曜日・時限	火 1・2
キーワード	森林の熱環境、水循環、降雨浸透、降雨流出、蒸発散				
授業の目標	太陽エネルギーによる熱収支と蒸発散による地表熱環境の緩和、森林土壌が果たす洪水流の調節機構、森林が発揮する熱環境の緩和機能等について基本的理解ができることを目標とする。				
学習内容	森林を含む水循環過程に焦点をあて、太陽エネルギーによる熱収支、蒸発散による地表熱環境の緩和、森林土壌が果たす洪水流の調節機構、森林が発揮する環境緩和機能について概説する。また、蒸発散過程、雨水流出過程について、森林と水循環過程の定量的関係を講述する。				
授業計画	1・2. 森林地をとりまく水循環とそこでの水循環過程 3. 水資源の涵養と水利用に関する環境倫理 4・5. 土壌中の水の動き：土壌水と地下水、ベルヌイ(Bernoulli)の定理、水理ポテンシャルとダルシー則 6. 不飽和流動の基礎と測定：体積含水率、水分特性曲線、テンシオメータと吸引圧 7・8. 浸透基礎理論：不飽和水分移動の解析、一次元不飽和流動式と数値解、一次元土壌カラム実験 9. 森林斜面における水移動：ホートン型地表流、降下浸透と飽和帯 10. 流出解析：流出モデル、合理式、タンクモデル 11. 地下水流出：地下水のダルシー則、降下浸透と飽和帯 12. 安倍川流域の概要と洪水流出の実態 13. 蒸発散：蒸発散の測定法、水収支法、熱収支法、土壌水分変化法 14. 蒸発散量の推定：蒸発計蒸発量、ソーンスウエイト法、Penman - monteith 式 15. 水文統計：面積平均雨量の算定、ティーセン法、等雨量線法、超過確率 16. 筆記試験				
受講要件	関連科目：地学概論，地学実習				
テキスト	必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	森林水文学，文永堂				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	履修態度 (10%)，レポート (20%)，学期末試験 (70%) の結果を総合し評価基準とする。成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。				
オフィスアワー	授業終了後に質問や相談を受け付ける。それ以外は電子メール (afstuti@ipc.shizuoka.ac.jp) で前もって連絡のこと。				
担当教員からのメッセージ	オフィスアワーを積極的に利用し、質問してください。				

授業科目名	土壌圏科学				
担当教員名	南雲 俊之	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 435 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	B	曜日・時限	火 3・4
キーワード	物質循環、土壌、環境保全、農業生産				
授業の目標	土壌は、陸上生態系における物質循環の中心であり、様々な生き物を支えている基盤的資源である。土壌と植物生育の関係や地域・地球環境問題との関係を、物質循環という視点から理解するための基礎的な知識の習得を目指す。				
学習内容	土壌の特徴を化学的、物理学的、生物学、地学的、そして農学的側面から概説する。				
授業計画	1 回 1) 土壌とは何か？ 2 回 2) 土壌生成論 土壌生成因子・作用，層位分化と ABC 層位 3 回 3) 土壌の構成成分 土壌鉱物 4 回 3) 土壌の三相分布と土壌構造 5 回 4) 土壌の物理 I 土壌が水を保持する力，マトリックポテンシャル 6 回 4) 土壌の物理 II 土壌中の水移動，保水性・排水性と植物生育 7 回 5) 土壌の化学 I 土壌の電荷とイオン交換（吸着反応） 8 回 5) 土壌の化学 II 土壌の反応（pH）と交換性陽イオン，アルミニウム 9 回 5) 土壌の化学 III 土壌の酸化還元反応 10 回 5) 土壌の化学 IV 腐植物質の特徴と役割 11 回 6) 土壌の生物 I 土壌生物の種類と量，土壌環境と微生物生態 12 回 6) 土壌の生物 II 土壌微生物バイオマスと生態系の物質循環 13 回 6) 土壌の生物 III 土壌微生物と植物生育 14 回 7) 日本の代表的土壌 15 回 8) まとめ				
受講要件	関連科目：持続可能型農業科学，植物栄養学，物質循環学，環境微生物学ほか				
テキスト	土壌サイエンス入門（三枝正彦・木村真人編，文永堂）（4000 円程度） なお，毎回プリントを配布する。				
参考書	講義資料に引用した図表の出典となった書籍全般。				
予習・復習について	講義後その都度，教科書の該当箇所や紹介された参考書等をよく読み，しっかり復習をすること。				
成績評価の方法・基準	期末テスト（100%）により評価する。 なお，簡単な演習問題を課す小テストを行なう場合がある。 秀（>90 点），優（>80 点），良（>70 点），可（>60 点），不可（<59 点）				
オフィスアワー	講義後および随時，来訪を歓迎します。ただし，事前にメール等で問合せること。				
担当教員からのメッセージ	私語は絶対厳禁。				

授業科目名	果樹園芸学				
担当教員名	向井 啓雄	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 412 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	火 3・4
キーワード	果樹、栽培技術、高品質果実、果実の機能、果実成熟、水分管理				
授業の目標	主要栽培管理の理論的背景の習得と今後新たに発生する問題点に対する応用力を目標とする。				
学習内容	果樹園芸に関する基礎理論を生理・生態学的見地から解説し、あわせて種苗・栽植から収穫に至る主要栽培管理の現状と今後の展望について講義する。				
授業計画	1 回 果樹園芸の特徴と生産・消費の動向 2 回 果樹の種類・品種と来歴 3 回 果樹の繁殖（台木利用）と育種 4 回 環境と果樹の生態（休眠、耐寒性） 5 回 開園と栽植密度 6 回 計画密植栽培とわい化栽培 7 回 樹体栄養と施肥 8 回 水分生理と土壌管理 9 回 整枝・剪定と樹形 10 回 花芽形成の過程と要因 11 回 受精と結実 12 回 生理的落果と隔年結果 13 回 果実の発育と環境要因 14 回 果実の成熟と環境要因 15 回 主要生理障害と病虫害防除				
受講要件	特になし				
テキスト	「最新果樹園芸学」,水谷房雄ら,朝倉書店,2002,4254410255C3061、配布プリント				
参考書	「果樹栽培の基礎」杉浦明（農文協）、「園芸学用語集・作物名編」園芸学会（養賢堂）				
予習・復習について	教科書での予復習、ならびに専門用語の正確な理解をすること				
成績評価の方法・基準	適宜課す小レポートの提出を筆記試験の受験資格とする。筆記試験にて成績評価する（100%）。				
オフィスアワー	随時昼休み（研究室にて）				
担当教員からのメッセージ	構内圃場に各種果樹が植えられているので適宜観察すること。				

授業科目名	食品製造化学				
担当教員名	衛藤 英男	所属等	農学部		
		研究室	農学部 B 棟 309-2		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	4 年	難易度	A	曜日・時限	火 3・4
キーワード	食品化学、食品機能成分、有機化学				
授業の目標	食品の化学及び食品の製造法の歴史・製法について理解し、今後の食品のあり方の知識を得る。				
学習内容	食品の化学に重点を置き、各種食品の現在までの歴史、加工技術の進展、問題点や食品の今後について化学的視点から議論しながら講義する。				
授業計画	1) こんにゃく、緑黄色野菜 (1-2回) 2) 緑茶、紅茶、ウーロン茶 (3-4回) 3) コーヒー、ココア、チョコレート (5回) 4) 味噌、豆腐、納豆、チーズ、ヨーグルト (6-7回) 5) キノコ、ハーブ (8-9回) 6) コーラ、お菓子、インスタントラーメン、アイスクリーム (10-11回) 7) 機能性食品 (12-13回) 8) フリーズドライなどの加工技術 (14-15回)				
受講要件	食品成分の化学については有機化学との関連が深い。				
テキスト	使わない。必要に応じて資料を配布する。				
参考書	「食品機能学への招待」三共出版 「食品の加工と貯蔵」光生館				
予習・復習について	分からない点や興味ある事項について、インターネット等を活用して調べるのが望ましい。				
成績評価の方法・基準	定期試験 (80%) と出席 (20%)。評価基準は、講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	オフィスアワー：随時 (事前に電話や電子メールで問い合わせること)				
担当教員からのメッセージ	積極的に質問をしてください。				

授業科目名	生命環境倫理学				
担当教員名	竹之内 裕文		所属等	自然科学系教育部	
			研究室	農学部A棟327	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水1・2
キーワード					
授業の目標	「生」と「死」、および「生命」と「環境」の相互関係について洞察を深める。また、それを通して「生きること」を多角的かつ徹底的に問うていく。受講者は、講義の報告や討論に積極的に参与し、自分の問いを手に入れ、これを問い抜いてほしい。講義の主眼は、その探究の題材と手がかりを提供することにおかれる。				
学習内容	生命倫理学と環境倫理学の分野における多様な諸課題について、「生命」と「環境」の相互形成作用に注目しつつ、「生命環境倫理学」という統合的な視座から検討していく。その際、前項の〈授業の目標〉に応じて、テキスト各章についての報告（概要、報告者の考え、疑問、共に話し合いたいテーマ）とそれに基づく討議（質疑応答）を中心に、講義を進める。				
授業計画	1回 ガイダンス（講義のねらい、概要、進め方、評価等について） 2回 序章 生命環境倫理学への道——生命倫理学の転換 3回 あなたはどうして生きてきたのですか？——阿部恭嗣の場合（視聴覚教材） 4回 第1章 「本当に生きる」という問いかけ——限界づけられた生との出会い 5回 あなたはどうして生きてきたのですか？——岡部健の場合（視聴覚教材） 6回 第2章 「間」の出来事としての死——在宅緩和ケアの現場から 7回 第3章 スピリチュアル・ケアについて考える——看取りの文化的・宗教的背景をもとめて 8回 第4章 共に生きるということ——新たなコミュニティのかたちをもとめて 9回 第5章 自然における人間の位置——「自然な死」を手がかりに 10回 あなたはどうして生きてきたのですか？——工藤光治の場合（視聴覚教材） 11回 第6章 なぜ環境を守るのか？——「環境危機」の照らしだすもの 12回 第7章 土地に根ざした共生——農という生き方 13回 第8章 土地の倫理と近代の日本——司馬遼太郎からの問いかけ 14回 第9章 「豊かな」社会をもとめて——経済成長と幸福をめぐって 15回 終章 「よく生きる」ことを問いなおす				
受講要件	本講義の問題群に関心があり、討議などに主体的に参加する心構えのあること。				
テキスト					
参考書	テキストによる指示もふくめて、講義の中でその都度紹介する。				
予習・復習について	講義は、上掲のテキストを事前に読んでいることを前提に進められるので、各章の報告担当者以外も、当該の章に必ず目を通して、講義に臨むこと。さもないと討議に加わることができず、本講義を受講する意味がなくなります。				
成績評価の方法・基準	講義でとり挙げたテーマに基づき、受講者が自分で問題を立て回答する形式で、学期末に試験を実施する。なお各章の報告担当者については、その報告内容の評価をもって替えることができる。全体としての評価は、試験での記述内容（70%）に、質問・意見表明などによる講義への寄与（30%）を加味する。なお試験の評価基準は、①正確な文章表現と論理的な記述、②テーマについての基礎知識、③自分なりの問い・考察の展開、④問題設定の踏みこみ具合、⑤見解の独自性とする。				
オフィスアワー	水曜と金曜の午後、農学部A327号室へ電話もしくは直接来室のこと。				
担当教員からのメッセージ	まず自らの内に秘められた考えをなんとか言葉にしましょう。次に異なった意見に耳を傾け、それぞれの独自の視点を活かしながら、事柄そのものの理解を共に広げ、深めていきましょう。この目標のもと、講義は、受講生による報告と討議を中心に進められます。討議できる人になって、国際社会に飛び立ちましょう。教師から知識、情報、見解を一方通行で受け取りたい人は、混乱すること必至なので、受講を勧めません。				

授業科目名	植物微生物学				
担当教員名	瀧川 雄一	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 236 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	微生物と植物、寄生、共生、多様性				
授業の目標	植物に寄生・共生する微生物の諸相とその応用について理解を深める。				
学習内容	植物と微生物の関係について様々な側面から概説する。まず、植物の病原体としての微生物を概観し、次に植物と微生物の共生関係について講義する。この講義は植物病理学の基礎をなす。				
授業計画	I. 植物と微生物（第 1 回） II. 微生物とは（第 2 回） III. 植物の病原体としての微生物（第 3 回—第 1 0 回） 1. 菌類 2. 細菌 3. ウイルス IV. 共生的な植物と微生物の関係（第 1 1 回—第 1 5 回） 1. 根粒菌と窒素固定 2. 菌根とキノコ 3. エンドファイト				
受講要件	基礎微生物学を受講していること。				
テキスト	「植物病理学」（大木 理 著、東京化学同人） を前半に用いる。後半はプリントで行う。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	授業の最後に行われる質疑応答について次回までに内容を自分で十分に復習すること。				
成績評価の方法・基準	毎回の質疑応答と学期末試験で評価する。欠席の程度で評価は低下する。 講義内容を理解し、微生物学および植物病原学の基礎的な知識が身に付いている程度を判定する。				
オフィスアワー	毎日昼休時				
担当教員からのメッセージ	植物の病気についてはもちろん微生物が関わるわけですが、環境問題や生物農薬などでも微生物の知識は必須です。広い視野を持って問題解決にあたるための基礎となる分野です。				

授業科目名	植物細胞工学				
担当教員名	原田 久	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 433 研究室		
分担教員名	森田 明雄				
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	植物、培養、組織、細胞、遺伝子操作技術				
授業の目標	組織培養の内容が理解でき、自分で実験が立案、実施できることを目標とする。				
学習内容	植物組織培養に必要な基本的な技術・機器などについて解説した後、各種の培養方法や遺伝子操作方法など植物細胞工学の基礎と応用について説明する。				
授業計画	1 回 植物細胞工学の基礎Ⅰ 設備、機器、器具 2 回 植物細胞工学の基礎Ⅱ 培地、培養液 3 回 植物細胞工学の基礎Ⅲ 培養環境 4 回 植物の増殖法 5 回 植物の再生Ⅰ 6 回 植物の再生Ⅱ 7 回 生殖器官（胚、胚乳、花粉）の培養 8 回 プロトプラスト培養 9 回 低温保存・凍結保存 10 回 変異 11 回 遺伝子操作技術Ⅰ 12 回 遺伝子操作技術Ⅱ 13 回 遺伝子操作技術Ⅲ 14 回 細胞育種Ⅰ 15 回 細胞育種Ⅱ				
受講要件	本科目に含まれる光合成の他、植物特有の機能である養分吸収と窒素同化は植物栄養学で述べる。本科目と植物栄養学の両科目を履修することで本学問分野を把握、理解できる。				
テキスト	特に使用しない。 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	専門用語等復習し、理解すること				
成績評価の方法・基準	授業 8 回目に中間試験を行うので必ず受験すること。 中間（50%）と期末筆記試験（50%）により評価する。 評価基準は、科目の目標とする講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	問合せ等がある場合には、事前に連絡の上、訪問すること。				
担当教員からのメッセージ	授業には遅れずに出席すること。				

授業科目名	住環境構造学				
担当教員名	安村 基		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 426 研究室	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	水 3・4
キーワード	木造住宅、建築構法、建設・施工、調達・物流、生産管理、耐震設計、耐風設計、許容応力度設計				
授業の目標	木造住宅の構法・施工と生産管理および構造設計法の概要に関する基礎的な知識を修得することを目標とする。				
学習内容	木材・木質材料の生産と調達・物流および木造住宅の構法・建設・施工と生産管理に関する知識を身につけるとともに、木造建築の構造的特徴と地震・暴風・積雪・常時荷重に対する設計法について学ぶ。なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (B) および (D) に対応する。				
授業計画	<p>1 回 わが国における住宅生産の推移</p> <p>2 回 建築材料と建築構法・施工・生産管理の概要</p> <p>3 回 木造住宅の構工法と施工 (1) - 在来軸組構法</p> <p>4 回 木造住宅の構工法と施工 (2) - 桝組壁工法・木質パネル工法</p> <p>5 回 その他の構法と施工 (大断面木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造)</p> <p>6 回 住宅生産における積算と工程管理</p> <p>7 回 住宅各部詳細の施工と管理</p> <p>8 回 住宅生産における材料調達と物流</p> <p>9 回 構造計算の概要</p> <p>10 回 荷重と外力</p> <p>11 回 木造建築における耐震・耐風設計</p> <p>12 回 木造建築における壁量計算</p> <p>13 回 部材の設計</p> <p>14 回 材料の強度と許容応力度</p> <p>15 回 構造解析手法</p>				
受講要件	3 年前学期の「材料力学」、後学期の「住環境工学」を履修することが望ましい。				
テキスト	授業中にプリントを配布。				
参考書	杉山英男編著「木質構造」(共立出版)、日本建築学会「構造用教材」「建築材料教材」。その他は授業中に随時紹介する。				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により評価する。 成績の「秀」は 90% 以上、「優」は 80% 以上、「良」は 70% 以上、「可」は 60% 以上とする。				
オフィスアワー	昼休み、農学部 A426 室。メール (afmyasu@agr.shizuoka.ac.jp) で連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	積極的に質問してください。 本科目は、二級・木造建築士受験資格を得るために必修となる科目です。				

授業科目名	環境社会学				
担当教員名	富田 涼都	所属等	農学部		
		研究室	農学部A棟 607 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水 5・6
キーワード	環境と社会、環境保全、生物多様性、生態系サービス、公害問題、資源管理、社会的公正、科学知と生活知、文化と伝統				
授業の目標	環境問題の解決において、「人と自然の関係」と「自然を前にした人と人との関係」を分析し明らかにすることは重要な基礎的作業であり、環境社会学の基本的な着目点である。この講義では、環境社会学の導入編として、2つの関係性を具体的なフィールドから見ていくための基本的な視角を提示する。				
学習内容	本講義は三部構成からなる。まず第一部では、これまで論じられてきた環境と社会の相互作用を見ていくための諸概念や視角の紹介を行う。第二部ではそれらの諸概念や視角を用いて具体的な事例を通じて検討し、『環境問題』がどのような問題であるのかを検討する。そして第三部では、そこから明らかになった知見をもとに、実際の環境保全のあり方を考える。なお、講義においては事例を取り上げるという性格上、視聴覚資料などを活用するほか、内容の理解を深めるために、グループディスカッションも行う。受講者からの発言を重視するので、毎回の講義には心構えをすること。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 環境と社会の相互作用 I —エコロジカル・フットプリントから 3. 環境と社会の相互作用 II —生活や生業への注目 4. 環境と社会の相互作用 III —生態系サービスによる「恵み」の把握 5. 環境問題と社会 I —「問題」とは何か？ 6. 環境問題と社会 II —「誰にとって」の問題なのか？ 7. 環境問題と社会 III —社会的ジレンマと「合理的」思考 8. 環境問題と社会 IV —何を見れば「公正さ」が見えるか？ 9. 環境保全と社会 I —環境保全は「何を」保全するのか？① 10. 環境保全と社会 II —環境保全は「何を」保全するのか？② 11. 環境保全と社会 III —「誰に」とっての問題解決なのか？ 12. 環境保全と社会 IV —「話し合いの場」は万能か？ 13. 環境保全と社会 V —「文化」を守るとは何か？ 14. 環境保全と社会 VI —「専門家」は何をするべきか？ 15. 講義のまとめ 				
受講要件	環境と社会の関係性に興味を持ち、講義に真摯な姿勢で臨む心構えがあること。				
テキスト	特に指定しない。適宜資料を配布する。				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥越 皓之・帯谷 博明 編,2009,『よくわかる環境社会学』,ミネルヴァ書房. ・鬼頭秀一 編,1999,『環境の豊かさをもとめて』昭和堂. ・宮内泰介,2004,『自分で調べる技術』,岩波書店. ・関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求,2009,『環境の社会学』,有斐閣. <p>このほか、講義中に適宜紹介する。</p>				
予習・復習について	講義中に示された参考書を参照したり、講義内容に基づいて各テーマについて自主的に学習を進めたりすることを推奨する。				
成績評価の方法・基準	講義に対する参加意欲（リアクションペーパーの提出と内容）と最終レポートによって総合的に評価する。評価のウェイトは、おおむね3:7である。また、最終レポートは、講義の内容を通じて学生自らが自主的に学びながら「思考」し、論じているかという点を主に評価のポイントとする。				
オフィスアワー	農学部 A 棟 607 号室。出張による不在も多いので、事前に artomit@ipc.shizuoka.ac.jp まで問い合わせること。なお、メールでの問い合わせは、友人への携帯メールとは異なるので、名前等の情報をきちんと書くこと。				
担当教員からのメッセージ	環境社会学は、環境と社会の関係性についてのさまざまな領域の知見が用いられます。それらは具体的に環境と社会を見ていくために有効な視点を提示してくれます。この講義では、フィールドにおける各種の課題を見ていくための基礎知識を提示し、習得してもらうことを目的にしています。				

授業科目名	動物生理学				
担当教員名	与語 圭一郎	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 206 研究室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	C	曜日・時限	水 5・6
キーワード	発生、幹細胞、細胞・組織、恒常性、ホルモン、シグナル伝達、神経、免疫				
授業の目標	ヒトを含め動物の生命現象には不思議なことが満ちあふれている。生理学とは、生体の機能のしくみを科学する学問である。本講では、とくに生命維持の基本的なしくみについて、細胞生物学および分子生物学的な観点から講義する。なぜそうなるのか、という素朴な疑問を科学的に解きあかす生理学のおもしろさを学びましょう。				
学習内容					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動物の発生と分化 2. プログラム細胞死 3. 成体における組織の維持・幹細胞 4. 細胞の組織と構造 5. 細胞を取り巻く環境と調節 6. 内分泌系 7. ホルモンの細胞内シグナル伝達 1 G タンパク共役型 8. ホルモンの細胞内シグナル伝達 2 酵素連結型 9. 核内受容体と転写 10. がん 11. 神経系 1 12. 神経系 2 13. 筋収縮 14. 免疫 1 15. 免疫 2 				
受講要件	関連科目である細胞生物学、生化学、分子生物学、生体機能学をあわせて履修することが望まれる。				
テキスト	講義内容に即したプリントを毎回配布				
参考書	細胞の分子生物学 第 4 版 (Newton Press) 理系統合のための生命科学 (羊土社)				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	期末試験の成績で評価する。なお、出席日数が全体の 70% に満たない場合は単位を認めない。				
オフィスアワー	とくに指定しないが、電話やメールで事前に連絡を。				
担当教員からのメッセージ	毎回講義内容に即したプリントを配布するため、講義ノートの整理がとくに重要。その際、自分自身の生理機能に当てはめて理解を深めること。				

授業科目名	森林生態学				
担当教員名	王 権	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 610 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B - C	曜日・時限	水 5・6
キーワード	エコシステム、相互関係、環境要因、物質循環、物質生産				
授業の目標	森林の生態系の特徴を他の耕地や草原の生態系と比較しながら、樹木およびその集団としての森林が環境とどのような関係を維持しているかについて理解を深めることを目的とする。生態系の構造と機能について、森林気象学、森林立地学、樹木生理学など様々な学問分野と関連づけて解説する。				
学習内容	森林生態系の物質循環やエネルギー循環を中心として講義する。なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標 (B)、(D) に対応する。				
授業計画	1] ガイダンス 2] 英語論文の読み方 3] 森林エコシステム 4] 太陽放射、輻射 (1) 5] 太陽放射、輻射 (2) 6] 林冠構造と LAI 7] 炭素循環 — 光合成 8] 炭素循環 — 呼吸 9] 炭素蓄積、吸収源と放出源 10] 窒素循環 11] エネルギーバランス 12] 蒸発散 13] 水循環 14] 生態モデル 15] まとめ				
受講要件	関連科目：樹木・組織学、森林遺伝学、森林立地学、樹木学実習				
テキスト	英語プリントを主に使用				
参考書	Plant Eco-Physiology (Larcher, Springer)				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	● 履修態度 (10%)、最終レポート・中間テスト・宿題 (90%) の結果を総合して評価する。 ● 成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。 ● 講義中に口頭で回答させる。				
オフィスアワー	原則的に火曜日、水曜日の午前中をあてる (フィールドに出ていることが多いのでメールでアポイントメントを取る)				
担当教員からのメッセージ	授業は、英語プリントを主に使用して講義を進める。				

授業科目名	高分子材料学				
担当教員名	山田 雅章	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 535 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	水 7・8
キーワード	天然高分子、合成高分子、高分子材料、構造、物性、設計				
授業の目標	高分子の歴史、構造・分子の挙動とその物性との関係についてその基礎となる諸事項を講説するとともに、建築材料・生活材料として広く利用されている高分子材料の利用適性への理解を深めることを目的とする。				
学習内容	高分子の歴史、高分子合成、構造とその物性、高分子材料などについて学習する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D)に対応する。				
授業計画	1 回 高分子化合物の基礎 高分子とは 2 回 高分子化合物の基礎 構造をしているか 3 回 高分子化合物の基礎 ポリエチレンからダイヤモンドまで 4 回 高分子化合物の基礎 コポリマー 5 回 高分子化合物の基礎 高分子を立体的に見る 6 回 高分子化合物の基礎 立体構造と高分子の性質 7 回 高分子材料の基礎 高分子の集まった形 8 回 高分子材料の基礎 高分子材料の強さ 9 回 高分子材料の基礎 高分子材料を試験する 10 回 高分子材料の基礎 ゴムの不思議 11 回 高分子材料の基礎 高分子を熱したり冷やしたりする 12 回 高分子材料の基礎 流れる高分子 13 回 高分子材料の基礎 これからの高分子 14 回 高分子の製品をつくる 高分子化合物をつくる 15 回 高分子の製品をつくる 高分子を設計する				
受講要件	木材のクリープや応力緩和、接着剤の物性に大きく関与しており、「木質機能科学」「木材接着学」およびそれらの「実験」の基礎となる。				
テキスト	横田健二著「高分子を学ぼう—高分子材料入門」化学同人、および配布プリント				
参考書	適宜講義中に紹介する。				
予習・復習について	毎回授業の予習及び復習を行って欲しい。				
成績評価の方法・基準	履修態度および小テスト (30%)・筆記試験結果 (70%) を総合して評価する。成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。				
オフィスアワー	水曜日 昼休み または夕方 5 時以降				
担当教員からのメッセージ	午後の授業であるので集中力を持続させること。				

授業科目名	野菜園芸学				
担当教員名	糠谷 明	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 436 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	木 1・2
キーワード					
授業の目標	野菜の作型分化を通して、「周年供給」「安定生産」に対する理解を深めることを目標とする。				
学習内容	第2次世界大戦後の日本の野菜栽培は、「周年供給」「安定生産」を目標として栽培技術の発展・普及がなされてきた。本講義では、これらをキーワードとして、野菜生産の現状及び問題点について述べるとともに、果菜類・葉根菜類を中心とした野菜の発育生理・栽培生理を講義する。				
授業計画	1 回 野菜の種類と分類 2 回 原産と来歴, 学名と品種 3 回 野菜の周年生産と作型分化 4 回 リ科野菜の発育生理と栽培 (1) 5 回 リ科野菜の発育生理と栽培 (2) 6 回 リ科野菜の発育生理と栽培 (3) 7 回 ナス科野菜の発育生理と栽培(1) 8 回 ナス科野菜の発育生理と栽培 (2) 9 回 ナス科野菜の発育生理と栽培 (3) 10 回 イチゴの発育生理と栽培 (1) 11 回 イチゴの発育生理と栽培(2) 12 回 葉菜類・鱗茎類の発育生理と栽培 13 回 直根類・イモ類の発育生理と栽培 14 回 養液栽培の基礎知識 15 回 連作障害の現状と対策				
受講要件	植物生産学演習, 園芸生産学を受講しておくことが望ましい。				
テキスト	野菜園芸学(金浜耕基編), 文永堂出版				
参考書	「蔬菜園芸学」, 伊東 正他著 (川島書店) 「野菜の発育と栽培」, 藤目幸擴他著(農文協) 「園芸学概論」, 斎藤 隆他著(文永堂)				
予習・復習について	毎時間最後に小試験を行い、採点して次回に返却するので、それらを参考に復習すること。				
成績評価の方法・基準	評価は、定期試験(40%)、レポート(30%)、出席・小試験(30%)により行う。再試験は行わない。				
オフィスアワー	昼休み。できればメール abanuka@agr.shizuoka.ac.jp でアポイントメントを取ることが望ましい。				
担当教員からのメッセージ	本講義は野菜生産の現状と栽培生理を講義するもので、直接的栽培技術は扱いません。講義方法や内容についてはアンケートに頼らず、授業中または授業後に直接意見を寄せてください。				

授業科目名	分子機能化学				
担当教員名	平井 浩文		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 633-2 研究室	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	木 1・2
キーワード	白色腐朽担子菌、リグニン生分解、環境修復、遺伝子組換え、バイオリファイナリー、キノコ、生理活性物質、生合成経路				
授業の目標	「食」としてのキノコから、木材を腐朽するキノコ、さらには環境を浄化するキノコまで、キノコの能力を最大限に理解する。				
学習内容	白色腐朽担子菌などのキノコ類は、抗ガン性や抗アレルギー性といった薬理活性成分を産生している。一方、木材中の主要成分であるリグニンを高度に分解出来る唯一の微生物である白色腐朽担子菌は、ダイオキシン類を含む環境汚染物質分解能を有しており、環境浄化ツールとして期待されている。さらに現在では木質バイオマスからのバイオエタノール生産にも応用が期待されている。そこで本講義では、キノコ類の産生する薬理活性成分の生合成経路や、その活性発現メカニズムについて講述するとともに、キノコ類が有しているリグニン・環境汚染物質分解に関する生化学・分子生物学についても講述する。				
授業計画	1 回 微生物の分類 (キノコの位置づけ) 2 回 白色腐朽担子菌によるリグニン生分解機構 (その1) 3 回 白色腐朽担子菌によるリグニン生分解機構 (その2) 4 回 白色腐朽担子菌の有する異物代謝能及びバイオレメディエーションについて (その1) 5 回 白色腐朽担子菌の有する異物代謝能及びバイオレメディエーションについて (その2) 6 回 白色腐朽担子菌の分子生物学 7 回 白色腐朽担子菌研究の最新トピックス 8 回 中間試験 9 回 キノコ由来の生体機能調節物質の紹介及びその生合成経路について (その1) 10 回 キノコ由来の生体機能調節物質の紹介及びその生合成経路について (その2) 11 回 キノコ由来の生体機能調節物質の紹介及びその生合成経路について (その3) 12 回 キノコ由来の生体機能調節物質の紹介及びその生合成経路について (その4) 13 回 キノコ由来の生体機能調節物質の活性発現機構について (その1) 14 回 キノコ由来の生体機能調節物質の活性発現機構について (その2) 15 回 キノコ由来の生体機能調節物質研究の最新トピックス				
受講要件	生化学・有機化学・分子生物学の基礎を理解しておくこと。				
テキスト	講義に必要なファイルを web 公開するので、必要に応じてダウンロードすること。 また「意外に知らない、いまさら聞けない バイオ実験超基本 Q&A 改訂版 (ISBN978-4-7581-2015-9)」も使用する。				
参考書	講義中に随時紹介する。				
予習・復習について	予習の必要はなし。ただし毎回小テストを実施するので、復習は十分にやること。				
成績評価の方法・基準	履修態度 (10%)、小テスト・中間テスト・学期末試験 (90%) の結果より評価する。 小テスト・中間テスト・学期末試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。				
オフィスアワー	質問等は随時受け付ける。まずはメール (ahhirai@ipc.shizuoka.ac.jp) にて連絡すること。				
担当教員からのメッセージ	本講義は小・中間テストの総得点 70%以上の者は最終試験を免除します。 つまり、毎回の復習が重要となりますので、わからないところがある場合はそのままにせず、積極的に質問に来てください。そして、是非好成績で本講義の単位を取得してください。				

授業科目名	応用生態学				
担当教員名	澤田 均	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 306 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	C	曜日・時限	木 3・4
キーワード	農地生態学、個体群生態学、群集生態学、生物多様性、食用作物				
授業の目標	農地生態学と農業環境問題の幅広い知識を身につけること、農作物及び農地の生物多様性を深く理解することを目標とする。				
学習内容	この講義は農地生態学の入門編である。実際の研究例をとおして、農地生態学とはどのような学問か、何を研究対象とし、どのような方法を使うのかを学ぶ。特に個体群、群集、生態系レベルの研究対象を取り上げる。できるだけ主要な食用作物(イネ、トウモロコシなど)を例に取り上げる。				
授業計画	1. 授業ガイダンス、応用生態学とは何か 2～4. 個体群 1－葉群光合成モデル (門司・佐伯モデル) 5～6. 個体群 2－有害生物問題 7～9. 個体群 3－有害生物防除戦略 (外来雑草防除モデル) 10～11. 生物多様性－栽培種と野生種 (トウモロコシの栽培化) 12～14. 群集－遺伝子組換え作物の生態的 インパクト 15. 生態系－農地生態系の窒素循環 16. 筆記試験				
受講要件	2 年生前期の「基礎生態学」を受講しておくことが望ましい。もし受講していない場合は、事前に生態学分野の大学初級程度のテキストを読んでおくことが望ましい。				
テキスト	特に使用しない予定。必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	初回の授業ガイダンスで紹介する。さらに講義中に適宜紹介したい。				
予習・復習について	ほぼ毎回、予習用にクイズを課す。クイズの難易度及び解答に要する時間は適切なものである。一方、復習用には、毎回配布する資料が役立つ。				
成績評価の方法・基準	クイズ(20%を目安とする)と筆記試験(80%を目安とする)、授業への参加姿勢の合計で評価する予定である。評価基準は、主に講義内容の理解度をみる。特に筆記試験でみる。				
オフィスアワー	質問等は授業終了後に講義室にて。その他は電子メールで問い合わせてください。				
担当教員からのメッセージ	初回は授業ガイダンスを行うので、必ず出席するように。授業には遅刻しないように。遅刻すると、他の受講生の集中力を低下させ、クラスに悪影響をもたらす。正当な理由以外の欠席は、極力しないように。				

授業科目名	分子細胞生物学				
担当教員名	森 誠	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 201 研究室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	細胞、遺伝子、タンパク、DNA、RNA				
授業の目標	これまでに学んできた生物学の知識をもとに、動物のダイナミックな生命現象を分子レベルで理解できるようにする。				
学習内容	遺伝子からタンパクへの情報の流れであるセントラルドグマは、微生物の研究で明らかにされたことであり、高等動物はこれを巧みにコントロールすることによって、多細胞生物としての秩序ある個体を作り上げ、生命活動を営んでいる。動物の生理機能を利用するため、セントラルドグマを超えた諸現象の理解に不可欠な基礎的事項について講述する。				
授業計画	<p>(1) 復習 セントラルドグマ：全生物に共通のコドン表 細胞分裂：突然変異と突然変異体</p> <p>(2) DNAに関連する事項 分子進化：正確に複製すると生物は進化できない 進化の生化学的基礎：環境に適応するための戦略 テロメア：DNAは複製のたびに短くなる 免疫グロブリンの多様性：どんな抗原に対してもびつりの抗体タンパクが用意されている</p> <p>(3) RNAに関連する事項 転写因子：いつどの細胞でどんなタンパクをつくるかを定める仕組み スプライシング：ひとつ遺伝子で2種類のタンパクをつくる工夫 RNA干渉：</p> <p>(4) タンパクに関連する事項 シグナル配列：すべてのタンパクはメチオニンから始まるのか 選択分泌：タンパク分泌の方向性 翻訳後修飾：細胞は水に溶けないタンパクをつくることができるか チトクロム P450：1種類のタンパクが2つの酵素を演じる タンパク質リン酸化：細胞内で情報を早く伝えるために</p>				
受講要件	2年次までの専門科目（必修）を理解していること。				
テキスト	なし				
参考書	ダイナミックワイド図説生物（東京書籍）・細胞の分子生物学（ニュートンプレス）・ワトソン遺伝子の分子生物学（東京電機大学出版局）				
予習・復習について	次回までの予習内容について、講義中に指示する。				
成績評価の方法・基準	成績は期末試験の結果で評価する。正当な理由なく、三分の一以上欠席した人は、期末試験を受けることはできない。				
オフィスアワー	毎週水曜日の午後・A201室へ直接、またはE-mailで。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	生体機能学				
担当教員名	茶山 和敏	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 203 研究室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	内分泌、免疫、ホルモン、環境ホルモン、サイトカイン、ケモカイン、成長因子				
授業の目標	脊椎動物の生体機能のうち、主に哺乳類における内分泌および免疫の生体機構とそれらに関連するホルモン・サイトカインなどの生体内情報伝達物質に関する基礎的学理について講述し、それらを理解することを目標とする。				
学習内容	はじめに、概論として生体内の情報伝達機構について概説する。次に、内分泌（ホルモン分泌）機構および免疫機能に関する講義を行うとともに、それらに関係するホルモンやサイトカインなどの生体内情報伝達物質についても詳しく説明する。そして最後に、内分泌、免疫および神経の相互作用についてまとめる。				
授業計画	第 1 回	緒論、生体機能学とは、生体内の情報の受容と統合、ホメオスタシス			
	第 2 回	ホルモンの特性と作用			
	第 3 回	視床下部の神経内分泌機能、視床下部ホルモン			
	第 4, 5 回	下垂体の内分泌機能、下垂体ホルモン			
	第 6, 7, 8 回	ステロイドホルモン、性・生殖に関する内分泌機構とホルモン			
	第 9 回	その他のホルモンおよび成長因子の特性とその内分泌機構			
	第 10 回	内分泌かく乱物質（環境ホルモン）の作用と問題点			
	第 11 回	免疫機能に関連する情報伝達機構			
	第 12, 13, 14 回	免疫情報伝達物質（サイトカイン、ケモカイン、その他）			
	第 15 回	内分泌、神経および免疫系の関係と相互作用、まとめ			
受講要件	細胞生物学、動物生理学、動物繁殖生物学、動物生理化学と密接な関連があるので、それらの講義内容も含めて事前に予習しておくこと。				
テキスト	なし。 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	講義時間内に適宜小テストを行うので、講義前に復習をしてくること。				
成績評価の方法・基準	小テスト（20%）と期末筆記試験（80%）の合計を基本として、自主レポートの点数をプラスして総合的に評価する。 評価基準は、科目の目標に沿って、講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	オフィスアワーは月曜日の午後、農学部 A 棟 203 研究室にて				
担当教員からのメッセージ	遅刻や講義中の私語は慎むこと。自主レポートの点数は成績評価に関係しますので、自発的・積極的に取り組んでください。				

授業科目名	森林利用システム学				
担当教員名	近藤 恵市	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 511 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	伐木・造材、車両系集材、架線系集材、作業システム、作業コスト、森林路網				
授業の目標	林道の配置計画、設計・施工技術、木材生産の為の作業計画及び作業技術について論じるのが森林利用システム学であるが、本講義では、森林土木工学で論じられる領域を除き、木材収穫計画・技術に関する基礎的な知識を得ることを目標にしている。				
学習内容	森林から収穫される木材は、伐出計画作業に始まって、伐木、造材、集材、運材（木材輸送）、といった作業を経て、市場に供給される。本講義における森林利用システム学では、以上のような森林諸作業の方法、問題点、コスト等について論じるものである。これらについて概説すると共に、収穫作業選択に大きく影響する環境因子についても概説する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標（D）に対応する。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・木材収穫作業技術の変遷 ・伐木造材作業で使用される機械と道具 ・伐木造材作業の技術 ・集材作業の方法について ・車両系集材作業で使用される機械 ・車両系集材作業の技術 ・架線系集材作業で使用される機械 ・架線系集材作業の技術 ・作業システムと作業生産性 ・森林作業の作業コスト ・森林作業における労働安全 				
受講要件	関連科目：森林土木工学				
テキスト	使用しない				
参考書	林業工学 上飯坂 実（地球社） 森林作業システム学 神埼康一他（文永堂） 林業工学入門 上飯坂 実編（地球社）				
予習・復習について	授業計画に合わせ参考書で予習 講義中のノート、配布されるプリント、参考書での復習				
成績評価の方法・基準	履修態度・レポート（30%）、学期末試験（70%）の結果を総合して評価する。 評価点の 90%以上を「秀」、80～89%を「優」、70～79%を「良」、60～69%を「可」とする。				
オフィスアワー	昼休み、農学部 A511 室。メール（afkkond@agr.shizuoka.ac.jp）で連絡して下さい。				
担当教員からのメッセージ	本講義は必修科目ですので再受講とならないよう、充分注意してください。				

授業科目名	森林・地域景観生態学				
担当教員名	藤本 征司		所属等	フィールド科学教育研究センター	
			研究室	農学部 A 棟 113 研究室	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	A	曜日・時限	木 3・4
キーワード	景観、風景、出会いの連続、地域、物心二元論批判				
授業の目標	1. 森林に関わる基礎知識の再整理・批判的習得。 2. これまでの森林(自然)を巡るものの見方の可能性と限界の習得。 3. 次世代的な自然(森林)と人間の関係の考え方の伝達・習得。				
学習内容	森林学の研究対象領域や方法・考え方、その今日的課題などについて、概説する。また、その最も重要な研究領域となる森林景観の考え方やその実際的取り扱い方などについて、基礎知識の提供や、私のこれまでの研究成果の紹介などを通して、論及していく。なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (B)、(D) に対応する。				
授業計画	第一部・理論編 I. 森林とは?—「景観(風景)」としての森林 自然と人間、森林とは? 森林学とは? 森林諸科学との違い、「景観(風景)」としての森林。 II. 景観論—景観(風景)をどう理解するか? 様々な景観概念、景観を考えるポイント(物心二元論批判)、廣松渉の知覚風景的現相、「出会いの連続」としての景観など。 III. これからの森林学と森林景観学 これまでの森林学の問題点、これからの森林学、森林景観学の課題と方法の概説など。 第二部・基礎知識編 植物(特に樹木)の形態と進化・系統分類、適応戦略理論、多様性理論、生態系の安定性、群系と森林帯分布、生態系と景観(風景)など。 第三部・実践編 I. 北方林景観を探る—北海道での森林研究から II. 森林景観の原像を探る—本来の森とは? 2つの樹形・2つの戦略、森林景観の基本構造など。 III. 上阿多古フィールドでの森林景観の長期モニタリングと景観整備 IV. 森林圏を超えて—オムニスケープ学のすすめ				
受講要件					
テキスト	なし、プリント配布				
参考書	講義中に紹介する。あえて1冊挙げると、廣松渉「哲学入門一步前」(講談社現代新書)				
予習・復習について	この講義は、その学問的対象領域を地域のランドスケープの総体(オムニスケープ)へと拡大させた「造園学(4年次前期開講)」へと引き継がれていく。				
成績評価の方法・基準	履修態度(30%)とレポート(70%)。履修態度は出席率と授業への積極的参加度合いにより評価。レポートは、講義内容の理解度、授業目標の達成度によって評価する。成績評価は、これらを総合し、「秀」は90%、「優」は80%、「良」は70%、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	月、木の昼休み。				
担当教員からのメッセージ	森林(自然)とは何か? 我々は森林(自然)と如何に付き合っていくべきか? そんな基本的な問題に戻って、皆で根底から考え直してみよう!				

授業科目名	環境毒性学				
担当教員名	釜谷 保志	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 502 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード	微量化学物質、環境動態、生態毒性、リスク				
授業の目標	環境経由で暴露する化学物質が生物とどのように相互作用するかについて学ぶ。				
学習内容	環境中に放出された物質が環境中でどのような挙動を示し、生物とどのように関わるか、有害影響の可能性を考えるために必要な事項を整理し、生態系への影響評価の現状と課題について学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 物質の特性と環境動態 <ol style="list-style-type: none"> 2. 1. 環境中での挙動 大気、水、土壌・底質 2. 2. 非生物の変換・分解 酸化、還元、加水分解、光化学反応 3. 物質の特性と生体内動態 <ol style="list-style-type: none"> 3. 1. 生体との相互作用 吸収、分布、代謝、排泄、蓄積 3. 2. 生物の変換・分解 微生物、植物、動物（水生生物） 3. 3. 毒性 毒性学、生態毒性試験 4. 生態系影響評価 <ol style="list-style-type: none"> 4. 1. 物質とその環境リスク 4. 2. 生態リスク 生態毒性、バイオマーカーとモニタリング 生態リスク評価 				
受講要件	有機化学、生化学、生態学、微生物学などに関連するので、これらの基本事項を理解していることが望ましい。				
テキスト	久野勝治・渡辺泉編、『環境毒性学』、朝倉書店、2010、978-4-254-40020-5、4410 円				
参考書	必要に応じて、授業で紹介する。				
予習・復習について	予習復習には、テキストや授業で紹介する参考書を利用されたい。				
成績評価の方法・基準	期末試験（60%）、出席状況と小テスト2回（40%）の結果から評価する。				
オフィスアワー	特に指定しないので、適宜連絡予約されたい。				
担当教員からのメッセージ	不明な点は直接質問するか、自分で調べて、そのままにはしないこと。				

授業科目名	環境情報学				
担当教員名	野上 啓一郎	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 608 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード	言語能力、定刻と遅刻、講義をやめよう、レポート、課題図書、概念分析、色づけ、授業思想				
授業の目標	論理的思考、作文能力、反論能力を鍛える				
学習内容	従来の講義形式を排除する。				
授業計画	1 回 第 1 回目レポートについて 2 回 以下、授業において説明する 3 回 4 回 5 回 6 回 7 回 8 回 9 回 10 回 11 回 12 回 13 回 14 回 15 回				
受講要件	特記事項なし				
テキスト	ヒューマン・エコロジーをつくる 共立出版 野上啓一郎編				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	1.知識を絞り込む力 2.思考・推論・創造する力 3.コラボレーションとリーダーシップ 4.発表・表現・伝達する力 5.授業（学習）に取り組む姿勢・意欲 の 5 項目について、総合評価割合率で計算し、達成度の評価を行う。 最終授業の時に試験を課す。				
オフィスアワー	原則、事前にメール連絡すること(afknoga@ipc.shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ	とにかく、きつい授業である。				

授業科目名	分子生物学				
担当教員名	加藤 竜也		所属等	農学部	
			研究室	共通教育 C 棟 210 室	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード	核酸、遺伝子工学、遺伝子の発現制御、シグナル伝達、変異、バイオテクノロジー				
授業の目標	生命活動を司る核酸と遺伝子の構造と機能、タンパク質の機能や構造および DNA の複製や転写・翻訳について学ぶ。				
学習内容	授業計画の通り				
授業計画	1 回 代謝、エネルギーについて 2 回 酵素反応速度論について 3 回 アミノ酸、タンパク質の構造について 4 回 酵素の働き、調節について 5 回 タンパク質の研究について 6 回 DNA の構造、染色体について 7 回 DNA の複製について 8 回 DNA ポリメラーゼおよびテロメアについて 9 回 DNA の変異および修復について 10 回 相同性組換え、トランスポゾン、ウイルスについて 11 回 転写および RNA について 12 回 RNA ポリメラーゼについて 13 回 翻訳機構について 1 14 回 翻訳機構について 2 15 回 抗体について				
受講要件					
テキスト	Essential 細胞生物学(原書第 3 版) 監訳：中村桂子・松原謙一				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	期末試験の結果(50%)とレポート(4-5回、50%)で評価する。				
オフィスアワー	月-金 農学部生物工学研究室 (共通教育 C 棟 211 もしくは 307) に来てください。(8:30-18:00)				
担当教員からのメッセージ	授業に遅れないで出席すること。				

授業科目名	酵素科学				
担当教員名	村田 健臣		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 713 研究室	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード	タンパク質、生体触媒、酵素阻害、反応速度論、触媒機構				
授業の目標	酵素は生命活動を支える様々な生体反応を促進する役割を担っている。従って、生命現象を理解するためには、酵素タンパク質の性質や触媒機構についての基礎的な知識が必要である。ここでは、酵素タンパク質の一般的性質や触媒機構の基礎について分子レベルで理解する。				
学習内容	酵素の構造、反応速度論、反応機構などの基礎の習得とともに、分子レベルでみた触媒機構を学ぶ。講義中には、最近の研究での応用技術などの具体例を挙げ、酵素に対する興味を深める。				
授業計画	1 回 酵素科学の概要 2 回 酵素の構造 3 回 酵素の分類 4 回 酵素反応速度論 I 5 回 酵素反応速度論 II 6 回 酵素反応の阻害 I 7 回 酵素反応の阻害 II 8 回 酵素活性の調節 9 回 酵素の反応機構の基礎 10 回 反応機構の触媒様式 11 回 リゾチームの触媒作用 12 回 セリンプロテアーゼの触媒作用 13 回 リボヌクレアーゼの触媒作用 14 回 補酵素 15 回 筆記試験				
受講要件	関連科目：生化学概論、生化学、有機化学概論				
テキスト	ホートン生化学（東京化学同人）				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	期末筆記試験により評価する。				
オフィスアワー	講義後やメールで連絡いただければ、時間や場所について対応いたします。				
担当教員からのメッセージ	酵素の魅力や不思議を探してください。				

授業科目名	木質機能科学				
担当教員名	安村 基		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 426 研究室	
分担教員名	小林 研治				
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード					
授業の目標	木質資源としての木材の機能について学ぶ。 木材の物理的・力学的性質に関する基礎的な事項を理解することを目標とする。				
学習内容	木材と含有水分の関係、木材の熱・電気・音響等の物理的特性、さらに木材の弾性・粘弾性・強度等の力学的特性に関して基本的な考え方を述べ、応用として木材利用との関連や環境への影響について概説する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標(D)に対応する。				
授業計画	1 回 木材の利用と環境への負荷 2 回 木材の密度とその変動 3 回 木材の含水率とその変化 4 回 水分の吸着とその理論 5 回 木材中での水分の移動と拡散の理論 6 回 木材の膨潤および収縮と異方性 7 回 木材の熱・電気に関する特性 8 回 動的弾性－振動現象と木材の音響特性 9 回 力の釣り合い 10 回 弾性－ヤング係数と強度 11 回 応力とひずみの成分 12 回 木材の圧縮、曲げ、引張り 13 回 一般化されたフックの法則 14 回 粘弾性－クリープと応力緩和 15 回 各種強度と力学的性質に影響を及ぼす因子および破壊				
受講要件	材料力学、住環境構造学、住環境工学、木質バイオマス科学等の講義、および環境木質機能学実験、環境木質材料学実験等の実験を受講することが望ましい。				
テキスト	高橋・中山 編「木材科学講座 3 物理」(海青社)				
参考書	菊池正紀他著「基礎演習シリーズ 材料力学」(裳華房)、日本木材学会 編「木質の物理」(文永堂出版)、 伏谷 他 著「木材の科学 2 木材の物理」(文永堂)、北原 著「木材物理」(森北出版)				
予習・復習について	授業で取り扱った基礎的事項に関して、必ず復習すること。 理解できない点は必ず教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により評価する。 成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。 筆記試験は講義内容の基礎的事項に関する理解度をみる。				
オフィスアワー	農学部 A 棟 426, 428 室で随時受け付ける。事前にメール等で連絡して下さい。				
担当教員からのメッセージ	授業開始時に出席を確認するため、遅れないこと。必ず復習をするようにして下さい。積極的に質問して下さい。				

授業科目名	溪流環境学				
担当教員名	土屋 智	所属等	農学部		
		研究室	農学部A棟 508 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード	砂防工学、河川工学、溪流生態砂防学				
授業の目標	一般河川の源流域で生産された土砂がどのような移動形態をとり下流に運搬されるか、また洪水時に生起するダイナミックな土砂移動対策等に関する基礎的な知識を得ることを目標とする。				
学習内容	一般河川の上流や溪流を対象に、水と土砂の移動運搬に関する実態と対策について溪流環境の保全といった観点を交え講義する。源流域で生産された土砂がどのような移動形態をとり下流に運搬されるかについて、流水環境、地形地質環境とともに広範囲に解説する。 なお本授業の履修を通して、技術者教育プログラムで設定された次の学習・教育目標の達成を目指す。なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標（B）および（D）に対応する。				
授業計画	1回 侵食場の形成 2回 森林による土地保全 3回 流域の土砂生産 4回 溪流の水理学Ⅰ 5回 溪流の水理学Ⅱ 6回 土砂水理と運搬 7回 河床変動のシミュレーション 8回 砂防調査と計画 9回 砂防えん堤の機能 10回 砂防えん堤の設計 11回 溪流保全工 12回 ダム堆砂量の予測 13回 河川環境と利水に関する環境倫理 14回 土砂災害（土砂移動現象）と環境倫理 15回 溪流堆積土砂量の推定方法				
受講要件	山地安定学」を履修しておくことが望ましい。「砂防学実習」の基礎科目となる。「森林水文学」、「応用気象学」、「地質学概論」、「地学実習」と関連が深い。				
テキスト	新砂防工学（朝倉書店）。また、随時プリントを配布する。				
参考書	砂防学概論（鹿島出版会）、山地保全学（文永堂）				
予習・復習について	復習を行い、理解できないあるいは疑問を生じた箇所は、授業後やオフィスアワー時に質問してください。				
成績評価の方法・基準	履修態度（10%）、レポート・中間テスト・学期末試験（合計 90%）の結果を総合して評価する。成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。				
オフィスアワー	授業終了後に質問や相談を受け付ける。それ以外は電子メール（afstuti@agr.shizuoka.ac.jp）で前もって連絡のこと。				
担当教員からのメッセージ	オフィスアワーを積極的に利用し、質問してください。				

授業科目名	応用昆虫学				
担当教員名	西東 力	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 332 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	農業害虫、生態、防除				
授業の目標	農業害虫を取り巻く情勢は社会情勢や国際化と密接に関連しており、日々、変化しています。こうした実情を理解してもらうことを目標とします。				
学習内容	農業情勢と関連させながら、主要害虫の特徴を詳しく紹介します。講義を通して害虫防除のあり方を考えてもらいます。				
授業計画	1 回 授業ガイダンス、人と昆虫の関係 2 回 昆虫の特徴 3 回 農業害虫と社会情勢（1） 4 回 農業害虫と社会情勢（2） 5 回 イネの害虫 6 回 野菜の害虫（1） 7 回 野菜の害虫（2） 8 回 花卉の害虫 9 回 果樹の害虫、茶の害虫 10 回 化学的防除法 11 回 生物的防除法（1） 12 回 生物的防除法（2） 13 回 物理的防除法、耕種的防除法 14 回 総合的害虫管理 15 回 総合的害虫管理				
受講要件	1 年後期の「一般昆虫学」を受講してください。				
テキスト	「最新応用昆虫学」（朝倉書店）				
参考書	「応用昆虫学の基礎」（朝倉書店） 「天敵」（養賢堂）				
予習・復習について	テキスト、参考書に目を通し、授業の概要を把握しておいてください。				
成績評価の方法・基準	筆記試験により評価します。				
オフィスアワー	研究室に直接または電話				
担当教員からのメッセージ	人と害虫の戦いは、農耕の開始とともに始まりました。人が新しい防除手段を導入すると、害虫は対抗手段で応じます。害虫との戦いは続いています。				

授業科目名	生物有機化学 2				
担当教員名	轟 泰司	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 702 号室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	C	曜日・時限	金 3・4
キーワード	有機化学、生物有機化学、ケミカルバイオロジー				
授業の目標	有機化学概論と生物有機化学 1 を引き継いで、有機化学の基礎を講義する。生物が示す様々な現象を真に分子のレベルで議論し理解するのに必要な知識と考え方を習得する。				
学習内容	有機化学の基礎知識と考え方に重点を置いて、これらを逐一確認しながら、共役系・芳香族・カルボニル化合物についての性質と反応、および生物現象との関わりについて学習する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、有機化学の基礎的な知識・考え方を復習① 2. 有機化学の基礎的な知識・考え方を復習② 3. 共役系①：共役二重結合の特徴 4. 共役系②：付加反応； Diels-Alder 反応 5. 芳香族性：完全共役； Huckel 則； Frost 円 6. 芳香族求電子置換反応①：Friedel-Crafts アルキル化 7. 芳香族求電子置換反応②：Friedel-Crafts アシル化 8. 二置換ベンゼンの生成：置換基による活性化と不活性化； オルト，メタ，パラ配向性 9. 中間テスト 10. C=O 結合の特色：共鳴；分極 11. カルボニル炭素への可逆的付加反応：水和；アルコール和 12. カルボニル炭素への不可逆的付加反応：有機金属試薬の付加反応 13. α位の反応：ケト-エノール；アルキル化 14. アルドール反応（縮合）； Michael 反応 15. カルボニルの復習 16. 期末試験 <p>*毎回、具体例を挙げて、生物現象を有機化学的視点から解説します。</p>				
受講要件	関連科目：1年生の化学概論 A と B，1年生後期の有機化学概論，2年生前期の生物有機化学 1				
テキスト	ジョーンズ有機化学 第3版 上・下（東京化学同人）				
参考書	マクマリー生物有機化学 第2版 有機化学編（丸善）				
予習・復習について	予習は必要ありません。復習を重視してください。講義後にノート・教科書を参照して、もう一度じっくり考え、自分の手を動かして反応機構を書いてください。「書きながら、じっくり考える」ことが何よりも重要です。				
成績評価の方法・基準	小テスト（10%），中間テスト（20%），期末試験（70%）の総合点で成績評価を行います。詳細については、初回講義時に説明します。				
オフィスアワー	金曜日の午後，農学部 A 棟 702 室まで。質問に来る場合は、事前にメール等でご連絡ください。				
担当教員からのメッセージ	頭を悩ませて下さい。				

授業科目名	樹木成分化学				
担当教員名	河合 真吾	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 527 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	セルロース、ヘミセルロース、リグニン、抽出成分、化学構造、化学的特性				
授業の目標	再生可能な樹木資源は、紙パルプ原料、化学工業原料、医薬原料、建築材料および燃料などに利用されている。本授業では、樹木成分の化学組成などを理解し、主体的関心を持つことを目標とする。				
学習内容	木質系資源の主成分であるセルロース、ヘミセルロース、リグニンおよび副成分である抽出成分の化学構造や特性を講述する。また、それら成分の機器分析を用いた化学構造解析法についても学習する。なお本科目は、技術者教育プログラムにおける学習・教育目標（D）に対応する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 木質成分の化学組成・含有量とその分布 2. リグニンの構造と構成単位 3. リグニンの化学構造の解析 4. リグニンの結合様式とサブストラクチャー 5. リグニンの単離法と利用 6. 木質成分の化学構造解析法 7. 紫外分光法と赤外分光法 8. 核磁気共鳴分光法 1 9. 核磁気共鳴分光法 2 10. 電磁波スペクトルを用いた構造解析 11. セルロースの化学構造 12. セルロース誘導体とその利用 13. ヘミセルロースの化学とその利用 14. 抽出成分の化学構造（スチルベノイド、フラボノイド、リグナン） 15. 抽出成分の化学構造（ジアリールヘプタノイド、タンニン、イソプレノイド） 16. 筆記試験 				
受講要件	2 年生前学期の「樹木生化学」、3 年生前期「木質利用化学」と関連する。				
テキスト	必要な資料を印刷して配布する。				
参考書	日本木材学会編：木質の化学（文永堂） 福島和彦ほか 編集：木質の形成・バイオマス科学への招待（海青社）				
予習・復習について	配布資料にかかっている内容をよく理解すること。「樹木生化学」の配付資料も参照。				
成績評価の方法・基準	履修態度（25%）と筆記試験（75%）の合計で評価する。 ・筆記試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。 ・成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	質問等は、農学部A棟 527 室で随時受け付ける。メールでも可。				
担当教員からのメッセージ	樹木成分の化学構造を知ることが、木質系バイオマスを有効に利用する上で非常に重要です。興味を持って授業に望んでください。オフィスアワーを積極的に利用してください。				

授業科目名	分析化学				
担当教員名	原 正和	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 103 研究室		
分担教員名	森田 明雄				
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	金 5・6
キーワード	化学平衡論、酸・塩基反応、機器分析				
授業の目標	定性分析、定量分析、機器分析などの分析化学の基礎的な方法論を理解し、正確な実験を行う能力を培う。				
学習内容	定性分析、定量分析、機器分析など、分析化学の基礎的な理論を理解する。				
授業計画	1 回 序論 -1 分析化学の意義と重要性 -2 数値と単位の取り扱い 2 回 酸・塩基反応と中和滴定 I 3 回 酸・塩基反応と中和滴定 II 4 回 沈殿と重量分析 5 回 錯化合物とキレート滴定 I 6 回 錯化合物とキレート滴定 II 7 回 酸化還元反応と酸化還元滴定 I 8 回 酸化還元反応と酸化還元滴定 II 9 回 溶媒抽出 10 回 クロマトグラフィーによる分析 I 11 回 クロマトグラフィーによる分析 II 12 回 光による分析法 13 回 X 線と分析化学 14 回 電気伝導度と分析化学 15 回 同位体の性質とその利用				
受講要件	理系基礎科目の化学概論 A、化学概論 B の内容を十分理解しておくこと。				
テキスト	木村 優・中島理一郎 共著 「分析化学の基礎」(裳華房)。 その他、必要に応じて資料を配付する。				
参考書	河合 聡・他編「定量分析化学」(丸善)。分析化学研究会編「分析化学の理論と計算」(廣川書店)。土屋正彦・他編「クリスチャン 分析化学 I, II」(丸善) など。				
予習・復習について	授業は、テキストを使って進めるので、テキストによる予習・復習を適切に行うこと。				
成績評価の方法・基準	中間試験 (50%) ならびに期末試験 (50%) の合計で評価する。 評価基準は科目の目標に沿って、特に筆記試験は講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	問合せ等がある場合には、事前に連絡の上、訪問すること。				
担当教員からのメッセージ	小テストは授業開始時に行い、前回講義の復習をします。 授業には遅れずに出席すること。関数電卓の持参を求める場合がある。				

授業科目名	応用測量学				
担当教員名	逢坂 興宏		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 507 研究室	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	C	曜日・時限	金 5・6
キーワード	平板測量、スタジア測量、三角測量、光波測量、GPS 測量、空中写真測量、地形図				
授業の目標	前期に引き続き、各種測量技術の原理を理解し、応用測量技術の知識を得ることを目標とする。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D) に対応する。				
学習内容	各種の平板測量とスタジア測量、セオドライト・トータルステーションによる三角測量、電磁波を利用した光波測量、衛星を利用した GPS、航空写真測量の原理と立体視、並びに数値地形モデルについて、応用技術を中心に講義する。 「測量学」の応用編である。				
授業計画	主として下記の項目について、講義・解説し、問題演習を行う。 1. 平板測量・スタジア測量 1) 測量機材、2) 放射法、3) 導線法、4) 交会法、5) スタジア測量 (アリダードによる) 2. 三角測量 1) 原理、2) 内角の測定と誤差調整、3) 面積計算 3. 電磁波を利用した測量 1) 光波測量、2) 衛星による測量 (GPS) 4. 空中写真測量 1) 原理、2) 実体視、3) 標定および図化、4) 数値地形モデル 5. 地図の仕組みと利用法				
受講要件	あらかじめ「測量学」の講義を履修しておく必要がある。「応用測量学実習」と続けて受講することが望ましい。集大成としての「森林測量学実習」の基礎となる。				
テキスト	測量学, 大木正喜著, 森北出版 また, 随時プリントを配布する。定規, 電卓を持参してください。				
参考書	適宜紹介する。				
予習・復習について	実習の進行とあわせ、教科書を中心に予習・復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	全ての課題レポートを提出することを単位認定条件とする。 履修態度 (20%)、課題レポート・学期末試験 (80%) の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。				
オフィスアワー	随時、質問や相談を受け付けます。まず直接あるいは電子メールで連絡をして下さい。				
担当教員からのメッセージ	測量は土木・建築分野だけでなく、広く環境分野に利用されている技術です。 この機会に測量技術と地形図に関心を持ちましょう。				

授業科目名	森林環境学				
担当教員名	水永 博己	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 612 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	金 5・6
キーワード	森林の環境、森林微気象、森林土壌、環境作用、環境形成作用				
授業の目標	環境の樹木に対する影響及び樹木の適応のしくみについて理解する。 樹木の環境に及ぼす影響を地域レベルあるいは地球レベルで理解する。 森林と環境の複雑な関係を科学的に理解し、森林管理や緑化のあり方を生態学的な見地から考察する力を習得する。				
学習内容	森林生態系内の生物と環境の関係について詳しく解説する。樹木はその生息する場の環境をどのように変えるか（環境形成作用）、樹木が生息する場の環境は樹木にどのように作用し森林はどのように環境に適応するか（環境作用）、について学ぶ。				
授業計画	1 ガイダンス 環境作用と環境形成作用 気温と樹木のあつり関係。温度環境・環境作用（気温に対する樹木の反応・森林の反応） 2 大地から大空への流れの中で。 水分環境 1-環境作用 （樹体内の水の流れと水分状態） 3 昼寝でストレス解消。 水分環境 2-環境作用 （樹木の水ストレスに対する適応過程） 4 耐えてる形は美しい？ 水分環境 3-環境作用（樹木の水ストレスに対する形態的適応過程） 5 もっと光を 光環境・環境形成作用と環境作用（個葉・枝・個体レベルでの光の利用戦略） 6 風のイタズラ。 風の環境作用（成長促進と成長阻害・攪乱イベント・風害と森林構造） 7 生きていくためには競争は避けられない。生物間相互作用（植物の密度効果） 8 色も形も様々に 1。土壌の生成と日本の森林土壌 9 野外講義： 森林土壌の成り立ちと断面調査法 10 野外講義： 森林土壌と指標植物 11 野外講義： 森林土壌と土地生産力 12 孔こそ全て。森林の土壌水分保持力と水資源涵養機能 13 流れこそ全て。樹木の成長と物質循環 14 熱帯雨林 高い種多様性と生産力 15 森林の環境と 森林の取り扱い方				
受講要件	なし				
テキスト	なし				
参考書	植物の環境と生理 森林土壌の調べ方とその性質 植物生態生理学 森林立地調査法				
予習・復習について	講義の内容を理解するだけでなく、フィールドで現象を確認すること				
成績評価の方法・基準	履修態度（10%）、レポート・中間テスト（90%）の結果を総合して評価する。成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする				
オフィスアワー	随時。メール等で事前に連絡すること。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	植物生理学				
担当教員名	大野 始	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 342 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	金 7・8
キーワード	光合成、呼吸、成長、植物ホルモン				
授業の目標	植物に特徴的な生命現象について、基礎を理解することを目標とする。				
学習内容	一定の場所に固着して独立栄養生活を営む植物は細胞レベルでも個体レベルでも動物と大きく異なっている。ここでは、植物に特徴的な生命現象の基礎的理解をめざす。光合成と呼吸、成長と植物ホルモンを中心に、植物生理の特性を概説する。				
授業計画	第 1 回 植物生理学について 第 2 回～第 4 回 光合成 第 5 回～第 6 回 呼吸 第 7 回～第 15 回 成長と植物ホルモン 種子の発芽、成長と運動、成長と分化、光形態形成 第 16 回 定期試験				
受講要件	生物学、植物形態学の基礎を理解していることが望ましい。				
テキスト	使用しない。必要に応じ、プリントを配布する。				
参考書	「植物生理学」テイツ／ザイガー（培風館）、「新しい植物ホルモンの科学」小柴恭一・神谷勇治（講談社） 「植物生理学講義」増田方雄（培風館）				
予習・復習について	とりわけ、復習をしっかりと行い、疑問点は遠慮なく質問すること。				
成績評価の方法・基準	小テスト（30%）、定期試験（70%）により評価する。				
オフィスアワー	事前にメールでコンタクトをとって下さい。				
担当教員からのメッセージ	気軽に研究室へ来て下さい。				

授業科目名	基礎無機化学				
担当教員名	平川 和貴		所属等	工学部	
			研究室	共 503	
分担教員名					
クラス	工C 1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	月 1・2
キーワード					
授業の目標	<p>専門の無機化学を学習するために必須な基本的事項を修得する。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 代表的な元素の英語名や無機物質の命名法を習得する。 2 ボーアモデルから量子力学の誕生まで、シュレーディンガーの波動方程式の意味を学ぶ。 3 電子配置が元素の性質を支配し、元素の周期性を決めることを学ぶ。 4 分子の構造と結合形成を分子軌道法によって理解する。 5 イオン性固体の構造と熱力学的安定性について学ぶ。 6 元素の周期的な性質とそれらの化合物生成について、材料化学への応用という視点を大切にしながら理解を深める。 7 代表的な典型元素の基本的な物性を学ぶ。 8 ランタノイド、アクチノイドの物性の概略を学ぶ。 9 核化学の入門的内容を学ぶ。 				
学習内容	<p>無機化学は基礎化学として基本的重要性を有するだけではなく、現代の科学技術は無機化学に大きく依存している。この講義の目的は、無機化学の基礎概念を把握し、理解できることを目的とする。したがって元素別各論の詳細は専門科目に譲り、むしろ基礎概念がどのように物質の性質と多様性を支配しているかに主眼を置いて解説する。</p>				
授業計画	<p>授業内容と回数の対応は目安なので、必ずしも固定されたものではない。授業の状況によって、中間試験を行う回が変更される場合や実施されない場合もある。必要に応じて下記計画を補足する内容を盛り込む場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代化学の中の無機化学の位置付け、原子の電子構造と周期表の概略（高校の化学および工学基礎化学Ⅰの復習）、元素の英語名、命名法 2 ボーア理論と量子化学の基礎（水素原子および水素類似原子の電子構造・シュレーディンガーの波動方程式）、多電子原子の電子構造（原子軌道・パウリの排他原理・フントの規則 3 元素の周期的性質と元素のブロック分類、元素の存在状態 4 結合の種類、結合と構造を支配する立体因子（原子およびイオンの大きさ） 5 イオン結合と格子エネルギー・ボルン-ハーバーサイクル 6 金属結晶およびイオン結晶の構造 7 結合と構造を支配する電子因子（有効核荷電・イオン化エネルギー・電子親和力・電気陰性度・結合エネルギー） 8 中間試験 9 共有結合と分子軌道法（水素分子および第2周期元素から成る等核ならびに異核二原子分子のエネルギー準位図） 10 非金属元素の化学その1（水素・水素化物・第2および第3周期典型元素とそれらの化合物） 11 非金属元素の化学その2（第2および第3周期典型元素とそれらの化合物・酸素と酸化物） 12 非金属元素の化学その3（オキソ酸・金属酸化物・ハロゲン） 13 典型金属の化学（金属単体の性質と反応性） その1 14 典型金属の化学（金属単体の性質と反応性） その2 15 ランタノイドおよびアクチノイドの性質の概要、核化学入門 16 期末試験 				
受講要件	<p>高校の「化学」が基礎になるので、未履修者は各自で自習が必要である。講義の前半部分は、工学基礎化学Ⅰと重複するので復習をしておくこと。</p>				
テキスト	<p>教科書：「無機化学」(化学入門コース3)斎藤太郎著(岩波書店)</p>				
参考書	<p>参考書：「はじめて学ぶ大学の無機化学」三吉克彦著(化学同人)、「無機化学(上・下)」シュライバー他、玉虫他共訳(東京化学同人)、「無機化学演習」合原他共著(三共出版)、「化学の基礎」(化学入門コース1)竹内敬人著(岩波書店)、「物理化学」(化学入門コース2)関一彦著(岩波書店)、「無機化学—その現代的アプローチ—」平尾一之他著(東京化学同人)</p> <p>いずれも図書館に複数冊所蔵している。</p>				
予習・復習について	<p>授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。特に、受講後その日の内に十分復習することを推奨する。</p>				

成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門の無機化学に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、レポートに丁寧に取り組むことを求める。演習・レポートの取り組みによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・レポート 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。
オフィスアワー	講義後または教官室にて。オフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも質問は随時受け付けるが、応じられないときもある。
担当教員からのメッセージ	大学の無機化学は決して暗記科目ではない。常に、「なぜそのように考えるのか」という視点に立って学び、考えてほしい。工学基礎化学Ⅰ、同Ⅱ、特にⅠと内容が一部重複するので、両方の講義によって理解を深めてほしい。さらに、2年前期以降の専門科目「無機化学1」、「同2」および「同3」とは有機的に関連するので十分に理解した上で先に進んでほしい。

授業科目名	基礎無機化学				
担当教員名	平川 和貴	所属等	工学部		
		研究室	共 503		
分担教員名					
クラス	工C 2	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	月 3・4
キーワード					
授業の目標	<p>専門の無機化学を学習するために必要な基本的事項を修得する。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 代表的な元素の英語名や無機物質の命名法を習得する。 2 ボーアモデルから量子力学の誕生まで、シュレーディンガーの波動方程式の意味を学ぶ。 3 電子配置が元素の性質を支配し、元素の周期性を決めることを学ぶ。 4 分子の構造と結合形成を分子軌道法によって理解する。 5 イオン性固体の構造と熱力学的安定性について学ぶ。 6 元素の周期的な性質とそれらの化合物生成について、材料化学への応用という視点を大切にしながら理解を深める。 7 代表的な典型元素の基本的な物性を学ぶ。 8 ランタノイド、アクチノイドの物性の概略を学ぶ。 9 核化学の入門的内容を学ぶ。 				
学習内容	<p>無機化学は基礎化学として基本的重要性を有するだけではなく、現代の科学技術は無機化学に大きく依存している。この講義の目的は、無機化学の基礎概念を把握し、理解できることを目的とする。したがって元素別各論の詳細は専門科目に譲り、むしろ基礎概念がどのように物質の性質と多様性を支配しているかに主眼を置いて解説する。</p>				
授業計画	<p>授業内容と回数の対応は目安なので、必ずしも固定されたものではない。授業の状況によって、中間試験を行う回が変更される場合や実施されない場合もある。必要に応じて下記計画を補足する内容を盛り込む場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代化学の中の無機化学の位置付け、原子の電子構造と周期表の概略（高校の化学および工学基礎化学Ⅰの復習）、元素の英語名、命名法 2 ボーア理論と量子化学の基礎（水素原子および水素類似原子の電子構造・シュレーディンガーの波動方程式）、多電子原子の電子構造（原子軌道・パウリの排他原理・フントの規則 3 元素の周期的性質と元素のブロック分類、元素の存在状態 4 結合の種類、結合と構造を支配する立体因子（原子およびイオンの大きさ） 5 イオン結合と格子エネルギー・ボルン-ハーバーサイクル 6 金属結晶およびイオン結晶の構造 7 結合と構造を支配する電子因子（有効核荷電・イオン化エネルギー・電子親和力・電気陰性度・結合エネルギー） 8 中間試験 9 共有結合と分子軌道法（水素分子および第2周期元素から成る等核ならびに異核二原子分子のエネルギー準位図） 10 非金属元素の化学その1（水素・水素化物・第2および第3周期典型元素とそれらの化合物） 11 非金属元素の化学その2（第2および第3周期典型元素とそれらの化合物・酸素と酸化物） 12 非金属元素の化学その3（オキソ酸・金属酸化物・ハロゲン） 13 典型金属の化学（金属単体の性質と反応性） その1 14 典型金属の化学（金属単体の性質と反応性） その2 15 ランタノイドおよびアクチノイドの性質の概要、核化学入門 16 期末試験 				
受講要件	<p>高校の「化学」が基礎になるので、未履修者は各自で自習が必要である。講義の前半部分は、工学基礎化学Ⅰと重複するので復習をしておくこと。</p>				
テキスト	<p>教科書：「無機化学」(化学入門コース3)斎藤太郎著(岩波書店)</p>				
参考書	<p>参考書：「はじめて学ぶ大学の無機化学」三吉克彦著(化学同人)、「無機化学(上・下)」シュライバー他、玉虫他共訳(東京化学同人)、「無機化学演習」合原他共著(三共出版)、「化学の基礎」(化学入門コース1)竹内敬人著(岩波書店)、「物理化学」(化学入門コース2)関一彦著(岩波書店)、「無機化学—その現代的アプローチ—」平尾一之他著(東京化学同人)</p> <p>いずれも図書館に複数冊所蔵している。</p>				
予習・復習について	<p>授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。特に、受講後その日の内に十分復習することを推奨する。</p>				

成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門の無機化学に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、レポートに丁寧に取り組むことを求める。演習・レポートの取り組みによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・レポート 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。
オフィスアワー	講義後または教官室にて。オフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも質問は随時受け付けるが、応じられないときもある。
担当教員からのメッセージ	大学の無機化学は決して暗記科目ではない。常に、「なぜそのように考えるのか」という視点に立って学び、考えてほしい。工学基礎化学Ⅰ、同Ⅱ、特にⅠと内容が一部重複するので、両方の講義によって理解を深めてほしい。さらに、2年前期以降の専門科目「無機化学1」、「同2」および「同3」とは有機的に関連するので十分に理解した上で先に進んでほしい。

授業科目名	力学・波動Ⅱ				
担当教員名	藤間 信久		所属等	工学部	
			研究室	共 307	
分担教員名					
クラス	工 5	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	運動の 3 法則、力、運動量、エネルギー、力のモーメント、角運動量、慣性モーメント、正弦波、波の干渉				
授業の目標	1. 移動している座標系からみた質点の運動の理解 2. 質点系・剛体など多体系の運動の理解 3. 波の基本概念とその表現法の修得				
学習内容	この授業では高校の物理学で学んだ内容を、より応用範囲の広い微分積分を用いた厳密な形で学ぶ。力学・波動Ⅰで学んだ 1 質点の運動方程式、エネルギー、運動量、角運動量などの内容を質点系や剛体について拡張したものを学ぶ。また、波の基本概念、波動方程式、正弦波を学ぶ。				
授業計画	1 回 力学・波動Ⅰの復習 2 回 非慣性系と慣性力（等加速並進運動する座標系からみた運動方程式） 3 回 回転する座標系からみた運動方程式と慣性力Ⅰ（遠心力，コリオリ力） 4 回 回転する座標系からみた運動方程式と慣性力Ⅱ 5 回 質点系の運動方程式(作用反作用の法則) 6 回 質点系の力学Ⅰ(重心とそのまわりの運動) 7 回 質点系の力学Ⅱ(全運動量，角運動量，エネルギー) 8 回 剛体に働く力とそのつり合い，偶力 9 回 剛体の自由度と運動方程式 10 回 剛体の慣性モーメントの概念とその計算方法Ⅰ 11 回 剛体の慣性モーメントの概念とその計算方法Ⅱ 12 回 固定軸まわりの剛体の運動 13 回 波の基本概念（周期，振動数，波長，波数，振幅）と正弦波（三角関数で表される波） 14 回 波動方程式，重ね合わせの原理 15 回 波の干渉，定常波。				
受講要件	特になし。ただし、講義内容をスムーズに理解するためには、力学・波動Ⅰの修得が必須。				
テキスト	テキスト：「力学・波動」（浅田他著，日新出版）ISBN978-4-8173-0196-3				
参考書	物理入門コース 1「力学」（戸田盛和著，岩波書店）ISBN-13: 978-4000076418 同「例解 力学演習」（戸田盛和・渡辺慎介著，岩波書店）ISBN-13: 978-4000077910				
予習・復習について	本授業はある概念を理解し、それを用いて次の概念を理解するという積み上げの学習である。各項目は別々に理解できるものではないので、予習・復習は欠かせない。また、前期の力学・波動Ⅰの十分な復習も必要である。 教科書の例題・章末問題，授業中行う演習問題やレポート問題について十分な予習・復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	1. 講義の際に行われる演習問題（小テスト，レポートを含む） 20% 2. 全クラス統一期末試験 80%				
オフィスアワー	教員によって異なります。講義時間中にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	この講義は、学科単位ではなく、センター試験・個別試験等の成績に基づいたクラス編成で行う。受講クラス・教室などをよく確認すること。				

授業科目名	微分積分学Ⅱおよび演習				
担当教員名	赤堀 公史		所属等	工学部	
			研究室	共405	
分担教員名					
クラス	工4	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	月5・6,月7・8
キーワード	広義積分、偏微分、極値、2重積分、変数変換				
授業の目標	曲線の長さ、1変数の広義積分、2変数関数に関する偏微分・2重積分の概念を理解し、計算ができるようになること。				
学習内容	前学期で学んだ1変数関数の微分積分学を基礎にして、主に2変数関数に関する学習を行う。この授業は週1回2コマ(90分×2)である。習熟度別クラスであるが、項目は全クラス同じである。それぞれのクラスに適した授業を行う。				
授業計画	1回 定積分の応用 2回 無限区間の広義積分 3回 有界区間の広義積分 4回 2変数関数の極限・連続性 5回 偏微分可能性・偏導関数 6回 全微分可能性と接平面 7回 合成関数の偏微分 8回 高次偏導関数とテイラーの定理 9回 極値の判定定理 10回 極値の求め方 11回 2重積分の定義 12回 累次積分 13回 累次積分による2重積分の計算 14回 面積比とヤコビアン 15回 置換積分				
受講要件	微分積分学Ⅰを受講していること。				
テキスト	「工学系の微分積分学」 星賀彰 他著 (学術図書出版社)				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	各回に演習の時間が設けられているが、この講義の内容は多く、また数学は聞いているだけでは身につかないので、必ず予習・復習を行うこと。演習に関しては事前に課題が課せられることも多い。				
成績評価の方法・基準	次の基準に基づき評価する。 秀＝2変数の微分積分学の基礎を十分理解しており、かつ応用力に優れる。 優＝2変数の微分積分学の基礎を十分理解しており、かつ応用できる。 良＝2変数の微分積分学の基礎を十分理解している。 可＝2変数の微分積分学の基礎をおおよそ理解している。 不可＝2変数の微分積分学の基礎を理解していない。 12月に中間試験、2月に期末試験を行う。				
オフィスアワー	各担当者が時間中に指示する。また、共通棟1階に「数学の広場」があり、質問や相談を受け付けているので気軽に訪れて欲しい。 広場のホームページは http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~tmath/mathsquare/index.html				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	佐藤 龍子		所属等	大学教育センター	
			研究室	情報学部 2号館 323	
分担教員名					
クラス	情	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	火1・2
キーワード	生徒から学生へ、大学での学びと成長、学生生活、社会と職業、キャリア形成、コミュニケーション				
授業の目標	生徒でなく「学生」としての学びの基礎が身につく。学生生活の方向付けができるようになる。今と将来を考えるようになる。コミュニケーション力が身につく。他学部・他学科の知人ができる。				
学習内容	授業前半は、「生徒」から「学生」への移行について講義します。「大学生」の学びの基礎を身に付けます。授業中盤は、社会と職業、現代社会について考察します。学生から社会への移行（仕事をする）と一緒に考えていきましょう。ゲストスピーカーもお招きする予定です。授業後半は、実践的にコミュニケーション力を養うとともに、「キャリアデザイン」と何かを1人で、2人、グループで深めていきます。				
授業計画	<p>1回 「キャリア」って何だろう？ イン트로ダクション。この授業の概要、進め方、留意事項など。</p> <p>2回 「生徒」から「学生」へ。 生徒と学生はどこが違うの？ 大学生にとって必要な能力ってなに？</p> <p>3回 「大学って何だろう？」 そもそも大学は、いつ、どこで出来た？ なぜ出来たのだろう？ そして今、あなたは静岡大学にいる。なぜ、キャリアデザインで大学のことを扱うの？</p> <p>4回 「静岡大学を知ろう！」 どれくらい静岡大学のことを知っている？ キャリアデザインと静岡大学は関係があるの？</p> <p>5回 「書くこと、読むことについて」 大学生になると書くことがとても多くなります。基本的な文章作法をお教えます。</p> <p>6回 「大学での学びと成長」 学び、成長するとはどういうこと？ ゲストスピーカーをお招きする予定です。</p> <p>7回 「社会と職業」 職業ってなに？ 職業を社会は深い関係があります。職業の変遷を通して、現代社会と自分を考えます。</p> <p>8回 「現代人の生涯収支と職業」 大学を卒業したら多くの人が働きます。職業の経済的側面について考えます。</p> <p>9回 「日本の産業と世界」 今の日本の産業と世界はどうなっているの？ 戦後日本経済を駆け足で。</p> <p>10回 「コミュニケーション力」 話がうまいことがコミュニケーション力？（違います） コミュニケーション力について実践しながら、身に付けます。</p> <p>11回 「人生を切り拓いていく力とは？」 生きていく上で、仕事をする上で、必要な能力ってなんでしょうか？ 「社会人基礎力」ってなに？</p> <p>12回 「自分を知ろう！」 知っているようで知らない自分のこと。自分を振り返ってみます。</p> <p>13回 「自分を伝えよう！」 伝えられるようで伝えられない自分のこと。実践的に伝えられるようになります。</p> <p>14回 「キャリアデザインってなんだろう？」 キャリアは計画し、デザインできる？ 計画通りに人生はうまくいく???</p> <p>15回 「チームワークの大切さ」 まとめに向けて協働作業をします。</p>				
受講要件	受講生は1年生限定です。				
テキスト					
参考書	『キャリアデザイン入門』（大久保幸夫、日経文庫）、『おとなの小論文教室』（山田ズーニー、河出文庫）、『仕事術』（森清、岩波新書）、『スローキャリア』（高橋俊介、PHP 文庫） どの本も比較的読みやすく、安価です。どれか1冊を必ず読んでください。				
予習・復習について	できるだけ毎日（がムリならせめて週に2回）、新聞、雑誌、インターネット等で世界情勢、経済、雇用などの分野を見てください。作文やレポートの書き方の本を、受講中に必ず1冊読んでください。				
成績評価の方法・基準	毎回の感想文 約30%、小レポート 約30%、最終試験 約40%				
オフィスアワー	佐藤龍子：火曜日午後です。なにかあればメールで連絡ください。				
担当教員からのメッセージ	大学生になったばかりのあなたが、これから楽しく、有意義に4年間を過ごせるように、少しだけ力になれば幸いです。				

授業科目名	熱統計力学				
担当教員名	岡部 拓也		所属等	工学部	
			研究室	共通 303	
分担教員名					
クラス	工A	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	火1・2
キーワード					
授業の目標	温度や比熱など、高校物理で履修する熱現象の理解度をより深めた上で、エントロピーなどの、より高度な熱力学の基礎的概念を、偏微分など数学的表現を用いて正しく理解する。様々な応用分野で用いられる熱力学の成果を体系的に論じ、その上で熱統計力学が現実の問題でどう応用されるかについて、实例を念頭においた演習問題を解きつつ具体的理解を深める。				
学習内容	現代物理学を支える大きな柱のひとつである熱・統計力学の基礎について取り上げる。力学で学んだ「仕事」と対をなす概念である「熱」に関する物理を扱うが、「熱」や「仕事」のやりとり・相互変換や、温度、エントロピーなどの熱力学固有の概念を、必要な数学を用いて定量的に議論する。その際、学習内容が机上の議論にとどまらないよう、様々な物理量や具体的事象を取り上げることで、身のまわりの熱力学に関する問題に自ら取り組めるようにしたい。授業内容は熱力学の基礎事項が主体となる。				
授業計画	1回 高校物理(熱力学関連)の復習。圧力・温度・体積の単位 2回 理想気体の状態方程式 3回 ファン・デル・ワールスの状態方程式 4回 膨張率・圧縮率。熱力学で用いる数学(偏微分) 5回 熱力学第1法則。仕事と熱 6回 熱容量、定積比熱、定圧比熱。マイヤーの関係 7回 準静的断熱変化(可逆断熱変化)と不可逆断熱変化 8回 熱機関の効率、カルノーサイクル 9回 熱力学第2法則 10回 クラウジウス-クラペイロンの式 11回 エントロピーI(理想気体) 12回 エントロピーII(不可逆過程) 13回 熱力学関数、マクスウェルの関係式 14回 熱力学の応用例(ギブスの自由エネルギーと相平衡など) 15回 統計力学の基礎(ボルツマン因子など)				
受講要件	「力学波動」で学ぶ力学の基礎や、微分積分など数学の基礎を理解していることが前提となる。授業で用いる偏微分については解説の時間を設ける。				
テキスト	『なっとくする演習・熱力学』, 小暮陽三著, 講談社, ISBN4-06-154510-8				
参考書					
予習・復習について	授業内容をすべて理解するには自主的な予習復習が必要となる。しかし受講生の自主性のみに任せるのではなく、多くのレポート課題を用意することで授業外学習をうながす。				
成績評価の方法・基準	試験の得点にくわえ、授業時に課したレポートなどの得点から算出した総合得点をもとに成績評価する。配点の割合は、およそ試験3:課題2となる予定である。				
オフィスアワー	初回の授業のときにアナウンスします。オフィスアワー以外でも、質問にはできる限り対応します。				
担当教員からのメッセージ	e-mail: ttokabe@ipc.shizuoka.ac.jp				

授業科目名	哲学				
担当教員名	芳賀 直哉		所属等	大学教育センター	
			研究室	共通教育C棟601	
分担教員名					
クラス	情工4	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	火3・4
キーワード	死生観、自然観、死の理解、尊厳死、生命倫理、ソクラテス、環境倫理、南方熊楠				
授業の目標	生命医療倫理の問題点、死生観の変化、科学技術の将来と人類、地球環境問題など、わたしたちが直面する現代的問題を考えることを通して、哲学という学問がこれまで積み上げてきた知的遺産に誘い、そこから思想的源泉を汲みながら、自己の生き方・考え方を探究する機会とする。				
学習内容	生物医学技術の進歩の光と闇を認識するとともに、西洋哲学における「生と死」の思想史をひもとき、現代人としての死生観・自然観を形成するための知識を獲得できる学習内容とする。				
授業計画	<p>1. 授業ガイダンス：現代の思想的状況と緊急の課題について</p> <p>< I > 生命倫理と死生観</p> <p>2. 先端生殖技術の問題点・・・体外受精、代理出産、出生前診断など</p> <p>3. 脳死・臓器移植といのちの商品化の問題と患者の権利（インフォームドコンセント）</p> <p>4. 高齢化社会の到来と安楽死・尊厳死について</p> <p>< II > 西欧における死生観の歴史的変遷と現代</p> <p>5. ギリシャ人の死生観・・・ソクラテスの死</p> <p>6. エピクロス、ストア派の死生観</p> <p>7. ユダヤ・キリスト教の死生観</p> <p>8. キリストの死とパウロ、アウグスティヌス、ルター</p> <p>9. 近代における死生観・・・パスカルとモンテーニュ</p> <p>10. 現代思想における死・・・ハイデッガー</p> <p>11. 実存主義とサルトルの死理解</p> <p>12. 宗教とは何か・・・パウロ・ティリッヒの“ultimate concern”</p> <p>< III > 自然観と環境倫理</p> <p>13. 自然はどのように観られてきたか・・・自然観の歴史</p> <p>14. 環境思想小史・・・land ethic、自然の権利、deep ecology</p> <p>15. 南方熊楠の環境哲学</p> <p>16. 筆記試験</p>				
受講要件	なし。				
テキスト	なし。必要な印刷資料等は配付する。				
参考書	授業の中で適宜紹介する。				
予習・復習について	各講義テーマに関する関連図書等を授業レジュメに紹介するので、予め読んでおくと理解の助けとなる。テーマごとに簡単な小レポートを課すので翌週までに作成すること。				
成績評価の方法・基準	各テーマ小レポート（授業内に書くもの含む）40%、期末筆記試験 60%の総合点で評価				
オフィスアワー	研究室が静岡キャンパスなので質問等は授業終了後かメールで。onhaga@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	遅刻をしないで、毎回出席を心がけてほしい。				

授業科目名	日本国憲法				
担当教員名	岡田 安功		所属等	情報学部	
			研究室	J-2725	
分担教員名					
クラス	情工2	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	火3・4
キーワード					
授業の目標	日本国憲法の基本的な仕組みを理解すること。そして、法的な思考力を身につけること。この二つを目標にします。				
学習内容	日本国憲法を構成する基本的人権と権力分立について学びます。				
授業計画	1回 オリエンテーション 2回 日本国憲法の成立 3回 平和主義 4回 プライバシー権 5回 法の下での平等 6回 言論の自由 7回 経済的自由権 8回 社会権 9回 参政権 10回 立法権 11回 行政権 12回 司法権 13回 財政 14回 地方自治 15回 総復習				
受講要件	特にありません。				
テキスト	『目で見える憲法 第4版』(有斐閣) 定価 1600円+税を使います。				
参考書	図書館にある憲法の本から気に入ったものを選んでください。				
予習・復習について	予習しなくても理解できる授業ですが、復習しないとすぐに忘れます。法的思考力は授業に出ないと身につかないので、授業を休んで教科書を1人で読んでも、試験には対応できません。				
成績評価の方法・基準	法的思考力を試します。成績は法的思考の深さに応じて評価します。知識だけでは単位が取れません。したがって、試験の範囲は授業で私が話した内容のすべてです。応用力を試すので、社会の動向や人間と社会の関係について、新聞やニュースを使って考える習慣をもってください。法的思考を理解するには教科書を読むだけでは分からないので、教師の思考パターンを盗むようにしてください。				
オフィスアワー	シラバス作成時には専門科目と大学院の時間割が未定なので、Office Hourを指定できません。メールで連絡していただければ、いつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ	大学は高校までと違って「ものの考え方」を教育します。これは授業に出ないと、なかなか習得できません。考え方を独学で学ぶには授業に出た場合の10倍の努力でも足りないほどの努力が必要です。知識が正確でも、観点のずれた答えは全く点になりません。専門とは異なる分野の「ものの考え方」を身につけることで、専門分野における「ものの考え方」を強化することができます。教養の足りない人間に専門分野の応用力は期待できません。				

授業科目名	法と社会				
担当教員名	原田 伸一朗	所属等	情報学部		
		研究室	J-2817		
分担教員名					
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	火3・4
キーワード	法、法的思考、対抗、批判、現代社会、本				
授業の目標	この講義は、主として戦後から近年に至るまでの日本の法学名著を素材にして、法的なものの考え方、法的な議論の構図を学ぶことをねらいとしています。到達目標は、1. 法学の基礎知識を身につけること（ただし、用語・概念の暗記ではなく、法のことばと日常のことばとの違いに敏感になること）、2. 法学の基本的思考法を理解すること（他の学問との思考法の違いをも理解すること）、3. 法学の「土地勘」を得ることです。				
学習内容	下記の予定で、1回の授業につき1冊を選んで、それを素材にして授業を行います。それぞれの著者が何を問題としているのか、議論の争点がどこにあるのか、思考のエッセンスをつかむことを重視しています。そうした問題意識・議論を理解するのに必要な背景知識や、法学の基本用語・概念はその都度解説しますので、受講に当たって法学の予備知識は必要ありません。斬新なトピックや発想のヒントも豊富に提供します。この講義は、必ずしも体系的・網羅的に法学を講じるものではありませんが、全体を通して受講することで、法と社会の関わりにつき、自分なりの見取図を描くことができるようになるでしょう。				
授業計画	1回 ガイダンス 2回 末弘巖太郎 『嘘の効用』（『役人学三則』岩波書店、岩波現代文庫、2000） 3回 川島武宜 『日本人の法意識』（岩波書店、岩波新書、1967） 4回 長谷部恭男 『憲法とは何か』（岩波書店、岩波新書、2006） 5回 樋口陽一 『人権（一語の辞典）』（三省堂、1996） 6回 森田明 『未成年者保護法と現代社会』（有斐閣、1999） 7回 星野英一 『民法のすすめ』（岩波書店、岩波新書、1998） 8回 内田貴 『契約の時代』（岩波書店、2000） 9回 加藤雅信 『「所有権」の誕生』（三省堂、2001） 10回 團藤重光 『死刑廃止論』（有斐閣、第6版、2000） 11回 諸澤英道 『被害者学入門』（成文堂、新版、1998） 12回 小寺彰・道垣内正人編 『国際社会とソフトロー』（有斐閣、2008） 13回 山田卓生 『私事と自己決定』（日本評論社、1987） 14回 森村進 『自由はどこまで可能か』（講談社、講談社現代新書、2001） 15回 村上淳一 『〈法〉の歴史』（東京大学出版会、1997）				
受講要件	特にありません。				
テキスト	特に指定はありません。				
参考書	法学および関連分野のブックガイドにもなるよう、毎回の授業で取り上げる文献のほかにも、参考文献を授業時にその都度紹介します。				
予習・復習について	授業で取り上げる文献を毎回事前に読んでおく必要はありませんが、手に取りやすい新書も含まれていますので、特に興味を持ったものについては、自ら読むことを勧めます。				
成績評価の方法・基準	平常点40%、レポート60%とし、試験は行いません。平常点は、毎回の授業で配布するコメントペーパーの提出により評価します。レポートは、法学関連の文献を1点読んで論評・考察を行うブック・レポート形式です。				
オフィスアワー	メールで連絡していただければ随時対応します。				
担当教員からのメッセージ	自分の専門外であっても、「本」を読むことなら苦にならない受講者、あるいは社会科学系の本を1冊でもきちんと読んでみたいという受講者の参加を特に歓迎しています。				

授業科目名	心理学				
担当教員名	漁田 武雄	所属等	情報学部		
		研究室	J-2525		
分担教員名					
クラス	情工3	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	火3・4
キーワード	自己理解、学習、自己、自我				
授業の目標	この講義では、「自分を知る」ということをテーマとして、心理学の基礎理論やそれを実証するために行われた実験を理解することを目的とする。				
学習内容	<p>心理学は「こころ」の科学である。すなわち、研究対象が「こころ」、研究方法が「科学」という学問である。科学とはいうものの、「こころ」という得体の知れないものを対象としているだけに、なかなか一筋縄では行かない。またそれが心理学の楽しさでもある。</p> <p>また、これらの基礎理論や実験とともに、現実場面へのさまざまな応用例も取りあげる。まだまだわからないことだらけの心理学であるが、これまでに明らかになってきた「こころ」の法則は、教育や治療などの世界で応用され、着実な成果をあげている。</p>				
授業計画	<p>オリエンテーション この講義について、評価の方法、レポートの書き方、受講のQ&A</p> <p>第1章 自分の心 自分の感情 感情の認知説、デートはつり橋で 自分の心と体 空腹感、ダイエット、拒食症 自分の目と他人の目 ごほうびの効果、勉強しなさい</p> <p>第2章 心の形成 パブロフの条件反射 因果関係スキーマ、恐怖の学習、恐怖症の治療 オペラント条件づけ ほめること叱ること、無気力の学習、トイレット・トレーニング 観察学習 テレビと暴力、体罰 学習と目標 算数嫌いがなおった</p> <p>第3章 自己と自我 自我の機能 認知、適応、統合 適応 ストレス、防衛機制 自我同一性 アイデンティティ、多重人格 自己概念 ロジャースの理論、カウンセリングの基礎</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	テキストは使用せず、資料としてプリントを配布する。				
参考書	参考書は、オリエンテーションの際に、参考図書リストを配付して解説する。				
予習・復習について	毎回復習することが望ましい。そうすればレポート作成も楽になる。				
成績評価の方法・基準	3回のレポートによって評価する。各レポートのテーマ、配点、書き方のポイント等は、オリエンテーションの際に、プリントを配布して解説する。				
オフィスアワー	原則として随時。電子メールによる質問も可。詳細は、オリエンテーションの際に紹介する。				
担当教員からのメッセージ	できるだけ楽しい講義となるように心がけている。受講生も、講義に毎回出席し、「聞いて、理解し、考える」ということを行ってほしい。講義内容を暗記しようなんて思わないこと。暗記する労力は、「聞いて、理解し、考える」そして「楽しむ」ことに使ってほしい。				

授業科目名	心理学				
担当教員名	須藤 智	所属等	大学教育センター		
		研究室	共 A513 (西)		
分担教員名					
クラス	情工 4	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	火 3・4
キーワード	心理学、こころ				
授業の目標	私たちの生活に密着した学問である心理学の基礎的な知識を習得する。そして、それらの知識を、自らの今後の生活や研究分野にどのように生かせるのかを考えることができるようにする。授業はテキストに準拠し、パワーポイントを使ってそれぞれの内容を具体的に説明する形式をとる(配布資料有)				
学習内容	心理学の研究領域で基礎的な知識について学ぶ。実際に、心理学研究で行われた実験、調査、検査等について体験し、実践的に知識を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.科学としての心理学の歴史と方法論 2.生理心理学 1 (脳の機能と役割を考える) 3.生理心理学 2 (脳の機能と役割を考える) 4.感覚・知覚 1 (外界と心の相互作用を考える) 5.感覚・知覚 2 (外界と心の相互作用を考える) 6.学習 (学ぶということ) 7.認知 1 (知のメカニズムを知る) 8.認知 2 (記憶と注意のメカニズムを知る) 9.発達 1 (乳児期から児童期までの発達を知る) 10.発達 2 (青年期から死までの発達を知る) 11.ここまでのまとめ 12.性格 (性格とは?性格の測定について知る) 13.臨床心理学 (臨床心理学とは何か) 14.社会心理学 (人と社会の関わりにおける心の役割を知る) 15.まとめ (心理学の今後の展開について考える) 16.学期末試験 				
受講要件	特になし				
テキスト	特になし				
参考書	<p>授業で扱う内容は以下の参考書に準じる。予習・復習で利用すること。</p> <p>兵藤宗吉・緑川晶編著、心の科学—理論から現実社会へ (ナカニシヤ出版)、477950385X (生協で販売予定)</p>				
予習・復習について	<p>予習：参考書(テキスト)を一読してくること。</p> <p>復習：配布資料、ノートについて、1時間程度読み直しをすること。</p>				
成績評価の方法・基準	<p>学期末試験(80%) + 課題(20%) + α (エクストラクレジット)</p> <p>学期末試験は、テキスト、レジュメ、自筆ノートの持ち込みは可とする。</p> <p>※エクストラクレジット制の導入：指定した心理学の実験、調査に参加した場合、体験学習に参加したと解釈し加点する。制度の詳細については、授業の初回時に説明資料を配付する。</p>				
オフィスアワー	静岡キャンパス 共通 A 棟 5F513 室 火曜日 5,6 限				
担当教員からのメッセージ	授業に関する情報は、以下の URL から取得できる(パソコン : http://www.sutolab.net/class/)。多数の学生の受講が予測されるので、厳密な点数に基づく成績評価を行う予定。また、授業中に最新の授業支援ツールを利用する予定。				

授業科目名	現代の社会				
担当教員名	笹原 恵	所属等	情報学部		
		研究室	J-2825		
分担教員名					
クラス	情工2	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	火3・4
キーワード					
授業の目標	現在の家族にまつわるさまざまなトピックをとりあげながら、社会学的な思考、社会科学な視点から家族と社会を考える				
学習内容	家族とは何か、シングル論、恋愛、夫婦、親子の問題など、現代の家族が直面する諸問題を考えることを通して、現代家族とそれを取りまく現代社会について考える				
授業計画	1 ガイダンス～「家族を考える」とは？ 2・3 「家族」って何だろう 4・5 恋愛～いろいろな恋愛 *恋愛と結婚 *多様な性概念（セックス・セクシュアリティ・ジェンダー） 6 シングル論～どうして結婚しなくちゃいけないの？ *非婚化と晩婚化、 *パラサイト・シングル 7・8 結婚 *結婚とは？ 人は結婚に何を求めるのか *事実婚と法律婚 *「夫婦別姓」を考える～姓を変えるとは？ 9 夫婦関係 *夫婦関係の変化 *結婚の自由・離婚の自由 10・11 親子関係 *親の離婚と子ども *いろいろな親子関係 *子どもの人権 *子どもの虐待 12・13 *生殖技術の変化と代理出産 14 *高齢期の親と子ども 15 まとめ～家族と人権 *家族における男女平等				
受講要件	現代社会のことを深く考えたい人。家族の問題を考えてみたい人。				
テキスト	テキストは特に指定せず、毎回プリントを配付する。				
参考書	講義の中で紹介する。				
予習・復習について	予習は特に求めないが、復習については、講義中の出席レポート、中間レポート（冬休みレポート）、最終レポートという形で提出を求める。				
成績評価の方法・基準	①出席重視、講義をきいて「考える」ことを重視→講義の中で出席レポートを課す（60%） ②中間レポート（冬休みレポート）、最終レポート（それぞれ20%） *レポートの評価は、きちんとテーマをとらえて、調べ、自分自身で考え、自分の言葉で書いていること。自分で考えていること。				
オフィスアワー	火曜日 7・8限				
担当教員からのメッセージ	現代の家族問題を考えることを通して、自身の価値観・考え方を相対化できるような講義になれば…と思っています。				

授業科目名	ドイツ語B－b				
担当教員名	中尾 健二		所属等	情報学部	
			研究室	J－2811	
分担教員名					
クラス	情1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	火5・6
キーワード	楽しいドイツ語				
授業の目標	運用に力点をおいたドイツ語能力初級の習得				
学習内容	前期ドイツ語B－aに引き続き、実用的な会話能力を獲得するための訓練をする。これらとともにドイツ語圏に関するビデオや映画を鑑賞することでドイツ語圏の文化と社会に対する理解を深める。				
授業計画	1回 前期ドイツ語B－a 期末試験の講評 2回 道案内 3回 週末の予定 4回 プレーメン 5回 電話で約束する 6回 インフォメーションで 7回 一日の過ごし方 8回 まとめと中間試験 9回 週末のできごと 10回 メールと履歴書 11回 サイクリングに行こう 12回 パーティで 13回 ハンブルクへ行く 14回 ドイツ語の映画を観る（1） 15回 ドイツ語の映画を観る（2）				
受講要件	とくになし。前期ドイツ語B－aを受講したものは、引き続き受講することが望ましい。				
テキスト	前期ドイツ語B－aで使用したものを引き続き使用する。				
参考書	とくになし。ただし授業には独話辞書を必ず携行すること。				
予習・復習について	予習は必須。				
成績評価の方法・基準	日常点（中間試験等を含む）50％＋期末試験50％				
オフィスアワー	火曜日と金曜日の昼休み。その他メールでアポイントメントをとること。				
担当教員からのメッセージ	履修したら最後まで頑張りましょう。				

授業科目名	線形代数学Ⅱ				
担当教員名	中島 徹	所属等	工学部		
		研究室	共 403		
分担教員名					
クラス	工 6	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	火 5・6
キーワード	行列、行列式				
授業の目標	行列に関連する諸概念を理解すると共に、それらに付随する計算技術を習得する。 1. 一般の行列および n 次の行列式の計算ができるようになる。 2. 連立一次方程式の解法、特に掃き出し法を身につける。 3. 固有値・固有ベクトルを求め、行列の対角化ができるようになる。				
学習内容	線形代数学Ⅰでは、平面および空間のベクトルと空間図形、さらに2次および3次の行列式を取り扱った。線形代数学Ⅱでは一般の行列および行列式について学ぶ。一般の行列に関する演算、 n 次正方行列の行列式の定義とその性質について学んだ後、掃き出し法について学び最後に n 次対称行列の固有値と固有ベクトル、対角化、二次形式について学ぶ。				
授業計画	1回 一般の行列とその演算 (1) 2回 一般の行列とその演算 (2) 3回 掃き出し法 (1) 4回 掃き出し法 (2) 5回 掃き出し法と行列式 6回 行列式の性質 7回 掃き出し法の目標が達成される場合 8回 掃き出し法の目標が達成されない場合 9回 行列の階数、基本変形 10回 数ベクトルの一次独立・一次従属 11回 数ベクトルの一次変換 12回 固有値・固有空間 13回 行列の対角化 14回 内積と直交性 15回 対称行列				
受講要件	線形代数学Ⅰおよび演習を受講していること。				
テキスト	「工学系の線形代数学」 菊地光嗣 他著 (学術図書出版社)				
参考書					
予習・復習について	数学は積み重ねの学問である。 前回の内容がわからないまま授業に臨んでも今回の内容を理解することは難しいであろう。 予習復習、特に復習を欠かさず行うことが肝要である。				
成績評価の方法・基準	次の基準に基づき評価する。 秀＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用力に優れる。 優＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用できる。 良＝線形代数学の基礎を十分理解している。 可＝線形代数学の基礎をおおよそ理解している。 不可＝線形代数学の基礎を理解していない。 定期試験を行う。				
オフィスアワー	各担当者が時間中に指示する。 また、共通棟1階に「数学の広場」があり、質問や相談を受け付けているので気軽に訪れて欲しい。 広場のホームページは http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~tmath/mathsquare/index.html				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	心理学																		
担当教員名	高橋 晃	所属等	情報学部																
		研究室	J-2523																
分担教員名																			
クラス	情工6	学期	後期		必修選択区分														
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	水3・4														
キーワード	感覚・知覚、記憶、学習、心理テスト、人工知能																		
授業の目標	人間の“こころ”をさまざまな側面からとらえ、その多様な情報処理特性を把握すること。一見当たり前に思える「常識」を学問で覆す。																		
学習内容	“こころ”を扱う古典的な心理学のテーマに、脳や人工知能などの認知科学的トピックを絡ませて学習する																		
授業計画	<p>授業計画 導入 講義の概要、レポートの書き方</p> <p>-----</p> <table border="0"> <tr> <td>感覚・知覚</td> <td>「見る」という行為の本当の意味</td> </tr> <tr> <td>記憶</td> <td>「覚える・思い出す」ことの人間の性質</td> </tr> <tr> <td>学習</td> <td>人間が何かを学ぶ原理</td> </tr> <tr> <td>問題解決とエラー</td> <td>心の中にある過ちとその意味</td> </tr> <tr> <td>心をはかる</td> <td>各種の心理テストについて</td> </tr> <tr> <td>脳と言葉</td> <td>脳の構造とその機能</td> </tr> <tr> <td>人工知能と心</td> <td>人間のこころと機械のこころ</td> </tr> </table> <p>-----</p> <p>まとめ 全体の復習と実験の説明 これらのトピックについて各1回ないし2回の講義でまとめる。 また時間外に行われる「心理学実験」を実際に体験することで理解を深めることも含まれる</p>					感覚・知覚	「見る」という行為の本当の意味	記憶	「覚える・思い出す」ことの人間の性質	学習	人間が何かを学ぶ原理	問題解決とエラー	心の中にある過ちとその意味	心をはかる	各種の心理テストについて	脳と言葉	脳の構造とその機能	人工知能と心	人間のこころと機械のこころ
感覚・知覚	「見る」という行為の本当の意味																		
記憶	「覚える・思い出す」ことの人間の性質																		
学習	人間が何かを学ぶ原理																		
問題解決とエラー	心の中にある過ちとその意味																		
心をはかる	各種の心理テストについて																		
脳と言葉	脳の構造とその機能																		
人工知能と心	人間のこころと機械のこころ																		
受講要件	特になし																		
テキスト	全体は特に指定しない。各トピックで参考図書を示す場合がある。																		
参考書	テーマごとに参考文献を示す																		
予習・復習について	各単元の内容が終了した後に、一週間の期限でその講義内容を簡単にまとめたレポートを課す。																		
成績評価の方法・基準	毎回の課題付きの出席とテーマごとに課される課題レポートの成績で決定する。課題レポートは、主として講義内容のまとめであるが、それに関連した課題が加わることもある。また実際の心理学実験への参加も必須ポイントとみなす。																		
オフィスアワー	金曜日 34限																		
担当教員からのメッセージ	脳や心に興味のある学生の受講を希望します。遅刻は厳禁です。																		

授業科目名	心理学				
担当教員名	坂井 敬子		所属等	大学教育センター	
			研究室	共C401	
分担教員名					
クラス	情工5	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	水3・4
キーワード	心理学、心、社会、人間				
授業の目標	1. 主に人間の認知や行動のメカニズムについて知識を習得する。 2. 心理学の知識に基づいて、社会における様々な現象を考え、説明することができる。 3. 自らの生活への応用を積極的に考えようとする。				
学習内容	初回はガイダンス。授業の進め方など事務的事項の他に、この授業で何を目標としてほしいのかを説明する。 2回目から14回目までは、社会心理学、認知心理学、学習心理学、神経心理学、発達心理学などにおける興味深いトピックを紹介する。15回目では、最終レポートに向けてまとめを行う。				
授業計画	1. ガイダンス：授業の概要・評価方法、授業「心理学」で何を目標として欲しいか 2. 対人認知：印象形成、ステレオタイプ etc. — 私たちは他者をどう捉えるのか 3. 対人関係：説得、対人魅力 etc. — 良好な人間関係の秘密 4. 自己：自己の二重性、ポジティブ幻想 etc. — 私たちは自分をどう捉えるのか 5. 対人行動：援助行動、攻撃行動 etc. — なぜあの人はそうしたのか 6. 社会的圧力：同調、服従、監獄実験 etc. — 状況が私たちを変える 7. 記憶：記憶モデル、文脈との関連 etc. — 記憶促進へのヒント 8. 学習：条件づけ、観察学習 etc. — 経験が私たちを変える 9. 神経：大脳機能の側性化、神経伝達物質 etc. — 脳の深い謎 10. 知覚：アフォーダンス、錯視 etc. — 私たちは外界をどう捉えるのか 11. 思考：知識・言語、エラーやバイアス etc. — 私たちの思考の特徴とクセ 12. 子どもの発達：認知や言語の発達、養育者 etc. — 赤ちゃんを理解する 13. 青年の発達：思春期、アイデンティティ etc. — 私たちの長い迷い 14. 大人の発達：職場、家族、高齢者 etc. — 多様な人生、豊かな人生 15. まとめ：これまでのまとめと考察 ※上記授業計画は、授業の進行や理解度に応じて変更する場合がある。				
受講要件	特になし。4年生は、期末レポートの締め切りが他学年より早期となる場合があるので注意のこと。				
テキスト	特にテキストは設けないが、下記に参考書を挙げる。				
参考書	※A・Bのリストから、それぞれ少なくとも1冊を選び読んで欲しい。 A (心理学の概論書；順不同) ・兵藤宗吉・緑川晶編『心の科学—理論から現実社会へ』(ナカニシヤ出版, 2010年) ・無藤隆ら編『よくわかる心理学』(ミネルヴァ書房, 2009年) B (心理学的読み物；順不同) ・下條信輔『サブリミナル・マインド—潜在的人間観のゆくえ』(中央公論社, 1996年) ・市川伸一『考えることの科学—推論の認知心理学への招待』(中央公論社, 1997年) ・山岸俊男『社会的ジレンマ—「環境破壊」から「いじめ」まで』(PHP研究所, 2000年)				
予習・復習について	【予習】授業計画における用語を参照しながら、上記Aで挙げた概論書に目を通しておく。 【復習】授業を踏まえ、再度概論書を理解する。授業で話されなかったトピックについては、随時質問を受け付ける。 【レポート】Bリストの書籍から1冊を選んでもらいレポートの課題とする予定。書籍は変更となる場合があるので注意のこと。				
成績評価の方法・基準	毎回のコメントペーパー (30%)、学期中間レポート (30%)、学期末レポート (40%)。 ※コメントペーパーには、感想、意見、質問、要望などを記述し、毎回授業後に提出のこと。次回の授業で一部をフィードバックする。 ※レポート締切の予定は、中間レポートが11月下旬、期末レポートが2月初旬。詳細は後日連絡。 ※規定回数以上の出席がないと単位は認められない。				
オフィスアワー	この授業の前後 (水曜日 9:30-12:20)。場所は講師控室(授業内で場所を説明)。 研究室は静岡にあるので、上記以外の時にはメールで。アドレスは授業内で告知。				

担当教員からのメッセージ	座学が中心となるが、日々のコメントペーパーや不定期に行うディスカッションなどで、大いに意見を表明して欲しい。
--------------	--

授業科目名	芸術論				
担当教員名	高松 良幸	所属等	情報学部		
		研究室	J-2629		
分担教員名					
クラス	情工2	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	水3・4
キーワード	日本美術史、芸術の概念、芸術の機能、芸術の言説、芸術の支持者				
授業の目標	日本美術史を各時代を代表する作品を概観するとともに、その制作背景としての思想、社会状況等について理解することを目標とする。また、これらの作品が、伝来する過程で、どのように評価、活用されてきたかについても考察する。				
学習内容	日本美術史を代表する作品を、各コマ1点ずつとりあげ、その制作、需要、伝来等に関する言説について、講義する。講義には、スライド等を使用する。				
授業計画	1回 ガイダンスー芸術・美術について 2回 飛鳥時代 3回 奈良時代Ⅰ 4回 奈良時代Ⅱ 5回 平安時代Ⅰ 6回 平安時代Ⅱ 7回 鎌倉時代Ⅰ 8回 鎌倉時代Ⅱ 9回 室町時代Ⅰ 10回 室町時代Ⅱ 11回 桃山時代 12回 江戸時代Ⅰ 13回 江戸時代Ⅱ 14回 江戸時代Ⅲ 15回 近代				
受講要件					
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	授業中のレポート（10%）、期末試験（90%）により評価する。いずれも、授業内容理解度50%、授業内容応用度50%で採点する。				
オフィスアワー	授業中に指示する。				
担当教員からのメッセージ	実物の美術作品に接する機会をできるだけもってほしい。				

授業科目名	歴史と文化				
担当教員名	杉山 茂	所属等	情報学部		
		研究室	J-2717		
分担教員名					
クラス	情工2	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	水3・4
キーワード	日本・日本語・日本人、伝統、自己植民地化、沖縄、福島、原子力発電、差別・人種主義				
授業の目標	「伝統」や「文化」、「日本の歴史」を尊重すべきだと命じてきた「国家教」を信奉する人々は、「日本の安全保障」を沖縄に依存／強要し続け、戦争一戦後責任を回避して東アジアに緊張状態を放置し、若者が生きにくい社会制度を作り、受講生世代に1000兆円以上の公的債務を残し、皆さんの孫の世代を超えて続く放射能汚染を残しました。このような結果を生み出したものとして、日本の「歴史」と「文化」を批評的に考察する諸視点の獲得を目指します。				
学習内容	本講義で受講生が学ぶことは、国民国家を枠組みとした「日本文化」や標準語／共通語と呼ばれる人工語などによる分割を超えて20世紀の世界が経験した「近代」とは何かという問いなど、現在の歴史学が応えようとしている諸課題である。今期の焦点は、日本・日本人の実在性、制作された日本語・伝統、「人種主義」、自己植民地化に焦点を当てながら、福島や沖縄に代表される「地方」を犠牲にする戦後国家について学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 抽選雑務 2. 日本・日本人の実在性について——時間軸の中の空間的変化、「日本人」という虚偽意識 3. 日本・日本人の実在性について——人々をつなぐ「海」と列島社会の地域的差異、タテ社会？ヨコ社会？ 4. 日本語の制作——「国語」イデオロギー 5. 日本語の制作——上意下達の伝達、それとも水平的なコミュニケーション？ 6. 粉飾された伝統、生きられる伝統——サクラ、富士山 7. 粉飾された伝統、生きられる伝統——武道 8. 自己植民地化と人種主義 9. 日本人問題としての「沖縄」——軍事基地のはじまりと恒久化 10. 日本人問題としての「沖縄」——戦後責任問題 <ol style="list-style-type: none"> 11. 「国破れて山河無し」——原発事故がもたらした「新しい日常」 12. 低線量被曝——チェルノブイリから25年、ヒロシマ・ナガサキから65年で見えてくるもの 13. 中央v s 地方問題としての福島原発問題 14. 労働問題としての福島原発問題 15. 歴史学における「真正さ」「応答責任」について、記憶と忘却について考える 				
受講要件	とくにありませんが、中学校・高等学校における日本史・世界史の学習および新聞を読んだりテレビドキュメンタリー（特にNHKスペシャルやE TV特集）を視聴するように心がけてください。				
テキスト	なし。参考文献を読むようにしてください。				
参考書	割り当て文字数が少なすぎるので詳細は講義で示さざるをえませんが、富山一郎『近代日本と「沖縄人」——「日本人」になるということ』日本経済評論社、1991年；小森陽一『レイシズム』（岩波書店、2006年）；ましこ・ひでのり『幻想としての人種／民族／国民』（三元社、2008年）、キャロル・グラック、桑原武夫、酒井直樹、梅森直之、安田敏朗、川島正樹、松田素二、竹沢泰子、吉野耕作、黒川みどり、ジョナサン・マークス、テッサ・モーリス＝スズキ、ベネディクト・アンダーソンらの研究を参照してください。				
予習・復習について	予習・復習について講義課題が変わるときに、予習・復習のためのレポートを課す予定です。				
成績評価の方法・基準	講義中の小レポートと学期末レポートを4：6で評価する。				
オフィスアワー	TBA				
担当教員からのメッセージ	自分が直近の家族や学校だけではなく、まだ見たことも経験したこともないような時間的・空間的な広がりの中で生きていくことに気づくことが大切です。「日本人として……と考える」というような肥大化し安易で無責任な「日本人であること」に依存せず、広がりのある時間軸・空間軸の中で、自分はがどう考えか何をしようとするのかを考えるようになってもらえたらよいのですが。				

授業科目名	線形代数学Ⅱ				
担当教員名	中島 徹	所属等	工学部		
		研究室	共 403		
分担教員名					
クラス	工 4	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	水 7・8
キーワード	行列、行列式				
授業の目標	行列に関連する諸概念を理解すると共に、それらに付随する計算技術を習得する。 1. 一般の行列および n 次の行列式の計算ができるようになる。 2. 連立一次方程式の解法、特に掃き出し法を身につける。 3. 固有値・固有ベクトルを求め、行列の対角化ができるようになる。				
学習内容	線形代数学Ⅰでは、平面および空間のベクトルと空間図形、さらに2次および3次の行列式を取り扱った。線形代数学Ⅱでは一般の行列および行列式について学ぶ。一般の行列に関する演算、 n 次正方行列の行列式の定義とその性質について学んだ後、掃き出し法について学び最後に n 次対称行列の固有値と固有ベクトル、対角化、二次形式について学ぶ。				
授業計画	1回 一般の行列とその演算 (1) 2回 一般の行列とその演算 (2) 3回 掃き出し法 (1) 4回 掃き出し法 (2) 5回 掃き出し法と行列式 6回 行列式の性質 7回 掃き出し法の目標が達成される場合 8回 掃き出し法の目標が達成されない場合 9回 行列の階数、基本変形 10回 数ベクトルの一次独立・一次従属 11回 数ベクトルの一次変換 12回 固有値・固有空間 13回 行列の対角化 14回 内積と直交性 15回 対称行列				
受講要件	線形代数学Ⅰおよび演習を受講していること。				
テキスト	「工学系の線形代数学」 菊地光嗣 他著 (学術図書出版社)				
参考書					
予習・復習について	数学は積み重ねの学問である。 前回の内容がわからないまま授業に臨んでも今回の内容を理解することは難しいであろう。 予習復習、特に復習を欠かさず行うことが肝要である。				
成績評価の方法・基準	次の基準に基づき評価する。 秀＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用力に優れる。 優＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用できる。 良＝線形代数学の基礎を十分理解している。 可＝線形代数学の基礎をおおよそ理解している。 不可＝線形代数学の基礎を理解していない。 定期試験を行う。				
オフィスアワー	各担当者が時間中に指示する。 また、共通棟1階に「数学の広場」があり、質問や相談を受け付けているので気軽に訪れて欲しい。 広場のホームページは http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~tmath/mathsquare/index.html				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	工学基礎化学Ⅱ				
担当教員名	梅本 宏信	所属等	工学部		
		研究室	共 504		
分担教員名					
クラス	工M1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	木1・2
キーワード	熱力学、化学平衡、溶液、化学反応の速度				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりで出会う「化学」について、常に問題意識をもち、自ら考える力の基礎を養う。主な内容は、工学基礎化学Ⅰに続く化学の基礎である。基礎的な熱力学の理論から始め、化学平衡、状態の変化、溶液の性質、化学反応の速度について理解を深める。				
学習内容	工学基礎化学Ⅰでは、原子や分子の世界について扱った。ここではそれらが集まってできる巨視的な系について学ぶ。そのような物質の状態変化、化学変化、構造変化などを、熱力学的もしくは平衡論的な視点に立って理解し、それぞれの専門分野に応用できる基礎力を養う。特に、エネルギーやエントロピーの概念を扱う熱力学は、プロセス化学、半導体工学、エネルギー変換など、工学のあらゆる分野と関連している。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進捗によっては、中間試験（8回目）を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 物質系の変化とエネルギー (1) 熱力学第一法則、理想気体 2 物質系の変化とエネルギー (2) エンタルピー、ヘスの法則 3 物質の変化の方向性 (1) 熱力学第二法則、可逆過程と不可逆過程 4 物質の変化の方向性 (2) エントロピー、熱力学第三法則 5 物質変化の駆動力と平衡 (1) 化学ポテンシャル、化学平衡 6 物質変化の駆動力と平衡 (2) 標準平衡定数と自由エネルギー変化、平衡の移動 7 物質の状態変化 (1) 物質の三態、相律 9 物質の状態変化 (2) 相転移、相図 10 溶液の性質 (1) 溶媒と溶質 11 溶液の性質 (2) 理想溶液、ファンツホッフの式 12 溶液内の化学反応 (1) 酸と塩基、水のイオン積 13 溶液内の化学反応 (2) 酸化還元反応、電池 14 化学反応の速度 (1) 反応速度と反応速度式 15 化学反応の速度 (2) 反応速度の温度依存 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	<p>「基礎から学ぶ大学の化学」 植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著（培風館） ISBN978-4-563-04607-1</p>				
参考書	<p>化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著（岩波書店）シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4；一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著（化学同人） ISBN4-7598-1020-X；化学－基本の考え方を中心に－、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳（東京化学同人） ISBN4-8079-0334-9；なっとくする熱力学、都筑卓司（講談社） ISBN4-06-154503-5</p>				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。それによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。担当者が非常勤講師の場合は、専任教員（植田、梅本、平川、宮林）が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	工学基礎化学Ⅱ				
担当教員名	梅本 宏信		所属等	工学部	
			研究室	共 504	
分担教員名					
クラス	工C 1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	木 3・4
キーワード	熱力学、化学平衡、溶液、化学反応の速度				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりで出会う「化学」について、常に問題意識をもち、自ら考える力の基礎を養う。主な内容は、工学基礎化学Ⅰに続く化学の基礎である。基礎的な熱力学の理論から始め、化学平衡、状態の変化、溶液の性質、化学反応の速度について理解を深める。				
学習内容	工学基礎化学Ⅰでは、原子や分子の世界について扱った。ここではそれらが集まってできる巨視的な系について学ぶ。そのような物質の状態変化、化学変化、構造変化などを、熱力学的もしくは平衡論的な視点に立って理解し、それぞれの専門分野に応用できる基礎力を養う。特に、エネルギーやエントロピーの概念を扱う熱力学は、プロセス化学、半導体工学、エネルギー変換など、工学のあらゆる分野と関連している。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進捗によっては、中間試験（8回目）を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 物質系の変化とエネルギー (1) 熱力学第一法則、理想気体 2 物質系の変化とエネルギー (2) エンタルピー、ヘスの法則 3 物質の変化の方向性 (1) 熱力学第二法則、可逆過程と不可逆過程 4 物質の変化の方向性 (2) エントロピー、熱力学第三法則 5 物質変化の駆動力と平衡 (1) 化学ポテンシャル、化学平衡 6 物質変化の駆動力と平衡 (2) 標準平衡定数と自由エネルギー変化、平衡の移動 7 物質の状態変化 (1) 物質の三態、相律 9 物質の状態変化 (2) 相転移、相図 10 溶液の性質 (1) 溶媒と溶質 11 溶液の性質 (2) 理想溶液、ファントホッフの式 12 溶液内の化学反応 (1) 酸と塩基、水のイオン積 13 溶液内の化学反応 (2) 酸化還元反応、電池 14 化学反応の速度 (1) 反応速度と反応速度式 15 化学反応の速度 (2) 反応速度の温度依存 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	<p>「基礎から学ぶ大学の化学」 植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著（培風館） ISBN978-4-563-04607-1</p>				
参考書	<p>化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著（岩波書店）シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4；一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著（化学同人） ISBN4-7598-1020-X；化学－基本の考え方を中心に－、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳（東京化学同人） ISBN4-8079-0334-9；なっとくする熱力学、都筑卓司（講談社） ISBN4-06-154503-5</p>				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。それによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。担当者が非常勤講師の場合は、専任教員（植田、梅本、平川、宮林）が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	ロックとアートからみるメンタルヘルス				
担当教員名	太田 裕一		所属等	保健センター	
			研究室	浜松合同棟 1 号館 1 F	
分担教員名					
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	A	曜日・時限	金 3・4
キーワード					
授業の目標	ロックの歴史、現代アートなどを題材にこころの健康問題をさまざまな角度から考えたいと思います。				
学習内容	過去の講義で取り上げたロックミュージシャンは、シド・バレット(ピンク・フロイド)、ヴェルヴェット・アンダーグラウンド、ジミ・ヘンドリックス、ジャニス・ジョプリン、ザ・ドアーズ、ザ・フー、ニルヴァーナ(カート・コベイン)、セックス・ピストルズ、MC5、ストゥージーズ、村八分、外道、フリクション、筋肉少女帯、ヒカシュー、など。取り上げたアーティストはアンディ・ウォーホル、やなぎみわ、石井徹也、松井冬子、会田誠、近藤聡乃、天野可淡、村上隆、関節球体人形、山下清、ヘンリー・ダーガー、谷川俊太郎、寺山修司。取り上げたメンタルヘルス関連の話題は統合失調症、うつ病、躁うつ病、PTSD、アルコール依存症、薬物依存、ドメスティック・バイオレンス、アスペルガー障害などです。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ロックミュージックのルーツ 2. ロックと破壊、人間の攻撃性 3. サイケデリック・ミュージックと意識の拡大 4. ドラッグ、ヒッピー、人間潜在力開放運動 5. 統合失調症と幻聴 草間彌生 6. ベトナム戦争と PTSD 7. グラムロックと両性具有 8. アウトサイダー・アートと精神疾患 9. ロックと反社会性、パンクロックの起源 10. ニューウェーブ ゴシックとグロテスク 11. ハードコアパンクと暴力、ドメスティックバイオレンス 12. アスペルガー障害、サヴァン症候群と The Vines 13. 摂食障害 Cocco とカレン・カーペンター 14. 人形とフランケンシュタイン 15. 人間の心のレジリエンス <p>内容は適宜変更します。</p>				
受講要件	ロックかアートを愛している人				
テキスト					
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	成績評価の方法・基準 成績評価の方法・基準 毎回、電子メールで 200 字以上のレポートを課します。毎回のミニ・レポートと最終レポート（メンタルヘルスとロックまたはアートについてテーマ自由）で評価します。最終レポートを提出できるのはミニ・レポートを 2 / 3 以上提出した人に限ります。インターネットの文章の無断転載（コピー&ペースト）は基本的に不可です。				
オフィスアワー	学生相談室の太田の担当時間(月・金 1:30-5:00)に来室してください。カウンセリングの予約がはいっていることが多いので、あらかじめ電子メール(hyoota@ipc.shizuoka.ac.jp) で予約してください				
担当教員からのメッセージ	ロック・現代アート・メンタルヘルスなどに興味ある方の積極的な参加を期待します。 人数集まれば忘年会を行う予定です。				

授業科目名	静岡県の防災・減災と原子力				
担当教員名	大矢 恭久		所属等	理学部	
			研究室	理学部 A202	
分担教員名					
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	A	曜日・時限	金 3・4
キーワード	防災・減災、地域と原子力、長期的なエネルギー問題				
授業の目標	静岡県は東海地震想定域に位置しているとともに、中部電力浜岡原子力発電所を有している。そのため、長期的なエネルギー問題や原子力の在り方について「みんなで考える」機会を持つと共に、防災・減災（特に原子力防災・減災）の在り方について理解を深め、原子力の在り方について学生自らの問題として理解し、考えることのできる学生の育成をめざす。				
学習内容	静岡県の減災・防災の取り組みや原子力・放射線への理解を高めると共に、原子力防災・減災の取り組みや長期的なエネルギー問題における原子力の在り方について「みんなで考える」そして「みんなで理解する」実践的な科目である。座学のみではなく、参加学生による討論を交えることにより、自分の問題として原子力や防災・減災について考えてみる。中部電力、静岡県、静岡新聞社の担当者を招聘してそれぞれの機関での防災対策についても解説してもらいます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 討論（1） 3. 放射線と放射能 4. 津波災害についての基礎 5. リスクを伝える（リスクコミュニケーション） 6. 浜岡原子力発電所と安全対策 7. 静岡県の原子力防災・減災体制 8. 静岡市の緊急時支援体制 9. 報道と原子力防災 10. 防災・減災教育 11. 原子力災害からの復興 12. 目で見える放射線とその防護（1） 13. 目で見える放射線とその防護（2） 14. 討論（2） 15. 討論（3） 				
受講要件	特になし				
テキスト	静岡県の防災・減災と原子力				
参考書	なし				
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	講義中に小レポート、討論での発表内容および期末のレポートを総合的に評価する。				
オフィスアワー	8:00-20:00				
担当教員からのメッセージ	静岡県の原子力の在り方、原子力防災・減災の在り方についてみんなで考えてみませんか？				

授業科目名	地域社会連携を考える				
担当教員名	清水 一男	所属等	イノベーション社会連携推進機構		
		研究室	イノベーション社会連携推進機構（浜松）		
分担教員名					
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	A	曜日・時限	金 3・4
キーワード	地域社会と大学、地域の歴史と現状、自治体・国の取り組み				
授業の目標	静岡県は農林水産業、工業が大変発達した県である。地域の歴史、文化ならびに産業についての特徴を静岡地域と浜松地域に分けて学ぶ。静岡県の特色を理解した上で他地域との比較、地域クラスターによる地域社会に対する大学の果たす役割を学ぶ。また教育・研究以外の社会連携についてもボランティア活動や地域住民との交流などの事例を紹介する事で、広く海外の事例や国の施策、地域自治体の施策も含めて理解する事を目標とする。				
学習内容	講義は浜松地域の特色、静岡地域の特色、地域クラスターの特色・国の施策、自治体の施策を踏まえた上で、可能であれば現場見学なども行い、皮膚感覚として地域社会への大学連携を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 地域経済の苦悩と挑戦 3. 海外の先行事例に学ぶ 4. 地域力の現状を調査する 5. 日本のクラスター分析 6. 地域クラスターをデザインする 7. 地域クラスター作りを応援する政策 8. 大学はイノベーションクラスターの核となるか 地域新生への提言 9. 浜松地域の特色 地域自治体（浜松市）の取り組みについて 10. 浜松地域の特色（インキュベーション施設から） 11. 浜松地域の特色（産学官連携の立場から） 12. 静岡地域の特色（地域行政の立場から） 13. 静岡地域の特色（地域産業振興へ地域自治体（静岡県）の取り組みについて） 14. 静岡地域の特色（食品産業などの立場から） 15. 静岡地域の特色（産学官連携の立場から） 				
受講要件					
テキスト	必要な資料を配布予定				
参考書	クラスター形成による地域新生のデザイン（松島克守・東大総研）				
予習・復習について	講義時間内に取り上げる事例には限りがあるので、広く扱った事例集（参考書）や新聞等を読んでおくことで、地域での大学・行政の動きを把握する事が望ましい。				
成績評価の方法・基準	講義への出席、小レポートと最終試験課題レポートを総合的に評価する。 特に次の（１）～（３）の基準において評価する。 （１）地域社会の背景を理解する。 （２）地域社会の施策と国の政策との関連を理解する。 （３）大学からの社会連携の在り方を理解する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	地域社会を学び、大学からの地域連携に迫ってみよう。 最後の講義の時間にアンケートを行う場合があるので、日頃からそれを念頭にして受講されたい。				

授業科目名	医学と人間				
担当教員名	山本 裕之	所属等	保健センター		
		研究室	浜松合同棟 1 号館 2 F		
分担教員名					
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	A	曜日・時限	金 3・4
キーワード	予防医学、栄養、運動、睡眠、遺伝、感染症				
授業の目標	<p>医学に科学的思考は必須であるが、人間的視点が見失われてはならない。急速な科学の進歩は生活環境を豊かにしたが、一方で過不足（飽食、運動不足）による人間の健康バランスを崩すという現象も生じさせた。そのような状況に伴い、医療のパラダイムも治療重視から予防重視へとシフトしてきている。</p> <p>また、医療的アプローチについても、病気の原因を探る（pathogenesis）のが一般的医学研究手法である一方、健康を軸になぜ元気なのかを研究する（salutogenesis）手法もある。</p> <p>本講義では、このように人間回帰の視点を重視しながら現在の医学、医療についての考え方を学び、医学的基礎知識も身につけることを目的とする。</p>				
学習内容	内容は、下記授業計画（2011 年度実行に基づく）に掲げた細項目テーマを組み入れる。必要に応じて、他の講師に分担をお願いする。詳細日程は、授業開始日に知らせる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 科学技術の進歩と人間のための医学；パラダイムの転換、産業保健 3. 現代医学の様々な問題と予防医学；各国医療政策など 4. 生活習慣病について；人間環境の変化に伴う疾病構造の変化 5. 運動と人間；健康スポーツ医学 6. 救命救急講習；AED を用いた BLS（一次救命法）、トリアージなど 7. 休養（睡眠）と人間；ストレスへの反応とホメオスターシス 8. 免疫と人間；アレルギー反応など 9. 感染症と人間；新興・再興感染症、人獣共通感染症 10. 遺伝と人間；生命情報とその操作 11. 人体の仕組みと病気；サブテーマは未定（森田） 12. 食事（栄養）と人間；食の文化と食に係わる様々な問題（川上、管理栄養士） 13. 医学と人間；ウェルビーイング、健康観と死生観 14. 時間と人間；寿命、病気の受容；ライフスタイル 15. まとめ レポート作成 				
受講要件	とにかく出席すること、そして何かを学びとろうとする意欲を維持すること。				
テキスト	特になし。講義毎に内容に沿ったプリントを配布する。				
参考書	テキストは特にありませんが、講義の中で参考になる図書等を紹介します。				
予習・復習について	予習しなくても講義内容は理解可能。全てを覚える必要はなく、ポイントを理解して概要を把握することが大切。しかし、授業計画は事前に示すので、予備知識があった方が理解は 10 倍増します。復習は大いにしてください。より深く知りたいときは、参考書も貸し出します。質問をたくさん受けながらの参加型授業になることを希望します。				
成績評価の方法・基準	出席を重視します（4 割）。試験形式に近いレポート（6 割）で習熟度をしっかりチェックします。レポートは最終講義日時に、配布プリントなど持ち込み可で、課題について作成（回答）してもらいます。				
オフィスアワー	質問や相談は適宜受け付けますので、保健センター浜松支援室(053-478-1012)または研究室（保健センター浜松支援室傍、合同棟 1 号館 2 階 204 室）へ連絡か来室してください。				
担当教員からのメッセージ	現在または将来役に立つ人間のための医科学、医療について学ぶ良い機会だと思います。内容は、正しい、新しい情報を吟味して、理解が深まるように現場のエピソードなども随所に盛り込みます。				

授業科目名	科学技術者の社会的責任				
担当教員名	吉田 寛	所属等	情報学部		
		研究室	J-2735		
分担教員名					
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	A	曜日・時限	金3・4
キーワード	科学技術、エンジニア、CSR、研究開発、技術者倫理、専門職倫理、内部告発、技術史				
授業の目標	<p>現代社会は高度な科学技術によって支えられている。科学技術に専門職として携わる研究者やエンジニアは、社会に対して大きな影響力をもち、専門職としての特別な権利や喜びを保証される一方で、社会に対して一定の責任を担うことになる。</p> <p>この授業の目標は、専門職としての科学技術者に対して、社会的に期待されることはどのようなことか、科学技術者はそれに対してどのように応えていけるだろうか、といったテーマを受講者が自らの問題として引き受けることである。こうして、エンジニアリングや情報学を修めた者としての自らのキャリアについての意識を高めることを狙っている。</p>				
学習内容	<p>まず科学技術が及ぼす多大な社会的影響を踏まえる。これを前提にして、専門職としての科学技術者の理念や倫理へと話を進め、ついで技術と社会が衝突する現場で活躍されている専門家（エンジニア、法律家、など）の事例を手がかりに問題を掘り下げる。最後に、専門家参加型の情報社会形成について講師自身のビジョンを紹介したい。</p> <p>各回の授業では、映像や音声教材を活用し、技術と社会、あるいは技術者と社会の交錯する現場を生き生きとイメージしながら議論する。ペーパーのミニレポートやグループ討論を行なって理解を深める。</p>				
授業計画	<p>授業の都合によって題材は変更の可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 授業テーマの紹介、授業の進め方、Knowledge Forum の利用法説明など 2 科学技術と社会 東日本大震災より、現代社会と技術リスクを考える 3 科学技術と社会 患者の視点から、技術事故として水俣病を考える 4 科学技術と社会 チッソ株主総会を事例に企業と地域・社会の関係を考える 5 科学技術と社会 水俣病に関わった医師の立場から、専門家の社会的立ち位置を考える 6 技術者倫理 原子力研究者を事例に、技術者の特別な立場を考える 7 技術者倫理 原発事故と原発業界の関係から、経営や組織と技術者の関係を考える 8 技術者倫理 三菱ふそうのリコール事件の事例などから、組織の中での個人について 9 技術と市民 プロフェッショナルリズムの検討により専門職と技術の市民化について考える 10 技術と市民 科学技術ガバナンスについて、科学技術への市民参加の思想を検討する 11 技術と市民 技術的判断の難しさ、の難しさを検討する 12 検討 事例紹介と検討 13 検討 事例紹介と検討 14 検討 事例紹介と検討 15 総括 受講者自身のキャリア、そして専門家（技術者）と社会の関係に関する考えをまとめる。 				
受講要件	授業（あるいは web）で出した課題に対して（web ベースの）議論に参加すること（ミニレポート）				
テキスト	得になし				
参考書	<p>『はじめての工学倫理』 齊藤了文・坂下浩司（編著）、昭和堂、2005年、¥1470</p> <p>『科学と社会 科学者の社会的責任』（岩波ブックレット No.622）、都留重人、岩波書店、2004年、¥504</p> <p>『水俣病』（岩波新書 青版 841）、原田正純、岩波書店、1972年、¥819</p> <p>『プロフェッショナル原論』（ちくま新書）、波頭亮、筑摩書房、¥714</p> <p>他、授業時に適宜紹介する。</p>				
予習・復習について	自分で関心を持って、授業時に提示されるテーマについて考えてください。グループワークへの参加、事例報告などの担当があれば、評価します。				
成績評価の方法・基準	授業時の各種の議論への参加と総括的な最終レポートで総合的に評価する				
オフィスアワー	水曜日昼休み				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	ドイツ語A-2				
担当教員名	中尾 健二		所属等	情報学部	
			研究室	J-2811	
分担教員名					
クラス	情1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	金5・6
キーワード	ドイツ語初歩、文法				
授業の目標	前期ドイツ語A-1をうけて、その続きをやります。学習する文が複合的になり、ますます面白くなってきます。夏休み明けでダレル学生もいますが、ここでダレルとその後の4, 5年間で悲惨なものになります。				
学習内容	下記「授業計画」を参照。				
授業計画	1回 前期試験の講評 2回 現在完了・過去完了 3回 比較変化・話法の助動詞・未来形 4回 従属接続詞と副文 5回 分離動詞・zu不定詞句 6回 再帰動詞・分詞 7回 前半のまとめと中間試験 8回 指示代名詞・関係代名詞 9回 受動態 10回 接続法Ⅰ：間接話法・要求話法 11回 接続法Ⅱ：非現実話法・外交話法 12回 ドイツ語の映画を観る(1) 13回 ドイツ語の映画を観る(2) 14回 ドイツ語の映画を観る(3) 15回 後半のまとめ				
受講要件	とくになし。				
テキスト	前期ドイツ語A-1で使用したもの。				
参考書	とくになし。授業には独和辞典をつねに携行すること。				
予習・復習について	ますます授業以外での学習が必要になります。				
成績評価の方法・基準	中間試験+期末試験：70% 日常点：30%				
オフィスアワー	火曜日と金曜日の昼休み。その他メールでアポイントメントをとること。				
担当教員からのメッセージ	Wenn ihr zu Hause nicht fleissig lernt, fällt ihr bestimmt durch.				

授業科目名	グローバル社会とナノテクノロジー				
担当教員名	池田 浩也		所属等	電子工学研究所	
			研究室	電子工学研究所 2 3 2	
分担教員名	天明 二郎,早川 泰弘,猪川 洋,川井 秀記				
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	金 5・6
キーワード	インターネット、コンピュータ、通信、ナノテク、半導体				
授業の目標	インターネットの発達に伴い,私たちの生活や産業のグローバル化が急激に進んでいる.アマゾン・コムなどで体験できるように,情報技術(IT)の発展は,物の流通や情報伝達を加速し,世界経済構造を激変させた.本講義では,現在の情報技術を構築する基盤技術の概要を理解して高度情報社会の現況について知ってもらうとともに,宇宙開発からエネルギー問題,身近な製品に至るまで,私たちの生活を支えるナノテクノロジーについて理解を深めてもらう.				
学習内容	現代のインターネット社会を支える様々な基盤技術についてナノテクノロジーの側面から解説するとともに,高度情報化社会の現状と成り立ちについて概説する. 【注意】本講義は,2010年度まで「ロングテールとナノテクノロジー」,2011年度は「ナノテクノロジーとグローバル社会」という授業科目名で開講されていまして,これらの単位を既に取得した学生は履修できません.				
授業計画	1回 概論ームーアの法則ー:天明 2回 宇宙開発と社会:早川 3回 宇宙環境利用のサイエンス:早川 4回 ナノチップと情報化社会:猪川 5回 ナノチップの誕生と成長:猪川 6回 ナノチップが拓く未来社会:猪川 7回 ボトムアップのナノテクノロジー:川井 8回 新しい物質・材料ーナノマテリアル:川井 9回 バイオ・医療へのナノテクノロジー:川井 10回 進化する電池:池田 11回 エネルギー問題に挑戦するナノテク:池田 12回 通信は世界を結ぶーUNIXー:天明 13回 グーグルとアマゾン.コムーWeb2.0ー:天明 14回 光通信と半導体レーザーーブロードバンドー:天明 15回 支える科学技術を振り返るー量子力学ー:天明				
受講要件	ケータイやインターネットに興味のある人. 【注意】これまでに「ロングテールとナノテクノロジー」「ナノテクノロジーとグローバル社会」の単位を取得した学生は履修できません.				
テキスト	特に指定しない				
参考書	講義中に適宜紹介する				
予習・復習について	シラバスに記載された各講義題目中の単語をインターネットで調べておくことが望ましい				
成績評価の方法・基準	各教官がレポートを課し,それらの合計点に出席点を加えて評価する				
オフィスアワー	特定の時間を設けてはいないが,質問には時間の許す限り随時応じる				
担当教員からのメッセージ	将来の専門分野と進路を決める際の参考にしてください. 【注意】本講義は,2010年度まで「ロングテールとナノテクノロジー」,2011年度は「ナノテクノロジーとグローバル社会」という授業科目名で開講されていまして,これらの単位を既に取得した学生は履修できません.				

授業科目名	失敗に学ぶものづくり				
担当教員名	以西 雅章		所属等	工学部	
			研究室	合 405	
分担教員名					
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	金 5・6
キーワード	失敗学、ものづくり、エンジニア、ヒューマンエラー				
授業の目標	工学、情報工学に関する失敗の原因を考察し、事故を未然に防ぐ方策を考える。失敗は恥ずべきことでないことを理解させる。失敗を繰り返すことは良くないが、その失敗を次の活動に活かす事が肝要である。分からないことがあれば、人に聞く事である。人に聞く事は決して恥ずべき事ではない。又、毎回、授業の後半に授業アンケートを実施する。授業で理解した事及び、問題点について簡潔にまとめる。これにより、簡潔な文章の作文能力を磨く。				
学習内容	材料、土木、建築、大量輸送、システム分野での各種失敗を紹介し、事故を未然に防ぐ方策を考察する。続いて、エンジニア及び大工の失敗と成長について学び、将来エンジニアを目指す学生に、エンジニアとしての心構えを体得させる。又、新聞などから各種トピックスを紹介し、最新の科学技術情報を体感させる。				
授業計画	1回 想定され得ることは必ず起こる 2回 人の注意力には限界がある 3回 追いつかなかった企業改革のスピード 4回 ゼロから作り直すことの大切さ 5回 見たくないものは見えない 6回 起こる前に起こった後のことを考える 7回 それぞれの立場から見える風景 8回 トップの孤独 9回 「現地」「現物」「現人」が理解の基本 10回 失敗に学ぶものづくり 「材料分野」 11回 失敗に学ぶものづくり 「土木分野」 12回 失敗に学ぶものづくり 「大量輸送分野」 13回 失敗に学ぶものづくり 「建築分野」 14回 失敗に学ぶものづくり 「システム分野」 「エンジニアの失敗と成長」 「大工の失敗と成長」 15回 飛行の原理について：製作実習と飛行理論の紹介				
受講要件	工学、情報工学に関する各種失敗に興味を持っている事。科学技術全般に興味を持っている事。				
テキスト	失敗学実践講座 文庫増補版 畑村洋太郎				
参考書	失敗に学ぶものづくり、鳥と飛行機どこがちがうか				
予習・復習について	新聞、各種ニュースを精読する。それらの情報を理解し、自分で考えた事を簡潔な文章にまとめる能力を養う。				
成績評価の方法・基準	成績は、レポートと授業アンケートにより評価する。レポートは、15回の授業終了後に課題を課す。授業アンケートは、毎回、授業の後半に実施し、その場で提出させる。内容は、授業で理解した事及び、疑問点について簡潔にまとめる。次回以降の授業に関する要望があれば記載する。				
オフィスアワー	基本的には、9時から17時までとします。それ以外の時間帯を希望する場合には、事前に連絡して頂ければ対応します。				
担当教員からのメッセージ	工学、情報工学関係だけでなく、科学技術全般に興味を持って欲しい。失敗は恥ずべきことでない事を理解して欲しい。失敗を繰り返す事はよくない。その失敗を次の活動にどう活かすかが大切である。分からない事があれば、人に聞く事である。人に聞く事は、決して恥ずべき事ではない。				

授業科目名	情報ネットワーク社会				
担当教員名	上田 芳伸		所属等	工学部	
			研究室	A203	
分担教員名					
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	金 5・6
キーワード	情報、伝達、ネットワーク、アナログ、デジタル、ブロードバンド。IT革命、セキュリティー、著作権				
授業の目標	情報ネットワーク社会の動向と現状を、事例と自分達の身の回りの情報機器や、一般社会でのIT活用状況を通して理解する。				
学習内容	情報技術による社会生活の進歩を時系列で俯瞰、自分達の身の回りの情報機器、パソコン、ネットワークの仕組みでのITの活用事例、アプリケーションソフトの統合化や最近発生している出来事やその裏側に起きている事を理解する。				
授業計画	10月05日(金) 1 講義全体の紹介と講義の狙い説明 >>上田担当 10月12日(金) 2 革新的製造技術の情報伝達過程 >>西原先生担当 10月19日(金) 3 地域生産集団と情報ネットワーク >>西原先生担当 10月26日(金) 4 イノベーションの拡散過程のシミュレーション >>西原先生担当 11月02日(金) 5 情報と伝達/情報とコミュニケーション/ 情報と人間のかかわり他 >>上田担当 11月16日(金) 6 アナログ量とデジタル量/ネットワークの階層他 >>上田担当 11月22日(木) 7 ネットワークとインターネット/LANとWAN他 >>上田担当 11月30日(金) 8 ブロードバンドとナローバンド/ホームネットワーク他 >>上田担当 12月07日(金) 9 IT革命と情報ネットワークの進化 >>ヤマハ(株)曾根卓朗氏 12月14日(金) 10 情報ネットワークの現状と動向 >>ヤマハ(株)曾根卓朗氏 12月21日(金) 11 情報倫理について [全体理解確認] >>上田担当 01月11日(金) 12 「災害対策と情報セキュリティ」(1) >>長谷川先生担当 01月18日(金) 13 「災害対策と情報セキュリティ」(2) >>長谷川先生担当 01月25日(金) 14 仮称)情報ネットワーク社会の危険性 >>ヤマハ(株)斉藤 誠氏 02月01日(金) 15 仮称)情報ネットワーク社会の著作権とは >>ヤマハ(株)斉藤 誠氏 02月08日(金) 16 期末テスト(注:レポートの予定) 注:講師の都合で内容変更、日程変更が有る可能性があります。				
受講要件					
テキスト	毎回講義に配布予定				
参考書	・木暮 仁 『情報と社会』日科技連 2002.2 ・川合 監修『情報と社会』オーム社/出版局 2004.10 ・梅田望夫 『ウェブ進化論』ちくま新書 2006.2 他				
予習・復習について	上田の講義に関して、毎週の新聞や雑誌の情報トピックスを題材に、講義をしますので、新聞/雑誌等を読んで下さい。				
成績評価の方法・基準	講義中に出す設問の回答レポートとアンケートにより評価します。				
オフィスアワー	火曜か金曜(要時刻確認)メールで連絡下さい。				
担当教員からのメッセージ	身近な情報(新聞、雑誌の情報化に関する記事)を読んでおいて下さい。講義内容に関する質問等は、講義終了時又は、E-mailにて受け付けます。				

授業科目名	ヒューマン・エコロジー				
担当教員名	戸田 三津夫		所属等	工学部	
			研究室	C西406	
分担教員名					
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	金5・6
キーワード					
授業の目標	ある日本の著名な科学哲学者によると、自然科学・社会科学・人文科学という学問区分は、近代科学が制度として成立してゆく18～19世紀に由来する。この制度的成立と共に、相互の守備範囲を遵守し、相手の領域を侵さないという習慣が生じたという。環境問題のように知の統合を必要とする問題には、このように分けられた学問は無力である。本講義の目標は、従来の学問とは逆方向からのアプローチである、反コペルニクスの科学的方向性を探り、科学のもう一つのあり方を理解させることにある。				
学習内容	異なる研究分野の問題に共通する概念、手法、構造を抽出することで、それぞれの分野の間での知の互換性を確立し、それを通して、より普遍的な知の体系を教授する。				
授業計画	1回 戸田三津夫（静岡大学工学部）：ガイダンス 2回 戸田三津夫（静岡大学工学部）：都市と田舎---安全・快適・便利をもとめて--- 3回 戸田三津夫（静岡大学工学部）：水環境の保全と修復（1）---損なわれやすい身近な環境--- 4回 戸田三津夫（静岡大学工学部）：水環境の保全と修復（2）---浜松市佐鳴湖流域を例に--- 5回 安村 基（静岡大学農学部）：安全・快適そして人と環境にやさしい住宅の供給 6回 山脇和樹（静岡大学農学部）：食料と生活エネルギーの循環 7回 藤本征司（静岡大学農学部）：生態学から見た人間環境の構造と風景造り 8回 藤本征司（静岡大学農学部）：生態学から見た風景モザイクの動態と造景 9回 橋本正明（静岡大学農学部）：乾燥地生態系概論 10回 野上啓一郎（静岡大学農学部）：ヒューマンエコロジーの周辺 11回 恒川隆生（静岡大学法科大学院）：環境保全---ヒューマンエコロジーと行政法--- 12回 山本雅昭（静岡大学法科大学院）：ヒューマンエコロジーをめぐる刑事規制--- 13回 雨谷敬史（静岡県立大学）：室内環境に快適さや安全性を求めて 14回 雨谷敬史（静岡県立大学）：環境リスク評価と管理 15回 戸田三津夫（静岡大学農学部）：最終テスト(レポート)				
受講要件	教科書を毎回持参すること				
テキスト	「ヒューマン・エコロジーをつくる --- 人と環境の未来を考える」 --- 共立出版 野上啓一郎編				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	教科書を読み、下調べ、確認などをすること。新聞その他のニュース、時事問題に関心をもち情報収集すること。				
成績評価の方法・基準	総合評価の割合は、レポートのプレゼンテーション能力80%、その他20%とする。レポートについては以下の項目について達成度の評価を行う。 1. 知識を絞り込む力 2. 思考・推論・創造する力 3. 表現・伝達能力 4. 授業に取り組む姿勢・意欲				
オフィスアワー	あらかじめ戸田まで、メール連絡すること。 tmtoda@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	専門分野が異なった先生方の講義です。知的好奇心旺盛で多角的思考に興味がある学生の受講を勧めます。なお、授業計画の順番や内容は変更することがあります。				

授業科目名	ロボットと人間				
担当教員名	末長 修		所属等	工学部	
			研究室	A421	
分担教員名					
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	金 5・6
キーワード	ロボットの技術と応用、センシング、制御、機構、システム、人間の機能と特性				
授業の目標	ロボットはメカトロニクスの典型例であり、メカトロニクスは機械工学と電子工学を結合した技術、またはそれを応用した電子機械装置である。アミューズメントやエデュテイメント、あるいは手術支援や介護介助など、人間と共存する環境で動作するロボットも発表されている。本講義は、ロボットに関して初心者を対象として、その歴史と現在、ロボットを構成するさまざまな技術の基礎を学び、ロボットと人間の今後の関係を考察してゆく。				
学習内容	3名の教員が分担し、ロボットと人間の関係をさまざまな側面から捉える。橋本の講義では、ロボットにおけるセンシングや制御に関する解説とそれらが実現した未来社会について考える。大岩の担当においては、ロボットの形状や機構を中心とした内容を、そして末長の担当ではロボットなどといった人間が扱う機械システムにおいて考慮すべき内容を人間工学の観点から学ぶ。				
授業計画	1回 ガイダンス：授業全体の説明 2回 橋本：ロボットのセンシング 3回 橋本：ロボットの制御 4回 橋本：様々なロボット 5回 橋本：ロボット研究と未来社会 6回 大岩：パラレルロボット（1）（人やロボットの機構を並列・直列という観点から見る） 7回 大岩：パラレルロボット（2） 8回 大岩：マイクロロボット・マイクロマシン（1）（人やロボットの機構を大きさという観点から見る） 9回 大岩：マイクロロボット・マイクロマシン（2） 10回 末長：人間工学とロボティクス（人間工学的観点からの人とロボットとの係わり） 11回 末長：人間の情報処理モデル（情報処理システムとしての人間の特性理解） 12回 末長：ヒューマン・インタフェース 13回 末長：福祉・介護におけるロボット 14回 総括と質疑応答 15回 授業アンケート				
受講要件	特になし				
テキスト	特に指定しない。プリントの配布、HPからのダウンロードなど、授業時間中に指示する。				
参考書	渡辺,小俣:“ロボット入門”,オーム社,(2006). 増田,小金澤,甲斐:“新しいロボット工学”,昭晃堂,(2006). 新井(監):“図解雑学ロボット”,ナツメ社,(2005). 城井田:“ロボットのしくみ”,日本実業出版社,(2001). 松日楽,大明:“ロボットシステム入門”,オーム社,(1999). など.				
予習・復習について	授業での指示に従うこと。プリント、ダウンロード資料などを読んで理解する、など。図書館での文献検索やネットワーク上での資料検索などを要することもある。				
成績評価の方法・基準	担当教員ごとの成績評価を平均し、評価する。ただし、1課題でも未提出の場合は「不可」とする。 ・大岩教員：レポートにより評価する。 ・橋本教員：レポートにより評価する。 ・末長教員：レポートにより評価する。				
オフィスアワー	担当教員ごとに異なるので、事前に確認すること。事前に連絡・予約がないと後日となる場合がある。				
担当教員からのメッセージ	ロボットは、さまざまな技術をシステムとしてまとめたものであり、また日々発展している分野であるため、講義は限られた側面からの基礎的な情報の紹介、学習のきっかけを与える入口の案内となる。そこで、受身にとどまらず、興味を覚えたところから、自分で積極的に情報収集などして学習を深め広げてゆくことを期待する。				

授業科目名	熱統計力学				
担当教員名	岡部 拓也		所属等	工学部	
			研究室	共通 303	
分担教員名					
クラス	IED 1	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	金 7・8
キーワード					
授業の目標	温度や比熱など、高校物理で履修する熱現象の理解度をより深めた上で、エントロピーなどの、より高度な熱力学の基礎的概念を、偏微分など数学的表現を用いて正しく理解する。様々な応用分野で用いられる熱力学の成果を体系的に論じ、その上で熱統計力学が現実の問題でどう応用されるかについて、実例を念頭においた演習問題を解きつつ具体的理解を深める。				
学習内容	現代物理学を支える大きな柱のひとつである熱・統計力学の基礎について取り上げる。力学で学んだ「仕事」と対をなす概念である「熱」に関する物理を扱うが、「熱」や「仕事」のやりとり・相互変換や、温度、エントロピーなどの熱力学固有の概念を、必要な数学を用いて定量的に議論する。その際、学習内容が机上の議論にとどまらないよう、様々な物理量や具体的事象を取り上げることで、身のまわりの熱力学に関する問題に自ら取り組めるようにしたい。授業内容は熱力学の基礎事項が主体となる。				
授業計画	1回 高校物理(熱力学関連)の復習。圧力・温度・体積の単位 2回 理想気体の状態方程式 3回 ファン・デル・ワールスの状態方程式 4回 膨張率・圧縮率。熱力学で用いる数学(偏微分) 5回 熱力学第1法則。仕事と熱 6回 熱容量、定積比熱、定圧比熱。マイヤーの関係 7回 準静的断熱変化(可逆断熱変化)と不可逆断熱変化 8回 熱機関の効率、カルノーサイクル 9回 熱力学第2法則 10回 クラウジウス-クラペイロンの式 11回 エントロピーI(理想気体) 12回 エントロピーII(不可逆過程) 13回 熱力学関数、マクスウェルの関係式 14回 熱力学の応用例(ギブスの自由エネルギーと相平衡など) 15回 統計力学の基礎(ボルツマン因子など)				
受講要件	「力学波動」で学ぶ力学の基礎や、微分積分など数学の基礎を理解していることが前提となる。授業で用いる偏微分については解説の時間を設ける。				
テキスト	『なっとくする演習・熱力学』, 小暮陽三著, 講談社, ISBN4-06-154510-8				
参考書					
予習・復習について	授業内容をすべて理解するには自主的な予習復習が必要となる。しかし受講生の自主性のみに任せるのではなく、多くのレポート課題を用意することで授業外学習をうながす。				
成績評価の方法・基準	試験の得点にくわえ、授業時に課したレポートなどの得点から算出した総合得点をもとに成績評価する。配点の割合は、およそ試験3:課題2となる予定である。				
オフィスアワー	初回の授業のときにアナウンスします。オフィスアワー以外でも、質問にはできる限り対応します。				
担当教員からのメッセージ	e-mail: ttokabe@ipc.shizuoka.ac.jp				

授業科目名	電子計算機工学				
担当教員名	中井 孝芳		所属等	工学部	
			研究室	E253	
分担教員名					
クラス	共通	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	月 5・6
キーワード	コンピュータ アーキテクチャ、高速化技法、マイクロプロセッサ、割り込み、キャッシュ記憶、周辺機器				
授業の目標	電子計算機の主な機能は、マイクロプロセッサが担っている。マイクロプロセッサの基本動作、およびその高速化技法を学ぶことにより、その取り扱いができるようにする。すなわち、文字、データの表現とその取り扱い方の修得、マイクロプロセッサの基本動作の理解、演算および命令の高速化技法の理解、割り込みおよびキャッシュ記憶などの理解、周辺装置とのデータ授受方法の修得である。				
学習内容	電子計算機の主要な機能は、マイクロプロセッサが担っているので、マイクロプロセッサを意識しながら講義する。マイクロプロセッサは多くの電子機器に使用されている。リモコンのような制御からコンピュータグラフィックス(CG)のような図形処理まで広範にわたる。このマイクロプロセッサの基本動作を理解し、またその高速化技法について学ぶ。マイクロプロセッサを使用する上で必要な割り込みや、キャッシュ記憶、入出力方法などについても学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 電子計算機およびマイクロプロセッサの歴史。数値および文字の表現 2 主記憶装置とアドレッシング 3 命令の基本動作 4 プッシュ・ダウン・スタックとその応用 5 加算(減算)演算とその高速化技法 6 乗算演算とその高速化技法 7 除算演算とその高速化技法 8 浮動小数点演算技法 9 パイプライン演算および命令パイプライン 10 中間試験、種々のメモリ 11 ハードディスク、周辺装置とそのデータ授受 12 DMA(ダイレクト・メモリ・アクセス)とチャネル 13 割り込み 14 キャッシュ記憶と仮想記憶 15 OS(オペレーティング・システム)とは 				
受講要件	論理回路 I、II および基礎電子回路を履修しておくことが望ましい。				
テキスト	適宜プリントを配布する。				
参考書	「計算機アーキテクチャ」(橋本昭洋著、昭晃堂)、「新版 電子計算機工学」(中川裕志、朝倉書店)				
予習・復習について	マイクロプロセッサの動作原理が理解できるように、復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、マイクロプロセッサを取り扱える基本的能力があるかを評価する。評価は、中間および期末試験による。内容は、(a)授業内容の吸収・理解により取り得る点(80%)、(b)授業内容を理解し、それを応用することにより取り得る点(20%)。				
オフィスアワー	講義日の昼休み				
担当教員からのメッセージ	マイクロプロセッサの使用(応用)範囲は非常に広いので、マイクロプロセッサの動作原理を十分理解してほしい。				

授業科目名	機能性有機材料				
担当教員名	久保野 敦史	所属等	工学部		
		研究室	物質1号館3階316号室(教員室)		
分担教員名					
クラス	Vコース	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	B	曜日・時限	月7・8
キーワード	有機、有機化合物、高分子、機能、光、電子				
授業の目標	有機材料の特徴と用途を理解する。(1.有機化合物の構造について 2.分子間・分子内相互作用と性質の関係 3.機能性官能基と性質の関係 4.実用的な典型的材料の構造と機能発現のメカニズム)				
学習内容	有機材料として工業的に利用されているものは、色素・染料、各種添加剤、液晶、高分子材料(ゴム・繊維・プラスチック)、塗料・接着剤・界面活性剤である。本講義では、有機化学の基礎知識を使って、これらの構造と性質の関係を学ぶ。				
授業計画	1 ガイダンスと有機材料関連の常識問題による復習 2 有機化合物の特徴と電子構造 3 油脂と界面活性剤の基礎 4 香料・有機材料・液晶の基礎 5 色素・染料の基礎 6 印刷・エレクトロニクス材料の基礎 7 医薬と農薬の基礎 8 中間試験 9-15 様々な機能性有機材料・デバイスの紹介				
受講要件	物質工学総論Ⅰ、Ⅱ、材料科学基礎、ならびに基礎有機・高分子材料を履修すること				
テキスト	「マテリアルサイエンス有機化学」伊与田正彦 他, 東京化学同人, ISBN978-4-8079-0614-7				
参考書	「高分子材料化学」吉田泰彦他, 三共出版, 「ナノテクノロジーと有機材料」(服部憲治郎, 山本 靖著, 米田出版)				
予習・復習について	教科書や配付資料にしたがった予習・復習に加え、自主的に身近な有機・高分子材料について調べることが望ましい。				
成績評価の方法・基準	中間・期末試験ならびに演習レポートにより評価し、習熟度60%で合格とする。				
オフィスアワー	適宜				
担当教員からのメッセージ	授業のはじめに簡単な常識問題を行う。 学生の興味や理解度に応じて、進度や内容を適宜変更することがある。				

授業科目名	プログラミング応用				
担当教員名	前田 恭伸	所属等	工学部		
		研究室	A423		
分担教員名					
クラス	3年生	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	木1・2
キーワード	オブジェクト指向、Java、クラス、メソッド、インスタンス、継承、多相性				
授業の目標	プログラミング言語 Java を通して、オブジェクト指向プログラミングの考え方を理解する。				
学習内容	プログラミングを実際のシステム開発に応用しようとする、カプセル化やオブジェクト指向プログラミングの考え方が必要になる。ここではプログラミング言語 Java の習得を通じて、おもにオブジェクト指向プログラミングの考え方を学んでいく。				
授業計画	1回 1：イントロダクション 2回 2：PC の設定 3回 3：変数 4回 4：制御構造(1) 5回 5：制御構造(2) 6回 6：基本型と演算 7回 7：配列 8回 8：メソッド 9回 9：クラスの基本 10回 10：日付クラスの作成 11回 11：中間試験 12回 12：クラス変数とクラスメソッド 13回 13：パッケージ 14回 14：クラスの派生と多相性 15回 15：抽象クラス				
受講要件	「プログラミング基礎および演習」の単位を取得していること ノート PC を持参できること				
テキスト	柴田望洋：明解 Java 入門編、ソフトバンク、2007、978-4-7973-3953-6.				
参考書					
予習・復習について	この授業に入る前に、「プログラミング基礎および演習」の内容を確認しておくこと				
成績評価の方法・基準	中間試験と期末試験、最終課題により評価する。中間試験、期末試験を受け、最終課題を提出した者について成績を評価する。内容は (a) 授業内容の吸収、理解により取得できる点 (80%) (b) 授業内容を理解し、それらを応用して取得できる点 (20%) とする。中間試験 10%、期末試験 60%、最終課題 30%				
オフィスアワー	木曜日 9・10時限				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	環境化学工学				
担当教員名	松田 智	所属等	工学部		
		研究室	C216		
分担教員名					
クラス	Kコース	学期	後期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	B	曜日・時限	金1・2
キーワード	大気汚染、水質汚濁、廃棄物、リサイクル、対策技術、単位操作、温暖化				
授業の目標	環境を浄化・修復する工学技術の3つの柱となっている大気汚染防止技術、水処理技術、および廃棄物処理技術は、その中に化学工学の単位操作の原理を数多く包含している。すなわち、分離選別、粉碎、脱水、乾燥、油化、ガス化、生物利用などを総合的に活用することで技術が成り立っている。技術を構成しているそれぞれの単位操作を理解し、組み合わせの結果としての技術の原理を理解する。				
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境問題解決へ向けた化学工学の視点からの取り組み 2. 廃棄物処理の現状とリサイクル技術 3. 地球温暖化問題の理解と対応策 4. 大気汚染物質の汚染防止技術とその原理 5. 焼却および高温操作に関わる定量的な取扱い 6. 水質汚濁の現象と機構についての理解 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 環境化学工学とは(1)：環境問題の理解(科学)と対策技術(工学)、システム思考、地球環境問題と地域環境問題 2 環境化学工学とは(2)：環境工学における化学工学的手法の重要性、対策技術の概要 3 地球温暖化(1)：温暖化のメカニズム(地球の温度の決まり方、温度への影響因子)、将来予測 4 地球温暖化(2)：対応策をめぐって(エネルギー使用の効率化と新エネ、低炭素社会は真の目標か?) 5 オゾン層破壊とその対策：メカニズム、オゾンホール及び紫外線量の実態、対策技術 6 酸性雨とその対策：NO_x と SO_x、塩化水素、光化学オキシダントなどの成因及び対応策 7 大気汚染と対策技術：脱硫と脱硝技術、ばいじん、ダイオキシン、浮遊微粒子などの成因及び対応策 8 中間試験 9 廃棄物とリサイクル(1)：一般廃棄物と産業廃棄物、廃棄物の処理と処分、特に中間処理技術としての焼却について <ol style="list-style-type: none"> 10 廃棄物とリサイクル(2)：最終処分をめぐって、リサイクルの分類と用いられる技術 11 焼却と高温操作をめぐる演習(1)：種々の発熱量、自然条件、焼却操作(空気比その他) 12 焼却と高温操作をめぐる演習(2)：エンタルピー収支の応用(定容・定圧・定温・断熱の諸過程、ガスの加温・冷却所要熱量など) 13 焼却と高温操作をめぐる演習(3)：断熱火炎温度、発電機の効率、送風機動力(気体の圧縮仕事) 14 水環境：水循環と水資源、水質指標とその意味(BOD・COD・TOC・DO・pH・アルカリ度など)、水質汚濁の原因と対策の実例・佐鳴湖の場合 15 化学物質と環境：化学物質の使用と環境への排出、リスクによる管理(ダイオキシンを例に) 				
受講要件	化学工学の単位操作について理解しておくこと。地球環境科学・環境技術、リサイクル量論、および資源循環化学を習得していることが望ましい。				
テキスト	「入門 環境の科学と工学」(川本克也・葛西栄輝 著、共立出版)				
参考書	「廃棄物工学の基礎知識」(田中信壽 編著、技報堂出版) 「環境工学入門」(鍋島淑郎他著、産業図書)				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。また授業で取り上げられた演習問題を独力で再び解いてみることも必要である。				
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、環境問題に対処する方法論としての化学工学の基礎知識と定量的扱いに関する基礎が身に付いているかどうかを評価する。評価の配分は、中間試験・期末試験計 80%、演習・レポート等 20%である。その内容は、授業内容を十分に理解し身につけているかどうか(70%)、授業内容を応用する力が付いているか(30%)で評価する。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	毎週金曜日の 9・10 時限にオフィスアワーを設ける。また、オフィスアワー以外でも質問は随時受け付けるが、電子メール (tcs mats@ipc.shizuoka.ac.jp) で予約することが望ましい。				
担当教員からのメッセージ	環境問題に対処するには、幅広い知識だけでなく、具体的な対策を考えるために、定量的・工学的な考察(収支バランス等)が有用であることを、本授業でしっかり学んでいただきたい。				

授業科目名	博物館展示論				
担当教員名	高松 良幸	所属等	情報学部		
		研究室	J-2629		
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	B	曜日・時限	月1・2
キーワード	展示、展示史、展示メディア、企画立案、展示と教育				
授業の目標	展示とは何か、について展示史、メディア論的な立場からの理解を図るとともに、博物館における展示の実際について具体的に紹介し、展示企画の立案、展示の具体的運営に関する基礎的な能力の育成を図る。あわせて、日本の博物館における展示イベントの現状と課題について考察する。				
学習内容	展示の種類、歴史、性格等についての講義を行う。また、博物館における展示に関して、その種類、実施方法、人を惹きつける展示プランの立案法等を講述するとともに、展示企画書等の作成方法等について修得させる。あわせて、日本の博物館における展示イベントの現状と課題について考察する。				
授業計画	1回 展示とはⅠー陳列と展示 2回 展示とはⅡー展示の政治表象性 3回 展示の歴史Ⅰー博物館出現以前 4回 展示の歴史Ⅱー博物館以外の展示の場 5回 展示の歴史Ⅲー博物館の展示史 6回 博物館における展示の種類 7回 展示実施の流れⅠー企画から開会まで 8回 展示実施の流れⅡー開会から評価まで 9回 資料の展示の方法 10回 展示計画の立案Ⅰー展示企画書 11回 展示計画の立案Ⅱー展覧会図録 12回 展示用キャプションの役割 13回 ギャラリートークのあり方ー展示と教育普及 14回 展示補助のための視聴覚メディア 15回 まとめー展示企画書の発表、講評				
受講要件	博物館学芸員資格取得のための必修授業（平成24年度以降入学生）				
テキスト	なし。				
参考書	授業中に指示する。また、必要に応じてプリント等を配布する。				
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習、復習時間を要する。				
成績評価の方法・基準	授業中に作成する展示企画書と最終レポートにより評価する。両者の比率は各50%とする。展示企画書は授業の内容理解の上に立ち、受講生各自の展示企画への応用度を基準に採点する。最終レポートは、授業の内容理解度を基準に採点する。				
オフィスアワー	授業中に指示する。				
担当教員からのメッセージ	出来るだけ多くの美術館博物館を訪れ、展示の実際を体験してください。				

授業科目名	現代コミュニケーション論				
担当教員名	近藤 真	所属等	情報学部		
		研究室	J-1313		
分担教員名	田村 敏広, シェフタル モーデカ, ウィルキンソン				
クラス	1クラス	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	月7・8
キーワード	コミュニケーション、ことば、文化				
授業の目標	情報伝達や意味形成という側面から情報社会を分析するための基本的な視点を学ぶ。情報メディアにおけるコミュニケーション分析の課題や、合意形成や市民参加の討論のためのコミュニケーション的課題など、メディア系・コミュニティ系の両科目を受講するための基盤となる知識を身につける。				
学習内容	現代情報社会における様々なコミュニケーションに注目し、それらの特徴や仕組み、文化・社会的背景を学ぶことによって、現代社会における異なる視点を持ったアクターによる意思疎通や合意形成の方法について知識を深めることを目的とする。				
授業計画	1回 オリエンテーション -授業全体の概観- (全員) 2回 コミュニケーションの基礎概念 (近藤) 3回 言語メッセージ・非言語メッセージの特徴 (近藤) 4回 日本人のコミュニケーションの特徴 (近藤) 5回 受け手から見たコミュニケーション (近藤) 6回 言語コミュニケーションにおける発話意図と含意 (田村) 7回 言語コミュニケーションのメカニズム (田村) 8回 言語コミュニケーションと対人配慮 (田村) 9回 コミュニケーション活動を通してコミュニケーションを考える(1) (ウィルキンソン) 10回 コミュニケーション活動を通してコミュニケーションを考える(2) (ウィルキンソン) 11回 コミュニケーション活動を通してコミュニケーションを考える(3) (ウィルキンソン) 12回 異文化コミュニケーションの落とし穴(1) (シェフタル) 13回 異文化コミュニケーションの落とし穴(2) (シェフタル) 14回 異文化コミュニケーションの落とし穴(3) (シェフタル) 15回 まとめ (全員)				
受講要件	特になし				
テキスト	なし。(授業時に資料を配布する。)				
参考書	講義の中で必要に応じて指示します。				
予習・復習について	講義中にふれられた話題について、参考書、インターネット、新聞、テレビなどで資料収集をする作業を最低 90 分行うこと。				
成績評価の方法・基準	4人の講師がそれぞれレポートを課し、各レポートの評価点を総合して評価する。ただし、未提出のレポートがある場合には、他のレポートの評価に関わらず、最終評価を「不可」とする。				
オフィスアワー	近藤のオフィスアワーは、水曜 5,6 時限。各担当教員を直接訪ねる場合には、事前にメール等でアポイントを取ることを。				
担当教員からのメッセージ	コミュニケーション活動は、我々が日常的に無意識のうちに行なっている活動ですが、コミュニケーション活動の諸相を、あらためて学問的な視点から見直すことが、みなさんの今後のコミュニケーション活動の一助になることを期待します。				

授業科目名	認知心理学				
担当教員名	漁田 武雄	所属等	情報学部		
		研究室	J-2525		
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	後期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	水5・6
キーワード	認知、心理学、スキーマ、記憶、社会情報				
授業の目標	情報システムを活用するのはあくまで人であり、人が情報をどのように認知するかという視点を欠いて情報システムを開発することはできない。「認知心理学」では、人が情報を認知する際の心理学的な基礎知識を身につけさせることが目的である。				
学習内容	<p>この講義では、「認知という心の働き」を中心として、心理学の基礎的な理論や実験等について解説する。また、この講義は、情報学部に通う人たちに共通して必要と思われる内容で構成してある。</p> <p>われわれ人間は、絶えず、環境からの莫大な情報にさらされており、同時に、環境に働きかけている。このような環境と行動の相互作用は、「認知という心の働き」によって支えられている。</p> <p>「認知」とは、「知るという心の働き」および獲得された「知識」であり、さまざまな情報の処理過程からなっている。また、認知が成立するためには、認知の対象（外界、過去の出来事、自分自身など）に関する情報を処理するばかりでなく、対象に関する既存の知識（これをスキーマという）をフル活用する。</p>				
授業計画	<p>オリエンテーション この授業について (シラバス、評価の方法、参考図書)</p> <p>第1章 認知とスキーマ 1. 認知とスキーマ スキーマとは、エームズの部屋 2. スキーマの使用 同化と調節、好奇心 3. スキーマの発達 ピアジェの理論、自己中心性</p> <p>第2章 記憶 1. 記憶とは 記憶の基礎、記憶できなくなったら 2. 忘却 忘却曲線、検索の失敗 3. 記憶喪失 逆行性健忘、PTSD、多重人格 4. 検索の過程 文脈依存記憶 5. 記憶の変容 記憶とスキーマ、再構成、目撃証言 6. 記憶術とその基礎 魔法の数 7 ± 2、記憶術 アンダーライン、一夜漬け</p> <p>第3章 社会的情報処理 1. 社会情報の処理 認知的不協和理論、説得 2. 社会情報の伝達 うわさ 3. 社会情報の潜在的効果 サブリミナルCM 単純接触の効果、鏡の顔</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	特に指定しない。そのかわり、全部で10数枚の講義資料を配付する。				
参考書	オリエンテーションの際に、参考図書リストを配布して解説する。				
予習・復習について	毎回講義の復習をすることが望ましい。そうすれば、レポート作成も楽になる。				
成績評価の方法・基準	各單元ごとに、レポートを提出する。 単位取得の基準は、3回のレポートを全部提出していること、3回のレポートの合計点が60点以上であること。 詳細は、オリエンテーションで解説する				
オフィスアワー	随時。メールでアポを取ることが望ましい。				
担当教員からのメッセージ	できるだけ楽しい講義となるように心がけている。受講生も、講義に毎回出席し、「聞いて、理解し、考える」ということを行ってほしい。講義内容を暗記しようなんて思わないこと。暗記する労力は、「聞いて、理解し、考える」そして「楽しむ」ことに使ってほしい。				

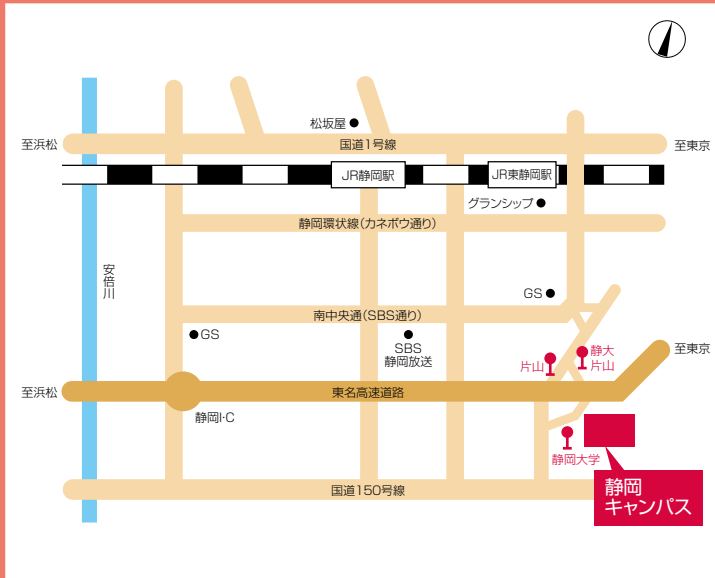
授業科目名	情報社会思想				
担当教員名	岡田 安功		所属等	情報学部	
			研究室	J-2725	
分担教員名	中尾 健二,吉田 寛,原田 伸一郎,田中 柊子				
クラス	1クラス	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水7・8
キーワード					
授業の目標	情報社会を分析・理解したり情報社会に参加するためにキーとなるような思想について、自ら検討し自ら考える力を養う。				
学習内容	公と私をテーマに、近・現代社会、そして情報社会に特有の構造や考え方を検討することにより、情報社会における人間のあり方を考える。				
授業計画	<p>全教員</p> <p>第一週 ガイダンス</p> <p>岡田 ジョン・ロックでネットの規制を考える</p> <p>第二週 なぜ国境があるのか</p> <p>第三週 情報は誰のものか</p> <p>第四週 誰がコンテンツを規制できるか</p> <p>中尾</p> <p>第五週 カントの啓蒙論—理性の公的使用とは何か?—</p> <p>第六週 モーツァルトの『コジ・ファン・トゥッテ』—欲求と制度—</p> <p>吉田 近代から現代へ—社会批判の思想史—</p> <p>第七週 世紀末ウィーン—近代批判—</p> <p>第八週 アーレントとオーウェル—全体主義批判—</p> <p>第九週 ボードリヤール—消費社会批判—</p> <p>田中 共有の時代における個人主義</p> <p>第十週 情報スペクトルの中で消費される生</p> <p>第十一週 集団的ナルシズムと流動するアイデンティティ</p> <p>原田</p> <p>第十二週 所有をめぐる法と倫理—ネットが生む新しい公共—</p> <p>第十三週 アーキテクチャと権力の変容—<公>権力の不可視化—</p> <p>第十四週 ヴァーチャル×法—二分法的思考の限界—</p> <p>全教員</p> <p>第十五週 授業の補足と質疑応答</p>				
受講要件	とくになし				
テキスト	各教員が必要に応じて指示します				
参考書	各教員が必要に応じて指示します				
予習・復習について	指示された予習は必ずしてください。復習をすることが的を射たレポートを作成する上で大切です				
成績評価の方法・基準	5人の教員の評価の合算です。それぞれの教員の指示した課題を必ず提出してください。				
オフィスアワー	各教員が授業中に告知します。				
担当教員からのメッセージ	5人の教員がそれぞれに独自の見解を展開します。それらの見解には共通点もありますが、ときには対立する部分もあるかもしれません。教員の見解を鵜呑みにするのではなく、皆さん自身の頭で教員の見解を検討し、自分の見解を批判的に形成することが大切です。				

授業科目名	美術史				
担当教員名	高松 良幸	所属等	情報学部		
		研究室	J-2629		
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水9・10
キーワード	イコノロジー、絵巻物、物語絵、やまと絵、土佐派、狩野派、住吉派				
授業の目標	<p>美術作品は、単に人に美的な感動を与えるだけでなく、そこに見られるさまざまな表現などからは、その作品が制作された意図や社会背景等を読み取ることも可能である。すなわち美術作品は、それが制作、伝来した過程に関わった人々の心情や社会状況などを伝えるヴィジュアルなメディアとしての側面を有している。この講義では、美術史研究の基本的な目的である美術作品の様式史の解明とともに、このようなヴィジュアルな表現の解釈法を身につけることを目標とする。</p> <p>また、近年、各種の美術作品は、デジタルコンテンツ等の題材として取り上げられることが多い。本授業を通じて、実物の美術作品に関する制作、受容の状況を理解するとともに、その過程をモデル化することで、デジタルコンテンツ等を作成するための資質養成に役立ててもらいたい。</p>				
学習内容	<p>本年度は日本絵画における和漢をテーマに日本絵画史を概観する。</p> <p>近世以前の日本絵画は、東アジア文化圏をリードする中心であった中国の影響下でその様式的展開を続けてきた。しかし、日本の絵画史は中国絵画史のコピーであったわけではない。各時代で中国絵画の影響の大きさは異なるし、日本絵画における「中国的なもの」「日本的なもの」の意味も、また異なる。書く時代の絵画作品を通じて、美術における日本らしさとは何かを考察する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 美術史入門 2. 唐絵と倭絵—古代 <ol style="list-style-type: none"> 1) 唐絵画の受容 2) 唐絵と倭絵 3) 平安時代の絵巻物における「和」と「漢」の表現 3. 漢画と和画—中世 <ol style="list-style-type: none"> 1) 宋元画の受容 2) 漢画と和画 3) 和漢融合—狩野派の登場 4. 唐画と和画—近世 <ol style="list-style-type: none"> 1) 近世の和画Ⅰ—江戸狩野 2) 近世の和画Ⅱ—琳派 3) 沈南蘋とその影響 4) 円山四条派 5) 文人画の流入 6) 池大雅・与謝蕪村 7) 西洋絵画の影響 5. まとめ 				
受講要件	3年次配当の博物館実習で美術系博物館での実習を希望するものは必ず履修しておくこと。				
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する。				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。授業内容理解度 50%、授業内容応用度 50%で採点する。				
オフィスアワー	授業中に指示する。				
担当教員からのメッセージ					

■静岡キャンパス

人文社会科学部・教育学部・理学部・農学部

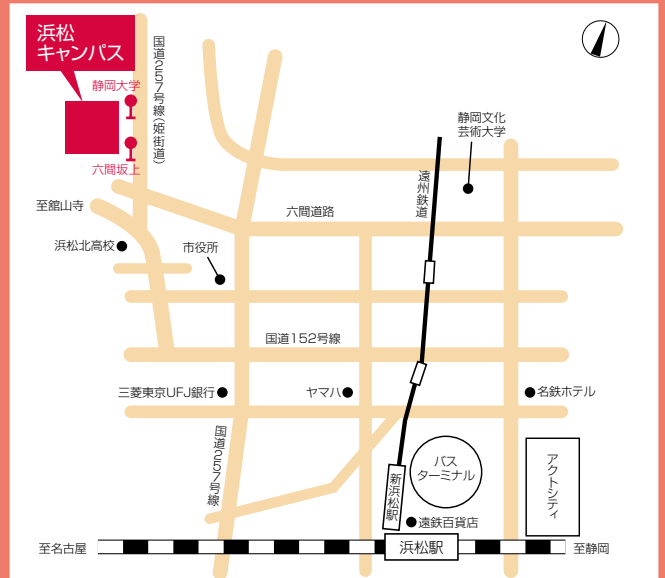
〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836



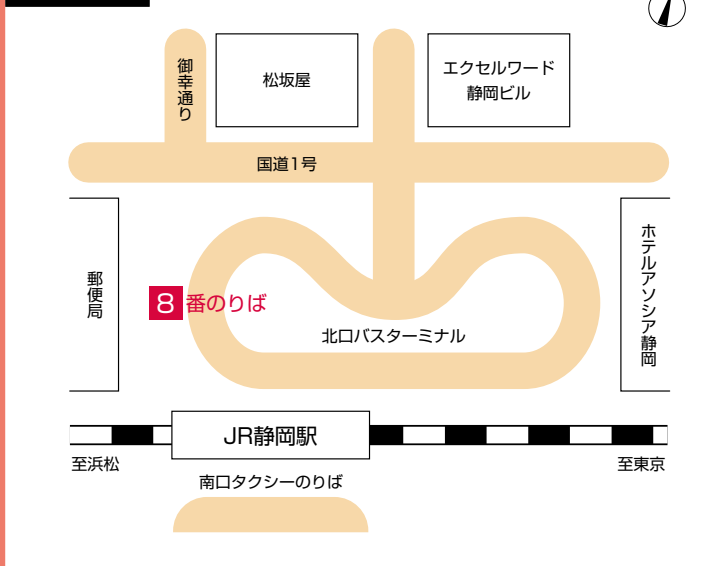
■浜松キャンパス

情報学部・工学部

〒432-8011 静岡県浜松市中区城北 3-5-1

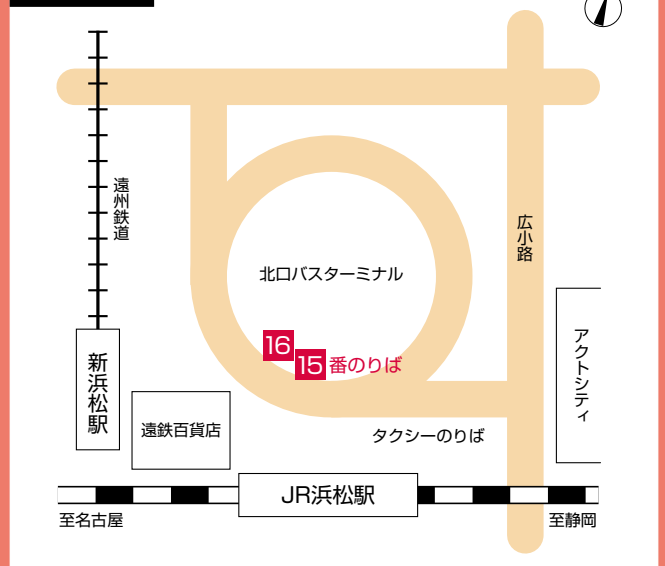


バス停案内図



1. JR静岡駅北口しずてつジャストラインバス8番乗り場から、「静岡大学」または「東大谷」行きに乗車し、「静岡大学」または「静大片山」バス停下車(所要時間約25分、1時間に5~7本運行)。*静岡駅午後発の「東大谷」行きバスは「静岡大学」バス停を經由しないため、「片山」バス停で降りてください。「片山」と「静大片山」バス停は位置が異なりますのでご注意ください。
2. JR静岡駅からタクシーで約15分。

バス停案内図



1. JR浜松駅北口バスターミナルより、遠州鉄道バス15番または16番乗り場から乗車し(全路線)、「静岡大学」または「六間坂上」バス停下車(所要時間約20分、1時間に10本程度運行)。
2. JR浜松駅からタクシーで約10分。